

令和 4 年度
高崎健康福祉大学大学院
保健医療学研究科

シラバス
(修士課程)

本学の授業と SDGs との関連

シラバス内で授業内容と「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」との関連を示しています。関連する目標は番号で示されておりますので、履修の参考にしてください。



17 の持続可能な開発目標

目標 1.	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
目標 2.	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
目標 3.	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
目標 4.	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する
目標 5.	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う
目標 6.	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標 7.	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
目標 8.	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する
目標 9.	強靱 (レジリエント) なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
目標 10.	各国内および各国間の不平等を是正する
目標 11.	包摂的で安全かつ強靱 (レジリエント) で持続可能な都市および人間居住を実現する
目標 12.	持続可能な生産消費形態を確保する
目標 13.	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標 14.	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
目標 15.	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
目標 16.	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
目標 17.	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

～シラバス内の表記について～

例として、授業内容が「目標 1」、「目標 3」、「目標 10」、「目標 16」と関連がある場合は下記のように表記します。特に関連のある目標を示しています。空欄であるからといって、いずれの目標にも全く関連しない、ということではありません。

SDGs との関連	①	③	⑩	⑯

目次

保健医療統計特論.....	5
チーム医療特論.....	8
チーム医療アプローチ特別演習	10
地域支援学特論.....	12
健康科学特論	14
病態生理学特論.....	17
医療栄養学特論.....	19
薬物動態学特論.....	21
医療倫理学特論.....	23
教育学特論.....	25
英文読解・英作文の技法	27
解・英作文の技法.....	27
看護学研究法	29
がん看護学特論Ⅰ	32
老年看護学特論.....	34
母子看護学特論Ⅰ	36
精神看護学特論.....	39
在宅看護学特論.....	42
看護管理学特論Ⅰ	44
看護技術学特論Ⅰ	47
地域看護学特論.....	50
国際看護学特論Ⅰ	53
健康基礎科学特論Ⅰ	56
健康支援科学特論Ⅰ	58
健康基礎科学特論Ⅱ	61
健康基礎科学演習Ⅰ	63
健康基礎科学演習Ⅱ	65
健康基礎科学演習Ⅲ	67
健康支援科学特論Ⅱ	69
健康支援科学演習Ⅰ	71
健康支援科学演習Ⅱ	73
健康支援科学演習Ⅲ	75
看護技術学特論Ⅱ	76
看護技術学演習Ⅰ	79
看護技術学演習Ⅱ	82
看護技術学演習Ⅲ	84
看護健康開発科学特別研究.....	87
看護健康開発科学特別研究.....	89
看護健康開発科学特別研究.....	90
がん看護学特論Ⅱ	92
がん看護学演習Ⅰ	95
がん看護学演習Ⅱ	98

がん看護学演習Ⅲ.....	100
地域・精神看護学特論.....	102
地域・精神看護学演習Ⅰ.....	105
地域・精神看護学演習Ⅱ.....	108
地域・精神看護学演習Ⅲ.....	110
母子看護学特論Ⅱ.....	113
母子看護学演習Ⅰ.....	117
母子看護学演習Ⅱ.....	121
母子看護学演習Ⅲ.....	124
国際看護学特論Ⅱ.....	127
国際看護学演習Ⅰ.....	130
国際看護学演習Ⅱ.....	133
国際看護学演習Ⅲ.....	135
看護実践開発科学特別研究.....	137
看護実践開発科学特別研究.....	139
看護実践開発科学特別研究.....	141
看護実践開発科学特別研究.....	143
看護実践開発科学特別研究.....	145
看護実践開発科学特別研究.....	147
看護実践開発科学特別研究.....	149
老年・在宅看護学特論.....	151
老年・在宅看護学演習Ⅰ.....	153
老年・在宅看護学演習Ⅱ.....	156
老年・在宅看護学演習Ⅲ.....	158
看護管理学特論Ⅱ.....	161
看護管理学演習Ⅰ.....	164
看護管理学演習Ⅱ.....	166
看護管理学演習Ⅲ.....	168
ケアシステム開発科学特別研究.....	169
助産学特論Ⅰ(ウィメンズヘルス).....	170
助産学特論Ⅱ(助産管理).....	172
助産学特論Ⅲ(開業・院内助産).....	174
助産学特論Ⅳ(母子保健政策論).....	177
助産における補完代替医療.....	179
女性のフィジカルアセスメント.....	182
産婦人科医学診断.....	184
新生児学.....	186
周産期ハイリスク論Ⅰ.....	188
周産期ハイリスク論Ⅱ.....	190
地域母子保健実習.....	194
国際助産論.....	195
女性のメンタルヘルスとジェンダー.....	197
助産学概論.....	199
助産健康教育論.....	201
妊娠期の助産診断技術学.....	204

分娩期の助産診断技術学Ⅰ	207
分娩期の助産診断技術学Ⅱ	209
産褥・新生児期の助産診断技術学	211
遺伝カウンセリング	214
乳児の発達と子育て支援	216
地域母子保健論	218
地域母子保健演習	220
助産学実習Ⅰ(基礎)	222
助産学実習Ⅱ(実践力開発)	224
助産学実習Ⅲ(実践力発展)	226
助産学実習Ⅳ(助産管理)	228
助産学実践Ⅰ(EBPM 探究)	230
助産学実践Ⅱ(EBPM 展開)	232
助産学実践Ⅲ(地域実践)	233
助産学課題研究	234
助産学課題研究	235
助産学特論Ⅰ(ウィメンズヘルス)	237
助産学特論Ⅱ(助産管理)	239
助産学特論Ⅲ(開業・院内助産)	241
助産学特論Ⅳ(母子保健政策論)	244
助産における補完代替医療	246
女性のフィジカルアセスメント	249
産婦人科医学診断	251
新生児学	253
周産期ハイリスク論Ⅰ	255
周産期ハイリスク論Ⅱ	257
地域母子保健実習	261
国際助産論	262
女性のメンタルヘルスとジェンダー	264
助産学実践Ⅰ(EBPM 探究)	266
助産学実践Ⅱ(EBPM 展開)	268
助産学実践Ⅳ(実践評価)	269
助産学特別研究	270
助産学特別研究	272
研究倫理と理学療法学研究法	274
障害予防学特論	276
自立生活支援学特論	278
地域リハマネージメント特論	280
障害評価・解析学特論	282
臨床推論特論	284
理学療法実践学特論	286
地域リハビリテーション特論	288
地域理学療法学特論	290
地域リハビリテーション演習	292
地域理学療法学演習	294

地域理学療法学特別研究	296
地域理学療法学特別研究	297
地域理学療法学特別研究	298
地域理学療法学特別研究	299
地域理学療法学特別研究	300
地域理学療法学特別研究	301
臨床理学療法学特論Ⅰ	302
臨床理学療法学特論Ⅱ	304
臨床理学療法学演習Ⅰ	306
臨床理学療法学演習Ⅱ	308
臨床理学療法学特別研究	310
臨床理学療法学特別研究	312
臨床理学療法学特別研究	313
臨床理学療法学特別研究	314
臨床理学療法学特別研究	315

科 目 名		保健医療統計特論														
英 文 名		Health and Medical Statistics														
担 当 教 員		長井 万恵、飯田 義裕														
時 期・単位		1 年次 前期 必修 2 単位														
講 義 目 標		初等的な記述統計・推測統計から多変量解析まで、保健医療分野で用いられる統計解析法を修得する。														
到 達 目 標		1. 論文で使われている統計手法が理解できる。 2. 研究を行う際、適切な統計解析法を選択でき、自らのデータに応用できる。 3. 論文を作成するにあたって、用いた統計解析の内容を適切に表現できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
		豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③	④												
評 価 方 法		期末のレポートにより評価する(100%)														
課題に対する フィードバック		授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・コメントする。 E・メールによる質疑応答も可とする。														
使 用 教 材		学期の初めに案内する。														
1	講 義 内 容		講義案内、統計学的思考とは、参考図書の案内、データの分類													
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	下記／で区切られた用語は対比させて説明できるとよい 質的／量的データ 名義／順序／間隔／比尺度													1.5 時間
		復 習	同上													1.5 時間
2	講 義 内 容		1 変数および 2 変数まとめでの簡約表現、集計表やグラフ、統計量による表現 クロス集計表・散布図・相関係数													
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	棒グラフ／ヒストグラム 平均値／中央値、分散／標準偏差 クロス集計表／散布図 関連係数／相関係数													1.5 時間
		復 習	同上													1.5 時間
3	講 義 内 容		統計学における推測とは、推定とは 母平均値の推定を例に解説する Student の t 分布													
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	記述統計／推測統計 母集団／標本、推定／検定 点推定／区間推定(95%信頼区間) 標準偏差／標準誤差 正規分布／t 分布													1.5 時間
		復 習	同上													1.5 時間
4	講 義 内 容		統計的検定とは 平均値の差の検定を例に解説する													
	該当する到達目標	予 習	帰無仮説／対立仮説													1.5 時間

	1,2,3		有意水準／有意確率(=p 値) 両側検定／片側検定 対応のある／対応のない(=独立)	
		復習	同上	1.5 時間
5	講義内容	前回の補足, t 検定の具体的手順 ノンパラメトリック法 : 正規分布を仮定しなくとも使える手法, Mann-Whitney の U 検定など		
	該当する到達目標	予習	Wilcoxon の順位和検定／Wilcoxon の符号(付)順位検定	1.5 時間
	1,2,3	復習	同上	1.5 時間
6	講義内容	相関と回帰 (1) 相関係数の推定と検定 (2) ある変数(群)から別変数を予測する解析: 回帰分析		
	1,2,3	予習	無相関の検定とは 線形回帰, 最小 2 乗法 相関係数／決定係数	1.5 時間
		復習	同上	1.5 時間
7	講義内容	統計解析の実際: Excel を用いた演習(1) 表計算ソフトを初めて使用する事を想定して演習を実施します。 Excel の関数機能を用いて、擬似的なデータから、平均値、中央値分散と値、分散と標準偏差を求めます。 また、度数分布表を作成し、ヒストグラムを作画します。		
	該当する到達目標	予習	平均値、中央値分散 値、分散と標準偏差 度数分布表、ヒストグラム	1.5 時間
	2, 3	復習	同上	1.5 時間
8	講義内容	統計解析の実際: Excel を用いた演習(2) 対応のあるデータに対して相関係数と回帰直線を求め、散布図中に回帰直線を書き入れたグラフを作画します。		
	該当する到達目標	予習	相関係数、回帰直線、散布図	1.5 時間
	2, 3	復習	同上	1.5 時間
9	講義内容	クロス集計による関連性の解析 2 つの質的変数についての解析: クロス表の検定		
	該当する到達目標	予習	χ^2 検定 Fisher の正確確率検定	1.5 時間
	1,2,3	復習	同上	1.5 時間
10	講義内容	分散分析初歩 分散分析: 3 つ以上の平均値の比較 多重比較		
	該当する到達目標	予習	F 検定, F 分布 一元配置／二元配置 2 要因実験／乱塊法	1.5 時間
	1,2,3	復習	同上	1.5 時間
11	講義内容	多変量解析(1) 重回帰分析とその周辺, logistic 回帰		
	該当する到達目標	予習	重回帰分析／logistic 回帰	1.5 時間

	1,2,3	復 習	同上	1.5 時間
12	講 義 内 容	多変量解析(2)主成分分析と因子分析		
	該当する到達目標	予 習	主成分分析／因子分析	1.5 時間
	1,2,3	復 習	同上	1.5 時間
13	講 義 内 容	調査研究と質問票研究の基本 質問票の開発		
	該当する到達目標	予 習	量的研究／質的研究 信頼性／妥当性 Cronbach の α 係数	1.5 時間
	1,2,3			
	復 習		同上	1.5 時間
14	講 義 内 容	統計解析の実際:統計解析ソフトを用いた演習(1)		
	該当する到達目標	予 習	これまでの総復習を兼ねる	1.5 時間
	2, 3	復 習	同上	1.5 時間
15	講 義 内 容	統計解析の実際:統計解析ソフトを用いた演習(2)		
	該当する到達目標	予 習	これまでの総復習を兼ねる	1.5 時間
	2, 3	復 習	同上	1.5 時間
備 考	学習上の助言:(1) 新たに学んだ解析手法の知識をもとにして研究計画を見直すとよい。 (2) 自らが扱う具体的なデータを念頭において学習すると効率がよい。 統計解析ソフトとして, Excel, SPSS, EZR, R, JMP などを想定する。(Excel に関しては適宜, 実例の提示と演習を行う) 90 分の授業に対して, 90 分の予習と 90 分の復習を行うことを前提にしている。 【オフィスアワー】質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。 【メールアドレス】メールアドレスは初回授業時に提示する。			

科 目 名		チーム医療特論														
英 文 名		Advanced Team Medical Care														
担 当 教 員		渡邊 秀臣、神田 清子、寺口 顕子、浅香 満、山上 徹也														
時 期・単位		1 年次 前期 必修 1 単位														
講 義 目 標		チーム医療の目的と施設・在宅・地域を貫く広がりの実際を理解し、今日的課題と今後のあり方について検討し、チーム医療を担う高度医療専門職の役割について考察する。														
到 達 目 標		1.チーム医療の基本的考え方と今日的課題について理解できる。 2.チーム医療の連携の実際と概要について理解できる。 3.チーム医療を担う高度医療専門職者の役割について考えられる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③											16	
評 価 方 法		授業への参加度(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。(オンライン、対面いずれの講義でも同様)														
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行い、コメントし、次の課題が明確になるよう話し合う。(オンライン、対面いずれの講義でも同様)														
使 用 教 材		1.水本清久、岡本牧人、石井邦雄、土本寛二 編集:「実践 チーム医療論 -実際と教育プログラム-」医歯薬出版株式会社 2.Charles Vincent 著、相馬孝博/藤澤由和・訳「Patient Safety 患者安全」篠原出版新社 3.厚労省から出される「チーム医療の推進に関する提言」等を使用														
1	講 義 内 容	チーム医療の基本的考え方及び求められる資質と今日的課題(渡邊)														
	該当する到達目標 1	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間	
		復 習	チーム医療の推進に関する現状と課題について整理する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	チーム医療の中で看護に求められる役割と実際(神田)														
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	チーム医療の推進の中で看護が果たしている役割について内省し、課題を整理しておく。												1.5 時間	
		復 習	看護が果たすべき役割に焦点化し不足する学習内容を補完する。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	呼吸リハビリテーションチームの実践を通じたチーム医療の理解(浅香)														
	該当する到達目標 2	予 習	チーム医療に関する実践の文献や雑誌を読んで概要をつかむ。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容を補完する。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	地域リハビリテーションにおけるチーム医療の実際(浅香)														
	該当する到達目標 2	予 習	チーム医療に関する実践の文献や雑誌を読んで概要をつかむ。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容を補完する。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	認知症ケアにおけるチーム医療の実際(山上)														
	該当する到達目標 2	予 習	地域におけるチーム医療の実際についての文献を検索し読んでおく。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容を補完する。												1.5 時間	
6	講 義 内 容	チーム員の教育とチーム医療(山上)														
	該当する到達目標 2,3	予 習	地域におけるチーム医療の実際についての文献を検索し読んでおく。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容を補完する。												1.5 時間	
7	講 義 内 容	母性、助産学分野におけるチーム医療の役割と実際(寺口)														

	該当する到達目標 1,2,3	予 習	チーム医療の推進の中で看護が果たしている役割について内省し、課題を整理しておく。	1.5 時間
		復 習	看護が果たすべき役割に焦点化し不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
8	講 義 内 容	チーム医療の推進に関する課題を整理し、今後の展望を考察(渡邊) 各自プレゼンテーションし、それを基にディスカッションする		
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	チーム医療の意義と課題について自己の経験の中から考察し、プレゼンテーションに向けて用意をする。	1.5 時間
		復 習	グループディスカッションの中で得られた知見を基に、自己の考えを整理する。	1.5 時間
	1.授業外学習の進め方 自律的な学習が基本です。チーム医療については、国の施策の変化に注目しつつ、同時に実践的課題が明らかになってきているので、行政的施策や実践報告に目を通しておくこと。 予習・復習のための時間は、1回の授業についておよそ1.5ー2時間は取る必要があります。 2.質問や疑問点への対応 ① 随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。 担当教員の連絡先: 初回講義時に提示する。 ②オフィスアワー: 月曜日 3ー5 限 木曜日 1ー2 限 4号館2階 研究科長室			

科 目 名	チーム医療アプローチ特別演習															
英 文 名	Seminar on team medical approach															
担 当 教 員	田中 聡一、吉田 剛、棚橋 さつき															
時期・単位	看護学専攻修士課程、理学療法学専攻修士課程 1 年前期 必須 1 単位															
講 義 目 標	患者およびその家族の健康問題を解決、QOL の向上を目指すために、多職種によるチームアプローチが必要となる事例を検討し、チームアプローチ医療の理解を深める。看護師、医師、リハビリテーション専門職、栄養士、薬剤師、介護福祉士、ソーシャルワーカーなど各専門職に求められる機能を検討し、チームアプローチを推進するための、それぞれの働きや得意分野、守備範囲を学習した上で、機能的・効率的医療提供に結びつくコーディネート法を理解する。															
到 達 目 標	1. 具体的事例に対して自分が中心となって討論ができ、チームアプローチ医療に対するチームの考えを発表できる。 2. チームアプローチによる医療の重要性、問題点に対して、事例を提示して、プレゼンターとなって討論し、チームアプローチ医療に対する具体的な解答を発表できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3	4												
評 価 方 法	授業参加度・貢献度(60%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)で総合的に判断する。															
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションに対するディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメントする。															
使用 教 材	チーム医療を成功させる 10 か条 現場に学ぶチームメンバーの心得(中山書店)ISBN 978-4-521-73707-2															
1	講 義 内 容	チーム医療の現状、それに関わる職種、環境(田中) 予習したチーム医療の現状、それに関わる職種、環境について発表し、比較・検討する。														
	該当する到達目標	予 習	チーム医療の現状、それに関わる職種、環境について調査する。													2 時間
	1,2	復 習	授業内容をまとめる。													1 時間
2	講 義 内 容	病院におけるチーム医療の演習(田中) 予習した具体的な病院におけるチーム医療例を発表し、ディスカッション、ロールプレイングをする。														
	該当する到達目標	予 習	具体的な病院におけるチーム医療例を調査する。													2 時間
	1,2	復 習	授業内容をまとめる。													1 時間
3	講 義 内 容	地域におけるチーム医療の演習(田中) 予習した具体的な地域におけるチーム医療例を発表し、ディスカッション、ロールプレイングをする。														
	該当する到達目標	予 習	具体的な地域におけるチーム医療例を調査する。													2 時間
	1,2	復 習	授業内容をまとめる。													1 時間
4	講 義 内 容	行政・法的支援におけるチーム医療(田中) 予習した行政・法的支援を発表し、具体的なケースを検討する。														
	該当する到達目標	予 習	医療に関する法的支援を調査する。													2 時間
	1,2	復 習	授業の内容をまとめる。													1 時間
5	講 義 内 容	リハビリテーション医療チームにおける各職種の役割(吉田)														
	該当する到達目標	予 習	リハ看護やリハにおける理学療法士の役割について調べる。													2 時間
	1,2	復 習	臨床場面でのリハチームにおける各職種の役割を整理する。													1 時間

6	講義内容	産婦人科領域における助産師と理学療法士の協業について(吉田)		
	該当する到達目標	予習	妊産婦の腰痛や腹圧性尿失禁と骨盤底筋トレーニングについて調べる。	2 時間
	1,2	復習	産婦人科領域におけるリハチームについて整理する。	1 時間
7	講義内容	看護師の視点から考える医療機関およびチーム医療(棚橋)		
	該当する到達目標	予習	チーム医療について調べる。	2 時間
	1,2	復習	授業をまとめる。	1 時間
8	講義内容	多職種連携における職種の役割(棚橋)		
	該当する到達目標	予習	地域でかかわる各職種について調べる。	2 時間
	1,2	復習	授業をまとめる。	1 時間
備考	予習、復習は原則として全授業を通して 24 時間は行う。演習はグループで行うので、予習、復習は自己学習と、グループ学習の両学習を行う。下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。オフィスアワーは授業前後。 (田中)stanaka#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) (吉田)tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp (棚橋)tanahashi#takasaki-u.ac.jp			

科 目 名		地域支援学特論													
英 文 名		Advanced Community Support and Care													
担当教員		棚橋 さつき、寺口 顕子、倉林しのぶ、梅原里実、篠原 智行													
時期・単位		1 年次 前期 選択 1 単位													
講 義 目 標		在院日数の短縮による病院から在宅・地域への医療の移行や少子高齢化社会における家族の多様化が、健康問題を抱える個人を含む家族や地域にもたらす様々な問題について検討し、個人・家族・地域を繋いだ包括的なサポートについて学ぶ。 独居老人の生活、老々介護の問題、介護負担、虐待などの社会問題には家族の抱える問題が潜んでいることを学び、地域における療養者、家族の生活を支える看護支援やリハビリテーション、地域における子育てを含めた支援の在り方を学ぶ。													
到 達 目 標		1.リハビリテーションを中心とした地域支援の在り方を理解できる。 2.倫理的側面から家族関係、広くは地域支援をとらえることができる。 3.地域における認知症高齢者、家族の現状と課題について理解できる。 4.地域における子育ての現状と課題について理解できる。 5.在宅における療養者、家族への地域支援について理解できる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連															
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(30%)、レポート(70%)で総合的に評価する。													
課題に対する フィードバック		授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・コメントする。													
使 用 教 材		1)山口晴保編著;認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント, 協同医書出版社 2)日本在宅ケア学会誌 * その他適宜資料を活用する。													
1	講 義 内 容	在宅生活を継続するためのリハビリテーション的思考について(篠原)													
	該当する到達目標 1	予 習	リハビリテーション高齢者のリハビリテーション定義を学習する。												1.5 時間
		復 習	在宅生活を維持するための支援ができるように自己学習する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	地域リハビリテーションを構成する専門職の連携と課題(篠原)													
	該当する到達目標 1	予 習	地域で障害者・家族を支えるための態勢について事前学習する。												1.5 時間
		復 習	地域のネットワークを作るために自分で出来ることを補完学習する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	行政における地域支援事業①(倉林)													
	該当する到達目標 2,3	予 習	地域包括ケアシステムおよび行政の高齢者保健施策について調べておく。												1.5 時間
		復 習	講義資料を読み直し、地域高齢者支援の課題を整理する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	行政における地域支援事業②(倉林)													
	該当する到達目標 2,3	予 習	地域包括ケアシステムおよび行政の高齢者保健施策について調べておく。												1.5 時間
		復 習	講義資料を読み直し、地域高齢者支援の課題を整理する。												1.5 時間
5	講 義 内 容	地域で暮らす認知症高齢者(若年性認知症患者を含む)及び家族のおかれている現状と課題(梅原)													
	該当する到達目標 3	予 習	新聞やネットニュース等から認知症者や家族等が置かれている社会問題について調べ、事例を持参する。												1.5 時間

		復 習	現状から課題を整理する。	1.5 時間
6	講 義 内 容	地域における子育ての現状と課題(寺口)		
	該当する到達目標	予 習	子育て世代包括支援センターの制度や社会サービス内容について調べておく。	1.5 時間
	4	復 習	現状の子育て支援における問題を理解する。	1.5 時間
7	講 義 内 容	在宅における療養者への支援の在り方(棚橋)		
	該当する到達目標	予 習	地域における療養者の支援方法について書籍等にて調べておく。	1.5 時間
	5	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
8	講 義 内 容	地域支援に関する課題と今後の展望(棚橋)		
	該当する到達目標	予 習	地域における課題について最新情報について学習しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
備考	授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。 予習・復習は、原則として全授業をとおして 30 時間を行う。 学習過程において質問等生じた場合にはメール等にて対応する。 棚橋: tanahashi#takasaki-u.ac.jp 寺口: teraguchi#takasaki-u.ac.jp 篠原: shinohara-t#takasaki-u.ac.jp 倉林: kura#takasaki-u.ac.jp 梅原: umehara#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) 【オンライン時の評価方法】 ・オンライン授業参加度・貢献度(30%)、レポート(70%)で総合的に評価する。 【オンライン時の課題に対するフィードバック】 ・オンライン授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・コメントする。			

科 目 名		健康科学特論														
英 文 名		Advanced Health Science														
担 当 教 員		桑原 敦志、入澤 孝一、角野 善司														
時期・単位		共通科目 1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		健康寿命の延伸には、栄養、身体活動・運動、心の安静、生体防御機構(免疫)の維持が必須である。本授業では、健康の仕組み、身体活動・運動、心の安静、免疫の基礎知識と自己免疫疾患、生活習慣病とその予防など、健康維持における心身のあり方の重要性を科学的根拠に基づき理解する。														
到 達 目 標		1.健康とは何か、健康の概念について理解できる。 2.健康の維持・増進と身体活動・運動との関連性について理解できる。 3.身体的健康と精神的健康の関連性について理解できる。 4.ストレスによる生体反応と健康障害のメカニズムおよび効果的なストレス対処法について理解できる。 5.生体防御と免疫機構について理解できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
		高度な実践力														
	✓	研究能力														
		豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③											16	
評 価 方 法		対面で行う場合:課題レポート 3 部(各 30%) 授業の積極性(10%)で総合的に判断する。トータルで 100% とする。 オンラインで行う場合:C ラーニングを用いた小テスト(教員各 30%)、オンライン授業の積極性(10%)で判断する。トータル 100%とする。														
課題に対する フィードバック		講義内で質問し、その返答に対する正当性、および発表態度についてディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメント。 オンラインで行う場合は、アンケート回答という形でフィードバックする。														
使 用 教 材		参考書:海保博之 監修／小杉正太郎 編『朝倉心理学講座 19 ストレスと健康の心理学』朝倉書店 2006 年 3,780 円														
1	講 義 内 容	健康科学とは？健康寿命の延伸を目指すために(桑原)														
	該当する到達目標	予 習	健康科学に関する文を読んで、自分の持っている知識の整理をしておく。												1.5 時間	
	1	復 習	配布されたプリントに基づく討論の内容を考察しレポートにまとめる。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	身体活動・運動と健康および健康障害－老化と骨粗しょう症(入澤)														
	該当する到達目標	予 習	運動と筋肉・骨格の関係について知識の整理をしてくる。												1.5 時間	
	2, 3	復 習	授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	身体活動・運動と健康および健康障害－肥満(入澤)														
	該当する到達目標	予 習	運動・食生活と肥満の関係について知識を整理してくる。												1.5 時間	
	2, 3	復 習	授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	身体活動・運動と健康および健康障害－生活習慣病(入澤)														
	該当する到達目標	予 習	運動と生活習慣病についての知識を整理してくる。												1.5 時間	
	2, 3	復 習	授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	身体活動・運動の評価方法(入澤)														
	該当する到達目標	予 習	新体力テストについて知識をまとめてくる。												1.5 時間	
	2, 3	復 習	児童生徒の体力と運動の関連について課題を考察し、レポートにまとめる。												1.5 時間	

6	講義内容	身体的健康と精神的健康の関連性(角野)		
	該当する到達目標	予習	心身の健康の連関に関する基礎知識を学習する。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	配布プリントに従って、身体的健康と精神的健康の関連性について考察し、レポートにまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	身体的健康度の評価方法(角野)		
	該当する到達目標	予習	身体的健康度の評価方法に関する既存の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	配布プリントに従って、各種の身体的健康度の評価方法の利点・留意点について、レポートにまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	精神的健康度の評価方法(角野)		
	該当する到達目標	予習	精神的健康度の評価方法に関する既存の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	配布プリントに従って、各種の精神的健康度の評価方法の利点・留意点について、レポートにまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	ストレスと生体反応・健康障害(角野)		
	該当する到達目標	予習	ストレス学説に関する基礎知識を学習する。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	配布プリントに従って、ストレスが生体反応・健康障害を生じさせるメカニズムを理解し、レポートにまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	ストレス対処行動と評価方法(角野)		
	該当する到達目標	予習	ストレスコーピングに関する基礎知識を学習する。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	配布プリントに従って、コーピングによるストレス緩和効果について、レポートにまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	生体防御と免疫機構(桑原)		
	該当する到達目標	予習	免疫機構を理解するための基礎知識を学習する。	1.5 時間
	5	復習	配布プリントに従って、免疫機構の知見を理解し健康を保つのに役立っているかをレポートにまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	感染症と免疫(桑原)		
	該当する到達目標	予習	感染症発症メカニズムや免疫の破たんを学習する。	1.5 時間
	5	復習	配布プリントに従って感染防御、自己免疫疾患を理解しレポートにまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	生活習慣病が招く健康破たんの結果とは(桑原)		
	該当する到達目標	予習	糖尿病に関する基礎知識を学習する。	1.5 時間
	2, 3	復習	配布プリントおよびスライドから糖尿病の診断、治療、予防を理解しレポートにまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	生活習慣病予防がもたらす社会的利益(桑原)		
	該当する到達目標	予習	メタボリックシンドロームの基礎知識を学習する。	1.5 時間
	2, 3	復習	配布プリントおよびスライドからメタボリックシンドロームと動脈硬化を理解しレポートにまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	食事・運動・ストレスコントロールで健康増進(桑原)		
	該当する到達目標	予習	健康増進のための方法を学習する。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	食事や運動により生活習慣病を予防し、ストレスを解消する手段をレポートにまとめる。	1.5 時間
備考	① 予習、復習は原則として全授業を通して 60 時間は行う。 予習はノートを作成し、まとめてきた上で講義に望む。復習は講義で学習した事項およびその後の自己学習を加			

え、エビデンスを持った、現時点で最新の疾患に関する知見を明らかにし、レポート作成を行う。下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。

② オフィスアワー:水曜日 13 時から 14 時 30 分 5 号館 6 階 601 研究室

③ (桑原)kuwabara#takasaki-u.ac.jp (入澤)irisawa#takasaki-u.ac.jp (角野)zsumino#takasaki-u.ac.jp

科 目 名		病態生理学特論															
英 文 名		Advanced pathophysiology															
担 当 教 員		田中 聡一、渡邊 秀臣、桑原 敦志															
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		患者の身体状況を把握し、適切な診療に結び付けていくために、エビデンスに基づいた情報収集と判断が必要である。そのために必要な臨床検査の種類とその意義について学習し、臓器別の病態生理学を詳細に学び、患者の全体的な病態生理を把握する。															
到 達 目 標		1.患者の健康管理・病態把握・病状管理のために必要な理学的所見および病態生理を説明できる。 2.適切な病態把握と臨床検査の方法、そしてそれを身体所見と結びつけて考え、適切な治療を選択できる。 3. 理学所見や臨床検査学を通じて得られた情報から病態生理の知識に裏づけた医療的アプローチが実践できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
		高度な実践力															
	✓	研究能力															
		豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			3	4		6											
評 価 方 法	授業参加度・貢献度(50%)、レポート(50%)で総合的に判断する。																
課題に対する フィードバック	講義内で質問し、その返答に対する正当性、および発表態度についてディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメント。																
使 用 教 材	北川美千代(2012)臨床家のための基礎からわかる病態生理学(医道の日本社)																
1	講 義 内 容	臨床検査から病態を考察(桑原)															
	該当する到達目標	予 習	臨床検査に関して基礎知識を学習しておく。														1.5 時間
	1,2,3	復 習	実際の患者データをみて、病態を検討し、関連する疾患を考察しレポートにまとめる。														1.5 時間
2	講 義 内 容	感染症の病態生理と院内感染(桑原)															
	該当する到達目標	予 習	感染症、院内感染防止について基礎知識を学習しておく。														1.5 時間
	1,2,3	復 習	感染症の実態と感染経路別院内感染防止策を考察しレポートにまとめる。														1.5 時間
3	講 義 内 容	甲状腺疾患の病態生理(桑原)															
	該当する到達目標	予 習	甲状腺疾患に関する基礎知識を学習しておく。														1.5 時間
	1,2,3	復 習	甲状腺疾患合併妊娠に関する注意点を考察しレポートにまとめる。														1.5 時間
4	講 義 内 容	自己免疫疾患の病態生理(桑原)															
	該当する到達目標	予 習	アレルギーと自己免疫疾患に関する基礎知識を学習しておく。														1.5 時間
	1,2,3	復 習	疫機序の破たんによる疾患を考察しレポートにまとめる。														1.5 時間
5	講 義 内 容	呼吸器疾患の病態生理(桑原)															
	該当する到達目標	予 習	慢性閉塞性肺疾患に関する基礎知識を学習しておく。														1.5 時間
	1,2,3	復 習	慢性閉塞性肺疾患の成因および対応を考察しレポートにまとめる。														1.5 時間
6	講 義 内 容	循環器疾患の病態生理(桑原)															
	該当する到達目標	予 習	心臓の解剖、生理学および検査を学習しておく。														1.5 時間
	1,2,3	復 習	心電図の成り立ちと心電図からわかることを考察しレポートにまとめる。														1.5 時間
7	講 義 内 容	骨折の病態生理(渡邊)															
	該当する到達目標	予 習	骨折を起こしやすい部位と種類を学習しておく。														1.5 時間

	1,2,3	復習	骨折の対応法をレポートにまとめる。	1.5 時間
8	講義内容		骨、関節系の痛み(渡邊)	
	該当する到達目標	予習	骨、関節系で頻度の高いものを調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	痛みの原因となるものをレポートにまとめる。	1.5 時間
9	講義内容		ロコモティブ症候群(渡邊)	
	該当する到達目標	予習	ロコモティブ症候群の定義と病態を調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ロコモティブ症候群の対策をレポートにまとめる。	1.5 時間
10	講義内容		内分泌器系の生理と疾患(田中)	
	該当する到達目標	予習	代表的な内分泌器官を挙げ、放出されるホルモンについて学習しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	放出されるホルモンの標的とその作用についてレポートにまとめる。	1.5 時間
11	講義内容		消化器系の生理と疾患(田中)	
	該当する到達目標	予習	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸にみられる疾患について学習しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	肝臓、胆道系、膵臓にみられる疾患についてレポートにまとめる。	1.5 時間
12	講義内容		腎・泌尿器系の生理と疾患(田中)	
	該当する到達目標	予習	腎臓、尿路、膀胱、尿道のマクロ、ミクロの病理および解剖(含む血管系、内分泌系、神経系)を学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	腎臓、尿路、膀胱、尿道に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5 時間
13	講義内容		神経系の生理と疾患(田中)	
	該当する到達目標	予習	中枢神経、末梢神経、筋肉のマクロ、ミクロの病理および解剖(含む血管系、内分泌系)を学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	中枢神経、末梢神経、筋肉に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5 時間
14	講義内容		感覚器の生理と疾患(田中)	
	該当する到達目標	予習	体性感覚系のマクロ、ミクロの病理および解剖(含む血管系、内分泌系、神経系)を学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	体性感覚系に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5 時間
15	講義内容		口腔の生理と疾患(田中)	
	該当する到達目標	予習	口腔、歯のマクロ、ミクロの病理および解剖(含む血管系、内分泌系、神経系)を学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	口腔、歯に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5 時間
備考	予習、復習は原則として全授業を通して 60 時間は行う。予習はノートを作成し、まとめてきた上で講義に望む。復習は講義で学習した事項およびその後の自己学習を加え、エビデンスを持った、現時点で最新の疾患に関する解剖・病態生理の視点をもって、レポート作成を行う。下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。オフィスアワーは授業前後。(田中)stanaka#takasaki-u.ac.jp (渡邊)watanabe-h#takasaki-u.ac.jp (桑原)kuwabara#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)			

科 目 名		医療栄養学特論													
英 文 名		Advanced medical nutrition													
担 当 教 員		竹内 真理													
時期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位													
講 義 目 標		傷病者のための適切な栄養療法を見極め、治療方針(栄養療法)を提案できる知識を身につけること。また、栄養食事指導において、傷病者の QOL を損なうことなく栄養療法を実践できる知識を身につけることを目的とする。													
到 達 目 標		1.臨床現場における傷病者の様々な病態を把握し、疾病に応じた栄養療法を選択できる力を修得する。 2.栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントを実施し、必要栄養量や栄養補給方法を選択できる能力を修得する。 3.ベッドサイドや在宅医療の現場での栄養管理を実践し、栄養ケアプランを立案する能力を修得する。 4.NST 活動などのチーム医療においてディレクターやアシスタントディレクターとして活躍できる力を養う。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連		2	3	4				8							
評 価 方 法		授業中の発表や発言内容(50%)、学習意欲(20%)、レポート提出(30%)にて総合的に評価する。													
課題に対する フィードバック		授業の中で、その都度ディスカッションするとともに評価およびコメントする。													
使 用 教 材		各講義時に資料を配布する。参考資料として、静脈経腸栄養ハンドブック(南江堂)、NST ガイドブック(メディカルレビュー社)、病態栄養ガイドブック(メディカルレビュー社)													
1	講 義 内 容	栄養評価。栄養スクリーニングと栄養アセスメント													
	該当する到達目標	予 習	学部の栄養学を復習しておく												1.5 時間
	1,2	復 習	学習した内容を次の講義までに再度確認する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	栄養補給量(投与エネルギー、栄養素、水、電解質など)の算定と栄養補給法の選択													
	該当する到達目標	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。												1.5 時間
	1,2	復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	栄養ケアプランの立案(診断計画、治療計画、教育計画)													
	該当する到達目標	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。												1.5 時間
	1,2	復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	栄養補給の方法①(経口摂取、栄養補助食品の使い方)													
	該当する到達目標	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。												1.5 時間
	1,2	復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。												1.5 時間
5	講 義 内 容	栄養補給の方法②(経腸栄養、静脈栄養)													
	該当する到達目標	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。												1.5 時間
	1,2	復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。												1.5 時間
6	講 義 内 容	日本人の食事摂取基準、食生活指針、食事バランスガイド													
	該当する到達目標	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。												1.5 時間
	1,2	復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。												1.5 時間
7	講 義 内 容	栄養ケアプロセス(NCP)と栄養診断													

	該当する到達目標 1,2,4	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。	1.5 時間
		復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。	1.5 時間
8	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,4	チーム医療とNST活動		
		予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。	1.5 時間
	1,2,4	復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。	1.5 時間
		入院患者の退院支援		
9	該当する到達目標 1,2,4	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。	1.5 時間
		復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。	1.5 時間
	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,4	在宅患者の栄養管理		
		予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。	1.5 時間
10	1,2,4	復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。	1.5 時間
		病態別栄養管理(内科領域)①		
11	該当する到達目標 1,2,3,4	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。	1.5 時間
		復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。	1.5 時間
	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,3,4	病態別栄養管理(内科領域)②		
		予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。	1.5 時間
12	1,2,3,4	復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。	1.5 時間
		病態別栄養管理(外科領域)①		
13	該当する到達目標 1,2,3,4	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。	1.5 時間
		復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。	1.5 時間
	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,3,4	病態別栄養管理(外科領域)②		
		予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。	1.5 時間
14	1,2,3,4	復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。	1.5 時間
		まとめ		
15	該当する到達目標 1,2,3,4	予 習	配布資料の指定箇所を事前に目を通す。	1.5 時間
		復 習	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。	1.5 時間
備 考	オフィスアワー:木曜 2-4 時限. 1 号館 308 研究室(内線 7308) メールアドレス:mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 質問等はメールでも受け付けます。(＃を@に変換すること) 予習復習時間はレポート作成のための学習時間で補完すること オンラインで実施する場合:状況に応じ、講義内容、評価方法、試験は変更することがある。			

科 目 名		薬物動態学特論															
英 文 名		Advanced Biopharmaceutics															
担 当 教 員		荻原 琢男															
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		薬物の生体膜透過機構、生体内での吸収、体内分布、代謝および排泄を理解し、ファーマコキネティクス理論による体内薬物濃度の解析と血中薬物濃度モニタリング(TDM)の意義を学ぶ。さらに、患者ごとの病態や年齢、遺伝子多型、併用薬の違いによる薬物の体内動態要因の変動を理解し、患者ごとの薬物の投与間隔を実際の事例を基に解析・決定する手法を学ぶ。															
到 達 目 標		1.薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。 2.薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。 3.経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。 4.薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。 5.生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。 6.薬効に個人差が生じる要因および代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
		✓	研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③	④												
評 価 方 法		複数回の症例レポート(50%)と期末試験(50%)によって、薬物動態学の総合的な理解度を測る。															
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。															
使 用 教 材		「エピソード薬物動態学」 辻彰 京都廣川書店 「薬物速度論演習」 京都廣川書店															
1	講 義 内 容	薬物の生体内運命を理解するための、薬物動態学の意義を学ぶ															
	該当する到達目標 1	予 習	シラバスを予習しておくこと。													1.5 時間	
		復 習	本科目の概要・課題について復習し、理解すること。													1.5 時間	
2	講 義 内 容	薬物の生体膜透過機構と吸収、代表的な投与方法について学び、薬物動態学と製剤学の関連について理解する。															
	該当する到達目標 2,3	予 習	講義内容について概要を調べておく。													1.5 時間	
		復 習	講義内容をまとめ、理解する。													1.5 時間	
3	講 義 内 容	薬物の生体膜透過機構と吸収、代表的な投与方法について学び、薬物動態学と製剤学の関連について理解する															
	該当する到達目標 2,3	予 習	講義内容について概要を調べておく。													1.5 時間	
		復 習	講義内容をまとめ、理解する。													1.5 時間	
4	講 義 内 容	薬物の体内分布、排泄およびファーマコキネティクス理論の基礎(分布容積、クリアランスなど)															
	該当する到達目標 1,5	予 習	講義内容について概要を調べておく。													1.5 時間	
		復 習	講義内容をまとめ、理解する。													1.5 時間	
5	講 義 内 容	薬物の体内分布、排泄およびファーマコキネティクス理論の基礎(分布容積、クリアランスなど)															
	該当する到達目標 1,5	予 習	講義内容について概要を調べておく。													1.5 時間	
		復 習	講義内容をまとめ、理解する。													1.5 時間	

6	講義内容	薬物の代謝とそれに関わる酵素、その阻害および誘導、代謝に関わる相互作用について理解する		
	該当する到達目標 2,4	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する。	1.5 時間
7	講義内容	薬物の代謝とそれに関わる酵素、その阻害および誘導、代謝に関わる相互作用について理解する		
	該当する到達目標 2,4	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する。	1.5 時間
8	講義内容	医薬品の添付文書に記載されている事項を、その阻害および誘導、代謝に関わる相互作用について理解する		
	該当する到達目標 1	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する。	1.5 時間
9	講義内容	薬効に個人差が生じる要因および代表的な薬物相互作用の機序について、実際の事例を通じて理解する(演習形式)		
	該当する到達目標 6	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する。	1.5 時間
10	講義内容	薬効に個人差が生じる要因および代表的な薬物相互作用の機序について、実際の事例を通じて理解する(演習形式)		
	該当する到達目標 6	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する。	1.5 時間
11	講義内容	薬物動態パラメータの算出方法とその意味について理解する。		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する。	1.5 時間
12	講義内容	薬効に個人差が生じた場合の薬物の投与設計(投与量、投与間隔等)について、実際の事例を通じて理解する(演習形式)		
	該当する到達目標 6	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する。	1.5 時間
13	講義内容	薬効に個人差が生じた場合の薬物の投与設計(投与量、投与間隔等)について、実際の事例を通じて理解する(演習形式)		
	該当する到達目標 6	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する。	1.5 時間
14	講義内容	薬物動態学の最近のトピックス		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する。	1.5 時間
15	講義内容	薬物動態学特論のまとめ		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	講義内容について概要を調べておく。	1.5 時間
		復習	講義内容をまとめ、理解する	1.5 時間
備考	【オフィスアワー】講義当該時限の前後の時 【メールアドレス】メールアドレスは初回授業時に提示する。 予習・復習は原則として、全授業をととして 60 時間は行う。			

科 目 名	医療倫理学特論															
英 文 名	Advanced Medical Ethics															
担 当 教 員	倉林 しのぶ、大石 桂子															
時 期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標	「生殖医療」「脳死」「臓器移植」など、近年の医療倫理学に関する諸問題を学ぶだけにとどまらず、臨床現場で起こりうる個々の倫理的問題について、具体的な事例を用い理論的な検討を行う。また、文献購読やグループディスカッションを通して、“医療を行う側”と“医療を受ける側”それぞれの立場における価値観の相違や、倫理的問題を取り巻く背景を理解しながら問題解決の方策を探る。															
到 達 目 標	1.医療を支える人間と生についての基本的な理念を理解できる。 2.現代医療の倫理的問題について、正確な知識と多角的な視野をもつことができる。 3.医療職が臨床で直面する倫理的問題を理解できる。 4.医療職、患者、家族それぞれの価値観の違いを理解できる。 5.倫理的問題の背景を理解しながら、問題解決に向けた方策を検討できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
		高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③												16	
評 価 方 法	レポート（30%） 授業参加度・授業貢献度（70%） オンラインの場合も Meet 等を利用し講義を行うため、同様に評価する。															
課題に対する フィードバック	グループディスカッション、また、事例検討では、その都度、講評とともにコメントする。 オンラインの場合も同様に、C-learning 等を活用してコメントをフィードバックする。															
使 用 教 材	テキストは使用しない。配布資料を中心とする。 参考文献：『日本人の死―日本的死生観への視角―』伊藤益、北樹出版 『臨床倫理学入門』福井次矢編、医学書院、 生命倫理学会誌、死の臨床研究会誌															
1	講 義 内 容	医療と意志決定（1） 自律的な生の意義とは（大石）														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。												1.5 時間	
	1,2	復 習	講義資料を見直し、課題を完成させる。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	医療と意志決定（2） 合意形成と意志決定支援（大石）														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。												1.5 時間	
	2,3,4	復 習	講義資料を見直し、課題を完成させる。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	子の権利と代理決定 生殖補助医療・治療停止（大石）														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。												1.5 時間	
	2,3,4	復 習	講義資料を見直し、課題を完成させる。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	真実告知 知る権利と知らされない権利（大石）														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。												1.5 時間	
	1,2,3	復 習	講義資料を見直し、課題を完成させる。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	エンハンスメント（1） 「より良い生」を求める技術（大石）														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。												1.5 時間	
	1,2	復 習	講義資料を見直し、課題を完成させる。												1.5 時間	

6	講義内容	エンハンスメント (2) 「人間の弱さ」に価値はあるか (大石)		
	該当する到達目標	予習	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	東西の死生観 病気と死の受け入れ (大石)		
	該当する到達目標	予習	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5 時間
8	講義内容	臨床の倫理 (1) 医療における倫理とは何か (倉林)		
	該当する到達目標	予習	シラバスの講義内容を確認しテーマに沿った自分の考えをまとめておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義資料を見直し、医療職、患者、家族それぞれの価値観の違いについて振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	臨床の倫理 (2) 生と死にかかわる倫理的課題 (倉林)		
	該当する到達目標	予習	生殖または死に関わる場面での倫理的課題について考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義資料を見直し、自身の研究にリンクして考える。	1.5 時間
10	講義内容	臨床の倫理 (3) 研究倫理 (倉林)		
	該当する到達目標	予習	看護研究法で学んだ研究倫理について振りかえっておく。	1.5 時間
	3,4	復習	講義資料を見直し、自身の研究に関する倫理的配慮について考える。	1.5 時間
11	講義内容	文献抄読 1 (倉林)		
	該当する到達目標	予習	医療倫理・臨床倫理に関する文献を読み、内容を把握する。	1.5 時間
	3,4	復習	ディスカッションの内容から学んだことを振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	文献抄読 2 終末期医療における倫理 (倉林)		
	該当する到達目標	予習	医療倫理・臨床倫理に関する文献を読み、内容を把握する。	1.5 時間
	3,4	復習	ディスカッションの内容から学んだことを振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	事例検討 (1) (倉林)		
	該当する到達目標	予習	文献を読み込み、資料を作成する。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	資料文献を見直す。	1.5 時間
14	講義内容	事例検討 (2) (倉林)		
	該当する到達目標	予習	文献を読み込み、倫理的課題とその解決に向けた方向性について考える。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	ディスカッションの内容から学んだことを振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	事例検討 (3) (倉林)		
	該当する到達目標	予習	文献を読み込み、倫理的課題とその解決に向けた方向性について考える。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	ディスカッションの内容から学んだことを振り返り、医療者としてそれをどのように活かせるかを検討する。	1.5 時間
備考	・授業はディスカッションを中心に行う。積極的に参加できることを重視する。 ・事前に文献等を配布された場合、よく読み自分なりの考えをもって講義に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 倉林：オフィスアワー：月曜日・火曜日の 11：00～13：00 E-mail: kura#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。 大石：オフィスアワー：月曜日 13：00～14：00、金曜日 10：45～12：15 E-mail: oishi#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)			

科 目 名		教育学特論															
英 文 名		Advanced Education															
担 当 教 員		小池洋子・松田安弘・茂木佐智子・樋口大輔															
時 期 ・ 単 位		1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標		専門職として後輩の育成に携わる者としての教育的機能を発揮できる能力を養うことを目的とする。教育対象者は青年期から成人期にあることから成人学習理論、経験学習理論を中心に教育活動を行うための知識・技術を学修する。															
到 達 目 標		1. 自己が経験してきた学習を通し、教育と学習について理解する。 2. 対象である青年期から成人期の学習者としての特徴を理解する。 3. 医療専門職の制度と教育体系を理解する。 4. 成人学習者の学習支援の方法について理解する。 5. 教育学に基づく、授業展開過程を理解し、授業を設計する。 6. 評価の種類と意義を理解し、授業を評価・改善することを価値づける。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
			研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				3	4											16	
評 価 方 法		授業への参加度(50%) 課題についてのプレゼンテーション内容(50%)															
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行いつつ、コメント・評価し、次の課題を明確化する。															
使 用 教 材		1. 必要に応じ資料を配布する。 2. 参考図書 ①舟島なをみ:看護学教育における授業展開一貫の高い講義・演習・実習の実現に向けて-第 2 版. 医学書院. 2020 年 ②丸山仁司:リハビリテーション専門職のための教育学現場で役立つ「教える技術」. 医歯薬出版株式会社. 2021 年 ③松尾睦:職場が生きる人が育つ「経験学習」入門. ダイヤモンド社. 2011 年															
1	講 義 内 容	ガイダンス、 教育、学習について (小池)															
	該当する到達目標 1	予 習	シラバスを読んでおく													1.5 時間	
		復 習	教育・学習について概念を整理する													1.5 時間	
2	講 義 内 容	専門職を教育する対象者の発達段階と学習の特徴 青年期・成人期の特徴、成人学習 (茂木)															
	該当する到達目標 2	予 習	現在、関わっている指導対象者の特徴を整理しておく													1.5 時間	
		復 習	対象者の現状を把握することの必要性和成人学習者に対する支援についての考えをまとめる													1.5 時間	
3	講 義 内 容	医療専門職の教育体系 看護職、リハビリテーション専門職、その他 (小池)															
	該当する到達目標 3	予 習	自分が有する資格の法的位置づけと教育体系を確認しておく													1.5 時間	
		復 習	医療関係職種種の教育体系を整理する													1.5 時間	
4	講 義 内 容	臨床での学習支援 経験学習、リフレクション (小池)															
	該当する到達目標 2.4	予 習	経験学習について事前学習をする													1.5 時間	
		復 習	経験を学習にする過程を整理し、学習者への支援の考えをまとめる													1.5 時間	

5	講義内容	授業展開過程① 授業設計と授業の組織化 (松田)		
	該当する到達目標	予習	授業設計について事前学習しておく	1.5 時間
	4	復習	授業設計の意義について自己の考えをまとめる	1.5 時間
6	講義内容	授業展開過程② 教育目的・目標の設定、授業方法 (松田)		
	該当する到達目標	予習	教育目的・目標の設定、授業方法について事前学習しておく	1.5 時間
	2. 3. 5	復習	授業設計する上で教育目的・目標を設定する意義について考えをまとめる	1.5 時間
7	講義内容	授業展開過程③ 教育評価とは (松田)		
	該当する到達目標	予習	教育評価の定義について事前学習しておく	1.5 時間
	2. 5	復習	評価の意義を整理する	1.5 時間
8	講義内容	授業展開過程④ 評価の種類 (松田)		
	該当する到達目標	予習	評価の種類について調べておく	1.5 時間
	2. 5	復習	教育目標と教育評価の関連について整理する	1.5 時間
9	講義内容	授業展開過程の演習① 授業案の作成 (小池・松田・茂木・樋口)		
	該当する到達目標	予習	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5 時間
	2. 5. 6	復習	コメントを受け、授業案を修正する	1.5 時間
10	講義内容	授業展開過程の演習② 授業案の作成 (小池・松田・茂木・樋口)		
	該当する到達目標	予習	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5 時間
	2.4.5.6	復習	コメントを受け、授業案を修正する	1.5 時間
11	講義内容	授業展開過程の演習③ 授業案の作成 (小池・松田・茂木・樋口)		
	該当する到達目標	予習	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5 時間
	2.4.5.6	復習	コメントを受け、授業案を修正する	1.5 時間
12	講義内容	授業展開過程の演習④ 授業案の作成 (小池・松田・茂木・樋口)		
	該当する到達目標	予習	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5 時間
	2.4.5.6	復習	コメントを受け、授業案を修正する	1.5 時間
13	講義内容	授業展開過程の演習⑤ 模擬授業 (小池・松田・茂木・樋口)		
	該当する到達目標	予習	模擬授業を実施する準備をする	1.5 時間
	2.4.5.6	復習	模擬授業を実施しての振り返りを行う	1.5 時間
14	講義内容	授業展開過程の演習⑥ 模擬授業実施の評価と改善 (小池・松田・茂木・樋口)		
	該当する到達目標	予習	模擬授業を実施しての自己評価を行う。	1.5 時間
	2.4.5.6	復習	授業展開過程をとらえて理解したことを整理する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ (小池)		
	該当する到達目標	予習	1 回～14 回に学習した内容を復習しておく	1.5 時間
	1.2.3.4.5.6	復習	学習した内容を整理する	1.5 時間
備考	1.授業外の学習の取り組み方 1) 自律的に学習することが基本である。 2) 各自が模擬授業を実施するため、模擬授業で取り上げる内容について知識を整理する。 3) 予習・復習の時間: 各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 2. 科目責任教員連絡先: E-mail: koike-y#takasaki-u.ac.jp (小池) (#を@に変換すること) オフィスアワー: 5 号館 214 研究室 火 13:00～17:00 3. その他 オンライン授業となった場合は ZOOM を用いる。			

科 目 名		英文読解・英作文の技法														
英 文 名		English for Health Care Science														
担 当 教 員		川島 智幸														
時 期・単位		1 年次 後期 選択 1 単位														
講 義 目 標		保健医療学の論文を読み書きするのに必要な、基礎的な英語の読解力と表現力を養う。														
到 達 目 標		1. 論理的な英文構成を理解することができる。 2. 幅広い英語の表現方法を理解することができる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連																
評 価 方 法		授業中の発表(70%)、課題(30%)														
課題に対する フィードバック		授業中の発表に対しては、その場でコメントをする。提出課題については、コメントをつけて返却する。														
使 用 教 材		1. 『はじめてのアカデミックライティング』・田地野彰監修・朝日出版社・2020・1,980 円(本体 1,800 円+税) 2. 『5 分間 英文書き換えトレーニング』・小中秀彦・南雲堂・2016・770 円(本体 700 円+ 税) 3. 国際誌掲載論文のアブストラクト(授業で配布)														
1	講 義 内 容	オリエンテーション、アカデミックライティングとは、名詞節の書き換え。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	使用教材 1 の Unit 1、使用教材 2 の Lessons 1 - 3												1.5 時間	
		復 習	授業で扱った内容の見直し。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	叙述文の書き方、形容詞節・副詞節の書き換え。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	使用教材 1 の Unit 2、使用教材 2 の Lessons 4 - 6												1.5 時間	
		復 習	授業で扱った内容の見直し。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	比較・対比を表す文章の書き方、副詞節の書き換え。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	使用教材 1 の Unit 3、使用教材 2 の Lessons 7 - 9												1.5 時間	
		復 習	授業で扱った内容の見直しと作文課題。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	原因・結果を表す文章の書き方、不定詞・分詞構文などの活用。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	使用教材 1 の Unit 4、使用教材 2 の Lessons 10 - 12												1.5 時間	
		復 習	授業で扱った内容の見直し。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	論述文の書き方、態の書き換え。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	使用教材 1 の Unit 5、使用教材 2 の Lessons 13 - 15												1.5 時間	
		復 習	授業で扱った内容の見直し。												1.5 時間	
6	講 義 内 容	論述文の書き方、主語の書き換え。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	使用教材 1 の Unit 6、使用教材 2 の Lessons 16 - 18												1.5 時間	
		復 習	授業で扱った内容の見直しと作文課題。												1.5 時間	
7	講 義 内 容	抄録の書き方、主語の書き換え。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	Abstract 1、使用教材 2 の Lessons 19 - 20												1.5 時間	
		復 習	授業で扱った内容の見直し。												1.5 時間	
8	講 義 内 容	抄録の書き方。														
	該当する到達目標	予 習	Abstract 2												1.5 時間	

	1, 2	復習	授業で扱った内容の見直しと作文課題。	1.5 時間
備考	① 予習＋復習 各回について 3 時間、合計 24 時間 ② 3 回の集中講義で行う。予習欄にある指定教材の範囲をしっかりと準備して授業に臨むこと。 ③ 【オフィスアワー】 質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。 ④ 【メールアドレス】 メールアドレスは初回授業時に提示する。			

科 目 名	看護学研究法															
英 文 名	Advanced Research Methods in Nursing Science															
担 当 教 員	石田順子、倉林しのぶ、吉田久美子、砂賀道子、神田清子、櫻井美和、高田絵理子															
時 期・単 位	1 年次 前期 必修 2 単位															
講 義 目 標	<量的研究法> 保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。調査研究、実験研究、準実験研究および介入研究のプロセス(研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察)について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を学ぶ。 <質的研究法> 保健医療における質的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。代表的な分析方法(内容分析、修正版グランデッド・セオリー・アプローチ、事例研究)について、研究のプロセス(研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察)について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点およびデータの種類、真実性を高めるためのデータ収集・データ分析方法の特徴について学ぶ。															
到 達 目 標	7. 保健医療における量的研究と質的研究の意義・役割について説明できる。 8. 人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を記述できる。 9. 各研究方法の特徴およびプロセスを説明できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3												16	
評 価 方 法	プレゼンテーション(30%) レポート(70%)で評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。															
課題に対する フィードバック	文献クリティークにおけるプレゼンテーションに対してその都度、ディスカッションするとともに講評及びコメントをする。レポートにはコメントを付し返却する。															
使 用 教 材	講義はその都度資料を作成し配布する。 【参考文献】 1) 近藤潤子監訳: 看護研究 原理と方法、医学書院 2) 福原俊一: 臨床研究の道標、健康医療評価研究機構 3) 黒田裕子他監訳: バーンズ&グローブ看護研究入門-実施・評価・活用-、エルゼビア・ジャパン 5) Burns & Grove: The practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (6th Ed), ELSEVIER SAUNDERS. 6) 対馬栄輝: 医療系研究論文の読み方・まとめ方、東京図書 7) 対馬栄輝、石田水里: 医療系データのとり方・まとめ方、東京図書 8) 野口美和子監訳: ナースのための質的研究入門、医学書院 9) 萱間真美(2007): 質的研究実践ノート、医学書院 10) 才木クレイグヒル滋子: 質的研究方法ゼミナール グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ、医学書院															

		11)木下康之:M-GTA グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い 弘文堂 12)木下康之:ライブ講義 M-GTA 弘文堂 等		
1	講義内容	保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割、研究倫理(石田)		
	該当する到達目標	予習	量的研究について調べておく。	1時間
	1, 2, 3	復習	配布された資料に目を通し、看護研究の目的、意義、研究デザイン、研究倫理についてまとめておく。	2時間
2	講義内容	看護研究における倫理(倉林)		
	該当する到達目標	予習	看護研究における倫理について調べておく。	1時間
	1, 2	復習	配布された資料に目を通し、看護研究における倫理および倫理審査についてまとめておく。	2時間
3	講義内容	文献レビューと文献の整理(砂賀)		
	該当する到達目標	予習	参考文献 1)の 5 章を参考に文献レビューの方法及びクリティークについて調べておく。	1時間
	1, 2	復習	授業で指示された文献を読み、クリティークするとともに文献レビューを行う。	2時間
4	講義内容	文献クリティーク(吉田)		
	該当する到達目標	予習	参考文献 1)の 5 章を参考に文献レビューの方法及びクリティークについて調べておく。	1時間
	2	復習	授業で指示された文献を読み、クリティークするとともに文献レビューを行う。	2時間
5	講義内容	調査研究(石田)		
	該当する到達目標	予習	調査研究について、参考文献を活用し、調べておくこと	1時間
	2, 3	復習	①配布された資料に目を通し、調査研究のポイントについてまとめる。②調査研究に関する文献クリティークの準備を行う。③不足する学習内容を補完する。	2時間
6	講義内容	学生による文献クリティーク:調査研究(プレゼンテーションとディスカッション)(石田)		
	該当する到達目標	予習	自分の興味のある調査研究の文献をクリティークしてくること。	1時間
	2	復習	①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。	2時間
7	講義内容	実験研究と介入研究(神田)		
	該当する到達目標	予習	実験・介入研究について、参考文献を活用し、調べておく。	1時間
	2, 3	復習	①配布された資料に目を通し、実験・介入研究のポイントについてまとめる。②調査研究に関する文献クリティークの準備を行う。③不足する学習内容を補完する。	2時間
8	講義内容	学生による文献クリティーク:実験研究・介入研究(プレゼンテーションとディスカッション)(神田)		
	該当する到達目標	予習	自分の興味のある実験研究または介入研究の文献をクリティークしてくること。	1時間
	2	復習	①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。	2時間
9	講義内容	質的研究のプロセス、データ収集および分析(櫻井)		
	該当する到達目標	予習	質的研究について調べておく。	1時間
	1, 2, 3	復習	①配布された資料を振り返り、質的研究の意義・役割、研究倫理についてまとめる。②質的研究の真実性を高める方法についてまとめる。③不足する学習内容を補完する。	2時間
10	講義内容	EBP の発展と質的研究の文献クリティーク(櫻井)		
	該当する到達目標	予習	自分の研究課題に関連した質的研究のクリティークを行う。	1時間
	2	復習	①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。	2時間
11	講義内容	内容分析(ベレルソン・クリップENDORF)(吉田)		
	該当する到達目標	予習	内容分析について参考文献より調べておく。	1時間
	2, 3	復習	①配布された資料を振り返り、内容分析についてポイントをまとめておく。②不足	2時間

			する学習内容を補完する。	
12	講義内容	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(砂賀)		
	該当する到達目標 2, 3	予習	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチについて、参考文献を活用し、調べておく。	1時間
		復習	①配布された資料を振り返り、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのポイントをまとめておく。②不足する学習内容を補完する。	2時間
13	講義内容	事例研究(高田)		
	該当する到達目標 2, 3	予習	事例研究について、参考文献より調べておく。	1時間
		復習	①配布された資料を振り返り、事例研究のポイントをまとめる。②不足する学習内容を補完する。	2時間
14	講義内容	学生による質的研究の文献クリティーク(プレゼンテーションとディスカッション)(櫻井)		
	該当する到達目標 2	予習	自分の研究課題に関する質的研究の文献についてクリティークを行う。	1時間
		復習	①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。	2時間
15	講義内容	看護研究計画書の作成(石田)		
	該当する到達目標 1, 3	予習	研究計画書について調べておく。	1時間
		復習	①配布された資料を振り返り、研究計画書に記載する内容についてまとめておく。②不足する学習内容を補完する。	2時間
備考	授業外学習について ・自分の取り組みたい研究課題を見据え、研究方法を理解するために、予習・復習を行うこと。 ・プレゼンテーションを行うため、積極的に文献を収集し、主体的に学習を進めていくこと。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に90分以上の時間をかける必要がある。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 状況によりオンラインになることがある。そのときは連絡をする。 E-mail:jishida#takasaki-u.ac.jp(石田) (#を@に変換すること)			

科 目 名		がん看護学特論Ⅰ															
英 文 名		Advanced Cancer Nursing I															
担 当 教 員		吉田久美子・神田清子・石田順子・砂賀道子															
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		成人期におけるがんが患者と家族にもたらす反応、患者の健康、患者と家族の QOL の向上を目指した看護実践のあり方について、がん看護において重要な概念や理論を用いて理解する。がんの告知と治療選択における意思決定を支える看護、手術療法や化学療法に伴う看護、緩和ケアにおける看護についての現状と課題について探求する。															
到 達 目 標		1.がん看護における重要な概念や理論について実際の現象から概要を説明できる。 2.がん看護領域における健康障害を抱えながら生活する成人期の患者と家族の反応を理解し、必要な看護実践方法および課題について概要を説明できる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
		✓	研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③												⑬	
評 価 方 法		プレゼンテーション(30%) レポート(70%) ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。															
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションやレポートについて課題に対する要点を口頭あるいはコメントをつけ返却する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。 レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。															
使 用 教 材		日本看護科学学会誌、日本がん看護学会誌、日本看護研究学会誌などから論文を紹介する。 他、必要に応じて教材を提示あるいは紹介する。															
1	講 義 内 容	オリエンテーション がん看護学の動向について(神田)															
	該当する到達目標	予 習	がん患者や治療の動向をふまえ、がん看護学の動向について学習すること。													1 時間	
	1	復 習	がん患者や治療の動向をふまえ、がん看護学の動向について学習すること。													1 時間	
2	講 義 内 容	がん看護学の基盤となる理論について(吉田)															
	該当する到達目標	予 習	授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。													1 時間	
	1	復 習	授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。													1 時間	
3	講 義 内 容	がん看護学の基盤となる理論について(石田)															
	該当する到達目標	予 習	授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。													1 時間	
	1	復 習	授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。													1 時間	
4	講 義 内 容	がん看護学における倫理的課題と看護の役割について(神田)															
	該当する到達目標	予 習	倫理的判断が迫られる局面と思考過程について学習すること。													1 時間	
	1-2	復 習	倫理的判断が迫られる局面と思考過程について学習すること。													1 時間	
5	講 義 内 容	がんの治療選択における意思決定を支える看護について (石田)															
	該当する到達目標	予 習	意思決定が必要となる状況と看護師の役割について学習すること。													1 時間	
	1-2	復 習	意思決定が必要となる状況と看護師の役割について学習すること。													1 時間	
6	講 義 内 容	化学療法を受ける患者の症状マネジメント／セルフケアについて(吉田)															
	該当する到達目標	予 習	化学療法の特徴と必要となる症状マネジメントをふまえ、看護研究から現状と課題を理解すること。													1 時間	
	1-2																

		復 習	化学療法の特徴と必要となる症状マネジメントをふまえ、看護研究から現状と課題を理解すること。	1 時間
7	講 義 内 容	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／危機理論(二渡)		
	該当する到達目標	予 習	手術を受ける患者の適応について理解し、そのための看護を思考すること。	1 時間
	1-2	復 習	手術を受ける患者の適応について理解し、そのための看護を思考すること。	1 時間
8	講 義 内 容	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／適応理論(砂賀)		
	該当する到達目標	予 習	手術を受ける患者の適応について理解し、そのための看護を思考すること。	1 時間
	1-2	復 習	手術を受ける患者の適応について理解し、そのための看護を思考すること。	1 時間
9	講 義 内 容	手術を受けるがん患者と家族を支える看護の実際と課題について(砂賀)		
	該当する到達目標	予 習	手術を受ける患者の実状をふまえ、看護の課題を捉えること。	1 時間
	1-2	復 習	手術を受ける患者の実状をふまえ、看護の課題を捉えること。	1 時間
10	講 義 内 容	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について①(石田)		
	該当する到達目標	予 習	治療を受ける患者を支える家族の特徴を理解すること。	1 時間
	1-2	復 習	治療を受ける患者を支える家族の特徴を理解すること。	1 時間
11	講 義 内 容	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について②(石田)		
	該当する到達目標	予 習	治療を受ける患者を支える家族への看護を考察すること。	1 時間
	1-2	復 習	治療を受ける患者を支える家族への看護を考察すること。	1 時間
12	講 義 内 容	終末期にある患者および家族の全人的苦痛について①(吉田)		
	該当する到達目標	予 習	終末期にある患者と家族の特徴を全人的に理解すること。	1 時間
	1-2	復 習	終末期にある患者と家族の特徴を全人的に理解すること。	1 時間
13	講 義 内 容	終末期にある患者および家族の全人的苦痛について②(吉田)		
	該当する到達目標	予 習	終末期にある患者と家族への看護について体系的にまとめること。	1 時間
	1-2	復 習	終末期にある患者と家族への看護について体系的にまとめること。	1 時間
14	講 義 内 容	終末期にある患者と家族への看護について体系的にまとめること。(神田)		
	該当する到達目標	予 習	緩和ケアの実際を国内外の文献から理解し、課題をとらえること。	1 時間
	1-2	復 習	緩和ケアの実際を国内外の文献から理解し、課題をとらえること。	1 時間
15	講 義 内 容	終末期にある患者と家族への看護について体系的にまとめること。(神田)		
	該当する到達目標	予 習	緩和ケアの実際を国内外の文献から理解し、課題をとらえること。	1 時間
	1-2	復 習	緩和ケアの実際を国内外の文献から理解し、課題をとらえること。	1 時間
備 考	1.具体的な経験をもとに患者・家族の反応および看護実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料や文献をよく読んでおくこと。 2.対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるよう、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。 3.予習・復習は、原則として各授業に対して 1 時間以上は行う。 4.オフィスアワー:月曜 1～4 限 5.担当教員連絡先: E メールアドレス: 吉田久美子 yoshikumi# 神田清子 kanda# 石田順子 jishida# 砂賀道子 sunaga# すべて#の後に takasaki-u.ac.jp をつける 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。			

科 目 名		老年看護学特論														
英 文 名		Advanced Gerontological nursing														
担 当 教 員		梅原里実、田中 聡一、齊田 綾子														
時期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		高齢者に特有の健康問題に関する看護アセスメント、生活の自立と QOL の向上を目指した保健・医療・福祉における高齢者の支援やケアマネジメントおよび家族看護などの効果的な看護実践の方法を学ぶ。また、高齢社会における老年看護の専門的な機能と役割を理解し、チーム医療を担う老年看護課題を考察できる。														
到 達 目 標		1.高齢者に特有の健康問題に関する看護アセスメントが理解できる 2.生活の自立と QOL の向上を目指した高齢者の支援やケアマネジメントが理解できる 3.家族に対する効果的な看護支援が理解できる 4.高齢社会における専門的な機能と役割が理解できる 5.チーム医療を担う老年看護専門職としての課題を見出すことができる														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③													16
評 価 方 法		レポート 80%、授業参加度 20%を基準として、総合的に評価する														
課題に対する フィードバック		学生個々の考え方を引き出せるディスカッションや教員との意見交換などを通して、コメントや講評を行う。また、レポート課題などはコメントを行い返却する。														
使 用 教 材		中嶋紀恵子: 老年看護学. 日本看護協会出版会 道場信孝: 臨床老年医学入門; すべてのヘルスケアプロフェSSIONALのために. 医学書院 橋本肇: 高齢者の医療の倫理. 中央出版														
1	講 義 内 容	高齢者ケアと制度の変遷(1) 高齢者保健福祉医療制度の変遷(梅原)														
	該当する到達目標	予 習	高齢者の医療制度及び福祉制度について、文献から調べてくる。												1 時間	
	4,5	復 習	高齢者の医療・福祉制度の変遷を復習する。												2 時間	
2	講 義 内 容	高齢者ケアと制度の変遷(2) 高齢者保健福祉医療制度の課題(梅原)														
	該当する到達目標	予 習	現在の高齢社会における医療面や生活面の課題を箇条書きに書き出してくる。												1 時間	
	4,5	復 習	高齢者保健福祉制度の現状と課題についてまとめ復習しておく。												2 時間	
3	講 義 内 容	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病①(田中)														
	該当する到達目標	予 習	高齢者の生理的特徴および老年症候群について参考文献を見つけ、熟読して授業に臨む。												1 時間	
	1	復 習	患的視線からみた老年症候群についてノートにまとめる。												2 時間	
4	講 義 内 容	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病②(田中)														
	該当する到達目標	予 習	アルツハイマー型認知症等の認知症を羅列し、その特徴を書く。												1 時間	
	1	復 習	若年性認知症を起こしやすい認知症疾患を挙げ、それぞれの疾患についてノートにまとめる。												2 時間	
5	講 義 内 容	高齢者の心理・社会的特徴①(梅原)														
	該当する到達目標	予 習	高齢者の心理に関する既存の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。												1 時間	
	2	復 習	配布プリントに従って、高齢者の心理について考察し、整理しておく。												2 時間	
6	講 義 内 容	高齢者の心理・社会的特徴②(梅原)														

	該当する到達目標 2	予 習	社会における高齢者の地位に関する既有的知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。	1 時間
		復 習	配布プリントに従って、社会における高齢者の地位について考察し、整理しておく。	2 時間
7	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,4	高齢者の生活機能と QOL (梅原)		
		予 習	高齢者の生活機能低下について文献を調べて整理しておく。	1 時間
		復 習	高齢者の生活機能の低下を予防し、QOL を高めるために必要なことについてまとめる。	2 時間
8	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,4	高齢者の健康増進活動 (梅原)		
		予 習	高齢者の健康増進活動にはどのようなものがあるのか調べて要点を整理する。	1 時間
		復 習	高齢者が健康増進のために行う活動を支援する際にどのようなポイントが必要かまとめる。	2 時間
9	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,3	認知症ケアの理論と実際① (梅原)		
		予 習	ICF や生活行動モデルについて、参考書を用いて調べてくる。	1 時間
		復 習	認知症ケアの基本的考え方について整理しておく。	2 時間
10	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,3	認知症ケアの理論と実際② (梅原)		
		予 習	認知症者の症状について調べてくる。	1 時間
		復 習	認知症者に対する看護者の役割について復習しておく。	2 時間
11	講 義 内 容 該当する到達目標 1,3,4	高齢者と老年症候群の看護① (梅原)		
		予 習	高齢者を対象としたがん看護研究の文献を 1 編読み文献を持参すること。	1 時間
		復 習	高齢者の老年症候群の看護の特徴について記載すること。	2 時間
12	講 義 内 容 該当する到達目標 1,3,4	高齢者と老年症候群の看護② (梅原)		
		予 習	高齢者の疾患の特徴について文献を通して調べる。	1 時間
		復 習	講義と予習から高齢者のがんの特徴、特に急性期の特徴について学習し、看護支援を整理しておく。	2 時間
13	講 義 内 容 該当する到達目標 3	在宅看護における高齢者ケアの理論と実際 (梅原)		
		予 習	高齢者と家族関係についての課題を、文献等から調べてくる。	1 時間
		復 習	在宅療養している高齢者と家族への支援の在り方を考え、整理しておく。	2 時間
14	講 義 内 容 該当する到達目標 4,5	高齢者看護の専門職としての役割とチーム連携の実際 (老人看護専門看護師) (齊田)		
		予 習	専門看護師、認定看護師について調べる。	1 時間
		復 習	求められている専門看護師の役割と実際の活動内容から、専門看護師に必要とされる力は何かを整理する。	2 時間
15	講 義 内 容 該当する到達目標 4,5	高齢者看護の課題 (梅原)		
		予 習	今までの講義から、高齢者看護の課題を箇条書きにまとめてくる。	1 時間
		復 習	他者の課題発表や意見交換等から、高齢者看護の課題と看護者の役割についてレポートにまとめる。	2 時間
備考	オフィスアワー 科目責任者 初回講義時に提示 授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。 予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 学習過程において質問等生じた場合には、メール等にて対応する 梅原里実: E-mail umehara#takasaki-u.ac.jp 田中聡一: E-mail stanaka#takasaki-u.ac.jp 齊田綾子: 公立七日市病院所属 E-mail ayako.s#lake.ocn.ne.jp			

科 目 名	母子看護学特論 I														
英 文 名	Advanced Maternal and Child Nursing I														
担 当 教 員	櫻井 美和														
時 期・単 位	1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標	母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題に関して、対象を取り巻く環境をふまえて、最近の研究の動向から考察する。具体的には、ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達過程とその過程を支援する看護の役割、周産期における母性とその家族への支援、地域サポート体制の構築を教授する。また、子どもの権利を尊重し、人格をもつ主体としての子ども観に立脚し、子どもの成長・発達を理解するための理論、健康障害のある子どもと家族に対する看護のあり方を教授する。そして、母子看護学分野における看護師の役割や特性、倫理的問題について探求し、今後の課題を明確にする。														
到 達 目 標	1.母子看護学の対象である子どもと家族を理解するために必要な理論を説明する。 2.ライフサイクルにおける母と子、家族の健康と健康課題を説明する。 3.母子看護学における倫理と倫理的課題を説明する。 4.母子看護学における看護の役割を考察する。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			③							10					16
評 価 方 法	授業参加度・貢献度(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。														
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントする。														
使 用 教 材	1)U. ブロンフェンブレンナー著、磯貝芳郎、福富護訳(2007):人間発達の生態学(エコロジー) 発達心理学への挑戦, 川島書店. 2)都留伸子監訳(2004):看護理論家とその業績. 医学書院. 3)筒井真優美(2020):看護理論家の業績と理論評価 第2版, 医学書院. 3)舟島なをみ(2011):看護のための人間発達学 第4版, 医学書院. 4)M. H. クラウス, J. H. ケネル, P. H. クラウス著, 竹内徹訳(2001):親と子のきずなはどうつくられるか, 医学書院. 5)Browden.V.R., C. S. Greenberg.(2014):Children and Their Families—The Continuum of Nursing Care, Wolters Kluwer Health. 6)Barnsteiner, J.H.et.al.(2014):Person and Family Centered Care, Sigma Theta Tau International. ※その他、日本看護科学学会誌, 日本小児看護学会誌を活用する。														
1	講 義 内 容	オリエンテーション、母子看護学の基盤となる理論[1] 理論の実践のつながり、対象と環境(エコロジカルモデル)													
	該当する到達目標 1,4	予 習	シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。												1.5 時間
		復 習	シラバス、科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある理論について確認する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	母子看護学の基盤となる理論[2] 人間の発達の共通性と発達の影響要因													
	該当する到達目標	予 習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記について専門書等で調												1.5 時間

	1,4		べる。	
		復習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
3	講義内容	母子看護学の基盤となる理論[3] 認知発達理論		
	該当する到達目標 1,4	予習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記理論について専門書等で調べる。	1.5 時間
		復習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
4	講義内容	母子看護学の基盤となる理論[4] 発達課題理論		
	該当する到達目標 1,4	予習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記理論について専門書等で調べる。	1.5 時間
		復習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
5	講義内容	母子看護学の基盤となる理論[5] 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論		
	該当する到達目標 1,4	予習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記理論について専門書等で調べる。	1.5 時間
		復習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
6	講義内容	母子看護学の基盤となる理論[6] ソーシャルサポート理論		
	該当する到達目標 1,4	予習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記の理論について専門書等で調べる。	1.5 時間
		復習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
7	講義内容	母子看護学の基盤となる理論[7] Patient(Persons)-Family Centered Care の基本概念		
	該当する到達目標 1,4	予習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記の概念について専門書等で調べる。	1.5 時間
		復習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した概念を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
8	講義内容	母子・家族の健康と健康課題[1] 新生児期・乳幼児期の子どもと家族の健康課題		
	該当する到達目標 2,4	予習	①新生児期・乳児期にある対象と家族の健康課題とその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 ②上記①で取り上げた発達段階にある対象と健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 時間
9	講義内容	母子・家族の健康と健康課題[2] 新生児期・乳幼児期の子どもと家族の健康課題の解決に寄与する理論(母親役割移行理論、Parenting、親-子相互作用モデルなど)		
	該当する到達目標 1,2,4	予習	①新生児期・乳児期にある対象と家族の健康課題とその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 ②上記①で取り上げた発達段階にある対象と健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 時間
10	講義内容	母子・家族の健康と健康課題[3] 学童期の子どもと家族の健康課題		
	該当する到達目標	予習	①学童期・思春期・青年期にある対象と家族の健康課題をその支援について専	2.5 時間

	2,4		門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 ②上記①で取り上げた発達段階にある対象と健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 時間
11	講義内容	母子・家族の健康と健康課題[4] 思春期・青年期から成人移行期の対象と家族の健康課題		
	該当する到達目標 2,4	予習	①学童期・思春期・青年期にある対象と家族の健康課題をその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 ②上記①で取り上げた発達段階にある対象と健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 時間
12	講義内容	母子・家族の健康と健康課題[5] 学童期・思春期・青年期から成人移行期の対象と家族の健康課題の解決に寄与する理論(自己概念、ボディイメージ、自尊感情の概念とその発達など)		
	該当する到達目標 1,2,4	予習	①学童期・思春期・青年期にある対象と家族の健康課題をその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 ②上記①で取り上げた発達段階にある対象と健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 時間
13	講義内容	母と子を取り巻く倫理的課題[1] 子どもの権利条約、小児医療における倫理、倫理的意思決定モデル		
	該当する到達目標 3,4	予習	子どもの権利、母子看護学における倫理的意思決定に関連するガイドライン、多様な倫理的意思決定モデルなどを調べ、内容を確認する。	1.5 時間
		復習	①自己の看護実践を振り返り、倫理的課題について検討する。 ②不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	1.5 時間
14	講義内容	母と子を取り巻く倫理的課題[2] 倫理的意思決定モデルの活用による事例検討		
	該当する到達目標 3,4	予習	子どもの権利、母子看護学における倫理的意思決定に関連するガイドライン、多様な倫理的意思決定モデルなどを調べ、内容を確認する。	1.5 時間
		復習	①自己の看護実践を振り返り、倫理的課題について検討する。 ②不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	1.5 時間
15	講義内容	母子看護学における看護の役割、総括		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	これまでの授業内容を振り返り、看護の役割をまとめる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ●プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ●授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ●予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ●学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：月曜日 2 限、金曜日 1 限(5 号館 4 階 413 研究室) ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: sakurai-m#takasaki-u.ac.jp (櫻井) #を@に変換すること 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。			

科 目 名		精神看護学特論															
英 文 名		Advanced Psychiatric Nursing															
担 当 教 員		高田 絵理子															
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		精神保健福祉の動向をふまえ、精神看護についての現状と今後の課題を考察する。															
到 達 目 標		1.精神保健福祉の歴史をふまえ、精神保健福祉制度を理解できる。 2.精神看護領域で用いられる諸理論・方法論を理解できる。 3.精神看護における課題を理解できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連				③												16	
評 価 方 法		レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)で評価する。 オンラインの場合も C-learning、meet、zoom などを利用して行うため評価方法は上記と同様にする。															
課題に対する フィードバック		レポートには、コメントを付して返却する。また、プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 オンラインの場合も C-learning の「レポート」「連絡・相談」などを利用して同様にフィードバックする。															
使 用 教 材		教員の作成する授業資料を配布する 【参考文献】 1) 精神・心理機能評価ハンドブック 山内俊雄著 中央書店 2) 認知行動療法ガイド 基礎から応用まで ジュディス・ベック著 伊藤絵美訳 星和書店 3) 日本精神保健看護学会誌															
1	講 義 内 容		オリエンテーション														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間		
	3	復 習	オリエンテーションの内容を確認し、必要性のある文献について確認する。												1.5 時間		
2	講 義 内 容		精神医療・看護の歴史														
	該当する到達目標	予 習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。												1.5 時間		
	1.3	復 習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。												1.5 時間		
3	講 義 内 容		精神医療福祉職の専門性と多職種連携														
	該当する到達目標	予 習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。												1.5 時間		
	1.3	復 習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。												1.5 時間		
4	講 義 内 容		精神障害者と家族のサポートシステム														
	該当する到達目標	予 習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。												1.5 時間		
	1.3	復 習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。												1.5 時間		
5	講 義 内 容		精神障害を対象とした地域包括支援														
	該当する到達目標	予 習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。												1.5 時間		
1.3																	

		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
6	講義内容	精神障害者の就労支援		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
7	講義内容	自殺対策と支援		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
8	講義内容	震災時のメンタル・サポート		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
9	講義内容	オレムのセルフケア理論		
	該当する到達目標 2	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
10	講義内容	プロセスレコード：ペプロウ、ウィーデンバック		
	該当する到達目標 2	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
11	講義内容	認知行動療法		
	該当する到達目標 2	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
12	講義内容	精神症状の観察と評価1		
	該当する到達目標 2	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
13	講義内容	精神症状の観察と評価2		
	該当する到達目標 2	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
14	講義内容	グループワーク		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
15	講義内容	グループワーク		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5 時間
備考	1. 授業外学習の進め方 学習は主体的に取り組み、自己の課題を明らかにできるよう、先行研究を幅広く多岐にわたり読み、クリティークし			

ていくこと。

予習・復習のための時間は、1 回の授業についておよそ 3 時間は取る必要があります。

2. 質問への対応

・オフィスワーカー: 木曜日 14:00～16:00 (4 号館 505 研究室)

・メールアドレス takada-e#takasaki-u.ac.jp 氏名、学籍番号を必ず明記すること。(＃を@に変換すること)

科 目 名		在宅看護学特論													
英 文 名		Advanced Home Care Nursing													
担 当 教 員		棚橋 さつき、笹原 啓子、篠原 純史、平石 桂子、田村直子、浅井直美													
時期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位													
講 義 目 標		在宅看護に関連する基本的知識や訪問看護ステーションにおける人材育成、教育、管理運営方法について探求する。地域包括ケアシステムにおける在宅看護の果たす役割、継続看護および多職種連携について教授する。													
到 達 目 標		1. 在宅看護に関する基本的内容について理解できる。 2. 訪問看護ステーションにおける人材育成、運営管理等について考察することができる。 3. 地域包括ケアシステムにおける退院支援・退院調整、チームアプローチについて理解できる。 4. 在宅看護における新しい知見について考察することができる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				3	4										
評 価 方 法		授業への主体的参加を重視し、学習態度や事例素材の準備、プレゼンテーションにより総合的に判断する。レポート(60%)、授業参加態度・貢献度(40%)													
課題に対する フィードバック		授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する													
使 用 教 材		日本難病看護学会誌 日本在宅ケア学会誌 見藤隆子他著:看護職者のための政策過程入門 * その他適宜紹介する													
1	講 義 内 容	在宅看護の理念と概念(棚橋)													
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間
	1	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	在宅療養者を支える諸制度の理解(棚橋)													
	該当する到達目標	予 習	介護保険制度について学習しておく。												1.5 時間
	1	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	看護基礎教育における在宅看護学教育(浅井)													
	該当する到達目標	予 習	看護基礎教育における在宅看護論の位置づけについて学習しておく。												1.5 時間
	1	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	在宅看護における研究(田村)													
	該当する到達目標	予 習	最近の在宅看護に関する研究論文の傾向を調べておく。												1.5 時間
	1,4	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
5	講 義 内 容	退院支援・退院調整①(笹原)													
	該当する到達目標	予 習	退院支援・退院調整の基本的事項について学習しておく。												1.5 時間
	1,3	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
6	講 義 内 容	退院支援・退院調整②(笹原)													
	該当する到達目標	予 習	退院支援・退院調整の基本的事項について学習しておく。												1.5 時間
	1,3	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
7	講 義 内 容	保健医療福祉の協働:チームアプローチ①(篠原)													

	該当する到達目標	予 習	多職種連携の基本事項について学習しておく。	1.5 時間
	1,3	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
8	講 義 内 容	保健医療福祉の協働:チームアプローチ②(篠原)		
	該当する到達目標	予 習	多職種連携の基本事項について学習しておく。	1.5 時間
	1,3	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
9	講 義 内 容	在宅リハビリテーション(平石)		
	該当する到達目標	予 習	在宅リハビリテーションの基本事項について学習しておく。	1.5 時間
	1,3	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
10	講 義 内 容	訪問看護の実際(棚橋)		
	該当する到達目標	予 習	1~9 回の学習内容を整理し、書籍等で訪問看護の現状について調べておく。	1.5 時間
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
11	講 義 内 容	訪問看護ステーションにおける人材育成(新卒訪問看護師)(棚橋)		
	該当する到達目標	予 習	現任教育の基本事項について学習しておく。	1.5 時間
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
12	講 義 内 容	訪問看護ステーションにおける人材育成(訪問看護師)(浅井)		
	該当する到達目標	予 習	現任教育の基本事項について学習しておく。	1.5 時間
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
13	講 義 内 容	訪問看護ステーションにおける経営・管理(棚橋)		
	該当する到達目標	予 習	左記の経営・管理や地域連携の現状等について書籍等について調べておく。	1.5 時間
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
14	講 義 内 容	在宅看護におけるシステム構築(棚橋)		
	該当する到達目標	予 習	左記の経営・管理や地域連携の現状等について書籍等について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
15	講 義 内 容	在宅看護の展望と課題(棚橋)		
	該当する到達目標	予 習	左記の経営・管理や地域連携の現状等について書籍等について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
備 考	・授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において質問等生じた場合にはメール等で対応する。 オンライン授業の場合 【評価方法】 ① レポート(80%)、オンライン参加態度(20%) 【課題に対するフィードバック】 ① オンライン授業の中でその都度ディスカッションするとともに講評・評価する。 棚橋オフィスアワー:4 号館 3 階 304 研究室 水 13:00~14:30 tanahashi#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)			

科 目 名		看護管理学特論Ⅰ													
英 文 名		Advanced Nursing Administration SettingsⅠ													
担 当 教 員		小池 洋子、池田 優子、棚橋 さつき、安野 朝子、木村 憲洋													
時 期・単 位		1 年次 前期 選択 2 単位													
講 義 目 標		社会の変化と医療の高度化に伴い益々重要性が高まるマネジメントの在り方について探求する。具体的にはマネジメントの基礎理論を踏まえ、病院から在宅まで一貫した医療の質を保証するためのチーム医療の推進とそれを中核的に担う看護者のマネジメント能力育成の課題について考察する。更に病院組織や訪問看護ステーションにおける経営や看護管理者に必要な経営管理能力や管理方法について学ぶ。													
到 達 目 標		1.マネジメントに関する諸理論について理解する。 2.看護マネジメントに必要な対人関係調整能力の概要を理解する。 3.病院及び訪問看護事業所における管理・経営の特徴について理解する。 4.自己の経験を生かし看護管理上の課題と今後の方向性を探求することができる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				3	4										16
評 価 方 法		授業への参加度(50%) 課題を考察したプレゼンテーション内容(50%)													
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行い、コメント・評価し、次の課題を明確化する。													
使 用 教 材		1.井部俊子・中西睦子監修：「看護管理学集テキスト」全8巻 日本看護協会出版会 2.ピーター・F.ドラッカー（著）上田惇生訳：「マネジメント―基本と原則」 ダイヤモンド社 3.P・ハーシー、K・H・ブランチャード、D・E・ジョンソン（著） 山本成二 山本あずさ訳：「入門から応用へ 行動科学の展開 人的資源の活用」生産性出版 4.スティーブン・P.ロビンズ 高木晴夫訳：「組織行動のマネジメント」 ダイヤモンド社 5.ヘンリー・ミンツバーク（著）奥村哲史 須貝栄訳：「マネジャーの仕事」 白桃書房													
1	講 義 内 容	科目オリエンテーション 看護とマネジメント（小池）													
	該当する到達目標 1	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。 【復習】科目オリエンテーションの内容を理解し、自己の学習課題を整理する。												1.5 時間
		復 習													1.5 時間
2	講 義 内 容	マネジメントの定義と役割（小池）													
	該当する到達目標 1	予 習	使用教材を読み、マネジメントに関する理論について調べる。												1.5 時間
		復 習	学習したマネジメントの理論と自己の経験と照らし合わせて有用性について考察する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	組織行動のマネジメント（小池）													
	該当する到達目標 1	予 習	使用教材を読み、マネジメントに関する理論について調べる。												1.5 時間
		復 習	学習したマネジメントの理論と自己の経験と照らし合わせて有用性について考察する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	動機づけを促すマネジメント（池田）													
	該当する到達目標 1,2	予 習	動機付けに関する諸理論やグループマネジメントについて学習し、先行研究についてクリティークする。												1.5 時間

		復 習	不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
5	講 義 内 容		グループマネジメントの方法（池田）	
	該当する到達目標 1,2	予 習	動機付けに関する諸理論やグループマネジメントについて学習し、先行研究についてクリティークする。	1.5 時間
		復 習	不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
6	講 義 内 容		キャリアデベロップメント（小池）	
	該当する到達目標 1,2	予 習	キャリア発達に関する理論と課題について調べておく。	1.5 時間
		復 習	キャリア発達と人材育成に関する先行研究について補完し学習する。	1.5 時間
7	講 義 内 容		人材育成とリーダーシップ（小池）	
	該当する到達目標 1,2	予 習	キャリア発達に関する理論と課題について調べておく。	1.5 時間
		復 習	キャリア発達と人材育成に関する先行研究について補完し学習する。	1.5 時間
8	講 義 内 容		キャリア発達に即した教育プログラム（小池）	
	該当する到達目標 1,2	予 習	キャリア発達に関する理論と課題について調べておく。	1.5 時間
		復 習	キャリア発達と人材育成に関する先行研究について補完し学習する。	1.5 時間
9	講 義 内 容		地域包括ケアシステムの中での病院と在宅との連携（棚橋）	
	該当する到達目標 2,3,4	予 習	地域包括ケアシステムに関する動向及び先行研究について調べておく。	1.5 時間
		復 習	在宅におけるサポートシステム及び管理運営について整理する。	1.5 時間
10	講 義 内 容		在宅看護の経営・管理の課題と展望（棚橋）	
	該当する到達目標 2,3	予 習	地域包括ケアシステムに関する動向及び先行研究について調べておく。	1.5 時間
		復 習	在宅におけるサポートシステム及び管理運営について整理する。	1.5 時間
11	講 義 内 容		組織横断的なシステム構築（安野）	
	該当する到達目標 2,3,4	予 習	リスクマネジメントに関する文献について調べておく。	1.5 時間
		復 習	システム構築に関する課題について整理する。	1.5 時間
12	講 義 内 容		感染管理を含むリスクマネジメントシステムの構築（安野）	
	該当する到達目標 2,3,4	予 習	リスクマネジメントに関する文献について調べておく。	1.5 時間
		復 習	システム構築に関する課題について整理する。	1.5 時間
13	講 義 内 容		病院経営と医療（木村）	
	該当する到達目標 3,4	予 習	病院経営の視点と課題について調べておく。	1.5 時間
		復 習	病院経営の課題について整理する。	1.5 時間
14	講 義 内 容		病院経営収益管理（木村）	
	該当する到達目標 3,4	予 習	病院経営の視点と課題について調べておく。	1.5 時間
		復 習	病院経営の課題について整理する。	1.5 時間
15	講 義 内 容		まとめ（小池） 15 回の内容についての整理及び 学生によるプレゼンテーション	
	該当する到達目標 1,2,3,4	予 習	マネジメントの理論と人材育成の手法、および地域包括ケアシステムの構築に向けて施設・在宅の課題についてまとめる	1.5 時間
		復 習	自己のプレゼンテーション内容の振り返りと課題について整理する。	1.5 時間
備考	1. 授業外学習の進め方 自律的な学習が基本です。自己の取り組みたい課題を明らかにできるよう、先行研究を幅広く多岐にわたり読み、クリティークしていくこと。また、マネジメントに関する著作には必ず目を通し、文献カードに整理しておくこと。 予習・復習のための時間は、1 回の授業についておよそ 3－4 時間は取る必要があります。 2. オンライン授業となった場合は ZOOM で授業を行います。講義内容、評価方法に変更はありません。 3. 質問や疑問点への対応			

①随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。

担当教員の連絡先: E-mail: koike-y#takasaki-u.ac.jp (小池洋子) (#を@に変換すること)

②オフィスアワー: 月曜日 3-5 限 5号館4階 412研究室

科 目 名		看護技術学特論Ⅰ															
英 文 名		Advanced Nursing Art and ScienceⅠ															
担 当 教 員		鶴田 晴美 中嶋広美 廣井寿美 桐山勝枝															
時期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について理解する。また、具体的な看護技術のエビデンスを調べ、臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解する。															
到 達 目 標		1.看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について理解できる。 2.具体的な看護技術(リラクゼーションケア、温電法ケア、足浴ケア、背面開放座位ケア、体圧分散ケアなど)のエビデンスを調べることができる。 3.臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解できる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
		✓	研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③	④										16		
評 価 方 法		対面授業:プレゼンテーション(30%)、レポート(70%) オンライン:プレゼンテーション(30%)、レポート(70%) いずれも、総合的に判断し、60 点以上を合格とする。															
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 レポートは、期限内に提出した学生には、コメントなど付けて返却する。															
使 用 教 材		・課題や講義内容に関連する文献などを随時提示し、活用する。 ・日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会誌等から論文を紹介する。															
1	講 義 内 容	科目オリエンテーション 看護技術の条件について (鶴田)															
	該当する到達目標 1	予 習	【予習】シラバスを読み、講義の目標を理解する。													1.5 時間	
		復 習	【復習】科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、不足する学習内容を補完する。													1.5 時間	
2	講 義 内 容	エビデンスと看護研究のつながり (鶴田)															
	該当する到達目標 1,3	予 習	【予習】エビデンスに関して専門書等で調べる。													1.5 時間	
		復 習	【復習】・授業で配布した資料および紹介した論文を精読する。 ・不足する学習内容を補完する。													1.5 時間	
3	講 義 内 容	看護ケアのエビデンスの構築について (鶴田)															
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	【予習】エビデンスに関して専門書等で調べる。													1.5 時間	
		復 習	【復習】・授業で配布した資料および紹介した論文を精読する。 ・不足する学習内容を補完する。													1.5 時間	
4	講 義 内 容	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 1 (廣井)															
	該当する到達目標	予 習	【予習】関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、													1.5 時間	

	1,2		プレゼンテーションの準備をする。	
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
5	講義内容	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 2 (廣井)		
	該当する到達目標 1,2	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
6	講義内容	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 3 (中畠)		
	該当する到達目標 1,2	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
7	講義内容	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 4 (中畠)		
	該当する到達目標 1,2	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
8	講義内容	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 5 (桐山)		
	該当する到達目標 1,2	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
9	講義内容	リラクセーションケアの開発とエビデンスの構築に向けての研究 (桐山)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
10	講義内容	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 1 (廣井)		
	1,2,3	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
11	講義内容	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 2 (廣井)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
12	講義内容	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 3 (中畠)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間

13	講義内容	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 4 (中畠)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
14	講義内容	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 5 (鶴田)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	【予習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
		復習	【復習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
15	講義内容	総括 (鶴田)		
	該当する到達目標 1,3	予習	【予習】これまでの授業内容を振り返り、まとめる。	1.5 時間
		復習	【復習】不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
備考	・関心のある看護技術について文献検討し、現時点でのエビデンスについて発表する。また、関心のある看護技術の開発とエビデンス構築に向けた研究の実際について発表する。 ・文献検索法を熟知しておくこと。 ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 45 時間を行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ① オフィスアワー : 鶴田 火曜日 5 時限目 5 号館 3 階 302 研究室 ② 随時メールでも受付ける E-mail : tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp(鶴田) (#を@に変換すること) 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。			

科 目 名		地域看護学特論															
英 文 名		Advanced Lecture on Community Health Nursing															
担 当 教 員		倉林 しのぶ、赤堀八重子、武居明美、宮崎 有紀子															
時期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		地域におけるヘルスプロモーションにかかわる看護の理論と方法について理解する。公衆衛生や健康の概念、個人や集団の健康づくりに向けた健康教育、個人・家族・集団を対象とした看護活動、地域の健康課題の解決のための社会資源の開発と施策への反映について、対象別の実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化といった側面から探求していく。															
到 達 目 標		1.公衆衛生看護の概念について理解できる 2.健康教育、健康管理に関する保健師の活動とその根拠について理解できる。 3.地域で生活する個人・家族・集団に対する看護活動のあり方について考察を深めることができる。 4.地域の健康問題解決のための社会資源や施策について考察できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
		研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連				③												16	
評 価 方 法		プレゼンテーション(50%)レポート(50%) オンラインの場合も Meet 等を利用し講義を行うため、同様に評価する。															
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションを含む全体の流れについて講評とともにコメントする。 オンラインの場合も同様に、C-learning やメール等を活用してコメントをフィードバックする。															
使 用 教 材		テキストは使用しない。講義内容に応じた資料を提示する。 参考文献： 金川克子ほか訳「コミュニティアズパートナー」医学書院 「保健師ジャーナル」「公衆衛生」「公衆衛生情報」等の雑誌															
1	講 義 内 容	オリエンテーション(倉林)															
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義義の目標を理解する。												1.5 時間		
	1	復 習	オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある文献について調べる。												1.5 時間		
2	講 義 内 容	公衆衛生看護の概念(倉林)															
	該当する到達目標	予 習	提示された文献や資料を読み、疑問点について抽出しておく。												1.5 時間		
	1	復 習	講義資料を確認しながら、次回講義へつなげる。												1.5 時間		
3	講 義 内 容	ヘルスプロモーションにかかわる理論と実践例(倉林)															
	該当する到達目標	予 習	提示された文献や資料を読み、疑問点について抽出しておく。												1.5 時間		
	1,2	復 習	講義資料を確認しながら、次回講義へつなげる。												1.5 時間		
4	講 義 内 容	健康教育にかかわる理論と実践例(赤堀)															
	該当する到達目標	予 習	提示された文献や資料を読み、疑問点について抽出しておく。												1.5 時間		
	1,2	復 習	講義資料を確認しながら、次回講義へつなげる。												1.5 時間		
5	講 義 内 容	地域の健康指標および特性の把握(宮崎)															
	該当する到達目標	予 習	提示された文献や資料を読み、疑問点について抽出しておく。												1.5 時間		
	1,2,3	復 習	講義資料を確認しながら、次回講義へつなげる。												1.5 時間		

6	講義内容	地域保健活動の評価方法(宮崎)		
	該当する到達目標	予習	保健医療福祉に関する文献を集めておく。また疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	各分野の連携についてまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	地域における保健医療福祉の連携とシステム化②(宮崎)		
	該当する到達目標	予習	保健医療福祉に関する文献を集めておく。また疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	各分野の連携についてまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	地域における保健医療福祉の連携とシステム化①(宮崎)		
	該当する到達目標	予習	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	公衆衛生看護の目的と地域看護職の業務、また、在宅との連携についてまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	健康危機管理(赤堀)		
	該当する到達目標	予習	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	公衆衛生看護の目的と地域看護職の業務、また、在宅との連携についてまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	在宅療養者への支援(倉林)		
	該当する到達目標	予習	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	公衆衛生看護の目的と地域看護職の業務、また、在宅との連携についてまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	社会資源と地域ケアシステム①(倉林)		
	該当する到達目標	予習	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	公衆衛生看護の目的と地域看護職の業務、また、在宅との連携についてまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	社会資源と地域ケアシステム②(赤堀)		
	該当する到達目標	予習	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	公衆衛生看護の目的と地域看護職の業務、また、在宅との連携についてまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	家族支援①(武居)		
	該当する到達目標	予習	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	家族を含む地域看護の対象者についての支援についてまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	家族支援②(武居)		
	該当する到達目標	予習	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	家族を含む地域看護の対象者についての支援についてまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	地域看護活動における倫理的側面／まとめ(倉林)		
	該当する到達目標	予習	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	家族を含む地域看護の対象者についての支援と倫理的課題についてまとめる。	1.5 時間
備考	・関連する文献の検索および検討を主体的に行うこと。 ・授業内容に基づき自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 倉林: オフィスアワー: 月曜日・火曜日の 11:00~13:00 E-mail: kura#takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。(＃を@に変換すること) 赤堀: オフィスアワー: 金曜日の 13:00~15:00			

E-mail: akabori#takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。(＃を@に変換すること) 武居:オフィスアワー:月曜日の 14:00～16:00 E-mail: takei-a#takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。(＃を@に変換すること)

科 目 名		国際看護学特論 I													
英 文 名		Advanced International Nursing I													
担 当 教 員		李 孟蓉													
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位													
講 義 目 標		国際保健における理念や Child Health, Maternal Health, Non-Communicable Diseases, Universal Health Coverage, Infection Diseases などを含む グローバルヘルスの健康課題、さらに国際看護における基本的知識を学び、国際社会の中での看護のあり方について探究する。さらに、国際 MDGs や SDGs を踏まえ、今後の国際保健が目指す方向性を考察する。													
到 達 目 標		1. 世界の健康格差を理解し、グローバルの視点で健康課題を理解する。 2. MDGs の果たした成果を振り返りながら SDGs の目指す方向性を理解する。 3. 日本における国際協力の仕組みと国・民間・国際機関の活動について理解する。 4. 国際社会の中で看護が果たす役割について明確にすることが出来る。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			③												16
評 価 方 法		評価方法: プレゼンテーション(30%)、レポート(70%)													
課題に対する フィードバック		提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。													
使 用 教 材		1) 国際保健医療学会編(2013): 国際保健医療学、杏林書院 2) Journal of International Health、International Nursing Review 3) 田村やよい編(2016): 国際看護学、メヂカルフレンド社 4) 蟹江憲史編(2017): 持続可能な開発目標とは何か: 2030 年へ向けた変革のアジェンダ、ミネルヴァ書房 5) 国際協力研究所編(2009): 指標から国を見る、独立法人国際協力機構(JICA)													
1	講 義 内 容	世界の保健に関する歴史的変遷について													
	該当する到達目標 1	予 習	教材3を精読する。											1.5 時間	
		復 習	世界の保健分野で歴史的にどのような変遷をたどり現在に至っているのかを整理する。											1.5 時間	
2	講 義 内 容	日本の保健・看護に関する歴史的変遷について													
	該当する到達目標 1	予 習	教材3を精読する。											1.5 時間	
		復 習	日本の保健は歴史的にどのような変遷をたどり現在に至っているのかを整理し、国際保健の歴史変遷がどのように関わっていたのかを合わせ整理する。											1.5 時間	
3	講 義 内 容	国際保健におけるプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション理論													
	該当する到達目標 1	予 習	教材1、3を精読する。											1.5 時間	
		復 習	プライマリーヘルスケア理論とヘルスプロモーション理論を整理し、その開発の歴史的変遷を整理する。											1.5 時間	
4	講 義 内 容	健康格差がひきおこす世界の健康課題の現状 / 健康格差とその課題													
	該当する到達目標 1	予 習	教材1、4、5を精読する。											1.5 時間	
		復 習	健康格差が発生する原因を学び、健康格差がどのように健康問題に影響を及ぼすのかを整理する。											1.5 時間	

5	講義内容	健康格差がひきおこす世界の健康課題の現状 / 世界で起こっている健康問題		
	該当する到達目標	予習	教材1、4、5を精読する。	1.5 時間
	1	復習	現在、健康格差によって起こっている健康問題に対しての解決方法を考える。	1.5 時間
6	講義内容	MDGs の目的と世界の動き		
	該当する到達目標	予習	教材1、4を精読する	1.5 時間
	2	復習	MDGs が提唱された背景と全世界の動きをまとめ、2015 年までに達成した課題、さらに残された課題を整理する。さらに、引き続き提唱された SDGs の特徴と全政界の取り組みを整理する。	1.5 時間
7	講義内容	MDGs の成果と SDGs が目指す方向について		
	該当する到達目標	予習	教材1、4を精読する	1.5 時間
	3	復習	MDGs が提唱された背景と全世界の動きをまとめ、2015 年までに達成した課題、さらに残された課題を整理する。さらに、引き続き提唱された SDGs の特徴と全政界の取り組みを整理する。	1.5 時間
8	講義内容	SDGs の世界的動向		
	該当する到達目標	予習	教材1、4を精読する	1.5 時間
	3	復習	MDGs が提唱された背景と全世界の動きをまとめ、2015 年までに達成した課題、さらに残された課題を整理する。さらに、引き続き提唱された SDGs の特徴と全政界の取り組みを整理する。	1.5 時間
9	講義内容	国際協力にかかわる機関・組織とその役割 / 国際組織とその活動		
	該当する到達目標	予習	教材1、3、5を精読する。	1.5 時間
	3	復習	国際経協力に関わる国外、国内機関を整理しそれぞれの具体的機能、活動についてまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	国際協力に関わる機関・組織とその役割 / 国内組織とその活動		
	該当する到達目標	予習	教材1、3、5を精読する。	1.5 時間
	3	復習	国際経協力に関わる国外、国内機関を整理しそれぞれの具体的機能、活動についてまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	国際災害看護の実際		
	該当する到達目標	予習	これまでに海外で発生している災害を調べ、看護職がどのように関わってきたのかまとめる。	1.5 時間
	4	復習	国際災害活動の実際を振りかえり、今後の課題につき整理する。	1.5 時間
12	講義内容	日本におけるグローバルな課題 / 感染症・環境破壊・災害・在日外国人問題		
	該当する到達目標	予習	教材3を精読する。	1.5 時間
	4	復習	日本におけるグローバルな課題に対しての解決方法を探る。	1.5 時間
13	講義内容	国際看護活動の場と対象、健康問題について		
	該当する到達目標	予習	世界で行われている看護の国際協力(ODA,NGO)について調べる。	1.5 時間
	4	復習	講義を通して、残された健康問題を整理する。	1.5 時間
14	講義内容	日本の看護分野における国際協力の現状と課題		
	該当する到達目標	予習	世界で行われている看護の国際協力(ODA,NGO)について調べる。	1.5 時間
	4	復習	講義を通して、残された健康問題を整理する。	1.5 時間
15	講義内容	看護の立場で考えるグローバルヘルスの今後の課題と展望		
	該当する到達目標	予習	世界における保健医療分野に残されている課題を明確にする。	1.5 時間
	4	復習	講義をとおり、残された健康課題に対しての看護の役割を整理する。	1.5 時間
備	備考			

考	・自分自身の経験を基に、世界で起こっている健康問題を検討し、その中で看護に求められている機能や役割を、レポート・意見交換などを通し探求する。 ・講義内容に基づき、自主的・自律的に予習、復習に取り組む。 ・予習復習は原則として、全授業を通して 60 時間は行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。 また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先 e-mail:ri# takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) ・オフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科 目 名	健康基礎科学特論 I															
英 文 名	Advanced Basic Medical Science I															
担 当 教 員	桑原敦志															
時期・単位	看護学専攻修士課程 1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標	糖尿病を代表とする生活習慣病を持った患者は年々増加し、病院で看護を提供するだけでなく、訪問看護や、介護施設においても糖尿病・生活習慣病の知識は欠かせないものとなっている。生活習慣病の予防から治療まで幅広い知識を習得する。															
到 達 目 標	1. 生活習慣病の定義を理解できる 2. 糖尿病の検査診断・治療と糖尿病患者に対する看護について理解できる。 3. 高血圧・高脂血症の診断・治療と看護の注意点について理解できる。 4. 動脈硬化性疾患のもたらす合併症と対処法について理解できる。 5. 生活習慣病の予防について理解できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3												16	
評 価 方 法	課題レポート(50%)、授業での発言や積極性(50%)で総合的に判断する。															
課題に対する フィードバック	提出されたレポートに対して、内容と完成度に対してコメントし評価する。授業中にディスカッションを行う際に、学生自身の発言内容に対しても講評する。															
使 用 教 材	丸ごとわかる生活習慣病 ISBN 978-4-525-50141-9 南山堂 その他、適宜教材を用意する。															
1	講 義 内 容	生活習慣病の基礎知識														
	該当する到達目標	予 習	教科書から生活習慣病の定義を理解する。													1.5 時間
	1	復 習	生活習慣病の基礎知識を理解し生活習慣のデータを読めるようにする。													1.5 時間
2	講 義 内 容	疾患別の知識とケア:肥満・肥満症														
	該当する到達目標	予 習	教科書から肥満・肥満症の定義を理解する。													1.5 時間
	4	復 習	肥満・肥満症の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。													1.5 時間
3	講 義 内 容	疾患別の知識とケア:糖尿病														
	該当する到達目標	予 習	教科書から糖尿病の定義を理解する。													1.5 時間
	2	復 習	糖尿病の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。													1.5 時間
4	講 義 内 容	疾患別の知識とケア:高血圧														
	該当する到達目標	予 習	教科書から高血圧の定義を理解する。													1.5 時間
	3	復 習	高血圧の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。													1.5 時間
5	講 義 内 容	疾患別の知識とケア:脂質異常症														
	該当する到達目標	予 習	教科書から脂質異常症の定義を理解する。													1.5 時間
	3	復 習	脂質異常症の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。													1.5 時間
6	講 義 内 容	疾患別の知識とケア:メタボリックシンドローム														
	該当する到達目標	予 習	教科書からメタボリックシンドロームの定義を理解する。													1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復 習	メタボリックシンドロームの基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。													1.5 時間
7	講 義 内 容	疾患別の知識とケア:痛風・高尿酸血症														
	該当する到達目標	予 習	教科書から痛風・高尿酸血症の定義を理解する。													1.5 時間

	1, 4	復習	痛風・高尿酸血症の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	疾患別の知識とケア: 脂肪肝		
	該当する到達目標	予習	教科書から脂肪肝の定義を理解する。	1.5 時間
	1, 4	復習	脂肪肝の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	疾患別の知識とケア: 慢性腎臓病		
	該当する到達目標	予習	教科書から慢性腎臓病の定義を理解する。	1.5 時間
	1, 4	復習	慢性腎臓病の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	疾患別の知識とケア: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群		
	該当する到達目標	予習	教科書から閉塞性睡眠時無呼吸症候群の定義を理解する。	1.5 時間
	1	復習	閉塞性睡眠時無呼吸症候群の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	生活習慣病の治療: 減量とリバウンド予防		
	該当する到達目標	予習	教科書から減量とリバウンド予防のコツを理解する。	1.5 時間
	5	復習	減量とリバウンド予防の基礎知識を理解し患者に適応できるようにする。	1.5 時間
12	講義内容	生活習慣病の治療: 食事療法		
	該当する到達目標	予習	教科書から食事療法のコツを理解する。	1.5 時間
	5	復習	食事療法の基礎知識を理解し患者に適応できるようにする。	1.5 時間
13	講義内容	生活習慣病の治療: 運動療法		
	該当する到達目標	予習	教科書から運動療法予防のコツを理解する。	1.5 時間
	5	復習	運動療法の基礎知識を理解し患者に適応できるようにする。	1.5 時間
14	講義内容	生活習慣病の治療: 禁煙		
	該当する到達目標	予習	教科書から禁煙のコツを理解する。	1.5 時間
	5	復習	禁煙の基礎知識を理解し患者に適応できるようにする。	1.5 時間
15	講義内容	生活習慣病の治療: 禁酒・節酒		
	該当する到達目標	予習	教科書から禁酒・節酒のコツを理解する。	1.5 時間
	5	復習	禁酒・節酒の基礎知識を理解し患者に適応できるようにする。	1.5 時間
備考	授業は教科書や資料を基に進めていくので、予習して積極的に参加することが必要である。 予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。 オフィスアワー: 毎週水曜日 13 時から 15 時。5 号館 6 階 601 研究室。E メールでの質問は常時受け付ける。 Email: kuwabara#takasaki-u.ac.jp			

科 目 名		健康支援科学特論Ⅰ														
英 文 名		Advanced Health Support ScienceⅠ														
担 当 教 員		青柳千春														
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		子どもの健康問題が深刻化複雑化して中、学校においては、子どもの心身の健康を保持増進するために、子どもの健康支援に関する答申や学校保健安全法の改正、学習指導要領の改訂等が行われ、子どもの健康支援に対する学校への社会的ニーズも変化している。また、学校においては子どもの健康支援にあたり校内外の関係機関や専門職と連携・協働することが求められている。そこで、学校における子どもへの健康支援のこれまでを概観し、これからを展望するとともに、看護職の役割について探求する。														
到 達 目 標		1. 学校における子どもの健康支援を概観し、変遷及び現状と課題を理解する 2. 養護教諭に必要な資質能力について考察することができる 3. 自己の経験を生かし学校における健康支援の課題と今後の方向性を探求することができる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
		高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③												16	
評 価 方 法		授業への参加度(50%) 課題を考察したプレゼンテーション内容(50%)														
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行い、コメント・評価し、次の課題を明確化する。														
使 用 教 材		1. 学校保健の動向 令和3年度版 日本学校保健会発行 2.子どものからだと心白書 2020 子どものからだと心・連絡会議 3. 大谷尚子著:養護覚え書 ジャパンマニスト社 4. 小倉 学著:養護教諭～その専門性と機能 東山書房 5. 森昭三 著:これからの養護教諭 教育的視座からの提言 大修館書店 6. 藤田和也著:養護教諭が担う教育とは何か(2008) 農山漁村文化協会 7.岡田加奈子「養護教諭の養護の概念～ケアの視点から」日本保健医療行動科学学会年報(2002)														
1	講 義 内 容	科目オリエンテーション 学校保健の動向 (1)子どもの健康支援に関する答申から														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間	
	1	復 習	科目オリエンテーションの内容を理解し、自己の学習課題を整理する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	学校保健の動向 (2)学校保健に関する法律から														
	該当する到達目標	予 習	学校保健安全法、学習指導要領を読み、健康支援に関する内容を理解しておく												1.5 時間	
	1	復 習	不足する学習内容を補完する。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	養護の本質と概念														
	該当する到達目標	予 習	使用教材を読み、養護の本質と概念について調べる。												1.5 時間	
	1, 2	復 習	学習した養護の本質と概念について、自身の考えをまとめる												1.5 時間	
4	講 義 内 容	養護教諭制度の沿革と職務・役割の変遷														
	該当する到達目標	予 習	養護教諭制度の沿革と職務・役割の変遷について調べる。												1.5 時間	
	1,2	復 習	現在、求められている役割について自身の考えをまとめる。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	養護活動の基礎理念(1)～「養護教諭 その専門性と機能」														
	該当する到達目標	予 習	使用教材を読み、内容をまとめて発表できるようにする												1.5 時間	

	1,2	復習	不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
6	講義内容		養護活動の基礎理念(2) 養護覚え書	
	該当する到達目標	予習	使用教材を読み、内容をまとめて発表できるようにする	1.5 時間
	1,2	復習	不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
7	講義内容		教育に果たす養護教諭の役割(1)～教育課程と養護教諭 (校長または経験者)	
	該当する到達目標	予習	教育課程とその編成及び今期の学習指導要領改訂の流れとその概要について調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
8	講義内容		教育に果たす養護教諭の役割(2)～健康教育と養護教諭	
	該当する到達目標	予習	使用教材を読み、養護教諭が担う教育とは何かについてまとめておく。	1.5 時間
	1,2	復習	学習内容を振り返り、養護教諭が担う教育について整理する。	1.5 時間
9	講義内容		健康支援活動(1)慢性疾患を抱える子どもの理解※がん	
	該当する到達目標	予習	小児がんを抱える子どもの現状や学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	学校における、小児がん患儿への健康支援について整理する。	1.5 時間
10	講義内容		健康支援活動(2)慢性疾患を抱える子どもの理解※アレルギー	
	該当する到達目標	予習	アレルギーを抱える子どもの現状や学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	学校における、アレルギー患儿への健康支援について整理する。	1.5 時間
11	講義内容		健康支援活動(3)慢性疾患を抱える子どもの理解※医療的ケア児	
	該当する到達目標	予習	医療的ケア児の現状や学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	学校における、医療的ケア児への健康支援について整理する。	1.5 時間
12	講義内容		健康支援活動(4)心の健康問題を抱える子どもの理解※虐待・不登校(SC)	
	該当する到達目標	予習	子ども虐待及び不登校の現状や学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	学校における、虐待や不登校の子どもへの健康支援について整理する。システム構築に関する課題について整理する。	1.5 時間
13	講義内容		健康支援活動(5)心の健康問題を抱える子どもの理解(SSW)	
	該当する到達目標	予習	子どもの心の健康の現状や、学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 時間
	2, 3	復習	学校における、心の健康課題を抱える子どもへの健康支援について整理する。	1.5 時間
14	講義内容		健康支援活動(6)特別支援と養護教諭	
	該当する到達目標	予習	学校における特別な配慮を要する子どもの健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 時間
	2, 3	復習	学校における、特別な配慮を要する子どもへの健康支援について整理する。	1.5 時間
15	講義内容		子どもの健康支援におけるまとめ 15 回の内容についての整理及び 学生によるプレゼンテーション	
	該当する到達目標	予習	学校における子どもの健康支援の現状と課題についてまとめる	1.5 時間
	1,2,3	復習	自己のプレゼンテーション内容の振り返りと課題について整理する。	1.5 時間
備考	1. 授業外学習の進め方 自律的な学習が基本です。自己の取り組みたい課題を明らかにできるよう、先行研究を幅広く多岐にわたり読み、クリティークしていくこと。そのため、予習・復習のための時間を、全体として 60 時間は行う必要がある。			

	2. オンライン授業となった場合は ZOOM で授業を行います。講義内容、評価方法に変更はありません。 3. 質問や疑問点への対応 ① 随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。 担当教員の連絡先: E-mail: aoyagi#takasaki-u.ac.jp (青柳千春) (#を@に変換すること) ② オフィスアワー: 月曜日 13:00～14:00、水曜日 16:00～17:00、3 号館 2 階 207 研究室

科 目 名		健康基礎科学特論Ⅱ															
英 文 名		Advanced Basic Medical ScienceⅡ															
担 当 教 員		桑原敦志															
時 期・単位		看護学専攻修士課程 1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標		病院で行われる糖尿病患者に対する看護師による生活指導、糖尿病患者の家族に対する食事指導など、看護実践から導かれる糖尿病患者療養指導の問題点を抽出し、問題解決への考え方とエビデンスに基づく医療・看護を理解できるように教授する。全人的看護を考え、生活習慣病に関する看護の問題点を考えることができるよう教授する。															
到 達 目 標		1. 糖尿病患者の実際を理解できる 2. 糖尿病患者の生活指導について理解できる。 3. 糖尿病療養指導に対する看護師の役割について理解できる。 4. 糖尿病合併症と対処法について理解できる。 5. 看護師の糖尿病予防に対する貢献について理解できる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
		✓	研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③												16	
評 価 方 法		課題レポート(50%)、授業での発言や積極性(50%)で総合的に判断する。															
課題に対する フィードバック		提出されたレポートに対して、内容と完成度に対してコメントし評価する。授業中にディスカッションを行う際に、学生自身の発言内容に対しても講評する。															
使 用 教 材		教科書は使わず、最新の論文をチョイスして教科書として用いる。 その他、公的機関や学会が発行する教材を用意する。															
1	講 義 内 容	糖尿病患者の実際															
	該当する到達目標	予 習	シラバスを読み科目の内容を理解する。													1.5 時間	
	1	復 習	糖尿病患者に関する知識をまとめ、患者の生活背景を想像できるようにする。													1.5 時間	
2	講 義 内 容	看護師による糖尿病生活指導															
	該当する到達目標	予 習	糖尿病患者の生活指導を調べておく。													1.5 時間	
	2	復 習	看護師の行う糖尿病患者対する生活指導で、患者には社会的に何が必要か理解する。													1.5 時間	
3	講 義 内 容	看護師による糖尿病療養指導: 食事療法															
	該当する到達目標	予 習	糖尿病患者の食事療法を調べておく。													1.5 時間	
	3	復 習	看護師の行う糖尿病患者対する食事指導のコツをまとめる。													1.5 時間	
4	講 義 内 容	看護師による糖尿病療養指導: 運動療法															
	該当する到達目標	予 習	糖尿病患者の運動療法を調べておく。													1.5 時間	
	3	復 習	看護師の行う糖尿病患者対する運動指導のコツをまとめる。													1.5 時間	
5	講 義 内 容	糖尿病患者の薬物療法															
	該当する到達目標	予 習	糖尿病患者の薬物療法を調べておく。													1.5 時間	
	1, 3	復 習	糖尿病患者対する薬物療法の副作用をまとめる。													1.5 時間	
6	講 義 内 容	インスリン治療の実際															
	該当する到達目標	予 習	糖尿病患者のインスリン療法を調べておく。													1.5 時間	

	1, 3	復習	看護師の行う糖尿病患者に対するインスリン治療指導のコツをまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	糖尿病性網膜症と治療・看護		
	該当する到達目標	予習	糖尿病性網膜症を調べておく。	1.5 時間
	1, 4	復習	看護師の行う糖尿病性網膜症患者に対する看護の注意点をまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	糖尿病性腎症と治療・看護		
	該当する到達目標	予習	糖尿病性腎症を調べておく。	1.5 時間
	1, 4	復習	看護師の行う糖尿病性腎症患者に対する看護の注意点をまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	糖尿病性神経症と治療・看護		
	該当する到達目標	予習	糖尿病性神経症を調べておく。	1.5 時間
	1, 4	復習	看護師の行う糖尿病性神経症患者に対する看護の注意点をまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	糖尿病と大血管障害		
	該当する到達目標	予習	糖尿病による動脈硬化について調べておく。	1.5 時間
	1, 4	復習	糖尿病による動脈硬化によっておこる疾患をまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	生活習慣病としての糖尿病と併存疾患		
	該当する到達目標	予習	糖尿病患者と生活習慣病について調べておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	糖尿病を含む生活習慣病による動脈硬化性疾患についてまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	糖尿病発症予防としての健康診断		
	該当する到達目標	予習	特定健診について調べる。	1.5 時間
	1, 5	復習	糖尿病を含む生活習慣病を発見するための健診と疾病診断基準に関してまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	看護師が行う糖尿病発症予防のための生活指導		
	該当する到達目標	予習	糖尿病予備群と診断された場合について調べる。	1.5 時間
	2, 5	復習	糖尿病発症予防のため看護師のできる生活指導についてまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	看護師が行う糖尿病発症予防のための食事運動指導		
	該当する到達目標	予習	糖尿病予備群に対する生活指導の効果について調べる。	1.5 時間
	3, 5	復習	糖尿病発症予防のため看護師のできる食事運動指導についてまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	糖尿病に関するまとめ		
	該当する到達目標	予習	社会的な存在としての糖尿病患者の心身の状況に関して調べる。	1.5 時間
	1	復習	糖尿病発症予防、治療について看護師のできることにまつてまとめる。	1.5 時間
備考	・授業は資料を基に進めていくので、予習して積極的に参加することが必要である。 ・予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。 ・オフィスアワー：毎週水曜日 13 時から 15 時。5 号館 6 階 601 研究室。E メールでの質問は常時受け付ける。 Email: kuwabara#takasaki-u.ac.jp			

科 目 名	健康基礎科学演習Ⅰ															
英 文 名	SeminarⅠ：Basic Medical Science															
担 当 教 員	桑原敦志															
時 期・単位	看護学専攻修士課程 1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標	健康基礎科学特論での学びを基にして、生活習慣病患者に関しても診断・検査・治療を理解できるようにする。糖尿病療養指導及び糖尿病予防の観点から、食事療法、運動療法、薬物療法の基本を理論的に理解し、糖尿病発症予防、糖尿病の検査・診断、インスリン療法まで理解できるようにする。授業内容から研究テーマを明確にする。															
到 達 目 標	1. 生活習慣病の定義を理解できる。 2. 糖尿病の検査診断・治療と糖尿病患者に対する看護について理解できる。 3. 高血圧・高脂血症の診断・治療と看護の注意点について理解できる。 4. 動脈硬化性疾患のもたらす合併症と対処法について理解できる。 5. 生活習慣病の予防について理解できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③												16	
評 価 方 法	課題レポート(50%)、授業での発言や積極性(50%)で総合的に判断する。															
課題に対する フィードバック	課題レポートやプレゼンテーションに対し毎回口頭で評価する。															
使 用 教 材	毎回、論文資料を用意する。															
1	講 義 内 容	オリエンテーション、生活習慣病の基本														
	該当する到達目標	予 習	シラバスを読んで科目の目標を理解する。													1.5 時間
	1	復 習	オリエンテーションの確認と生活習慣病を大まかに捉えておく。													1.5 時間
2	講 義 内 容	糖尿病の検査・診断、治療と看護①食事と運動														
	該当する到達目標	予 習	糖尿病の基本を理解する。													1.5 時間
	2	復 習	糖尿病の食事運動療法に関する文献を抽出する。													1.5 時間
3	講 義 内 容	糖尿病の検査・診断、治療と看護②薬物療法														
	該当する到達目標	予 習	糖尿病の基本を理解する。													1.5 時間
	2	復 習	糖尿病の薬物療法に関する文献を抽出する。													1.5 時間
4	講 義 内 容	糖尿病の検査・診断、治療と看護③インスリン治療														
	該当する到達目標	予 習	糖尿病の基本を理解する。													1.5 時間
	2	復 習	糖尿病のインスリン療法に関する文献を抽出する。													1.5 時間
5	講 義 内 容	高血圧症の検査診断、治療と看護の役割①減塩食														
	該当する到達目標	予 習	高血圧の基本を理解する。													1.5 時間
	3	復 習	高血圧症の減塩食に関する文献を抽出する。													1.5 時間
6	講 義 内 容	高血圧症の検査診断、治療と看護の役割②降圧薬														
	該当する到達目標	予 習	高血圧症の基本を理解する。													1.5 時間
	3	復 習	高血圧症の降圧薬に関する文献を抽出する。													1.5 時間
7	講 義 内 容	高血圧症の検査診断、治療と看護の役割③腎臓保護														

	該当する到達目標	予 習	高血圧症の基本を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	高血圧症の腎障害に関する文献を抽出する。	1.5 時間
8	講 義 内 容	脂質異常症の検査診断、治療と看護の役割①食事内容		
	該当する到達目標	予 習	脂血異常症の基本を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	脂質異常症の食事療法に関する文献を抽出する。	1.5 時間
9	講 義 内 容	脂質異常症の検査診断、治療と看護の役割②高脂血症治療薬		
	該当する到達目標	予 習	脂血異常症の基本を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	脂質異常症の薬物療法に関する文献を抽出する。	1.5 時間
10	講 義 内 容	動脈硬化性疾患の治療・看護の注意点①心筋梗塞		
	該当する到達目標	予 習	心筋梗塞の基本を理解する。	1.5 時間
	4	復 習	心筋梗塞の看護に関する文献を抽出する。	1.5 時間
11	講 義 内 容	動脈硬化性疾患の治療・看護の注意点②脳卒中		
	該当する到達目標	予 習	脳卒中の基本を理解する。	1.5 時間
	4	復 習	脳卒中の看護に関する文献を抽出する。	1.5 時間
12	講 義 内 容	生活習慣病のもたらす健康上の弊害		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病のもたらす弊害を理解する。	1.5 時間
	4, 5	復 習	生活習慣病のリスクに関する文献を抽出する。	1.5 時間
13	講 義 内 容	生活習慣病に対して予防できること①生活指導		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病の生活指導を理解する。	1.5 時間
	4, 5	復 習	生活習慣病の看護師のできる生活指導に関する文献を抽出する。	1.5 時間
14	講 義 内 容	生活習慣病に対して予防できること②クリニカルイナーシャ		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病の治療を理解する。	1.5 時間
	4, 5	復 習	生活習慣病のクリニカルイナーシャに関する文献を抽出する。	1.5 時間
15	講 義 内 容	生活習慣病のまとめ		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病をまとめる。	1.5 時間
	1, 4, 5	復 習	生活習慣病に関する文献をまとめる。	1.5 時間
備 考	・授業は資料を基に進めていくので、予習して積極的に参加することが必要である。 ・予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。 ・オフィスアワー:毎週水曜日 13 時から 15 時。E メールでの質問は常時受け付ける。 Email: kuwabara#takasaki-u.ac.jp			

科 目 名		健康基礎科学演習Ⅱ														
英 文 名		SeminarⅡ：Basic Medical Science														
担 当 教 員		桑原敦志														
時期・単位		看護学専攻修士課程 1 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		糖尿病発症から治療までの一連の流れで抽出した課題解決を目指すアプローチについて、また、生活習慣病の発症から治療まで、文献やディスカッションを通じて検討する。看護師がチーム医療の一員として、糖尿病患者療養に関して重要な役割を担うことから、生活習慣病の中で糖尿病捉え、予防することに貢献する看護の基本となるような課題を見つけること指導する。研究方法を検討し、研究計画書を作成できるようにする。														
到 達 目 標		1. 糖尿病予防・治療に対して看護師の役割を理解できる 2. 生活習慣病・糖尿病予防のための生活習慣指導を理解する。 3. 高血糖に関する知見を学び、研究のテーマを明らかにすることができる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③													⑬
評 価 方 法		課題レポート(50%)、授業での発言や積極性(50%)で総合的に判断する。														
課題に対する フィードバック		レポートやプレゼンテーションに対する考察、評価をその都度口頭で伝える。														
使 用 教 材		適宜用意する。														
1	講 義 内 容	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	シラバスを読んで、生活習慣病について知識を整理しておく。												1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	前回授業をもとに生活習慣病の知識を整理する。												1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	前回授業をもとに生活習慣病の知識を整理する。												1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	前回授業をもとに生活習慣病の知識を整理する。												1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	前回授業をもとに生活習慣病の知識を整理する。												1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。												1.5 時間	
6	講 義 内 容	取り組もうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じ														

		て見出していく。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5 時間
7	講 義 内 容	取り組もうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じて見出していく。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5 時間
8	講 義 内 容	取り組もうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じて見出していく。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5 時間
9	講 義 内 容	取り組もうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じて見出していく。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5 時間
10	講 義 内 容	取り組もうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じて見出していく。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5 時間
11	講 義 内 容	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5 時間
12	講 義 内 容	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5 時間
13	講 義 内 容	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5 時間
14	講 義 内 容	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5 時間
15	講 義 内 容	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。		
	該当する到達目標	予 習	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5 時間
備 考	・授業は教科書や資料を基に進めていくので、予習して積極的に参加することが必要である。 ・予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。 ・オフィスアワー：毎週水曜日 13 時から 15 時。5号館6階601研究室。E メールでの質問は常時受け付ける。 Email: kuwabara#takasaki-u.ac.jp			

科 目 名		健康基礎科学演習Ⅲ														
英 文 名		SeminarⅢ：Basic Medical Science														
担 当 教 員		桑原敦志														
時 期・単位		看護学専攻修士課程 2 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		健康基礎科学演習Ⅱで提示された課題に対して、糖尿病患者および糖尿病発症以前の耐糖能障害患者、さらに生活習慣病のある患者に対しても行うことができる看護介入研究を立案し、実践するための計画書を作成する。看護介入として食事療法を中心に捉え、食事と血糖変化に対しての研究を指導する。														
到 達 目 標		1. 生活習慣病に関する研究テーマについて研究方法を検討することができる。 2. 研究計画書を作成することができる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				3												16
評 価 方 法		研究計画書(100%)														
課題に対する フィードバック		研究計画書を作成するときに口頭で評価する。														
使 用 教 材		「人を対象とする生命科学・医学系研究における倫理指針」														
1	講 義 内 容	研究テーマに合わせた研究デザイン(対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など)と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。														
	該当する到達目標	予 習	シラバスを読んで講義目標を理解する。													1.5 時間
	1, 2	復 習	健康基礎科学演習Ⅰ・Ⅱをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研究計画書を作成する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	研究テーマに合わせた研究デザイン(対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など)と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。														
	該当する到達目標	予 習	前回演習をもとにして研究テーマを考える。													1.5 時間
	1, 2	復 習	健康基礎科学演習Ⅰ・Ⅱをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研究計画書を作成する。													1.5 時間
3	講 義 内 容	研究テーマに合わせた研究デザイン(対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など)と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。														
	該当する到達目標	予 習	前回の演習をもとにして研究テーマを考える。													1.5 時間
	1, 2	復 習	健康基礎科学演習Ⅰ・Ⅱをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研究計画書を作成する。													1.5 時間
4	講 義 内 容	研究テーマに合わせた研究デザイン(対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など)と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。														
	該当する到達目標	予 習	前回の演習をもとにして研究テーマを考える。													1.5 時間
	1, 2	復 習	健康基礎科学演習Ⅰ・Ⅱをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研													1.5 時間

			研究計画書を作成する。	
5	講義内容	研究テーマに合わせた研究デザイン(対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など)と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。		
	該当する到達目標 1, 2	予習	前回の演習をもとにして研究テーマを考える。	1.5 時間
		復習	健康基礎科学演習 I・IIをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研究計画書を作成する。	1.5 時間
6	講義内容	少人数を対象として予備実験を行う		
	該当する到達目標 1, 2	予習	プレテストの準備をする。	1.5 時間
		復習	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5 時間
7	講義内容	少人数を対象として予備実験を行う		
	該当する到達目標 1, 2	予習	プレテストの準備をする。	1.5 時間
		復習	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5 時間
8	講義内容	少人数を対象として予備実験を行う		
	該当する到達目標 1, 2	予習	プレテストの準備をする。	1.5 時間
		復習	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5 時間
9	講義内容	少人数を対象として予備実験を行う		
	該当する到達目標 1, 2	予習	プレテストの準備をする。	1.5 時間
		復習	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5 時間
10	講義内容	少人数を対象として予備実験を行う		
	該当する到達目標 1, 2	予習	プレテストの準備をする。	1.5 時間
		復習	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5 時間
11	講義内容	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。		
	該当する到達目標 1, 2	予習	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5 時間
		復習	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5 時間
12	講義内容	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。		
	該当する到達目標 1, 2	予習	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5 時間
		復習	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5 時間
13	講義内容	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。		
	該当する到達目標 1, 2	予習	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5 時間
		復習	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5 時間
14	講義内容	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。		
	該当する到達目標 1, 2	予習	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5 時間
		復習	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。		
	該当する到達目標 1, 2	予習	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5 時間
		復習	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5 時間
備考	・研究計画書を締め切りの期日までに完成させ研究倫理審査委員会に提出する。 ・対話形式の授業なので、ディスカッションに積極的に参加すること。 ・予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。 ・オフィスアワー: 毎週水曜日 13 時から 15 時。5号館6階 601 研究室。E メールでの質問は常時受け付ける。 Email: kuwabara#takasaki-u.ac.jp			

科 目 名		健康支援科学特論Ⅱ														
英 文 名		Advanced Health Support Science Ⅱ														
担 当 教 員		青柳千春														
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		学校現場で実際に行われている子どもの健康支援に関わる実践の中を、「虐待」「不登校」などの心の健康問題、薬物乱用や性に関する問題行動、医療的ケアや発達障害等の特別支援、教育・福祉・医療等の連携からとらえなおし、我が国の学校における子どもの健康支援の現状と課題を探究する。														
到 達 目 標		1. 学校が直面している子どもの健康支援に関する課題を認識することができる 2. 自他が関心を持つ課題について、文献検討、発表、議論等の参加を通して客観的・批判的にとらえることができる 3. 学校における子どもの健康課題において、自らが今後深く検討していく課題を設定することができる														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
			高度な実践力													
		✓	研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				3											16	
評 価 方 法		プレゼンテーション(30%) レポート(70%) ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。														
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションやレポートについて課題に対する要点を口頭あるいはコメントをつけ返却する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。														
使 用 教 材		エリック・H・エリクソン著・西平直・中島由恵訳(2011):アイデンティティとライフサイクル. 誠信書房 文部科学省(2010):生徒指導提要 井上直美他編著(2008):子ども虐待防止のための家族支援ガイド. 明石書店 石隈利紀著(2015):学校心理学.誠信書房日 学校保健学会誌, 小児保健協会学会誌, 日本思春期学会誌, 養護教諭教育学会誌などから論文を紹介する。														
1	講 義 内 容	学校における子どもの健康支援に関わる実践の抽出														
	該当する到達目標	予 習	自身の実践を振り返り、子どもの健康支援にかかわる実践を抽出しておく												1.5 時間	
	1	復 習	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	学校における子どもの心の健康支援 1														
	該当する到達目標	予 習	子どもの心の成長発達の特徴と発達段階の課題を学習する												1.5 時間	
	1,2	復 習	子どもの心の健康支援に関する文献の講読												1.5 時間	
3	講 義 内 容	学校における子どもの心の健康支援 2														
	該当する到達目標	予 習	子どもの心の健康支援に関する文献の講読												1.5 時間	
	1,2	復 習	関連文献の考証と課題の抽出												1.5 時間	
4	講 義 内 容	学校における子どもの心の健康支援 3														
	該当する到達目標	予 習	子どもの心の健康支援に関する文献の講読												時間	
	1,2	復 習	関連文献の考証と課題の抽出												時間	
5	講 義 内 容	子どもの問題行動と学校の支援 1														
	該当する到達目標	予 習	子どもの生徒指導上の問題(薬物乱用等)に関する文献の講読												時間	
	1,2	復 習	関連文献の考証と課題の抽出												時間	
6	講 義 内 容	子どもの問題行動と学校の支援 2														

	該当する到達目標	予 習	子どもの生徒指導上の問題(性に関する問題等)に関する文献の講読	時間
	1,2	復 習	関連文献の考証と課題の抽出	1.5 時間
7	講 義 内 容	子どもの問題行動と学校の支援 3		
	該当する到達目標	予 習	子どもの生徒指導上の問題に対する学校の支援に関する文献の講読	1.5 時間
	1,2	復 習	関連文献の考証と課題の抽出	1.5 時間
8	講 義 内 容	特別な配慮を要する子どもの健康支援 1		
	該当する到達目標	予 習	特別な配慮を要する子どもの現状と学校における課題を学習する	時間
	1,2	復 習	特別な配慮を要する子どもの支援に関する文献の講読	時間
9	講 義 内 容	特別な配慮を要する子どもの健康支援 2		
	該当する到達目標	予 習	医療的ケアを要する子どもの支援に関する文献の講読	時間
	1,2	復 習	関連文献の考証と課題の抽出	時間
10	講 義 内 容	特別な配慮を要する子どもの健康支援 3		
	該当する到達目標	予 習	発達障害の子どもの支援に関する文献の講読	時間
	1,2	復 習	関連文献の考証と課題の抽出	時間
11	講 義 内 容	子どもの健康支援における多職種連携 1		
	該当する到達目標	予 習	チーム学校のあり方と現状及び課題を学習する	時間
	1,2	復 習	チーム学校に関する文献の講読	時間
12	講 義 内 容	子どもの健康支援における多職種連携 2		
	該当する到達目標	予 習	子どもの健康支援における多職種連携に関する文献の講読	時間
	1,2	復 習	関連文献の考証と課題の抽出	時間
13	講 義 内 容	子どもの健康支援における多職種連携 3		
	該当する到達目標	予 習	子どもの健康支援における多職種連携に関する文献の講読	時間
	1, 2	復 習	関連文献の考証と課題の抽出	時間
14	講 義 内 容	学校における子どもの健康支援の現状と課題について 1		
	該当する到達目標	予 習	第 1 回から 13 回までの学習をまとめ、プレゼンテーションできるように準備する	時間
	1,2,3	復 習	協議を受け、子どもの健康支援の現状と課題を考察する	時間
15	講 義 内 容	学校における子供の健康支援の現状と課題について 2		
	該当する到達目標	予 習	学校における子供の健康支援の現状と課題についてまとめ、プレゼンテーションできるように準備する。	時間
	1,2,3	復 習	自らの研究課題について見通しを持てるよう整理する。	時間
備 考	1.具体的な経験をもとに子ども・教師・保護者等の反応および実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料や文献をよく読んでおくこと。 2.対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるよう、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。 3.予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 4.質問等： ①随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。 担当教員の連絡先: E-mail: aoyagi#takasaki-u.ac.jp (青柳千春) (#を@に変換すること) ②オフィスアワー: 月曜日 13:00～14:00、水曜日 16:00～17:00、3 号館 2 階 207 研究室 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。			

科 目 名		健康支援科学演習Ⅰ														
英 文 名		SeminarⅠ: Health Support Science														
担 当 教 員		青柳千春														
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		文献検討、発表、議論、学会等の参加などを通して、子どもの健康支援において学校が直面する課題を抽出するとともに、問題解決に必要なプロセスについての理解を深め、自らの研究課題の設定について見通しを立てる。														
到 達 目 標		1. 子どもの健康支援において学校が直面する課題を抽出することができる 2. 文献検討、発表、議論、学会等の参加を通して、自他が関心をもつ課題に客観的かつ批判的にとらえることができる 3. 自らが追求したい研究課題を設定できる														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
		豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③												⑩	
評 価 方 法		毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ(70%)、講義参加度・貢献度(30%)。オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。														
課題に対する フィードバック		評価方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。														
使 用 教 材		参考書: D.F.ポーリット&C.T.ベック著「看護学研究 原理と方法 第2版」医学書院														
1	講 義 内 容	オリエンテーション														
	該当する到達目標	予 習	自身の研究テーマを説明できるように準備する。												1.5 時間	
	1	復 習	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	子どもの健康支援における学校の問題点の抽出														
	該当する到達目標	予 習	自身の研究における問題点の抽出。												1.5 時間	
	1,2	復 習	関連文献の考証。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	子どもの健康支援における学校の問題点の抽出														
	該当する到達目標	予 習	自身の研究における問題点の抽出。												1.5 時間	
	1,2	復 習	関連文献の考証。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	子どもの健康支援における学校の問題点の抽出														
	該当する到達目標	予 習	自身の研究における問題点の抽出。												1.5 時間	
	1,2	復 習	関連文献の考証。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	関連文献考証														
	該当する到達目標	予 習	関連文献の準備。												1.5 時間	
	1,2	復 習	関連文献を参考に補完学習する。												1.5 時間	
6	講 義 内 容	関連文献考証														
	該当する到達目標	予 習	関連文献の準備。												1.5 時間	
	1,2	復 習	関連文献を参考に補完学習する。												1.5 時間	
7	講 義 内 容	関連文献考証														
	該当する到達目標	予 習	関連文献の準備。												1.5 時間	

	1,2	復習	関連文献を参考に補完学習する。	1.5 時間
8	講義内容	関連文献考証またはフィールドワーク		
	該当する到達目標	予習	関連文献またはフィールドワークの準備。	1.5 時間
	1,2	復習	関連文献を参考に補完学習する。	1.5 時間
9	講義内容	関連文献考証またはフィールドワーク		
	該当する到達目標	予習	関連文献またはフィールドワークの準備。	1.5 時間
	1,2	復習	関連文献を参考に補完学習する。	1.5 時間
10	講義内容	関連文献考証またはフィールドワーク		
	該当する到達目標	予習	関連文献またはフィールドワークの準備。	1.5 時間
	1,2	復習	関連文献を参考に補完学習する。	1.5 時間
11	講義内容	問題の明確化(1):研究テーマの方向性		
	該当する到達目標	予習	研究テーマの方向性について発表できるようにする	1.5 時間
	2,3	復習	関連文献を参考に補完学習する。	1.5 時間
12	講義内容	問題の明確化(2):研究テーマの方向性		
	該当する到達目標	予習	協議を受け、研究テーマの方向性を再考する。	1.5 時間
	2,3	復習	関連文献を参考に補完学習する。	1.5 時間
13	講義内容	問題の全体像整理(1):関連文献の考証のまとめ		
	該当する到達目標	予習	問題の全体像をまとめ研究デザインを発表できるようにする。	1.5 時間
	1,3	復習	関連文献を参考に補完学習する。	1.5 時間
14	講義内容	問題の全体像整理(2):関連文献の考証のまとめ		
	該当する到達目標	予習	協議を受け、研究デザインを再考する。	1.5 時間
	2,3	復習	参考文献を参考に補完学習する。	1.5 時間
15	講義内容	問題解決のための戦略:方法論に関する方向性		
	該当する到達目標	予習	関連文献をもとに研究デザインを決定する。	1.5 時間
	2,3	復習	参考文献を参考に補完学習する。	1.5 時間
備考	予習・復習の時間: 15 回の講義の中で 60 時間を確保する。 各自の興味をもった分野に関する情報収集および資料の整理を行い、次回の発表用資料作成を行う。 ①オフィスアワー: 月曜日 13:00~14:00、水曜日 16:00~17:00、3 号館 2 階 207 研究室 ②メール受付: aoyagi #takasaki-u.ac.jp (青柳) (#を@に変換すること)			

科 目 名	健康支援科学演習Ⅱ															
英 文 名	SeminarⅡ: Health Support Science															
担 当 教 員	青柳千春															
時 期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標	臨床における研究課題について具体的な解決方法を見出し、必要な介入方法についての検討を進める。さらに、妥当な問題解決方法を模索し、他者に分かるような論理構成で、科学的手法を用いた研究計画を作成するための準備を行い、研究計画書を提出する。															
到 達 目 標	1.文献考証から、各自の研究課題に対してより具体的に問題解決方法を抽出することができる。 2.研究方法について多角的視点で検討し、科学的な手法を考えることができる。 3.予備検討などを行い研究方法の実現可能性や妥当性を検討することができる。 4.各自の研究に関する全体像を他者に分かるように論理的に表現することができる。 5.研究計画書を作成し、提出する事ができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③												16	
評 価 方 法	研究計画書(70%)、各回の準備資料のポートフォリオ(20%)、講義参加度・貢献度(10%)。(対面、オンライン同様)。オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。															
課題に対する フィードバック	研究方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。															
使 用 教 材	特に指定しない。															
1	講 義 内 容	オリエンテーション														
	該当する到達目標 1	予 習	自身の研究テーマにおける問題点や評価方法について説明できるように準備する。													1.5 時間
		復 習	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認しておく。													1.5 時間
2	講 義 内 容 1,2	予 習	関連文献考証。													1.5 時間
		復 習	指摘事項の再確認。													1.5 時間
3	講 義 内 容 該当する到達目標 2,3	予 習	関連文献考証。													1.5 時間
		復 習	指摘事項や課題について再確認。													1.5 時間
4	講 義 内 容 該当する到達目標 2,3	予 習	関連文献考証。													1.5 時間
		復 習	指摘事項や課題について再確認。													1.5 時間
5	講 義 内 容 該当する到達目標 2,3	予 習	関連文献考証。													1.5 時間
		復 習	指摘事項や課題について再確認。													1.5 時間
6	講 義 内 容 該当する到達目標 2,3	予 習	関連文献考証。													1.5 時間
		復 習	指摘事項や課題について再確認。													1.5 時間

7	講義内容	研究事例の検討		
	該当する到達目標	予習	関連文献考証。	1.5 時間
	2,3	復習	指摘事項や課題について再確認。	1.5 時間
8	講義内容	研究事例の検討		
	該当する到達目標	予習	関連文献考証。	1.5 時間
	2,3	復習	指摘事項や課題について再確認。	1.5 時間
9	講義内容	研究計画の提案		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	指摘事項の確認。	1.5 時間
10	講義内容	研究計画の提案		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	指摘事項の確認。	1.5 時間
11	講義内容	研究計画のプレ発表会(準備)		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	1.5 時間
	4,5	復習	指摘事項の確認。	1.5 時間
12	講義内容	研究計画のプレ発表会		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	1.5 時間
	4,5	復習	指摘事項の修正。	1.5 時間
13	講義内容	研究計画の修正		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	1.5 時間
	4,5	復習	指摘事項の修正。	1.5 時間
14	講義内容	研究計画の修正		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	1.5 時間
	4,5	復習	指摘事項の修正。	1.5 時間
15	講義内容	研究計画発表会		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	1.5 時間
	5	復習	指摘事項の確認・修正。	1.5 時間
備考	予習・復習の時間: 15 回の講義の中で 60 時間を確保する。 毎回の発表のための準備作業を行い、段階的に研究計画書の作成に取り組む。 ①オフィスアワー: 月曜日 13:00~14:00、水曜日 16:00~17:00、3 号館 2 階 207 研究室 ②メール受付: aoyagi #takasaki-u.ac.jp (青柳) (#を@に変換すること)			

科 目 名	健康支援科学演習Ⅲ															
英 文 名	SeminarⅢ:Health Support Science															
担 当 教 員	青柳千春															
時 期・単 位	2 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標	学校における子どもの健康支援に関する課題の中から、研究テーマを設定し、研究目的の達成のための妥当な研究方法を検討し、研究計画書を作成する。それをもとに特別研究に向けた準備を整える。															
到 達 目 標	1.研究テーマに基づき、研究目的・研究方法を明確化し、研究計画書を作成する。 2.プレテストを実施し、問題点・改善点を修正し、妥当性のある研究計画書を提出する。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3												16	
評 価 方 法	研究計画書(100%)															
課題に対する フィードバック	計画書作成プロセスでその都度ディスカッションを行い、コメント・評価する。															
使 用 教 材	適宜指示する。															
講 義 内 容	4 月 研究計画書を作成し、プレテストを実施する。 修正を行い、倫理審査にかける。 6～7 月 データ収集に合わせて、文献検索を行い、比較検討ができるよう準備する。															
	予 習	先行研究や文献についてさらに読み込み、研究テーマと目的と意義、方法の一貫性を検討する。 プレテストを行うにあたり、予測される問題点を整理し、対象者の選定方法や方法について整理しておく。														30 時間
	復 習	研究計画書の妥当性について出された疑問や課題について精査する。 プレテストで得られた課題についてその結果をもとに、研究方法について整理し、修正する。														30 時間
備 考	1.授業時間外での学習の進め方 研究計画書を定められた期日までに提出する必要がある。研究倫理審査基準について熟読し、基準に耐える研究計画書となるよう自律的な学習を進める。 予習・復習は原則として 60 時間は行う必要がある。 2.疑問・質問への対応 ①学習過程で生じた疑問は、随時メールで対応する。 メール受付: aoyagi@takasaki-u.ac.jp (青柳) (#を@に変換すること) ②オフィスアワー: 月曜日 13:00～14:00、水曜日 16:00～17:00、3 号館 2 階 207 研究室															

科 目 名		看護技術学特論Ⅱ															
英 文 名		Advanced Nursing Art and ScienceⅡ															
担 当 教 員		鶴田 晴美															
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標		看護技術のエビデンスの構築に向けた介入研究を実施する上で有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて学ぶ。介入研究における倫理的問題、Outcome 指標の作成、データ分析法および看護モデルの構築について学ぶ。															
到 達 目 標		1.看護技術のエビデンスの構築に向けた介入研究を実施する上で有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて学ぶ。 2.人を対象とする看護介入研究において遵守すべき倫理的事項が理解できる。 3.Outcome としての心理的指標、生理的指標の作成について理解できる。 4.収集したデータの統計分析法、質的分析法について知る。 5.看護モデルの構築について学ぶ。															
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連				3	4											16	
評 価 方 法		対面で実施する場合：プレゼンテーション(30%)、レポート(70%) オンラインで実施する場合：プレゼンテーション(30%)、レポート(70%) いずれも総合的に評価する。60 点以上を合格とする。															
課題に対するフィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 レポートは期限内に提出した学生には、コメントなどを付けて返却する。															
使 用 教 材		・Rogers(1999) Concept Development in Nursing：Foundations, Techniques, and Applications, WB Saunders ・論文は、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会等から紹介する。															
1	講 義 内 容	科目オリエンテーション 概念分析について(Rogers の概念分析)															
	該当する到達目標 1	予 習	シラバスを読み、講義の目標を理解する。													1.5 時間	
		復 習	・科目オリエンテーションの内容を確認する。 ・ Rogers の概念分析について理解を深める。													1.5 時間	
2	講 義 内 容	リラクセーションについての概念分析															
	該当する到達目標 1,4	予 習	関心のある概念について、プレゼンテーションの準備をする。													1.5 時間	
		復 習	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある概念についての論文を検索し、クリティークする。													1.5 時間	
3	講 義 内 容	関心のある概念についてのミニ概念分析 1															
	該当する到達目標 1,4	予 習	関心のある概念について、プレゼンテーションの準備をする。													1.5 時間	
		復 習	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある概念についての論文を検索し、クリティークする。													1.5 時間	
4	講 義 内 容	関心のある概念についてのミニ概念分析 2															
	該当する到達目標	予 習	関心のある概念について、プレゼンテーションの準備をする。													1.5 時間	

	1,4	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある概念についての論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
5	講義内容	関心のある概念についてのミニ概念分析 3		
	該当する到達目標	予習	関心のある概念について、プレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
	1,4	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある概念についての論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
6	講義内容	人を対象とする看護介入研究における倫理事項		
	該当する到達目標	予習	授業のテーマに関して専門書を精読する。	1.5 時間
	2	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・授業で扱った内容について、看護技術学特論 I で精読した論文ではどうなっているか検討する。	1.5 時間
7	講義内容	Outcome 指標の作成		
	該当する到達目標	予習	授業のテーマに関して専門書を精読する。	1.5 時間
	3	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・授業で扱った内容について、看護技術学特論 I で精読した論文ではどうなっているか検討する。	1.5 時間
8	講義内容	量的データ分析法		
	該当する到達目標	予習	授業のテーマに関して専門書を精読する。	1.5 時間
	3,4	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・授業で扱った内容について、看護技術学特論 I で精読した論文ではどうなっているか検討する。	1.5 時間
9	講義内容	質的データ分析法		
	該当する到達目標	予習	授業のテーマに関して専門書を精読する。	1.5 時間
	3,4	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・授業で扱った内容について、看護技術学特論 I で精読した論文ではどうなっているか検討する。	1.5 時間
10	講義内容	サブストラクションについて		
	該当する到達目標	予習	関心のある介入研究について、サブストラクションのプレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究についての論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
11	講義内容	関心のある介入研究におけるサブストラクション 1		
	該当する到達目標	予習	関心のある介入研究について、サブストラクションのプレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究についての論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
12	講義内容	関心のある介入研究におけるサブストラクション 2		
	該当する到達目標	予習	関心のある介入研究について、サブストラクションのプレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究についての論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
13	講義内容	関心のある介入研究におけるサブストラクション 3		
	該当する到達目標	予習	関心のある介入研究について、サブストラクションのプレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4			

		復習	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究についての論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
14	講義内容	看護モデルの構築		
	該当する到達目標	予習	関心のある介入研究に、看護モデルが記載されている論文を検索する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究について看護モデルが記載されている論文をクリティークする。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	これまでの授業内容を振り返り、まとめる。	1.5 時間
	1,4	復習	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
備考	・関心のある概念について概念分析を行い、発表する。 ・関心のある介入研究についてサブストラクションを作成し、発表する。 ・対話形式の授業なのでディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 45 時間を行う。 ・学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 オフィスアワー: 鶴田 火曜日 5 時限目 5 号館 3 階 302 研究室 随時メールでも受付ける E-mail: tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp (鶴田) (#を@に変換すること) 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。			

科 目 名		看護技術学演習 I															
英 文 名		Seminar I : Nursing Art and Science															
担 当 教 員		鶴田 晴美															
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の問題があり、それを解決するためにどのような看護技術が用いられているのかを抽出し、注目した看護技術の条件(技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性)について文献とディスカッションを通して検討する。															
到 達 目 標		1.注目すべき看護現象のなかにある患者・家族の問題およびその問題を解決するために用いられている看護技術を抽出する。 2.注目した看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について明確にできる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連				3	4											16	
評 価 方 法		対面で実施する場合:プレゼンテーション(30%)、レポート(70%) オンラインで実施する場合:プレゼンテーション(30%)、レポート(70%) いずれも総合的に評価する。60 点以上を合格とする。															
課題に対する フィードバック		・プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ・レポートは、期限内に提出した学生には、コメントなどを付けて返却する。															
使 用 教 材		・課題や講義内容に関連する文献などを随時提示し、活用する。 ・日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会誌等から論文を紹介する。															
1	講 義 内 容	注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の健康課題があり、それをするためにどのような看護技術が用いられているのかを検討する。															
	該当する到達目標 1	予 習	・シラバスを読み、講義目標を理解する。 ・注目する看護現象を具体的に記述する。													1.5 時間	
		復 習	・不足する学習内容を補完する。 ・授業でのディスカッションを基に記述した看護現象について理解を深める。													1.5 時間	
2	講 義 内 容	注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の健康課題があり、それをするためにどのような看護技術が用いられているのかを検討する。															
	該当する到達目標 1	予 習	・注目する看護現象を具体的に記述する。													1.5 時間	
		復 習	・不足する学習内容を補完する。 ・授業でのディスカッションを基に記述した看護現象について理解を深める。													1.5 時間	
3	講 義 内 容	注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の健康課題があり、それをするためにどのような看護技術が用いられているのかを検討する。															
	該当する到達目標 1	予 習	・注目する看護現象を具体的に記述する。													1.5 時間	
		復 習	・不足する学習内容を補完する。 ・授業でのディスカッションを基に記述した看護現象について理解を深める。													1.5 時間	
4	講 義 内 容	関心のある看護技術について文献検討															

	該当する到達目標 1,2	予 習	関心のある看護技術に関する文献を集め、クリティークする。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術について文献クリティークを深める。	1.5 時間
5	講 義 内 容	関心のある看護技術について文献検討		
	該当する到達目標 1,2	予 習	関心のある看護技術に関する文献を集め、クリティークする。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術について文献クリティークを深める。	1.5 時間
6	講 義 内 容	関心のある看護技術について文献検討		
	該当する到達目標 1,2	予 習	関心のある看護技術に関する文献を集め、クリティークする。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術について文献クリティークを深める。	1.5 時間
7	講 義 内 容	関心のある看護技術についての技術の条件を明らかにする。		
	該当する到達目標 1,2	予 習	関心のある看護技術について、集めた文献を基に技術の条件について考える。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術に関する技術の条件について理解を深める。	1.5 時間
8	講 義 内 容	関心のある看護技術についての技術の条件を明らかにする。		
	該当する到達目標 1,2	予 習	関心のある看護技術について、集めた文献を基に技術の条件について考える。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術に関する技術の条件について理解を深める。	1.5 時間
9	講 義 内 容	関心のある看護技術についての技術の条件を明らかにする。		
	該当する到達目標 1,2	予 習	関心のある看護技術について、集めた文献を基に技術の条件について考える。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術に関する技術の条件について理解を深める。	1.5 時間
10	講 義 内 容	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンスを明らかにする。		
	該当する到達目標 1,2	予 習	関心のある看護技術について集めた文献を基に現時点におけるエビデンスについて考える。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術のエビデンスについて理解を深める。	1.5 時間
11	講 義 内 容	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンスを明らかにする。		
	該当する到達目標 1,2	予 習	関心のある看護技術について集めた文献を基に現時点におけるエビデンスについて考える。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術のエビデンスについて理解を深める。	1.5 時間
12	講 義 内 容	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンスを明らかにする。		
	該当する到達目標 1,2	予 習	関心のある看護技術について集めた文献を基に現時点におけるエビデンスについて考える。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術のエビデンスについて理解を深める。	1.5 時間
13	講 義 内 容	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けて研究の方向性を明らかにする。		
	該当する到達目標 1,2	予 習	これまでの授業を基に研究の方向性について考える。	1.5 時間
		復 習	授業でのディスカッションを基に研究の方向性を明確にする。	1.5 時間
14	講 義 内 容	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けて研究の方向性を明らかにする。		
	該当する到達目標	予 習	これまでの授業を基に研究の方向性について考える。	1.5 時間

	1,2	復習	授業でのディスカッションを基に研究の方向性を明確にする。	1.5 時間
15	講義内容	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けて研究の方向性を明らかにする。		
	該当する到達目標	予習	これまでの授業を基に研究の方向性について考える。	1.5 時間
	1,2	復習	授業でのディスカッションを基に研究の方向性を明確にする。	1.5 時間
備考	・看護技術学特論Ⅰで取り上げた看護技術について、文献をクリティークし、発表する。 ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 45 時間は行う。 ・学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 オフィスアワー：鶴田 火曜日 5 時限目 5 号館 3 階 302 研究室 随時メールでも受付ける。E-mail: tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp(鶴田) (#を@に変換すること) 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。			

科 目 名		看護技術学演習Ⅱ															
英 文 名		SeminarⅡ：Nursing Art and Science															
担 当 教 員		鶴田 晴美															
時期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標		注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。また、注目した看護技術における。介入研究におけるサブストラクションを作成し、技術開発およびエビデンスの構築に向けたテーマを明確にする。															
到 達 目 標		1.注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析ができる。 2.注目した看護技術における介入研究におけるサブストラクションが作成できる。 3.技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマを明確化する。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			3	4												16	
評 価 方 法		対面で実施する場合:プレゼンテーション(30%)、レポート(70%) オンラインで実施する場合:プレゼンテーション(30%)、レポート(70%) いずれも総合的に評価する。60 点以上を合格とする。															
課題に対する フィードバック		・プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ・レポートは、期限内に提出した学生には、コメントなどを付けて返却する。															
使 用 教 材		・Rogers(2000) Concept Development in Nursing：Foundations , Techniques, and Applications 2nd Ed, Saunders ・論文は、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会誌等から紹介する。															
1	講 義 内 容	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。															
	該当する到達目標 1	予 習	・シラバスを読み、講義の目標を理解する。 ・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。													1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。													1.5 時間	
2	講 義 内 容	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。															
	該当する到達目標 1	予 習	・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。													1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。													1.5 時間	
3	講 義 内 容	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。															
	該当する到達目標 1	予 習	・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。													1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。													1.5 時間	
4	講 義 内 容	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。															
	該当する到達目標 1	予 習	・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。													1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。													1.5 時間	
5	講 義 内 容	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をする															

		ために重要となる概念について、概念分析を行う。		
	該当する到達目標	予 習	・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。	1.5 時間
	1	復 習	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。	1.5 時間
6	講 義 内 容	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクションを作成する。		
	該当する到達目標	予 習	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクションを作成する。	1.5 時間
	2	復 習	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクションを洗練させる。	1.5 時間
7	講 義 内 容	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクションを作成する。		
	該当する到達目標	予 習	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクションを作成する。	1.5 時間
	2	復 習	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクションを洗練させる。	1.5 時間
8	講 義 内 容	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクションを作成する。		
	該当する到達目標	予 習	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクションを作成する。	1.5 時間
	2	復 習	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクションを洗練させる。	1.5 時間
9	講 義 内 容	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクションを作成する。		
	該当する到達目標	予 習	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクションを作成する。	1.5 時間
	2	復 習	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクションを洗練させる。	1.5 時間
10	講 義 内 容	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクションを作成する。		
	該当する到達目標	予 習	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクションを作成する。	1.5 時間
	2	復 習	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクションを洗練させる。	1.5 時間
11	講 義 内 容	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化		
	該当する到達目標	予 習	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5 時間
12	講 義 内 容	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化		
	該当する到達目標	予 習	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5 時間
13	講 義 内 容	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化		
	該当する到達目標	予 習	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5 時間
14	講 義 内 容	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化		
	該当する到達目標	予 習	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5 時間
15	講 義 内 容	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化		
	該当する到達目標	予 習	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5 時間
	3	復 習	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5 時間
備 考	・看護技術学特論Ⅱで取り上げた概念について概念分析を行い、発表する。また、看護技術学特論Ⅱで取り上げた介入評価研究を基にサブストラクションを作成し、発表する。 ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通し 45 時間は行う。 ・学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対処する。 オフィスアワー： 鶴田 火曜日 5 時限目 5 号館 3 階 302 研究室 随時メールでも受付ける。 E-mail: tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp (鶴田) (#を@に変換すること) 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。			

科 目 名		看護技術学演習Ⅲ															
英 文 名		SeminarⅢ : Nursing Art and Science															
担 当 教 員		鶴田 晴美															
時 期・単位		2 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		看護技術開発やエビデンスの構築に向けたテーマについて妥当な研究方法(研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の選定、サンプルサイズ、介入方法、測定方法、分析方法、研究倫理等)を検討し、研究計画書を作成し、プレテストを経て、研究計画書が完成できる。															
到 達 目 標		1.看護技術開発やエビデンスの構築に向けた研究テーマについて妥当な研究方法を検討することができる。 2.研究計画書を作成することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			3	4												16	
評 価 方 法		研究計画書(100%)															
課題に対する フィードバック		研究計画書作成段階で、口頭あるいは文書でコメントする。															
使 用 教 材		「人を対象とする生命科学, 医学系研究に関する倫理指針」															
1	講 義 内 容	2 年次 4 月から 5 月に開講する。 研究計画書の作成 (研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化)															
	該当する到達目標 1,2	予 習	・シラバスを読み、講義目標を理解する。 ・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。													1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。													1.5 時間	
2	講 義 内 容	2 年次 4 月から 5 月に開講する。 研究計画書の作成 (研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化)															
	該当する到達目標 1,2	予 習	・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。													1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。													1.5 時間	
3	講 義 内 容	2 年次 4 月から 5 月に開講する。 研究計画書の作成 (研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化)															
	該当する到達目標 1,2	予 習	・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。													1.5 時間	
		復 習	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。													1.5 時間	
4	講 義 内 容	2 年次 4 月から 5 月に開講する。 研究計画書の作成 (研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化)															

	該当する到達目標	予 習	・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。	1.5 時間
	1,2	復 習	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。	1.5 時間
5	講 義 内 容	2 年次 4 月から 5 月に開講する。 研究計画書の作成 (研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化)		
	該当する到達目標	予 習	・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。	1.5 時間
	1,2	復 習	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。	1.5 時間
6	講 義 内 容	プレテストの実施		
	該当する到達目標	予 習	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5 時間
	1,2	復 習	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5 時間
7	講 義 内 容	プレテストの実施		
	該当する到達目標	予 習	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5 時間
	1,2	復 習	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5 時間
8	講 義 内 容	プレテストの実施		
	該当する到達目標	予 習	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5 時間
	1,2	復 習	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5 時間
9	講 義 内 容	プレテストの実施		
	該当する到達目標	予 習	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5 時間
	1,2	復 習	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5 時間
10	講 義 内 容	プレテストの実施		
	該当する到達目標	予 習	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5 時間
	1,2	復 習	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5 時間
11	講 義 内 容	研究計画書の修正		
	該当する到達目標	予 習	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5 時間
	1,2	復 習	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5 時間
12	講 義 内 容	研究計画書の修正		
	該当する到達目標	予 習	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5 時間
	1,2	復 習	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5 時間
13	講 義 内 容	研究計画書の修正		
	該当する到達目標	予 習	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5 時間
	1,2	復 習	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5 時間
14	講 義 内 容	研究計画書の修正		
	該当する到達目標	予 習	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5 時間
	1,2	復 習	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5 時間
15	講 義 内 容	研究計画書の修正		
	該当する到達目標	予 習	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5 時間
	1,2	復 習	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5 時間
備 考	・定められた期日までに研究計画書を研究科委員会に提出する。医療機関での研究倫理審査が必要な場合は、6 月までには承認が得られるように準備する。研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認がなければ研究は実施できない。 ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 45 時間は行う。			

・学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。

オフィスアワー： 鶴田 火曜日 5 時限目 5 号館 3 階 302 研究室

随時メールでも受付ける。 E-mail：tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp（鶴田）（#を@に変換すること）

単位修得に必要な時間を満たしていない場合

・最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

科 目 名	看護健康開発科学特別研究														
英 文 名	Seminar for Master's thesis on Nursing Health Science														
担 当 教 員	桑原 敦志														
時 期・単 位	2 年次 通年 必修 8 単位														
講 義 目 標	健康基礎科学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎として、生活習慣病のある患者に対してどのように看護を展開していくか、患者の個性性と社会性を考慮した看護研究のテーマについて研究計画書をもとにデータ収集を行い、解析する。得られた研究結果を考察し論文にまとめる。														
到 達 目 標	1. 研究のプロセスを学び、重要なポイントを確認しながら、研究を進めることができる。 2. 生活習慣病患者の看護における課題に対して、課題解決のために役立つ修士論文を作成できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			3											16	
評 価 方 法	修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。														
課題に対する フィードバック	・ 研究計画書に関する作成資料についてコメントを付けて返却する。 ・ データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭でコメントする。 ・ 作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントを付けて返却する。														
使 用 教 材	特に指定しない。														
講 義 内 容	4～5 月 1. 研究計画書を確認し、倫理審査へ提出する。 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認。 2) 研究方法に、対象者の選定理由・選定方法、データの収集、解析方法、研究対象者に対する倫理的配慮、研究資金など必要事項が記載されていることを確認。 2. 研究計画書に基づき、研究開始準備と具体的な手続きを行う。														
	6～8 月 1. 研究対象者に対する倫理的配慮を考慮しながらデータを取集する。 2. 得られたデータと研究目的や分析項目の適合性を確認する。														
	9～10 月 1. 計画書に基づいてデータの分析を行い、結果を系統的にまとめる。 2. 中間発表での意見及びコメントを論文の作成に活用する。														
	11～1 月 研究実施から研究結果をえて考察するまでの新知見を明確にして論文を作成する。 1) 研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2) プレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 3) プレゼンテーションでのコメントや助言をもとに加筆修正し論文の精度を上げる。														
	予 習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示												期間中適宜	
	復 習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示												期間中適宜	

備 考	・ 定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに既定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる。 ・ 各授業の内容に取り組むためには授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。 ・ オンラインの場合、Meet、Zoom 等を用いて行う。 オフィスアワー：水曜日13時から14時 e-mail: kuwabara#takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。

科 目 名	看護健康開発科学特別研究															
英 文 名	Seminar for Master's thesis on Nursing Health Science															
担 当 教 員	青柳千春															
時 期・単 位	2 年次 通年 必修 8 単位															
講 義 目 標	学校における子どもの健康支援に関する研究課題を設定し、科学的根拠に基づいた看護を提供するための高い実践能力および問題解決能力を一連の研究を通して習得する。学校臨床における未解決な諸課題を明らかにしていくことができる研究能力(研究デザイン立案、研究遂行、データ解析、発表を実践できる能力)を習得する。															
到 達 目 標	1.取り組む価値のある研究課題を設定し、適切な研究方法を選定することができる 2.研究遂行に必要な倫理的配慮を適切に行うことができる。 3.信頼性や妥当性などを含めた測定データの意味を理解できる。 4.測定データを科学的に解析できる。 5.修士論文作成、研究発表を行い、研究成果を他者に適切に伝えることができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3												16	
評 価 方 法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査と最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験の結果(80%)および研究への取り組み等(20%)を踏まえ、総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。															
使 用 教 材	使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。															
講 義 内 容	4～ 5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～ 9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文の作成と発表															
	予 習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜	
	復 習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜	
	備 考	設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。状況により関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間:各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1)研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2)子どもの健康支援に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先 E-mail: aoyagi#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) オフィスアワー 月曜日 13:00～14:00、水曜日 16:00～17:00、3 号館 2 階 207 研究室 (不在時はメールで問い合わせること)														

科 目 名	看護健康開発科学特別研究															
英 文 名	Seminar for Master's thesis on Nursing Health Development Science															
担 当 教 員	鶴田 晴美															
時 期・単 位	2 年次 通年 選択 8 単位															
講 義 目 標	看護健康開発領域の研究課題に関して、看護および健康上の課題や先行研究のクリティークを通して研究テーマを設定し、適切な研究方法を選び研究を実践する。得られた知見を論理的にまとめ、結果を考察し論文を執筆することができる。															
到 達 目 標	1.研究テーマに関連した領域における先行研究の文献レビューおよびクリティークができる。 2.先行研究の文献レビューを踏まえて、研究テーマを設定できる。 3.倫理的配慮にもとづいて研究計画を立案できる。 4.研究テーマ、研究目的に適した研究方法を選択し、それを適切に実施できる。 5.収集されたデータを整理・分析できる。 6.得られた結果について、解釈・考察できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3	4											16	
評 価 方 法	修士論文に対し、学位論文審査基準項目と最終試験基準項目によって評価する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。															
課題に対する フィードバック	1.研究計画書について、口頭あるいは書面にてコメントする。 2.データの収集、結果の分析、考察の内容等について、口頭あるいは書面にてコメントする。 3.論文作成段階で、緒言、目的、方法、結果、考察について、口頭あるいは書面にてコメントする。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。															
使 用 教 材	1. 研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。 2. 研究法に関する著書を活用する。 ・バーンズ & グローブ：黒田裕子他監訳：看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-原著第 7 版 エルゼビア・ジャパン 2019 ・DF.ポーリット & C.T.ベック著：近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院 2010															
講 義 内 容	4～5 月 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。															
	6～8 月 1. 精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。															
	9～10 月 1. 計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。 2. 中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。															
	11 月～1 月 1. 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し論文を作成する。															
予 習	研究プロセスに応じ、各段階での課題を提示する。														適宜時間	

	復習	復習はそれぞれの課題を強化する。	適宜時間
備考		1.授業外学習の進め方 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2) 修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間: 各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先: E-mail: tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp (鶴田) (#を@に変換すること) 4.オフィスアワー: 5号館 302 研究室 水 15:00～17:00 オンラインの場合は、meet などを中心に行う。 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。	

科 目 名		がん看護学特論Ⅱ															
英 文 名		Advanced Cancer NursingⅡ															
担 当 教 員		神田清子・吉田 久美子・石田順子・砂賀道子															
時期・単位		1 年次 後期 必修 2 単位															
講 義 目 標		がんや治療から受ける影響をふまえ、研究課題・看護実践の探求するため、危機理論・家族理論・セルフケア理論や症状マネジメント理論などがん看護に活用される理論・モデルを理解する。がんサバイバーの概念を理解し、初期治療期から終末期にある対象者の看護についての現状と課題について探求する。															
到 達 目 標		4. がん看護に活用される理論・モデルの概要を述べることができる 5. 研究・実践に活用する理論を 2 つ以上選択し、事例に適用することができる 6. サバイバーの状況に応じ、適用できる理論とその時期の看護支援や課題を述べることができる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
		✓	研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③												⑯	
評 価 方 法		プレゼンテーション(30%) レポート(70%) ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。															
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションやレポートについて課題に対する要点を口頭あるいはコメントをつけ返却する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。															
使 用 教 材		都留伸子監訳(2004):看護理論家とその業績. 医学書院 大西和子他編(2018):がん看護学. NOUVELLE HIROKAWA.日本看護科学学会誌、日野原重明監修(2012):実践がんサバイバーシップ. 医学書院. 鈴木裕子他編集(2012)家族看護学 理論と実践. 日本看護協会出版会. 日本看護科学学会誌、がん看護学会誌、日本看護研究学会誌などから論文を紹介する。															
1	講 義 内 容	オリエンテーション がん看護学に活用できる理論について															
	該当する到達目標 1	予 習	がん看護学で活用されやすい代表的な理論の概要について学習すること。													1.5 時間	
		復 習	がん看護学で活用されやすい代表的な理論の概要について学習すること。													1.5 時間	
2	講 義 内 容	がんサバイバーの時期別特徴と抱える問題について 1 文献検討															
	該当する到達目標 3	予 習	がんサバイバーの時期の特徴と抱える問題を学習する													1.5 時間	
		復 習	がんサバイバーの時期の特徴と抱える問題を学習する													1.5 時間	
3	講 義 内 容	がんサバイバーの時期別特徴と抱える問題について 2 文献検討															
	該当する到達目標 3	予 習	がんサバイバーに関連する文献を購読し学習すること。													1.5 時間	
		復 習	がんサバイバーに関連する文献を購読し学習すること。													1.5 時間	
4	講 義 内 容	がん治療を受ける患者・家族の特徴と抱える問題について 1 文献検討															
	該当する到達目標	予 習	がん治療(手術、薬物、放射線)を受ける患者の特徴や問題について文献を購読													1.5 時	

	1-3		すること。	間
		復習	がん治療(手術、薬物、放射線)を受ける患者の特徴や問題について文献を購読すること。	1.5時間
5	講義内容	がん治療を受ける患者・家族の特徴と抱える問題について 2 文献検討		
	該当する到達目標 1-3	予習	がん治療(手術、薬物、放射線)を受ける患者の特徴や問題について文献を購読すること。	1.5時間
		復習	がん治療(手術、薬物、放射線)を受ける患者の特徴や問題について文献を購読すること。	1.5時間
6	講義内容	緩和ケアを受ける患者と家族を支援する看護 1. 文献検討		
	該当する到達目標 1,2	予習	緩和ケアの文献を検索し、プレゼンテーションできる準備を行う	1.5時間
		復習	緩和ケアの文献を検索し、プレゼンテーションできる準備を行う	1.5時間
7	講義内容	緩和ケアを受ける患者と家族を支援する看護 2. 文献検討		
	該当する到達目標 1,2	予習	緩和ケアの文献を検索し、プレゼンテーションできる準備を行う	1.5時間
		復習	緩和ケアの文献を検索し、プレゼンテーションできる準備を行う	1.5時間
8	講義内容	終末期ケアの現状と課題について 1. 文献検討		
	該当する到達目標 1,3	予習	終末期ケアの文献を検索し、学習すること	1.5時間
		復習	終末期ケアの文献を検索し、学習すること	1.5時間
9	講義内容	終末期ケアの現状と課題について 2. 文献検討		
	該当する到達目標 1,3	予習	終末期ケアの文献を検索し、学習すること	1.5時間
		復習	終末期ケアの文献を検索し、学習すること	1.5時間
10	講義内容	がん看護学における理論の活用と課題について 1 文献検討		
	該当する到達目標 1-3	予習	実践・研究で用いる理論を 2 つ選択し、学習すること	1.5時間
		復習	実践・研究で用いる理論を 2 つ選択し、学習すること	1.5時間
11	講義内容	がん看護学における理論の活用と課題について 2 文献検討		
	該当する到達目標 1-3	予習	実践・研究で用いる理論を 2 つ選択し、学習すること	1.5時間
		復習	実践・研究で用いる理論を 2 つ選択し、学習すること	1.5時間
12	講義内容	がん看護学における理論の活用と課題について 3 文献検討		
	該当する到達目標 1-3	予習	理論についてプレゼンテーションできる準備を行う	1.5時間
		復習	理論についてプレゼンテーションできる準備を行う	1.5時間
13	講義内容	がん看護学における理論の活用と課題について 4 文献検討		

	該当する到達目標 1-3	予 習	事例をがん看護理論に適用し、プレゼンテーションできる準備を行う	1. 5 時間
		復 習	事例をがん看護理論に適用し、プレゼンテーションできる準備を行う	1. 5 時間
14	講 義 内 容	家族に関する理論と看護について 1 文献検討		
	該当する到達目標 1,2	予 習	家族理論や文献から特徴を学習すること	1. 5 時間
		復 習	家族理論や文献から特徴を学習すること	1. 5 時間
15	講 義 内 容	家族に関する理論と看護について 2 文献検討		
	該当する到達目標 1,2	予 習	家族理論や文献から特徴を学習すること	1. 5 時間
		復 習	家族理論や文献から特徴を学習すること	1. 5 時間
備 考	1.本講義は特論Ⅰ・演習Ⅰを終了していることが必要である。具体的な経験をもとに患者・家族の反応および看護実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料や文献をよく読んでおくこと。 2.対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるよう、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。 3.予習・復習は、原則として各授業に対して 1. 5時間以上は行う。 4.オフィスアワー: 月曜 1～4 限 5.担当教員連絡先: E メールアドレス: 神田清子 kanda# 石田順子 jishida# 砂賀道子 sunaga# 吉田 久美子 yoshikumi# すべて#を@takasaki-u.ac.jp に変換する 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。			

科 目 名		がん看護学演習Ⅰ														
英 文 名		SeminarⅠ：Cancer Nursing														
担 当 教 員		神田清子 石田 順子 吉田 久美子 砂賀 道子														
時 期・単 位		1年次 前期 必修 2単位														
講 義 目 標		がん看護の立場で、実践の場で起こっている問題点を抽出すると同時に、それらの問題について明確にするための研究法の検討を行う。また、各自の興味ある分野の問題に焦点を当て、問題解決に必要なプロセスについての理解を深め、研究テーマの絞り込みと関連論文の考証、使用する方法の選択およびその手法について学ぶ。														
到 達 目 標		1.臨床における問題点の抽出方法を理解し、各自の研究テーマにつなげて具体化することができる。 2.研究テーマに即した関連論文の考証を行い、広い視点をもって問題を概観することができる。 3.問題解決のためのアプローチの多様性を認識し、その中からテーマに会う方法を見出すことができる。 4.必要な指標や方法を選択し、その手法を理解できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
		豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③												16
評 価 方 法		毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%） 総合 60%以上で合格とする（対面、オンライン同様）。 オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。														
課題に対する フィードバック		評価方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。														
使 用 教 材		・がん看護コアカリキュラム, 医学書院 ・D.F ポーリット,B.P.ハングラー 著,近藤潤子訳,看護研究 原理と方法,医学書院 ・Nancy Burns,SuzanK,Grove 著 ,黒田裕子他訳,看護研究入門,エルゼビア・ジャパン ・日本がん看護学会誌、日本看護研究学会誌、日本看護科学学会学会誌から文献を紹介する。														
1	講 義 内 容	オリエンテーション														
	該当する到達目標 1	予 習	自身の研究テーマを説明できるように準備する。													1.5 時 間
		復 習	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する。													1.5 時 間
2	講 義 内 容	臨床における問題点の抽出														
	該当する到達目標 1,2	予 習	自身の臨床（研究）における問題点の抽出													1.5 時 間
		復 習	関連文献の検討													1.5 時 間
3	講 義 内 容	臨床における問題点の抽出														
	該当する到達目標 1,2	予 習	自身の臨床（研究）における問題点の抽出													1.5 時 間
		復 習	関連文献の検討													1.5 時 間

4	講義内容	臨床における問題点の抽出		
	該当する到達目標 1,2	予習	自身の臨床(研究)における問題点の抽出	1.5時間
		復習	関連文献の検討	1.5時間
5	講義内容	関連文献のクリティーク		
	該当する到達目標 1,2	予習	関連文献の準備	1.5時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する	1.5時間
6	講義内容	関連文献のクリティーク		
	該当する到達目標 1,2	予習	関連文献の準備	1.5時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する	1.5時間
7	講義内容	関連文献のクリティーク		
	該当する到達目標 1,2	予習	関連文献の準備	1.5時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する	1.5時間
8	講義内容	問題解決に必要な方法の検討		
	該当する到達目標 1,3	予習	関連文献の準備	1.5時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する	1.5時間
9	講義内容	問題解決に必要な方法の検討		
	該当する到達目標 1,3	予習	関連文献の準備	1.5時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する	1.5時間
10	講義内容	問題解決に必要な評価指標等の検討		
	該当する到達目標 1,3	予習	関連文献の準備	1.5時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する	1.5時間
11	講義内容	評価指標の必要性の検討		
	該当する到達目標 3,4	予習	関連文献の準備	1.5時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する	1.5時間
12	講義内容	評価指標の必要性の検討		
	該当する到達目標 3,4	予習	関連文献の準備。	1.5時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する	1.5時間

				間
13	講義内容	問題の明確化:研究テーマの方向性		
	該当する到達目標 1,3	予習	関連文献の準備	1.5時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する	1.5時間
14	講義内容	問題の全体像整理:関連文献の考証のまとめ		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	関連文献をもとに研究デザインを再考する	1.5時間
		復習	参考文献を参考に補完学習する	1.5時間
15	講義内容	問題解決のための戦略:方法論に関する方向性		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	関連文献をもとに研究デザインを再考する	1.5時間
		復習	参考文献を参考に補完学習する	1.5時間
備考	・十分な準備をしてから講義に臨むこと。・看護学研究方法の講義・演習と関連させ、演習Ⅰで自己の課題を明確にしていく。その講義資料を参考にする。 ・主体的積極的に文献を収集していく。興味・関心のある研究を踏まえて準備を進める。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に1.5時間以上をかける必要がある。 ※状況によりオンラインになる。その時は連絡する。 学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail:jishida#takasaki-u.ac.jp(石田) E-mail:kanda#takasaki-u.ac.jp(神田) E-mail:yoshikumi#takasaki-u.ac.jp(吉田) E-mail:sunaga#takasaki-u.ac.jp(砂賀) #を@takasaki-u.ac.jpに変換する。			

科 目 名	がん看護学演習Ⅱ															
英 文 名	SeminarⅡ :Advanced Cancer Nursing															
担 当 教 員	神田清子・砂賀道子・吉田 久美子・石田順子															
時 期・単位	1 年次 後期 必修 2 単位															
講 義 目 標	がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ、がん看護学演習Ⅰで明らかになったがん看護実践上の課題について追究し、先行研究を活用しながら興味関心のある研究テーマを明確化する。そして、研究テーマから概念枠組み、研究手法を検討し、研究計画書を作成する。															
到 達 目 標	7. がん看護における実践上の課題を焦点化する。 8. 文献検討、およびクリティークを行い、興味関心のある研究テーマを明確化する。 9. 研究の概念枠組みを作成し、研究手法を明確化する。 10. 研究計画書原案を作成する。															
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3												16	
評 価 方 法	プレゼンテーション(50%) レポート(50%)															
課題に対するフィードバック	・毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ(70%)、講義参加度・貢献度(30%) 総合 60%以上で合格とする(対面、オンライン同様)。 オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。															
使 用 教 材	・D.F ポーリット, C.T.ベッグ著, 近藤潤子監訳:看護研究ー原理と方法ー,医学書院。 ・ナンシー・バーンズ, スーザン.K.グローブ著, 黒田裕子ほか訳:看護研究入門, エルゼビアジャパン。 ・ホロウェイ, ウィーラー著, 野口美和子監訳:ナースのための質的研究入門, 医学書院。 *日本看護科学学会誌, 日本がん看護学会誌, 日本看護研究学会誌などを適宜活用する。															
1	講 義 内 容	科目オリエンテーション、がん看護における実践上の課題について														
	該当する到達目標 1	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。												1. 5 時間	
		復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。												1. 5 時間	
2~4	講 義 内 容	がん看護における実践上の課題について、先行研究についての文献検討及び、文献のクリティークから研究テーマを明確化する。														
	該当する到達目標 2	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。												1. 5 時間	
		復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。												1. 5 時間	
5~8	講 義 内 容	研究テーマの概念枠組み、研究手法(研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等)、倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。														
	該当する到達目標 3	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。												1. 5 時間	
		復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。												1. 5 時間	
9~13	講 義 内 容	研究計画書の原案を作成する。														
	該当する到達目標 1 ~4	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。												1. 5 時間	
		復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。												1. 5 時間	

			講義ごとに不足する学習内容について補完する。	
14 ～15	講義内容	フィールド調査と対象者確保の調整		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5時間
	1～4	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5時間
備考	1.本講義は特論Ⅰ・Ⅱ 演習Ⅰを終了していることが必要である。課題に対して積極的に取り組むこと。 2.研究における自己の課題を明確にしながら、学習すべき内容について自律的に学習すること。 3.予習・復習は、原則として各授業 1.5時間以上は行う。 4.オフィスアワー:各担当教員に確認する。なお、学習過程で疑問・質問等生じた場合には随時、メールでも対応する。 5.担当教員連絡先:E メールアドレス:kanda # yoshikumi # jishida # sunaga # すべて#を@takasaki-u.ac.jp に変換する 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。			

科 目 名	がん看護学演習Ⅲ														
英 文 名	SeminarⅢ: Cancer Nursing														
担 当 教 員	神田清子・吉田 久美子・石田順子・砂賀道子														
時 期・単位	2 年次 前期 選択 2 単位 開講時期は 2 年次 4 月から 5 月上旬														
講 義 目 標	演習Ⅱで作成した研究計画書に基づき明らかにした課題を臨床において実践可能であるか検討する。そして抽出された問題点および改善点について整理し、研究計画書の修正を行い特別研究の学習につなげる。														
到 達 目 標	11. 演習Ⅱで作成した研究計画書が実践可能であるか検討する。 12. 研究施設との調整を行い、問題点や修正点を明確にする。 13. 問題点を修正し研究が可能な計画書を作成する。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			③												⑩
評 価 方 法	毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ(70%)、講義参加度・貢献度(30%) 総合 60%以上で合格とする(対面、オンライン同様)。 オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。														
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションやレポートについて課題に対する要点を口頭あるいはコメントをつけ返却する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。														
使用教材	学習状況に応じ参考文献を紹介し、さらに資料を配布する														
1	講 義 内 容	研究計画書と倫理審査申請書類の検討													
	該当する到達目標 1.2.3	予 習	研究計画(対象者見積り)等の点検、倫理審査手順書作成、課題を明らかにする												1.5 時 間
		復 習	課題を解決し、手順に従い倫理審査を受ける準備を整える												1.5 時 間
2 3	講 義 内 容	倫理審査の実際とその後の再提出 4月の倫理審査													
	該当する到達目標 1.2.3	予 習	関係者に研究計画を説明できるように準備する												1.5 時 間
		復 習	倫理審査の指摘を受け、計画書を修正する												1.5 時 間
4 5 6	講 義 内 容	研究計画発表準備・プレゼンテーション練習													
	該当する到達目標 1.3	予 習	効果的な計画発表の学習の基、内容を整理し、パワーポイントを作成する												1.5 時 間
		復 習	改善点を整理し、他者が理解できる PP に修正し、発表の練習をする												1.5 時 間
7 8	講 義 内 容	研究計画発表審査													
	該当する到達目標 1.3	予 習	目的や方法、倫理等の計画を時間内で発表する準備をする(態度・声・速度等)												1.5 時 間
		復 習	質問内容を受け、問題点を整理する												1.5 時 間

9	講義内容	研究計画書の修正		
	該当する到達目標 1.3	予習	発表を受けての修正点や課題を整理し、計画書を修正する	1.5時間
		復習	研究計画書を修正し完成させる	1.5時間
10 11 12	講義内容	フィールド研究の準備		
	該当する到達目標 1.2.3	予習	フィールド先と連絡調整をして関係先の管理者・スタッフの説明書を準備する	1.5時間
		復習	説明の改善点等を整理し、修正する	1.5時間
13 14 15	講義内容	プレテスト		
	該当する到達目標 1.2.3	予習	研究方法に合わせて対象者への説明や同意書、調査内容の実際を実施する	1.5時間
		復習	プレテストをした改善点を修正し、現地調査の準備を行う	1.5時間
備考	1.授業全体について 1)演習Ⅰ・Ⅱを終了していること。プログラムについて検討できるよう、配布された授業資料や倫理審査で準備する内容や計画書に必要な内容を文献や研究の参考書をよく読んでおくこと。 2) 対話形式の授業であり、主体的に研究活動を展開するための疑問点や質問事項を解決するため積極的に授業に参加すること。 3)予習・復習は、原則として各授業1.5時間以上は行う。 2.オフィスアワー 月曜3から4限 3.担当教員連絡先: Eメールアドレス: 神田清子 kanda# 石田順子 jishida# 砂賀道子 sunaga# 吉田 久美子 yoshikum# すべて#を@takasaki-u.ac.jpに変換する 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。			

科 目 名	地域・精神看護学特論															
英 文 名	Advanced Community Health and Psychiatric Nursing															
担 当 教 員	倉林 しのぶ、高田絵理子、宮崎 有紀子、 赤堀八重子															
時 期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標	講義目標 地域・精神看護学領域における研究動向を踏まえ、研究課題の明確化と研究計画の作成に向けた文献抄読を行う。国内外の文献抄読により、論文読解能力を高め、研究目的に沿った研究手法について理解する															
到 達 目 標	到達目標 1. 地域・精神看護学領域における研究課題について検討できる 2. 研究課題に関連する文献のクリティークができる 3. 文献学習を基に、研究の基盤となる理論について理解し、説明ができる 4. 文献学習を基に、研究実践に向けた研究手法について理解し、説明ができる															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③												16	
評 価 方 法	評価方法 授業参加度(60%) レポート(40%) オンラインの場合も Meet 等を利用し講義を行うため、同様に評価する。															
課題に対する フィードバック	プレゼンテーション時は、毎回、講評とともにコメントする。 オンラインの場合も同様に、C-learning やメール等を活用してコメントをフィードバックする。															
使用教材	使用教材 各回の授業内容に関連した文献を提示する。															
1	講 義 内 容	オリエンテーション(倉林)														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する													1.5 時間
	1	復 習	オリエンテーションの内容を確認し、必要性のある文献について確認する													1.5 時間
2	講 義 内 容	地域におけるヘルスプロモーションと課題(倉林)														
	該当する到達目標	予 習	「ヘルスプロモーション」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。													1.5 時間
	1	復 習	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う													1.5 時間
3	講 義 内 容	保健行動とその根拠、および生活習慣病の予防と課題(赤堀)														
	該当する到達目標	予 習	「保健行動」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。													1.5 時間
	1	復 習	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う													1.5 時間
4	講 義 内 容	健康教育等の行動変容に向けた取り組み(宮崎)														
	該当する到達目標	予 習	「行動変容理論」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。													1.5 時間
	1,2	復 習	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う													1.5 時間
5	講 義 内 容	地域における社会資源 1(倉林)														
	該当する到達目標	予 習	地域で活用できる「社会資源」について調べ、ディスカッションに参加できるようにしておく。													1.5 時間
	1,2	復 習	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う													1.5 時間
6	講 義 内 容	地域における社会資源 2(赤堀)														
	該当する到達目標	予 習	地域で活用できる「社会資源」について調べ、ディスカッションに参加できるようにしておく。													1.5 時間
1,2																

		復習	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う	1.5 時間
7	講義内容		地域で生活する療養者と家族支援に関する課題(倉林)	
	該当する到達目標 2,3	予習	療養者を「生活者」と捉え、地域で生活するうえでどのような課題があるか調べ、ディスカッションに参加できるようにしておく。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う	1.5 時間
8	講義内容		臨床・地域における倫理的課題(倉林)	
	該当する到達目標 2,3	予習	地域で生活する療養者とその家族に生じる倫理的課題について考える。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う	1.5 時間
9	講義内容		精神保健における倫理的課題(倉林)	
	該当する到達目標 2,3	予習	精神医療分野における倫理的課題について考える。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う	1.5 時間
10	講義内容		精神保健医療福祉政策の動向と精神障害の地域包括ケアシステム(高田)	
	1,2	予習	厚労省の資料「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための手引き」(2019 年度版) 1 章と 2 章を概観し、ディスカッションができるようにしておく。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5 時間
11	講義内容		精神地域包括ケアシステム構築に向けて考えるべき様々な要素(高田)	
	該当する到達目標 2,3	予習	前回使用した資料の第 3 章と 4 章を概観し、ディスカッションができるようにしておく。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5 時間
12	講義内容		精神障害者の自立した地域生活と家族が安心して生活するための支援のあり方(高田)	
	該当する到達目標 1,2	予習	「精神障害者障害者の自立」と「家族支援」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5 時間
13	講義内容		地域精神保健福祉職の多職種連携(高田)	
	該当する到達目標 1,2	予習	地域精神保健福祉職の「多職種連携」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5 時間
14	講義内容		精神障害者と就労(高田)	
	該当する到達目標 1,2	予習	精神障害者の就労の現状、活用できる制度について調べ、ディスカッションができるようにしておく。	1.5 時間
		復習	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5 時間
15	講義内容		まとめ、総合討論(倉林)	
	該当する到達目標 3,4	予習	本授業全体を見直しておく。プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
		復習	全体のまとめを行い研究課題について検討する	1.5 時間
備考	備考 ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、文献検討やプレゼンテーション資料の準備を行うこと。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 倉林: オフィスアワー: 月曜日・火曜日の 11:00~13:00 E-mail: kura#takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。 高田: オフィスアワー: 水曜日 14:00~16:00 E-mail: takada-e#takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻名と氏名を必ず記載のこと。			

赤堀:オフィスアワー:金曜日の 13:00~15:00

E-mail: akabori#takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。

(#を@に変換すること)

科 目 名	地域・精神看護学演習Ⅰ														
英 文 名	SeminarⅠ：Community Health and Psychiatric Nursing														
担 当 教 員	倉林 しのぶ、高田絵理子、赤堀八重子、武居明美														
時期・単位	1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標	地域・精神看護学領域における健康課題を多様な角度から捉え、その課題を明確化するためのプロセスを学ぶ。近年の地域・精神看護学の研究動向を踏まえながら、対象とその家族、また保健・医療・福祉従事者の健康課題や倫理的課題、メンタルヘルスについての理解を深める。また、地域で生活する精神障がい者への支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携について理解を深める。														
到 達 目 標	1.地域で生活する対象およびその家族のもつ健康課題について理解できる。 2.地域・精神看護学領域における健康課題解決のための理論構築ができる。 3.地域の特徴を踏まえた看護介入の方法について明確化できる。 4.課題を解決するためのアプローチについての討論ができる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			③								⑫				⑯
評 価 方 法	ディスカッションとグループワークへの参加(30%)プレゼンテーション(20%)レポート(50%) オンラインの場合も Meet 等を利用し講義を行うため、同様に評価する。														
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションを含む全体の流れについて講評とともにコメントする。 オンラインの場合も同様に、C-learning やメール等を活用してコメントをフィードバックする。														
使 用 教 材	参考文献:金川克子ほか訳「コミュニティアズパートナー」医学書院 また、演習内容に応じ、適宜提示する。														
1	講 義 内 容	地域・精神看護における対象およびその家族の理解と健康課題・倫理的課題の探究①(倉林)													
	該当する到達目標	予 習	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題について考える。												1.5 時間
	1,2	復 習	対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	地域・精神看護における対象およびその家族の理解と健康課題・倫理的課題の探究②(高田)													
	該当する到達目標	予 習	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題について考える。												1.5 時間
	1,2	復 習	対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	対象および家族のもつ健康課題・倫理的課題のアセスメントとその手法 (倉林)													
	該当する到達目標	予 習	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題と解決のための実践について考える。												1.5 時間
	1,2	復 習	対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	対象および家族のもつ健康課題・倫理的課題のアセスメントとその手法(高田)													
	該当する到達目標	予 習	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題と解決のための実践について考える。												1.5 時間
	1,2	復 習	対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。												1.5 時間
5	講 義 内 容	対象および家族のもつ健康課題・倫理的課題のアセスメントとその手法に関わる文献を収集し、検討する(倉林、高田、赤堀、武居)。													
	該当する到達目標	予 習	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題と解決のための実践について考える。												1.5 時間
	1,2	復 習	文献から対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。												1.5 時間

			討する。	
6	講義内容	対象および家族のもつ健康課題・倫理的課題のアセスメントとその手法に関わる文献を収集し、検討する。		
	該当する到達目標 1,2	予習	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題と解決のための実践について考える。	1.5 時間
		復習	文献から対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。	1.5 時間
7	講義内容	・理論モデル (プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル) ・保健医療福祉に関する行政施策 (地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携) ・倫理的課題へのアプローチ手法 (倉林、高田、赤堀、武居)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 時間
		復習	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 時間
8	講義内容	・理論モデル (プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル) ・保健医療福祉に関する行政施策 (地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携) ・倫理的課題へのアプローチ手法 (倉林、高田、赤堀、武居)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 時間
		復習	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 時間
9	講義内容	・理論モデル (プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル) ・保健医療福祉に関する行政施策 (地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携) ・倫理的課題へのアプローチ手法 (倉林、高田、赤堀、武居)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 時間
		復習	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 時間
10	講義内容	・理論モデル (プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル) ・保健医療福祉に関する行政施策 (地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携) ・倫理的課題へのアプローチ手法 (倉林、高田、赤堀、武居)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 時間
		復習	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 時間
11	講義内容	・理論モデル		

		(プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル) ・保健医療福祉に関する行政施策 (地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携) ・倫理的課題へのアプローチ手法 (倉林、高田、赤堀、武居)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復 習	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 時間
12	講 義 内 容	・理論モデル (プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル) ・保健医療福祉に関する行政施策 (地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携) ・倫理的課題へのアプローチ手法 (倉林、高田、赤堀、武居)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復 習	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 時間
13	講 義 内 容	研究課題の明確化と発表 (倉林、高田、赤堀、武居)		
	該当する到達目標	予 習	プレゼンテーションの準備。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	本講義の全体を見直す。	1.5 時間
14	講 義 内 容	研究課題の明確化と発表 (倉林、高田、赤堀、武居)		
	該当する到達目標	予 習	プレゼンテーションの準備。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	本講義の全体を見直す。	1.5 時間
15	講 義 内 容	研究課題の明確化と発表 (倉林、高田、赤堀、武居)		
	該当する到達目標	予 習	プレゼンテーションの準備。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	本講義の全体を見直す。	1.5 時間
備 考	・講義は対話形式で行う、積極的に発言すること ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 倉林: オフィスアワー: 月曜日・火曜日の 11:00~13:00 E-mail: kura#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。 高田: オフィスアワー: 水曜日の 14:00~16:00 E-mail: takada-#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻名と氏名を必ず記載のこと。 赤堀: オフィスアワー: 火曜日の 15:00~17:00 E-mail: akabori#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。 武居: オフィスアワー: 月曜日の 14:00~16:00 E-mail: takei-a#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。			

科 目 名		地域・精神看護学演習Ⅱ														
英 文 名		SeminarⅡ：Community Health and Psychiatric Nursing														
担 当 教 員		倉林 しのぶ、高田絵理子、赤堀八重子、武居明美														
時期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		地域・精神看護学演習Ⅰで捉えた健康課題を解決するための具体的な実践方法について、先行研究や国内外の文献を活用しながら検討する。健康課題に応じた方法論を構築したうえで、研究テーマおよび目的に基づいた実践のためのプログラムを作成する。														
到 達 目 標		1.健康課題の背景にある、対象および家族の発達段階や価値観について記述できる 2.健康課題に関連する国内外の文献について検討しクリティークができる 3.問題解決のための具体的な実践のためのプログラムの作成ができる														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③												16
評 価 方 法		ディスカッションとグループワークへの参加(30%) プレゼンテーション(30%) レポート(40%) オンラインの場合も Meet 等を利用しディスカッションやプレゼンテーションを行うため、同様に評価する。														
課題に対する フィードバック		プログラム内容を含む全体の流れについて講評とともにコメントする。 オンラインの場合も同様に、C-learning やメール等を活用してコメントをフィードバックする。														
使 用 教 材		適宜提示する。														
1	講 義 内 容	対象および家族の発達段階とその背景について①														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの確認と、必要な文献の探索。													1.5 時間
	1	復 習	文献を理解した上で整理しまとめる。													1.5 時間
2	講 義 内 容	対象および家族の発達段階とその背景について②														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの確認と、必要な文献の探索。													1.5 時間
	1	復 習	文献を理解した上で整理しまとめる。													1.5 時間
3	講 義 内 容	健康課題に関連する文献抄読とクリティーク・実践プログラムの方向性の検討														
	該当する到達目標	予 習	文献のクリティークと検討、プレゼンテーションの準備。													1.5 時間
	1,2	復 習	文献整理、プログラムの検討。													1.5 時間
4	講 義 内 容	健康課題に関連する文献抄読とクリティーク・実践プログラムの方向性の検討														
	該当する到達目標	予 習	文献のクリティークと検討、プレゼンテーションの準備。													1.5 時間
	1,2	復 習	文献整理、プログラムの検討。													1.5 時間
5	講 義 内 容	健康課題に関連する文献抄読とクリティーク・実践プログラムの方向性の検討														
	該当する到達目標	予 習	文献のクリティークと検討、プレゼンテーションの準備。													1.5 時間
	1,2	復 習	文献整理、プログラムの検討。													1.5 時間
6	講 義 内 容	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討														
	該当する到達目標	予 習	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。													1.5 時間
	3	復 習	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。													1.5 時間
7	講 義 内 容	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討														
	該当する到達目標	予 習	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。													1.5 時間

	3	復習	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。	1.5 時間
8	講義内容	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討		
	該当する到達目標	予習	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。	1.5 時間
	3	復習	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。	1.5 時間
9	講義内容	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討		
	該当する到達目標	予習	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。	1.5 時間
	3	復習	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。	1.5 時間
10	講義内容	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討		
	該当する到達目標	予習	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。	1.5 時間
	3	復習	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。	1.5 時間
11	講義内容	作成した実践プログラムの発表と修正		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備。	1.5 時間
	3	復習	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5 時間
12	講義内容	作成した実践プログラムの発表と修正		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備。	1.5 時間
	3	復習	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5 時間
13	講義内容	作成した実践プログラムの発表と修正		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備。	1.5 時間
	3	復習	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5 時間
14	講義内容	プログラムに基づく計画書原案の作成		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備。	1.5 時間
	3	復習	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5 時間
15	講義内容	プログラムに基づく計画書原案の作成		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備。	1.5 時間
	3	復習	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5 時間
備考	・各講義の担当者については初回の講義時に提示する。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間を行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 倉林: オフィスアワー: 月曜日・火曜日の 11:00～13:00 E-mail: kura#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。 高田: オフィスアワー: 水曜日の 14:00～16:00 E-mail: takada-#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻名と氏名を必ず記載のこと。 赤堀: オフィスアワー: 火曜日の 15:00～17:00 E-mail: akabori#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。 武居: オフィスアワー: 月曜日の 14:00～16:00 E-mail: takei-a#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。			

科 目 名		地域・精神看護学演習Ⅲ															
英 文 名		SeminarⅢ: Community Health and Psychiatric Nursing															
担 当 教 員		倉林 しのぶ、高田絵理子、赤堀八重子、武居明美															
時 期・単位		2 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		演習Ⅱで作成した実践プログラムを計画に基づいて実施する。実施に際しては、施設・他職種との連携・調整を図りながらプログラムの効果や問題点・改善点についても検討し、評価につなげていく															
到 達 目 標		到達目標 1. 実践プログラムに基づいた実施ができる 2. 実施したプログラムの効果判定、問題点、改善点について整理できる															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連				③												16	
評 価 方 法		評価方法 研究計画(50%)、プレゼンテーション(50%)															
課題に対する フィードバック		計画書を含む全体の流れについて講評とともにコメントする。 オンラインの場合、Meet 等を利用してコメントする。															
使 用 教 材		使用教材 演習の進行状況に応じ、適宜提示する															
1	講 義 内 容	プログラムに関する全体の流れを確認する 実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する 研究倫理審査受審の準備 実践施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施															
	該当する到達目標 1,2	予 習	プログラムを確認し全体の流れを把握しておく。施設との打ち合わせ準備を行う												1.5 時間		
		復 習	実践から評価までの見直しを適宜行い、修正を重ねる												1.5 時間		
2	講 義 内 容	プログラムに関する全体の流れを確認する 実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する 研究倫理審査受審の準備 実践施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施															
	該当する到達目標 1,2	予 習	プログラムを確認し全体の流れを把握しておく。施設との打ち合わせ準備を行う												1.5 時間		
		復 習	実践から評価までの見直しを適宜行い、修正を重ねる												1.5 時間		
3	講 義 内 容	プログラムに関する全体の流れを確認する 実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する 研究倫理審査受審の準備 実践施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施															
	該当する到達目標 1,2	予 習	プログラムを確認し全体の流れを把握しておく。施設との打ち合わせ準備を行う												1.5 時間		
		復 習	実践から評価までの見直しを適宜行い、修正を重ねる												1.5 時間		
4	講 義 内 容	プログラムに関する全体の流れを確認する 実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する 研究倫理審査受審の準備 1.5 実践施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施															

	該当する到達目標	予 習	プログラムを確認し全体の流れを把握しておく。施設との打ち合わせ準備を行う	1.5 時間
	1,2	復 習	実践から評価までの見直しを適宜行い、修正を重ねる	1.5 時間
5	講 義 内 容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復 習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
6	講 義 内 容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復 習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
7	講 義 内 容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復 習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
8	講 義 内 容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復 習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
9	講 義 内 容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復 習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
10	講 義 内 容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復 習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
11	講 義 内 容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復 習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間

12	講義内容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
13	講義内容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
14	講義内容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
15	講義内容	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	実施までの準備を綿密に行う	1.5 時間
	1,2	復習	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5 時間
備考	・各講義の担当者については初回の講義時に提示する ・プログラム実践のための施設・他職種との調整に臨んでは、具体的な計画のもとに実施すること ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 オンラインの場合、Meet 等を中心に行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。 倉林: オフィスアワー: 月曜日・火曜日の 11:00～13:00 E-mail: kura#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。 高田: オフィスアワー: 水曜日の 14:00～16:00 E-mail: takada-e#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻名と氏名を必ず記載のこと。 赤堀: オフィスアワー: 火曜日の 15:00～17:00 E-mail: akabori#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。 武居: オフィスアワー: 月曜日の 14:00～16:00 E-mail: takei-a#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。			

科 目 名	母子看護学特論Ⅱ															
英 文 名	Advanced Maternal and Child NursingⅡ															
担 当 教 員	櫻井 美和															
時 期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標	母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題を、対象を取り巻く環境をふまえた上で専門的な視点から見出す。具体的には、文献を精読し、理論を理解し、そのコアとなる概念を理解する。その上で、子どもと家族の健康問題や健康課題の解決に向けた方策を考察する。															
到 達 目 標	1.母子看護学の対象である子どもと家族を理解するために必要な理論や概念を理解する。 2.母子看護学の基盤となる理論や概念を活用した論文を精読し、理解する。 3.各ライフサイクルにある女性、母性の特徴、および健康障害を抱え生活する子どもと家族の特徴を理解する。 4.上記 1～3 を踏まえ、母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題とその解決方策を考察する。 5.母子看護学における看護の役割を考察する。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3							10					16	
評 価 方 法	授業参加度・貢献度(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。															
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントする。															
使 用 教 材	1)都留伸子監訳(2004):看護理論家とその業績. 医学書院. 2)筒井真優美編集(2020):看護理論家の業績と理論評価 第2版, 医学書院. 3)M. H. クラウス, J. H. ケネル, P. H. クラウス著, 竹内徹訳(2001):親と子のきずなはどうつくられるか, 医学書院. 4) Browden, V. R., C. S. Greenberg.(2014): Children and Their Families—The Continuum of Nursing Care, Wolters Kluwer Health. ※その他、日本看護科学学会誌, 日本小児看護学会誌を活用する。															
1	講 義 内 容	オリエンテーション、母子看護学の基盤となる理論[1] ヘルスプロモーション														
	該当する到達目標 1,2,5	予 習	シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。													1.5 時間
		復 習	シラバス、科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある理論について確認する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	母子看護学の基盤となる理論[2] 子どものセルフケアの発達														
	該当する到達目標 1,2,5	予 習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、子どものセルフケアの理論について専門書等で調べる。													1.5 時間
		復 習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。													1.5 時間
3	講 義 内 容	母子看護学の基盤となる理論[3] 子どもの気質と parenting、母親役割達成(移行)モデル														
	該当する到達目標	予 習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、子どもの気質と parenting、													1.5 時間

	1,2,5		母親役割達成(移行)モデルの理論について専門書等で調べる。	
		復習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した概念・理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
4	講義内容	母子看護学の基盤となる理論[4] 愛着理論、親-子相互作用(バーナード)モデル		
	該当する到達目標 1,2,5	予習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、愛着理論、親-子相互作用(バーナード)モデル理論について専門書等で調べる。	1.5 時間
		復習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
5	講義内容	母子看護学の基盤となる理論[5] ストレス・コーピング理論、子どものストレス・コーピングの発達		
	該当する到達目標 1,2,5	予習	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、ストレス・コーピング理論、子どものストレス・コーピングの発達について専門書等で調べる。	1.5 時間
		復習	① 不足する学習内容を補完する。 ② 学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
6	講義内容	ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[1] 母親役割達成(移行)モデル		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	① シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記モデルについて専門書などで調べる。 ② 上記に関連した健康課題、モデルを活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
7	講義内容	ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[2] 育児不安、育児負担のある母親の理解と支援		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	① シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記モデルについて専門書などで調べる。 ② 上記に関連した健康課題、モデルを活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容を補完する。	0.5 時間
8	講義内容	健康障害を抱える子どもと家族への看護[1] 健康障害を抱える子どもの特徴		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	① 健康障害を抱える子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ② 上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーション資料の準備をする。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する	0.5 時間
9	講義内容	健康障害を抱える子どもと家族への看護[2]健康障害を抱える子どもの家族の特徴		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	① 健康障害を抱える子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ② 上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーション資料の準備をする。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する	0.5 時間
10	講義内容	健康障害を抱える子どもと家族への看護[3] 健康障害を抱える子どもと家族を取り巻く環境—エコロジカルモデルから人的・物理的環境、社会資源、多職種連携の現状と関係性を考える—		
	該当する到達目標	予習	① 健康障害を抱える子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向け	2.5 時間

	1,2,3,4		た看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ② 上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーション資料の準備をする。	
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する	0.5 時間
11	講義内容	健康障害を抱える子どもと家族への看護[4] 健康障害を抱える子どもと家族への看護介入と課題—看護実践と研究成果から—		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	① 健康障害を抱える子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ② 上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーション資料の準備をする。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する	0.5 時間
12	講義内容	健康障害を抱える子どもと家族への看護[5] 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護①:医療的ケアを必要とする子どもの特徴と健康課題		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	① 医療的ケアを必要とする子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ② 上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーションの準備をする。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 時間
13	講義内容	健康障害を抱える子どもと家族への看護[6] 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護②:医療的ケアを必要とする子どもの家族の特徴と健康課題		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	① 医療的ケアを必要とする子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ② 上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーションの準備をする。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 時間
14	講義内容	健康障害を抱える子どもと家族への看護[7] 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護③:子どもと家族への看護介入と課題—看護実践と研究成果から		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	① 医療的ケアを必要とする子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ② 上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーションの準備をする。	2.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 時間
15	講義内容	母子看護学における看護の役割、総括		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	これまでの授業内容を振り返り、看護の役割をまとめる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ●プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ●授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ●予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ●学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。			

①オフィスアワー: 月曜日 2 限、金曜日 1 限(5 号館 4 階 413 研究室)

②随時メールでも受け付ける。 E-mail: sakurai-m#takasaki-u.ac.jp (櫻井)

【出席登録】

出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

科 目 名		母子看護学演習 I														
英 文 名		Seminar I :Maternal and Child Nursing														
担 当 教 員		櫻井 美和														
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		母子看護学特論の学びをもとに、母性、子どもと家族の抱える健康課題を明確化する、母性・父性に関する理論、家族理論、子どもの成長と発達に関する理論、保育・教育理論、ソーシャルサポート理論などの諸理論から健康課題を捉えなおし、母子看護学の対象である子どもと家族が生活する場の特徴を明確化し、看護職の役割と看護介入のあり方を明確化する。														
到 達 目 標		1.文献検討の手法を理解する。 2.母性、子どもと家族の健康課題と看護実践の現状について記述する。 3.記述した健康課題を、母子看護学に関する諸理論から捉えなおす。 4.母子看護学の対象である子どもと家族が生活する場の特徴を踏まえ、求められる看護の役割、看護介入方法と課題を明確化する。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				3						10						16
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(10%)、プレゼンテーションとクリティーク(30%)、レポート(60%) ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。														
課題に対する フィードバック		① プレゼンテーションやクリティークの内容に対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ②レポートにはコメントを付して返却する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。														
使 用 教 材		1)ジュディス・ガラード著、安部陽子訳(2012):看護研究のための文献レビュー マトリックス方式 第 3 版、医学書院。 2)キャサリン・ポープ、ニコライ・メンズ、ジェニー・ポペイ著、伊藤景一、北素子監訳(2009):質的研究と量的研究のエビデンスの統合—ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用, 医学書院。 ※その他、母子看護学特論 I の配布資料や日本看護科学学会誌、日本小児看護学会誌を適宜活用する。														
1	講 義 内 容	オリエンテーション、母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題、および看護実践上の課題の探究														
	該当する到達目標 2	予 習	シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。													1.5 時間
		復 習	科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある学習内容を明確化する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	文献検討の手法[1] 文献のクリティーク、文献整理(マトリックス法)、サブストラクション														
	該当する到達目標 1	予 習	テキスト 1)、2)の関連する項を精読する。													2.0 時間
		復 習	不足する学習内容を補完する。													1.0 時間
3	講 義 内 容	文献検討の手法[2] Meta 分析、Meta 統合、質的研究と量的研究のエビデンスの統合														
	該当する到達目標 1	予 習	テキスト 1)、2)の関連する項を精読する。													2.0 時間
		復 習	不足する学習内容を補完する。													1.0 時間

4	講義内容	フィールドワーク、文献のクリティーク[1] フィールドワーク(母子看護学の対象である子どもと家族との継続的な関わりや包括的アセスメント、事例分析、家族会・患者会への参加、学会・研修会への参加)、および文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。		
	該当する到達目標 2,3	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワークの計画立案、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ② 健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。	1.5 時間
		復習	① フィールドワーク、文献のクリティークをとおり、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討する。 ② 不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
5	講義内容	フィールドワーク、文献のクリティーク[2] フィールドワークおよび文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。		
	該当する到達目標 2,3	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワークの計画立案、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ② 健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。	1.5 時間
		復習	① フィールドワーク、文献のクリティークをとおり、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討する。 ② 不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
6	講義内容	フィールドワーク、文献のクリティーク[3] フィールドワークおよび文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。		
	該当する到達目標 2,3	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワークの計画立案、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ② 健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。	1.5 時間
		復習	① フィールドワーク、文献のクリティークをとおり、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討する。 ② 不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
7	講義内容	フィールドワーク、文献のクリティーク[4] フィールドワークおよび文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。		
	該当する到達目標 2,3	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワークの計画立案、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ② 健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。	1.5 時間
		復習	① フィールドワーク、文献のクリティークをとおり、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討する。 ② 不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
8	講義内容	フィールドワーク、文献のクリティーク[5] フィールドワークおよび文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。		
	該当する到達目標 2,3	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワークの計画立案、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ② 健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。	1.5 時間
		復習	① フィールドワーク、文献のクリティークをとおり、自己の看護実践・研究・教育	1.5 時間

			への示唆を検討する。 ② 不足する学習内容を補完する。	
9	講義内容	プレゼンテーション[1]		
	該当する到達目標	予習	第4～8回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0時間
	2,3	復習	自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を補完する。	1.0時間
10	講義内容	エビデンスの統合[1] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。		
	該当する到達目標	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ② 健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0時間
	2,3,4	復習	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0時間
11	講義内容	エビデンスの統合[2] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。		
	該当する到達目標	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ② 健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0時間
	2,3,4	復習	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0時間
12	講義内容	エビデンスの統合[3] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。		
	該当する到達目標	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ② 健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0時間
	2,3,4	復習	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0時間
13	講義内容	エビデンスの統合[4] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。		
	該当する到達目標	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ② 健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0時間
	2,3,4	復習	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0時間
14	講義内容	エビデンスの統合[5] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。		
	該当する到達目標	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ② 健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0時間
	2,3,4			

		復 習	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0 時間
15	講 義 内 容	プレゼンテーション[2]		
	該当する到達目標	予 習	第 10～14 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 時間
	2,3,4	復 習	自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討する。	1.0 時間
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ●プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ●授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ●予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ●学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：月曜日 2 限、金曜日 1 限(5 号館 4 階 413 研究室) ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: sakurai-m#takasaki-u.ac.jp (櫻井) 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。			

科 目 名		母子看護学演習Ⅱ														
英 文 名		SeminarⅡ :Maternal and Child Nursing														
担 当 教 員		櫻井 美和														
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		文献検討やディスカッションをとおして、母子看護学演習Ⅰで選定した健康課題と看護実践上の課題について研究的視点から論述し、自己の課題を明確化する。その上で研究課題の概念枠組み、研究手法を検討し、研究計画書を作成する。														
到 達 目 標		1.文献検討に基づき、研究課題を焦点化する。 2.上記2に基づき、研究課題を設定する。 3.研究課題に対する看護研究のあり方やその方向性を明確化する。 4.研究課題に対する看護研究プログラムの試案を作成する。														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
		✓	研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				3						10					16	
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(10%)、プレゼンテーションとクリティーク(30%)、レポート(60%) ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。														
課題に対する フィードバック		① プレゼンテーションやクリティークの内容に対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ② レポートにはコメントを付して返却する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。														
使 用 教 材		1)ジュディス・ガラード著、安部陽子訳(2012):看護研究のための文献レビュー マトリックス方式 第3版、医学書院。 2)キャサリン・ポープ、ニコライ・メンズ、ジェニー・ポペイ著、伊藤景一、北素子監訳(2009):質的研究と量的研究のエビデンスの統合―ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用、医学書院。 ※その他、母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰの配布資料や日本看護科学学会誌、日本小児看護学会誌を適宜活用する。														
1	講 義 内 容	オリエンテーション、母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題、および看護実践上の課題の探究														
	該当する到達目標 1	予 習	① シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。 ② 研究として取り組みたい研究課題を明確にする。													1.5 時間
		復 習	シラバス、科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある学習内容を明確化する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	研究課題の焦点化、明確化[1] フィールドワーク(母子看護学の対象である子どもと家族との継続的な関わりや包括的アセスメント、事例分析、患者会・家族会への参加、学会・研修会への参加など)、文献のクリティーク、文献検討を行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。														
	該当する到達目標 1,2	予 習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。													2.0 時間

			② 研究課題の拠り所になる理論・概念を明確化する。	
		復習	自己の研究課題の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	1.0 時間
3	講義内容	研究課題の焦点化、明確化[2] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討を行い、母子看護学に関連した研究課題を明確にする。		
	該当する到達目標 1,2	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ② 研究課題の拠り所になる理論・概念を明確化する。	2.5 時間
		復習	自己の研究課題の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 時間
4	講義内容	研究課題の焦点化、明確化[3] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討を行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。		
	該当する到達目標 1,2	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ② 研究課題の拠り所になる理論・概念を明確化する。	2.5 時間
		復習	自己の研究課題の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 時間
5	講義内容	研究課題の焦点化、明確化[4] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討を行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。		
	該当する到達目標 1,2	予習	① 自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ② 研究課題の拠り所になる理論・概念を明確化する。	2.5 時間
		復習	自己の研究課題の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 時間
6	講義内容	プレゼンテーション[1]		
	該当する到達目標 1,2	予習	第2～5回の学習成果のプレゼンテーション資料を準備する。	2.0 時間
		復習	自己の研究課題への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を補完する。	1.0 時間
7	講義内容	研究方法の選定[1] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性(研究デザイン、研究対象者の選定、データ収集方法、分析方法など)を明確化する。		
	該当する到達目標 3	予習	研究課題に関連したフィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。	2.5 時間
		復習	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を明確化するとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 時間
8	講義内容	研究方法の選定[2] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性を明確化する。		
	該当する到達目標 3	予習	研究課題に関連したフィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。	2.5 時間
		復習	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を明確化するとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 時間
9	講義内容	研究方法の選定[3] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性を明確化する。		
	該当する到達目標 3	予習	研究課題に関連したフィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。	2.5 時間
		復習	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を明確化するとともに、不足する学	0.5 時間

			習内容を補完する。	
10	講義内容	研究方法の選定[4] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性を明確化する。		
	該当する到達目標	予習	研究課題に関連したフィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。	2.5 時間
	3	復習	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を明確化するとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 時間
11	講義内容	プレゼンテーション[2]		
	該当する到達目標	予習	第 7～10 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 時間
	3	復習	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	1.0 時間
12	講義内容	研究計画書の試案作成[1] 今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。		
	該当する到達目標	予習	今までの学習内容に基づき、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。	2.0 時間
	4	復習	不足する学習内容を補完する。	1.0 時間
13	講義内容	プレゼンテーション[3]		
	該当する到達目標	予習	第 12 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 時間
	2,3,4	復習	授業での助言・指導に基づき、研究計画書の試案を修正・加筆する。	1.0 時間
14	講義内容	研究計画書の試案作成[2] 今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。		
	該当する到達目標	予習	第 13 回の授業での助言・指導に基づき、研究計画書の試案を修正・加筆する。	2.0 時間
	2,3,4	復習	不足する学習内容を補完する。	1.0 時間
15	講義内容	プレゼンテーション[4]		
	該当する到達目標	予習	第 14 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 時間
	2,3,4	復習	自己の研究課題に対する研究方法についての課題を検討する。	1.0 時間
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ●プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ●授業内容に基づき、また特別研究に取り組む上での自己の課題を明確にしなが、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ●予習・復習は、原則として全授業をととして 60 時間は行う。 ●学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：月曜日 2 限、金曜日 1 限(5 号館 4 階 413 研究室) ②随時メールでも受け付ける。E-mail: sakurai-m@takasaki-u.ac.jp (櫻井) 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。			

科 目 名		母子看護学演習Ⅲ														
英 文 名		SeminarⅢ : Maternal and Child Nursing														
担 当 教 員		櫻井 美和														
時 期・単位		2 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		母子看護学演習Ⅱで作成した研究計画書に基づき、看護研究プログラムを研究フィールドで実践し、プログラムの実践や関連職種と連携するための問題・課題を導出する。その上で、実践可能な看護研究プログラムに修正し、特別研究に向けて準備を整える。														
到 達 目 標		1.作成した看護研究プログラムを実践する。 2.実践をととして、看護研究プログラムの問題や課題を明確化する。 3.看護研究プログラムの問題や課題を解決するための看護研究プログラムに修正する。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3							10						16
評 価 方 法		レポートや課題への取り組み内容(30%)、プレゼンテーション(70%) ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。														
課題に対する フィードバック		② プレゼンテーションやクリティークの内容に対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ③ レポートにはコメントを付して返却する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。														
使 用 教 材		・母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰ・Ⅱの配布資料や日本看護科学学会誌、日本小児看護学会誌を適宜活用する。 ・看護学研究法で使用したテキストや配布資料を活用する。														
1	講 義 内 容	オリエンテーション、看護研究プログラムの実践に向けた準備[1] フィールドエントリーおよび看護研究プログラムの実践方法を検討し、計画を立てる。														
	該当する到達目標 1,2	予 習	① シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。 ② 研究計画書の試案に基づき、フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践方法の方向性を明確にする。													1.5 時間
		復 習	科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、不足する学習内容を補完する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	フィールドエントリーと看護研究プログラム[1] 看護研究プログラムに基づき実践														
	該当する到達目標 1,2	予 習	フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。													1.5 時間
		復 習	フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決方策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。													1.5 時間
3	講 義 内 容	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[2] 看護研究プログラムに基づき実践														
	該当する到達目標 1,2	予 習	フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。													1.5 時間
		復 習	フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決方策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。													1.5 時間
4	講 義 内 容	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[3] 看護研究プログラムに基づき実践														

	該当する到達目標 1,2	予 習	フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。	1.5 時間
		復 習	フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。	1.5 時間
5	講 義 内 容		フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[4] 看護研究プログラムに基づき実践	
	該当する到達目標 1,2	予 習	フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。	1.5 時間
		復 習	フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。	1.5 時間
6	講 義 内 容		フィールドエントリーと看護研究プログラム[5] 1) 第 2～5 回の学習内容に基づき、看護研究プログラムの実践や効果についてまとめ、実践適用性や可能性を検討する。 2) 第 2～5 回の学習内容に基づき、看護研究プログラムの実践方法に関する問題や課題、それらの解決策について検討する。 3) 上記 1)、2)を踏まえ、看護研究プログラムを修正する。	
	該当する到達目標 1,2	予 習	第 2～5 回の学習内容を整理する。	1.5 時間
		復 習	不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
7	講 義 内 容		プレゼンテーション[1]	
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	第 2～6 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 時間
		復 習	授業での助言・指導に基づき、看護研究プログラムを再修正する。	1.0 時間
8	講 義 内 容		看護研究プログラムの実践に向けた準備[2] フィールドエントリーおよび看護研究プログラムの実践方法を検討し、修正する。	
	該当する到達目標 1,2	予 習	研究計画書の試案に基づき、フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践方法の方向性を明確にする。	2.0 時間
		復 習	不足する学習内容を補完する。	1.0 時間
9	講 義 内 容		フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[6] 修正した看護研究プログラムに基づき実践	
	該当する到達目標 1,2	予 習	フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。	1.5 時間
		復 習	フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。	1.5 時間
10	講 義 内 容		フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[7] 修正した看護研究プログラムに基づき実践	
	該当する到達目標 1,2	予 習	フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。	1.5 時間
		復 習	フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。	1.5 時間
11	講 義 内 容		フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[8] 修正した看護研究プログラムに基づき実践	
	該当する到達目標 1,2	予 習	フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。	1.5 時間
		復 習	フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。	1.5 時間
12	講 義 内 容		フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[9] 修正した看護研究プログラムに基づき実践	
	該当する到達目標 1,2	予 習	フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。	1.5 時間
		復 習	フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。	1.5 時間
13	講 義 内 容		フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[10] 1) 第 9～12 回の学習内容に基づき、看護研究プログラムの実践や効果についてまとめ、実践適用性や可能性を検討する 2) フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践方法に関する問題や課題、それらの解決方法について検討する。	

		3)上記 1)、2)を踏まえ、看護研究プログラムを修正する。		
	該当する到達目標	予 習	第 9～12 回の学習内容を整理する。	1.5 時間
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
14	講 義 内 容	プレゼンテーション [2] 今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。		
	該当する到達目標	予 習	第 9～12 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 時間
	1,2,3	復 習	授業での助言・指導に基づき、看護研究プログラムを再修正する。	1.0 時間
15	講 義 内 容	まとめ：今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を修正する。		
	該当する到達目標	予 習	授業での助言・指導に基づき、看護研究プログラムを再修正する。	2.0 時間
	1,2,3	復 習	研究計画書をより洗練させる。	1.0 時間
備 考	【学習上の助言および受講時のルール】 ●プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ●授業内容に基づき、特別研究に取り組む上での自己の課題を明確にしなが、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ●常に、科学的方法を用い系統的に探究すること、研究協力者、研究対象者への倫理的配慮を意識しながら、学習する。 ●予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ●学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ① オフィスアワー：月曜日 2 限、金曜日 1 限(5 号館 4 階 413 研究室) ② 随時メールでも受け付ける。E-mail: sakurai-m#takasaki-u.ac.jp (櫻井) #を@に変換すること 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。			

科 目 名	国際看護学特論Ⅱ															
英 文 名	Advanced International Nursing Ⅱ															
担 当 教 員	李 孟蓉															
時 期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標	レイニンガーの Sunrise モデル、Purell モデルなどの異文化看護理論を学び、国際看護の対象となる看護上の課題に焦点をあて、文化を越えた問題解決の具体的展開を理解する。さらに、世界における保健医療分野の問題解決に用いられる開発手法である PCM(Project Cycle Management)を理解し、国際看護上の問題解決についての基本的知識を得る。															
到 達 目 標	1. 異文化の視点で国際保健、看護の場と対象を理解する。 2. 異文化看護論である Sunrise モデル、Purnell モデル、Campinha-Bacote モデル、Giger and Davidhizar モデルを理解し、異文化における看護介入理論を理解し、実践できる。 3. 国際的に保健、看護活動を展開するために必要な手法を理解する。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
		豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③												16	
評 価 方 法	プレゼンテーション(30%)、レポート(70%)															
課題に対する フィードバック	提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。															
使 用 教 材	1) 田村やよい編(2016):国際看護学、メヂカルフレンド社 2) PCM 開発のためのプロジェクト・サイクル・マネージメント、FASID 3) Marilyn R. McFarland(2018):Leininger's Transcultural Nursing: Concepts, Theories, Research & Practice、McGraw-Hill Education / Medical 4) Joyce Giger(2016):Transcultural Nursing、Mosby 5) マデリン M.レイニンガー(1995)、レイニンガー看護論—文化ケアの多様性と普遍性、医学書院															
1	講 義 内 容	グローバルヘルスと異文化														
	該当する到達目標	予 習	教材1を精読する。													1.5 時間
	1	復 習	国際保健問題解決と異文化の理解の関係につき具体的に整理する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	異文化看護とは														
	該当する到達目標	予 習	教材1を精読する。													1.5 時間
	1	復 習	文化と看護につき自分の言葉で表現できるようにする。													1.5 時間
3	講 義 内 容	異文化看護論Ⅰ/ Leininger の看護論														
	該当する到達目標	予 習	教材1、3を精読する。													1.5 時間
	1,2	復 習	Leininger の理論とサンライズモデルの特徴を整理する													1.5 時間
4	講 義 内 容	異文化看護論Ⅰ/ Leininger の看護論														
	該当する到達目標	予 習	教材1、3を精読する。													1.5 時間
	1,2	復 習	Leininger の理論とサンライズモデルの特徴を整理する													1.5 時間
5	講 義 内 容	異文化看護論Ⅱ/ Joyce Giger, Purnell, Campinha-Bacote の看護論														
	該当する到達目標	予 習	教材1、4を精読する。													1.5 時間
	1,2	復 習	Joyce Giger, Purnell, Campinha-Bacote の理論の特徴を整理する。													1.5 時間

6	講義内容	異文化看護論と看護の展開 自身が持つ国際看護上の課題を明確しに、各異文化理論を用いて 看護の対象理解と解決方法をアセスメントする		
	該当する到達目標	予習	これまで学んだ異文化看護理論を復習する。	1.5 時間
	1,2	復習	異文化看護理論を用いて展開した看護につき解決された課題、残された課題を整理する。	1.5 時間
7	講義内容	異文化看護論と看護の展開 自身が持つ国際看護上の課題を明確しに、各異文化理論を用いて 看護の対象理解と解決方法をアセスメントする		
	該当する到達目標	予習	これまで学んだ異文化看護理論を復習する。	1.5 時間
	1,2	復習	異文化看護理論を用いて展開した看護につき解決された課題、残された課題を整理する。	1.5 時間
8	講義内容	異文化看護論と看護の展開 自身が持つ国際看護上の課題を明確しに、各異文化理論を用いて 看護の対象理解と解決方法をアセスメントする		
	該当する到達目標	予習	これまで学んだ異文化看護理論を復習する。	1.5 時間
	1,2	復習	異文化看護理論を用いて展開した看護につき解決された課題、残された課題を整理する。	1.5 時間
9	講義内容	異文化看護論と看護の展開 自身が持つ国際看護上の課題を明確しに、各異文化理論を用いて 看護の対象理解と解決方法をアセスメントする		
	該当する到達目標	予習	これまで学んだ異文化看護理論を復習する。	1.5 時間
	1,2	復習	異文化看護理論を用いて展開した看護につき解決された課題、残された課題を整理する。	1.5 時間
10	講義内容	PCM とは		
	該当する到達目標	予習	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5 時間
	3	復習	PCM の特徴と意義を整理する。	1.5 時間
11	講義内容	PCM の具体的手法について1/ 課題の把握		
	該当する到達目標	予習	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5 時間
	3	復習	PCM 手法において課題の把握方法を整理する。	1.5 時間
12	講義内容	PCM の具体的手法について2/ 課題の整理		
	該当する到達目標	予習	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5 時間
	3	復習	PCM 手法において課題整理のプロセスと特徴を整理する。	1.5 時間
13	講義内容	PCM の具体的手法について3/ 解決策検討手法		
	該当する到達目標	予習	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5 時間
	3	復習	PCM 手法においての課題解決の検討方法をまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	PCM の具体的手法について/ 課題解決の対策とその評価		
	該当する到達目標	予習	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5 時間
	3	復習	PCM 手法においての課題解決と評価方法を整理する。	1.5 時間
15	講義内容	PCM 手法の課題把握～評価までの振り返り		
	該当する到達目標	予習	これまでの PCM の各段階において不明瞭な部分を明らかにし整理する。	1.5 時間
	1 2 3	復習	PCM 手法の流れと留意点を整理する。	1.5 時間
備	・自分自身の経験を基に、その国で起こっている看護の課題を検討し明確にする。			

考	・看護理論については英文献が読めるように準備しておくこと。 ・PCM 手法の展開は、保健医療のみならずあらゆる角度からのアセスメントが必要となるため、社会学、保健行動学、民俗学などについても知識を得ておくこと。 ・講義内容に基づき、自主的・自律的に予習、復習に取り組む。 ・予習復習は原則として、全授業を通して 60 時間を行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。 また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科 目 名		国際看護学演習 I														
英 文 名		Seminar I :International Nursing														
担 当 教 員		李 孟蓉														
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		国際看護学特論Ⅱで焦点をあてた国際看護上の課題につき、PCM 手法を用いながら、地域の健康資源(人的資源、経済的資源、物的資源、知的資源)を考慮し、優先付け、組合せ、活用方法などを討議しながら問題解決のためのプロジェクト計画策定過程を学ぶ。さらに、1. 課題解決のための国際協力 2. 在日外国人支援 3. その他の希望 より1つ選択し、倫理的配慮を行いながら国内外の動向を調べ、学生自身が関心のある国際看護上の課題を抽出できる。														
到 達 目 標		1. PCM 手法を用い、異文化看護を関連づけながら課題解決のための一連の過程が展開できる。 2. 自分自身が関心のある国際看護の課題につき英論文等を精読した中で、国内外の動向を調べる事ができる 3. 自分自身が関心のある国際看護の課題の抽出ができる														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
		✓	研究能力													
			豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				③												⑩
評 価 方 法		プレゼンテーション(30%)、レポート(70%)														
課題に対する フィードバック		提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。														
使 用 教 材		1)PCM 開発のためのプロジェクト・サイクル・マネージメント、FASID 2)Journal of International Health 3)International Nursing Review														
1	講 義 内 容	自身の経験の中での国際看護上の課題について														
	該当する到達目標	予 習	国際看護学特論Ⅱで焦点をあてた看護上の課題につきその内容を復習する。												1.5 時間	
	1	復 習	整理したここでの課題の背景を具体的に整理する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	PCM 手法を用いた課題解決の展開 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する														
	該当する到達目標	予 習	PCM 手法につき復習する。												1.5 時間	
	1	復 習	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	PCM 手法を用いた課題解決の展開 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する														
	該当する到達目標	予 習	PCM 手法につき復習する。												1.5 時間	
	1	復 習	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	PCM 手法を用いた課題解決の展開 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する														
	該当する到達目標	予 習	PCM 手法につき復習する。												1.5 時間	

	1	復習	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。	1.5 時間
5	講義内容	PCM 手法を用いた課題解決の展開 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する		
	該当する到達目標	予習	PCM 手法につき復習する。	1.5 時間
	1	復習	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。	1.5 時間
6	講義内容	PCM 手法を用いた課題解決の展開 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する		
	該当する到達目標	予習	PCM 手法につき復習する。	1.5 時間
	1	復習	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。	1.5 時間
7	講義内容	PCM 手法で作成した内容をプロジェクトとして計画書を作成し発表する		
	該当する到達目標	予習	PCM 手法を復習する。	1.5 時間
	1	復習	計画書の作成につきその特徴をまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	PCM 手法で作成した内容をプロジェクトとして計画書を作成し発表する		
	該当する到達目標	予習	PCM 手法を復習する。	1.5 時間
	1	復習	計画書の作成につきその特徴をまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	自身の関心のある国際看護上の課題を明確にする		
	該当する到達目標	予習	国際看護学特論Ⅱの振り返りを行い、自身の関心のある課題を挙げてくる。	1.5 時間
	2,3	復習	明確にした課題の背景を整理する。	1.5 時間
10	講義内容	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。		
	該当する到達目標	予習	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。	1.5 時間
	2,3	復習	不足している学習内容を補完する。	1.5 時間
11	講義内容	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。		
	該当する到達目標	予習	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。	1.5 時間
	2,3	復習	不足している学習内容を補完する。	1.5 時間
12	講義内容	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。		
	該当する到達目標	予習	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。	1.5 時間
	2,3	復習	不足している学習内容を補完する。	1.5 時間
13	講義内容	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。		
	該当する到達目標	予習	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。	1.5 時間
	2,3	復習	不足している学習内容を補完する。	1.5 時間
14	講義内容	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。		
	該当する到達目標	予習	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな	1.5 時間

	2,3		情報も集め精読する。	
		復習	不足している学習内容を補完する。	1.5 時間
15	講義内容	文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにしたものの中から解決すべく国際看護上の課題として位置づける。		
	該当する到達目標 2,3	予習	明らかにした関心のある国際看護課題につき再度振り返りを行い整理する。	1.5 時間
		復習	不足している学習内容を補完する。	1.5 時間
備考	・自身の関心のある国際看護上の課題から、現状分析を行いながら探究したい国際看護上の課題へと整理する。 ・現状分析には実際に現地に赴くことも可能だが、倫理上の配慮を十分におこなうこと。 ・講義内容に基づき、自主的・自律的に予習、復習に取り組む。 ・予習復習は原則として、全授業を通して 60 時間は行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。 また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名		国際看護学演習Ⅱ														
英 文 名		SeminarⅡ:International Nursing														
担 当 教 員		李 孟蓉														
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		国際看護学演習Ⅰで抽出した学生自身が関心を寄せている国際看護上の課題につき、英文献・和文献クリティークを行い、文献レビューを通してその課題へのアプローチの世界的動向を学ぶ。さらにその学びを踏まえ、各自の研究課題を明らかにする。国際看護学特論Ⅱや国際看護学演習Ⅰで検討した理論や手法を基に、明らかにした研究課題より自己の研究テーマや研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを検討する。														
到 達 目 標		1. 学生自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向が理解できる。 2. 自身の研究課題を明らかにできる。 3. 研究テーマ、目的を明らかにでき、研究計画書のアウトラインが作成できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③													16
評 価 方 法		プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)														
課題に対する フィードバック		提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。														
使 用 教 材		集めた論文、文献														
1	講 義 内 容	自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向														
	該当する到達目標 1	予 習	自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向の資料を収集する。												1.5 時間	
		復 習	何が課題なのかを明確にする。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向														
	該当する到達目標 1	予 習	自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向の資料を収集する。												1.5 時間	
		復 習	何が課題なのかを明確にする。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	今までの学習を基に研究課題を明らかにする。														
	該当する到達目標 2,3	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間	
		復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	今までの学習を基に研究課題を明らかにする。														
	該当する到達目標 2,3	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間	
		復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	今までの学習を基に研究課題を明らかにする。														
	該当する到達目標 2,3	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間	
		復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間	
6	講 義 内 容	研究テーマ、研究目的を明らかにする。														
	該当する到達目標 2,3	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間	
		復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間	

			完学習する。	
7	講義内容	研究テーマ、研究目的を明らかにする。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	2,3	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
8	講義内容	研究テーマ、研究目的を明らかにする。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	2,3	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
9	講義内容	研究テーマ、研究目的を明らかにする。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	2,3	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
10	講義内容	研究テーマ、研究目的を明らかにする。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	2,3	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
11	講義内容	研究計画書のアウトラインを作成する。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	2,3	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
12	講義内容	研究計画書のアウトラインを作成する。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	2,3	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
13	講義内容	研究計画書のアウトラインを作成する。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	2,3	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
14	講義内容	研究計画書のアウトラインを作成する。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	2,3	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
15	講義内容	研究計画書のアウトラインを作成する。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	2,3	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
備考	・研究計画書作成に向けた講義時間となる。今まで学んできた講義内容を集積させた検討を行うこと。 ・課題に対して積極的に取り組み、自分で考え主体的に臨むこと。 ・予習復習は原則として、全授業を通して 60 時間は行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。 また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名		国際看護学演習Ⅲ													
英 文 名		SeminarⅢ:International Nursing													
担 当 教 員		李 孟蓉													
時 期・単位		2 年次 前期 選択 2 単位													
講 義 目 標		国際看護学演習Ⅱで明確にした研究テーマや目的を基に、妥当性のある研究方法(対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など)を検討し、研究計画書を作成する。また、作成した研究計画書に沿ってプレテストを行い、適宜、研究計画書の修正を行い、研究計画書が完成する。													
到 達 目 標		1. 研究計画書が作成できる。 2. プレテストを基に研究計画書の修正ができる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			③												16
評 価 方 法		プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)													
課題に対する フィードバック		提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。													
使 用 教 材		特になし													
1	講 義 内 容	研究計画書の作成(テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など)。													
	該当する到達目標	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間
	1,2	復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	研究計画書の作成(テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など)。													
	該当する到達目標	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間
	1,2	復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	研究計画書の作成(テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など)。													
	該当する到達目標	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間
	1,2	復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	研究計画書の作成(テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など)。													
	該当する到達目標	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間
	1,2	復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
5	講 義 内 容	研究計画書の作成(テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など)。													
	該当する到達目標	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間
	1,2	復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間
6	講 義 内 容	プレテストの対象選択と実施。													
	該当する到達目標	予 習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。												1.5 時間
	1,2	復 習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間

			完学習する。	
7	講義内容	プレテストの対象選択と実施。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
8	講義内容	プレテストの対象選択と実施。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
9	講義内容	プレテストの対象選択と実施。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
10	講義内容	プレテストの対象選択と実施。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
11	講義内容	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
12	講義内容	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
13	講義内容	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
14	講義内容	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
15	講義内容	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。		
	該当する到達目標	予習	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5 時間
	1,2	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
備考	・特別研究に向けての研究計画書の作成のため主体的・積極的に予習復習を行い講義に臨むこと。 ・演習Ⅱで明らかにした研究課題の振り返りを常に行いながら取り組む事。 ・予習復習は原則として、全授業を通して 60 時間は行う。 ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。 また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科目名	看護実践開発科学特別研究															
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science															
担当教員	吉田久美子															
時期・単位	2 年次 通年 選択 8 単位															
講義目標	慢性的な経過をたどり治療を継続しているがん患者の生活の質の向上を目指した看護研究のテーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる研究結果を修士論文としてまとめる。															
到達目標	1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2.がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。															
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGsとの関連			3												16	
評価方法	学位論文審査基準 7 項目と、最終試験基準 5 項目を評価対象の100%とし、最終評価する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。															
課題に対するフィードバック	1.研究計画書について、口頭あるいは書面にてコメントする。 2.データの収集、結果の分析、考察の内容等について、口頭あるいは書面にてコメントする。 3.論文作成段階で、緒言、目的、方法、結果、考察について、口頭あるいは書面にてコメントする。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。 レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。															
使用教材	1. 研究テーマに関する文献等を提示する。 2. 研究法に関する以下の著書などを紹介する。 ・バーンズ & グローブ 著：黒田裕子他監訳：看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-第 7 版 エルゼビア・ジャパン 2013															
講義内容	【4～5 月】 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2)研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。 1)調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 2)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。 【6～8 月】 1.以下の点に配慮し、適切なデータを収集する。 1)精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 2)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 3)得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 【9～10 月】 1.計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。 1)中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。															

	2)データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。 3)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 【11～12月】 1.論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2)がん看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。 3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。 5)新知見を明確にし、臨床におけるがん看護学の向上に向け最終論文として提出する。		
	予習	研究プロセスに応じ、各段階での課題を提示する。	期間中適宜
	復習	復習はそれぞれの課題を強化する。	期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある 3.連絡先 E-mail アドレス:yoshikumi#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) 4.オフィスアワー:月曜・金曜 10:00～16:00 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。		

科 目 名	看護実践開発科学特別研究														
英 文 名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science														
担 当 教 員	砂賀道子														
時 期・単 位	2 年次 通年 選択 8 単位														
講 義 目 標	がんと診断され、治療を受けながらもがんと共に生きるがんサバイバーの生きる力を高め、自律や適応を促す支援を目指した看護研究のテーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により結果を体系的に整理し、がん看護学における課題への対応と発展に寄与できるよう研究成果を修士論文としてまとめ提出する。														
到 達 目 標	1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる 2. がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			3											16	
評 価 方 法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。														
課題に対する フィードバック	1. 研究計画書に関する作成資料についてコメントを付し返却する。 2. データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。 3. 作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてその時々でディスカッションし、コメントを付し返却する ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。														
使 用 教 材	1. 研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。 2. 研究法に関する著書を活用する。 ・バーンズ & グローブ：黒田裕子他監訳：看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-原著第 7 版 エルゼビア・ジャパン 2013 ・DF.ポリーリット & C.T.ベック著：近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院 2010														
講 義 内 容	4～5 月 1. 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2) 研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2. 研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。 1) 調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 2) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。 6～8 月 精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 9～10 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。 1) 中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。 2) データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。														

備 考	3) 分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 11～1 月 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1) 論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2) がん看護学における課題へ対応し、発展に寄与する研究結果に対する考察を作成する。 3) 論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 4) 研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。 5) 新知見を明確にし、臨床におけるがん看護学の向上に向け最終論文として提出する。 2 月 1. 研究発表の準備と発表を行う。 2. 論文の学会発表および投稿準備を行う。		
	予 習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
	復 習	それぞれの課題を強化する	期間中適宜
	1. 授業外学習の進め方 1) 研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2) がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2. 予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある 3. オフィスアワー：火曜日、5 号館 4 階 406 研究室 その他はメールでも対応可能。 4. 担当教員連絡先：E-mail アドレス：sunaga@takasaki-u.ac.jp（#を@に変換すること） 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。		

科目名	看護実践開発科学特別研究															
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science															
担当教員	神田 清子															
時期・単位	2 年次 通年 選択 8 単位															
講義目標	看護学(がん)領域の研究課題に関して、看護実践上の課題や先行研究のクリティックを通して研究テーマを設定し、適切な研究方法を選び研究を実践する。得られた知見を論理的にまとめ、結果を考察し論文を執筆することができる。															
到達目標	1.研究テーマに関連した領域における先行研究の文献レビューおよびクリティックができる。 2.先行研究の文献レビューを踏まえて、研究テーマを設定できる。 3.倫理的配慮にもとづいて研究計画を立案できる。 4.研究テーマ、研究目的に適した研究方法を選択し、それを適切に実施できる。 5.収集されたデータを整理・分析できる。 6.得られた結果について、解釈・考察できる。															
学位授与方針	✓	幅広い学識と倫理観														
との対応	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGsとの関連			③												⑬	
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。															
課題に対する フィードバック	1.研究計画書について、口頭あるいは書面にてコメントする。 2.データの収集、結果の分析、考察の内容等について、口頭あるいは書面にてコメントする。 3.論文作成段階で、緒言、目的、方法、結果、考察について、口頭あるいは書面にてコメントする。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じて C-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。															
使用教材	1. 研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。 2. 研究法に関する著書を活用する。 ・バーンズ & グローブ:黒田裕子他監訳:看護研究入門・評価・統合・エビデンスの生成ー原著第 7 版 エルゼビア・ジャパン 2013 ・DF.ポーリット & C.T.ベック著:近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院 2010															
講義内容 1～6	4～5 月 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。 3. 計画発表を実施する。 5～8 月 倫理審査・計画発表後、ただちに精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 9～10 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。 また中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。 11 月～1 月 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、論文を作成する。															

	最終審査の準備と審査を受ける。 2月 研究発表の準備と発表を行う。 論文の学会発表および投稿準備を行う。		
	予習	研究プロセスに応じ、各段階での課題を提示する。	期間中適宜
	復習	復習はそれぞれの課題を強化する。	期間中適宜
備考	1. 授業外学習の進め方 1)研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2)修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.これまでのがん看護学の必要単位を修得していること。 3. 予習・復習の時間:各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。 4.担当教員連絡先: E-mail:kanda#takasaki-u.ac.jp(神田) (#を@に変換すること) 5.オフィスアワー:4号館301研究室 月13:00~14:30 【出席登録】 出席登録は、C-learning 【出席管理】 機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。		

科目名	看護実践開発科学特別研究															
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science															
担当教員	倉林 しのぶ															
時期・単位	2 年次 通年 必修 8 単位															
講義目標	地域・精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤とした実践プログラムについて、研究計画書に沿って臨床の場面で実施しデータ収集を行う。研究に適した方法によってデータを分析し、系統立てて整理した上で、修士論文としてまとめる															
到達目標	1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2. 実施したプログラムについて分析および結果の整理ができる。 3. プログラムの効果、結果、問題点、課題等について論文としてまとめ、提出できる															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGsとの関連			③												⑬	
評価方法	修士論文とプレゼンテーション 修士論文に対しては学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準5項目によって評価する。 オンラインの場合も Meet 等を利用しディスカッションやプレゼンテーションを行うため、同様に評価する。															
課題に対する フィードバック	論文作成については、データ収集、分析方法、結果に至るまで毎回、講評とともにコメントする。 オンラインの場合、Meet 等を利用してコメントする。															
使用教材	なし															
講義内容	4～5 月 1.研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2)研究方法に、対象者の選定理由・方法、データ収集方法、分析方法、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に基づき、具体的調整と準備を行う。															
	6～8 月 1.対象者の倫理を十分考慮したうえでデータ収集を開始する。 データ収集の手順や対象者への倫理的配慮について十分確認した上で取り組む 2.得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認する															
講義内容	9～10 月 1.計画書に基づいた分析を行い、結果を系統的にまとめる。 2.中間発表での意見およびコメントを論文の作成に活用する。															
	11～1 月 実施から結果までのプロセスをふまえた内容を熟考し、知見を明確に表現した論文を作成する。 1)研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2)プレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 3)プレゼンテーションでのコメントや助言をもとに加筆修正し論文の精度を上げる。															
予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示														期間中適宜	

	復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
備考	・定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる ・各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある ・オンラインの場合、Meet 等を中心に行う。 倉林: オフィスアワー: 月曜日・火曜日の 11:00～13:00 E-mail: kura#takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。(＃を@に変換すること)		

科 目 名	看護実践開発科学特別研究															
英 文 名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science															
担 当 教 員	高田絵理子															
時 期・単 位	2 年次 通年 選択 8 単位															
講 義 目 標	精神的な問題をもつ人および精神に障害のある人とその家族のセルフケアを促進し、より質の高い生活となるような看護研究のテーマについて、研究計画書を基にデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、精神看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果を修士論文としてまとめる。															
到 達 目 標	1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2.精神看護学の課題に対応し、発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3												16	
評 価 方 法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と、最終試験基準 5 項目によって評価する。 オンラインの場合も C-learning、meet、zoom などを利用して行うため評価方法は上記と同様にする。															
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてはコメント等をつけて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容等について、口頭あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について、諸言、方法、結果、考察、結語についてコメント等をつけて返却する。 ・オンラインの場合も C-learning の「レポート」「連絡・相談」などを利用して同様にフィードバックする。															
使 用 教 材	・毎回の授業時に研究のプロセスに応じ資料を配付する。 ・課題や講義内容に関連する文献などを提示し活用する。															
講義内容 1, 2	4～5 月 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2)研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。 1)調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 2)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。 6～8 月 1.精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 1)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 2)得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 9～10 月 1.計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。 1)中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。 2)データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。 3)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 11～1 月 1.論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。															

	2)精神看護学における課題へ対応し、発展に寄与する研究結果に対する考察を作成する。 3)論文、図表、そしてプレゼンテーション資料等について適切な記載方法で作成する。 4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。 5)新知見を明確にし、臨床における精神看護学の向上に向け最終論文として提出する。		
	予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
	復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方: 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)精神看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間:各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.オフィスアワー:月曜日 14:00～16:00 E-mail:takada-e#takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻名と氏名を必ず記載のこと。 (#を@に変更してください) 研究室: 5 号館 403 研究室		

科目名	看護実践開発科学特別研究															
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science															
担当教員	石田 順子															
時期・単位	2年次 通年 選択 8単位															
講義目標	治療期(手術を受け、がん化学療法を受けている等)にあるがん患者の症状マネジメント、がん患者と家族の生活の質の向上をめざした看護研究のテーマについて研究計画書をもとにデータを収集する。そして研究目的に適した分析方法により分析結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与する研究を修士論文としてまとめる。															
到達目標	1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2. がん看護学の課題に対応し発展に寄与する修士論文を作成することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGsとの関連			3												16	
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。 ※オンライン授業の場合には、Meet、または Zoom を通じて行うため評価方法は上記と同様とする。															
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭または書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。															
使用教材	1. 研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。 2. 研究法に関する著書を活用する。 ・バーンズ & グローブ: 黒田裕子他監訳: 看護研究入門・評価・統合・エビデンスの生成ー原著第 7 版 エルゼビア・ジャパン 2013 ・DFポーリット & C.T.ベック著: 近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院 2010															
講義内容	4～5 月 1. 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2) 研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2. 研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。 1) 調査方法、調査内容などを中心に質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 2) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。 6～8 月 1. 精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 9～10 月 1. 計画書に記載した分析方法に基づき分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。 1) データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。 2) 分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 2. 中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。															

	11～1 月 1. 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2)がん看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。 3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに修正し論文の精度を上げる。 5)新知見を明確にし、臨床におけるがん看護学の向上に向け最終論文として提出する。 2. 最終審査の準備と審査を受ける。 2 月 1)研究発表の準備と発表を行う。 2)論文の学会発表および投稿準備を行う。		
	予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
	復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習は原則として、各授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※オンライン指導になるときは連絡する。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail:jishida#takasaki-u.ac.jp(石田) (#を@に変換すること)		

科目名	看護実践開発科学特別研究															
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science															
担当教員	櫻井 美和															
時期・単位	2 年次 通年 選択 8 単位															
講義目標	母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに基づき、母子看護学における看護実践上の課題解決に向けた研究テーマを明確にする。その上で、研究計画書を作成し、研究計画書に基づきデータ収集、データ分析を行い、系統的に整理した上で修士論文としてまとめ提出する。															
到達目標	1. 課題に対する研究の方法論的課題や倫理的課題を踏まえ、研究方法としての適切性やその限界を吟味し たうえて、研究計画書を作成する。 2. 研究計画書に基づき、系統的にデータ収集、分析する。 3. 母子看護学の課題に対し、発展に寄与しうる修士論文を作成する。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
		豊かな人間性と使命感														
SDGsとの関連			③							10					16	
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。															
課題に対する フィードバック	① 作成した研究計画書に対してはコメントを付して返却する。また、研究計画書のプレゼンテーションに際し、その都度ディスカッションしながら、講評・コメントとする。 ② データ収集および分析の進捗状況や分析結果、考察についてまとめた資料やプレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションながら、講評・コメントする。 ③ 作成段階の修士論文の構成とその内容について、その都度ディスカッションしながら、講評・コメントする。 ※なお、オンライン授業の場合には、上記①～③を Meet、または Zoom を通じて行う															
使用教材	・母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて配布した教材を活用する。 ・研究過程に応じ、必要な参考資料を配布する。															
講義内容	【4～6 月】 より洗練した研究計画書を作成し、倫理審査を受ける 1) 研究テーマ、研究目的、方法、対象者の選定、データ収集方法、分析方法などについて、真実性の保証、信頼性の確保という観点から検討し、研究計画書を作成する。 2) 対象者の選定、データ収集方法、分析方法などについて、研究協力者や研究対象者への倫理的配慮を検討し、研究計画書を作成する。 3) 研究計画書審査のプレゼンテーション資料を作成・準備し、審査を受ける。 4) 倫理審査の関連資料を作成・準備し、倫理審査を受ける。 【7～9 月】 研究計画書に基づき、データ収集・分析を行う 1) 研究計画書に基づき、研究協力施設、および研究対象者に研究協力の依頼を行う。 2) 真実性の高いまたは信頼性の高いデータを得ること、研究対象者への倫理的配慮を意識し、データを収集する。 3) データ収集上の課題や適切性を確認・検討し、データ収集の精度を高める。 4) 研究計画書に基づき、科学的方法、客観的方法を用い分析する。 【10 月】 研究の進捗状況や研究の成果をまとめ、研究中間発表を行う。 1) 分析結果について、図表を用いてまとめる。 2) 研究の背景、研究目的、研究方法、結果および分析内容についてまとめ、プレゼンテーションする。															

	3) 研究中間発表会で受けた講評や助言をもとに、修士論文作成に向けた示唆を確認する。 【11～2月】 分析結果に対し考察を加え、修士論文を作成・提出するとともに、プレゼンテーションする。 1) 先行研究の結果と自己の研究の結果を常に照合しながら、新知見は何か、母子看護学の発展に寄与する結果は何かということを探求しながら考察する。 2) 論文の一貫性や客観性を確認するとともに、自己の研究成果を系統的かつ明確に表現し、論文を作成する。 3) 学位論文審査で受けた講評や助言をもとに、修士論文を加筆・修正し、学術論文としての精度を高める。 4) 自己の研究成果を系統的、かつ明確に表現し、プレゼンテーションする。 5) 研究過程、論文作成過程においての学び、今後の看護実践・研究・教育への意向をまとめ、最終審査を受ける。		
	予習	研究過程に応じて、必要な課題を提示する。	期間中適宜
	復習	研究過程に応じて、必要な課題を提示する。	期間中適宜
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ●研究の各段階において、科学的方法を用い、系統的に探究することを意識しながら、主体的に研究を進める。 ●常に母子看護学に関連する文献を探索・クリティークし、先行研究の研究成果や理論と自己の研究結果、分析結果とを照合しながら研究を進める。 ●研究の進捗状況に応じて教員と対面授業を行うが、その際には少なくとも授業前後に 90 分以上の事前学習を行う。 ●研究計画書審査、倫理審査の承認を得なければ研究を実施することはできない。 ●指定された期日までに修士論文を提出するとともに学位論文審査を受け、修士論文発表会で発表し、最終審査に合格できなければ単位修得はできない。 ●研究過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー: 月曜日 2 限、金曜日 1 限(5 号館 4 階 413 研究室) ②随時メールでも受け付ける。E-mail: sakurai-m#takasaki-u.ac.jp (櫻井) (#を@に変換すること) 【出席登録】 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。		

科 目 名		老年・在宅看護学特論														
英 文 名		Advanced Gerontological and Home Care Nursing														
担 当 教 員		棚橋 さつき、篠原 純史、石井 純子、佐橋 こずえ、梅原 里実 、田村直子、安野朝子														
時期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		老年・在宅看護についての制度、保健医療福祉の連携やシステムといった側面から在宅で過ごす療養者や高齢者また、認知症高齢者の看護を教授する。また、実践者からの事例等を通して、訪問看護の課題および解決に向けた方略について地域連携や看護連携の側面も含め考察する。														
到 達 目 標		1.在宅看護における療養者・家族の特徴について理解する。 2.訪問看護ステーションの現状、課題について理解する。 3.高齢化社会における認知症のとらえ方、今後の対策について理解する。 4.高齢者への社会資源サポートについて理解する。														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
		✓	研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連																
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(40%)、レポート(60%)で総合的に評価する。														
課題に対する フィードバック		授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。														
使 用 教 材		使用教材 舟島なをみ(2015):看護実践・教育のための測定用具ファイル 第5版 医学書院 厚生労働省など国、県、市町村が発表している施策やデータ等 * その他日本在宅ケア学科誌 日本在宅看護学会誌、日本看護管理学会誌等を活用する。														
1	講 義 内 容	科目オリエンテーション 在宅看護の状況(棚橋)														
	該当する到達目標 1	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間	
		復 習	科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に在宅看護の状況について確認する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	医療介護連携における介護支援専門員の役割(石井)														
	該当する到達目標 1,4	予 習	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容について補完学習する。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	医療介護連携におけるソーシャルワーカーの役割(篠原)														
	該当する到達目標 1,4	予 習	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容について補完学習する。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	在宅看護における家族支援(難病)(棚橋)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容について補完学習する。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	在宅看護における家族支援(小児)(佐橋)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容について補完学習する。												1.5 時間	
6	講 義 内 容	地域における感染管理について(安野)														
	該当する到達目標 1,2,3,4	予 習	左記の関連学会、学会誌等でトピックス、最新の知見について調べる。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容について補完学習する。												1.5 時間	

7	講義内容	在宅看護に関する研究の動向(棚橋)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	左記の関連学会、学会誌等でトピックス、最新の知見について調べ、自身の研究テーマの位置付けを考察する。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 時間
8	講義内容	エンド・オブ・ライフケア①(田村)		
	該当する到達目標 1,2	予習	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 時間
9	講義内容	エンド・オブ・ライフケア②(田村)		
	該当する到達目標 1,2	予習	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 時間
10	講義内容	認知症認定看護師が地域で果たす役割(梅原)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 時間
11	講義内容	高齢者ケアと制度について(梅原)		
	該当する到達目標 3,4	予習	地域で高齢者が暮らすための様々な制度やケアの現状について調べる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 時間
12	講義内容	認知症施策の方向性とヘルスプロモーションについて(梅原)		
	該当する到達目標 3,4	予習	認知症に関する施策の変遷と(新)オレンジプランについて調べる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 時間
13	講義内容	高齢者の人権擁護(認知症高齢者や高齢者虐待等)(梅原)		
	該当する到達目標 3,4	予習	人権擁護に関する様々な制度と、高齢者の虐待の種類や現状を調べる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 時間
14	講義内容	高齢者を取り巻く環境について、事例をとおして学ぶ(梅原)		
	該当する到達目標 1,3,4	予習	自身の経験や文献を通して、高齢者が QOL を向上・維持しながら生活できるような環境の有り方について考える。	1.5 時間
		復習	今後の自身の高齢者ケアに関する課題について挙げられる。	1.5 時間
15	講義内容	社会資源による高齢者サポート等について実践者から現状と課題について学ぶ(梅原)		
	該当する到達目標 1,3,4	予習	自身の経験と学習してきた社会資源を関連させ、現状と課題を考える。	1.5 時間
		復習	今後の自身の高齢者ケアに関する課題について挙げられる。	1.5 時間
備考	授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。 予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 学習過程において質問等生じた場合にはオフィスアワー、メール等で対応する。 オンライン授業の場合 【評価方法】 ① レポート(80%)、オンライン参加態度(20%) 【課題に対するフィードバック】 ① オンライン授業の中でその都度ディスカッションするとともに講評・評価する。 棚橋オフィスアワー: 4 号館 3 階 304 研究室 水 13:00~14:30 tanahashi#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)			

科 目 名		老年・在宅看護学演習Ⅰ														
英 文 名		SeminarⅠ:Gerontological and Home Care Nursing														
担 当 教 員		棚橋 さつき、佐橋 こずえ、福田 未来、梅原里実、浅井直美														
時 期・単 位		1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		高齢者患者と家族に特有な看護実践方法とその評価方法を探求し、高度看護専門職としての課題を明確にする。また、質の高い在宅看護サービスを提供するための看護実践方法を、事例などから学び、施設における現状や課題を明確化する。また、在宅看護サービスの質の維持、向上に関して計画的に実践していくための必要な知識を習得する。														
到 達 目 標		1.老年・在宅看護領域に関する理論構築および実践的な技術開発のための研究手法を習得する。 2.実際に行われている老年看護や在宅看護実践方法について検討し、研究課題の方向性を見出す。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連																
評 価 方 法		授業への主体的参加を重視し、学習態度やプレゼンテーション内容から総合的に判断する。 総合討論等の成果(60%)、授業参加度・貢献度(40%)														
課題に対する フィードバック		授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。														
使 用 教 材		アイボ・エイブラハム:ベストプラクティスのための高齢者ケアプロトコル 医学書院 堀内園子:認知症看護入門 ライフサポート社 岡田晋吾編:地域連携パスの作成術・活用術 医学書院 訪問看護の事業所開設 Q&A 日本看護協会出版社 その他適宜指示する														
1	講 義 内 容	在宅看護学における看護実践上の課題の探索(棚橋)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	文献検討の手法(浅井)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	在宅看護の質の管理:訪問看護事業所(棚橋)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	在宅で暮らす認知症高齢者の特徴(梅原)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。												1.5 時間	
		復 習	不足する学習内容を補完学習する。												1.5 時間	

5	講義内容	認知症高齢者を介護する家族の特徴と支援(梅原)		
	該当する到達目標 1,2	予習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
6	講義内容	在宅における認知症高齢者の転倒予防と支援(梅原)		
	該当する到達目標 1,2	予習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
7	講義内容	在宅看護の質の管理:人材育成(棚橋)		
	該当する到達目標 1,2	予習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容を補完学習する。	1.5 時間
8	講義内容	在宅看護と行政看護(棚橋)		
	該当する到達目標 1,2	予習	左記の実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5 時間
		復習	看護実践方法について確認し補完学習を行う。	1.5 時間
9	講義内容	地域における小児看護の特徴①(佐橋)		
	該当する到達目標 1,2	予習	左記の実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5 時間
		復習	看護実践方法について確認し補完学習を行う。	1.5 時間
10	講義内容	地域における小児看護の特徴②(佐橋)		
	該当する到達目標 1,2	予習	左記の実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5 時間
		復習	看護実践方法について確認し補完学習を行う。	1.5 時間
11	講義内容	看護小規模多機能型居宅介護の特性①(福田)		
	該当する到達目標 1,2	予習	左記の実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5 時間
		復習	看護実践方法について確認し補完学習を行う。	1.5 時間
12	講義内容	看護小規模多機能型居宅介護の特性②(福田)		
	該当する到達目標 1,2	予習	左記の実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5 時間
		復習	看護実践方法について確認し補完学習を行う。	1.5 時間
13	講義内容	在宅看護において実施されている看護実践方法から課題を明確化する。①(棚橋)		
	該当する到達目標 1,2	予習	左記の実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5 時間
		復習	看護実践方法について確認し補完学習を行う。	1.5 時間
14	講義内容	在宅看護において実施されている看護実践方法から課題を明確化する。②(棚橋)		
	該当する到達目標 1,2	予習	事例発表に向けて準備を行う。	1.5 時間
		復習	発表での意見を参考に課題の方向性について補完する。	1.5 時間
15	講義内容	在宅看護において実施されている看護実践方法から課題を明確化する。③(棚橋)		
	該当する到達目標 1,2	予習	事例発表に向けて準備を行う。	1.5 時間
		復習	発表での意見を参考に課題の方向性について補完する。	1.5 時間
備	訪問看護の質向上のための方法に関する情報収集を事前に行って参加してほしい。授業内容に基づき自ら学習す			

考	べき内容を自律的に学習する。 予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間を行う。 学習過程において質問等生じた場合にはメール等にて対応する。 オンライン授業の場合 【評価方法】 ② レポート(80%)、オンライン参加態度(20%) 【課題に対するフィードバック】 ② オンライン授業の中でその都度ディスカッションするとともに講評・評価する。 棚橋オフィスアワー: 4 号館 3 階 304 研究室 水 13:00～14:30 tanahashi#takasaki-u.ac.jp] (#を@に変換すること

科 目 名		老年・在宅看護学演習Ⅱ													
英 文 名		SeminarⅡ：Gerontological and Home Care Nursing													
担 当 教 員		棚橋 さつき 田村直子													
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位													
講 義 目 標		自己の抱える問題や課題を事例検討会やフィールドワークをとおして高度訪問看護実践に必要な能力における知識を獲得する。また、文献学習にて、論文読解能力を高め多様な研究方法について理解し、研究計画の作成の方法や実験的な研究方法の基礎的知識と応用力を身につける。老年・在宅看護に関する研究の現状を理解し、プログラム作成の基本を見出す。													
到 達 目 標		1.老年・在宅看護関連の課題解決方法を、文献学習や研究手法などから理論構築および実践的な技術開発のための研究手法を習得する。 2.プログラムの基本形の作成ができる。 3.作成したプログラムから、自分の考えをまとめ、ディスカッションを行うことができる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連															
評 価 方 法		授業への主体的参加を重視し、学習態度や資料準備、プレゼンテーション内容から総合的に判断する。 レポート(70%)、発表(30%)													
課題に対する フィードバック		授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。													
使 用 教 材		日本在宅ケア学会誌 廣谷速人著:論文のレトリック 南江堂 D.F.ポートリット&C.T.ベック著 看護研究 原理と方法 医学書院 その他適宜指示する													
1	講 義 内 容	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。													
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	自己の課題についての文献を自律的に学習する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。													
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	自己の課題についての文献を自律的に学習する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。													
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	自己の課題についての文献を自律的に学習する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。													
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	自己の課題についての文献を自律的に学習する。												1.5 時間
5	講 義 内 容	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。													
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	自己の課題についての文献を自律的に学習する。												1.5 時間
6	講 義 内 容	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。													
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	自己の課題についての文献を自律的に学習する。												1.5 時間

7	講義内容	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。		
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5 時間
8	講義内容	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。		
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5 時間
9	講義内容	自己の関心、取り組みたい研究課題に沿った研究計画書の原案を作成する。		
	該当する到達目標	予習	取り組みたい課題について文献、専門書等により学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
10	講義内容	自己の関心、取り組みたい研究課題に沿った研究計画書の原案を作成する。		
	該当する到達目標	予習	取り組みたい課題について文献、専門書等により学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
11	講義内容	自己の関心、取り組みたい研究課題に沿った研究計画書の原案を作成する。		
	該当する到達目標	予習	取り組みたい課題について文献、専門書等により学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
12	講義内容	自己の関心、取り組みたい研究課題に沿った研究計画書の原案を作成する。		
	該当する到達目標	予習	取り組みたい課題について文献、専門書等により学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
13	講義内容	自己の関心、取り組みたい研究課題に沿った研究計画書の原案を作成する。		
	該当する到達目標	予習	取り組みたい課題について文献、専門書等により学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
14	講義内容	自己の関心、取り組みたい研究課題に沿った研究計画書の原案を作成する。		
	該当する到達目標	予習	取り組みたい課題について文献、専門書等により学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
15	講義内容	自己の関心、取り組みたい研究課題に沿った研究計画書の原案を作成する。		
	該当する到達目標	予習	取り組みたい課題について文献、専門書等により学習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 時間
備考	・自己の課題を明確にして、事前に老年・在宅看護におけるトピックスなどを学習して、文献学習、事例検討会に取り組んでほしい。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において質問等生じた場合にはメールにて対応する。 棚橋オフィスアワー: 4 号館 3 階 304 研究室 水 13:00~14:30 tanahashi@takasaki-u.ac.jp			

科 目 名		老年・在宅看護学演習Ⅲ														
英 文 名		SeminarⅢ: Gerontological and Home Care Nursing														
担 当 教 員		棚橋 さつき 田村直子														
時 期・単 位		2 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		在宅看護や在宅移行の構築に向けた研究テーマについて妥当な研究方法(研究フィールドの条件、対象者の選定、サンプルサイズ、介入方法、分析方法、研究倫理等)を検討し、研究計画書を作成し特別研究に向けて準備を整える。														
到 達 目 標		1.在宅看護学に関する科目で学び得た知識と技術を具体的な計画のもとで総合的に活用する。 2.実践プログラムに基づいた実践ができる。 3.実施したプログラムの効果測定、問題点、改善点について整理できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連																
評 価 方 法		研究計画書 (100%)														
課題に対する フィードバック		授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。														
使 用 教 材		適宜指示する。														
1	講 義 内 容	2 年次 4 月～6 月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。														
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。												2 時間	
		復 習	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。												1 時間	
2	講 義 内 容	2 年次 4 月～6 月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。														
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。												2 時間	
		復 習	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。												1 時間	
3	講 義 内 容	2 年次 4 月～6 月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。														
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。												2 時間	
		復 習	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。												1 時間	
4	講 義 内 容	2 年次 4 月～6 月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。														

		・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。		
	該当する到達目標	予 習	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。	2 時間
	1,2,3	復 習	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。	1 時間
5	講 義 内 容	2 年次 4 月～6 月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。		
	該当する到達目標	予 習	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。	2 時間
	1,2,3	復 習	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。	1 時間
6	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
	1,2,3	復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
7	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
	1,2,3	復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
8	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
	1,2,3	復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
9	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
	1,2,3	復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
10	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		

	該当する到達目標 1,2,3	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
		復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
11	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
		復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
12	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
		復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
13	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
		復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
14	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
		復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
15	講 義 内 容	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション		
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2 時間
		復 習	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1 時間
備 考	・定められた期日までに研究計画書を研究科委員会に提出する。医療機関での研究倫理審査が必要な場合は、6 月までには承認が得られるように準備をする。 ・研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認を得なければ研究は実施できない。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において質問等生じた場合にはメールにて対応する。 オフィスアワー: 4 号館 3 階 304 研究室 水 13:00～14:30 tanahashi@takasaki-u.ac.jp (#を@に変換)			

科 目 名		看護管理学特論Ⅱ														
英 文 名		Advance Nursing Administration SettingⅡ														
担 当 教 員		小池 洋子														
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		チーム医療の中核を担う看護師のマネジメント能力育成をめぐる現状について、病院組織の構造的側面・人間的側面の両面から分析し、課題を明確化し、それぞれが抱える課題と解決に向けた方法論について学ぶ。更に病院における組織開発とシステム構築に向けたマネジメントの現状や人材育成に向けた教育プログラムの構築について学びを深める。														
到 達 目 標		1.組織開発に関する理論を学習し、マネジメントについて多角的な視点から考えることができる。 2.組織開発におけるグループマネジメントの課題について理解できる。 3.病院組織横断的なシステム構築の現状と課題について考察できる。 4.キャリアデベロップメントに関する課題を明確化し、人材育成プログラムについて検討できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3	4											16	
評 価 方 法		授業への参加度(50%) 課題についてのプレゼンテーション内容(50%)														
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行いつつ、コメント・評価し、次の課題を明確化する。														
使 用 教 材		1.Senge P.M, 著、枝廣淳子、小田理一郎訳:学習する組織:システム思考で未来を創造する, 英治出版 2.Goffee, R, Jonce, G, 著、森由美子訳:DREAM WOLK PLACE, だれもが「最高の自分」になれる組織をつくる、英治出版 3.手島恵編著:看護のためのポジティブマネジメント、医学書院 4.堀公俊著:チーム・ファシリテーションー最強の組織を作る 12 のステップ、朝日新聞出版 5.エドガー・H・シャイン著、二村俊子・三善勝代訳:キャリア・ダイナミックス、白桃書房														
1	講 義 内 容	講義ガイダンス 組織を構造的側面と人間的側面から理解する														
	該当する到達目標	予 習	シラバスをよく読み、参考文献の中から関心のあるものについてまとめておく。													1.5 時間
	1	復 習	不足の内容について補完する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	組織開発に関する理論について学ぶ 組織行動学 システム理論 ホールシステム・アプローチ ポジティブ・マネジメント														
	該当する到達目標	予 習	シラバスをよく読み、参考文献の中から関心のあるものについてまとめておく。													1.5 時間
	1	復 習	不足の内容について補完する。													1.5 時間
3	講 義 内 容	組織開発におけるグループマネジメントのあり方														
	該当する到達目標	予 習	シラバスをよく読み、参考文献の中から関心のあるものについてまとめておく。													1.5 時間
	1	復 習	不足の内容について補完する。													1.5 時間
4	講 義 内 容	組織開発におけるシステム構築について														
	該当する到達目標	予 習	自己の体験を通して、システムづくりの課題についてまとめておく。													1.5 時間
	1,3	復 習	不足の内容について補完する。													1.5 時間

5	講義内容	組織横断的な人材開発について		
	該当する到達目標	予習	自己の体験を通して、システムづくりの課題についてまとめる。	1.5 時間
	1,3	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
6	講義内容	組織開発におけるキャリア支援 キャリア発達 キャリアデベロップメント キャリアアンカー		
	該当する到達目標	予習	キャリア発達及びマネジメントに関する理論について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
7	講義内容	組織開発におけるマネジメントのあり方 ドラッカーと目標管理		
	該当する到達目標	予習	キャリア発達及びマネジメントに関する理論について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
8	講義内容	効果的なグループマネジメントのあり方 その 1 ポジティブ・マネジメント		
	該当する到達目標	予習	グループマネジメントの理論に基づく方法について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,3	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
9	講義内容	効果的なグループマネジメントのあり方 その 2 傾聴と承認		
	該当する到達目標	予習	グループマネジメントの理論に基づく方法について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,3	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
10	講義内容	効果的なグループマネジメントのあり方 その 3 コーチングとティーチング		
	該当する到達目標	予習	グループマネジメントの理論に基づく方法について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,3	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
11	講義内容	効果的なグループマネジメントのあり方 その 4 ダイアログとディスカッション		
	該当する到達目標	予習	グループマネジメントの理論に基づく方法について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,3	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
12	講義内容	組織開発における人材育成プログラム その 1 新人に対する教育プログラム		
	該当する到達目標	予習	人材育成プログラムに関する参考文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
13	講義内容	組織開発における人材育成プログラム その 2 中堅に対する教育プログラム		
	該当する到達目標	予習	人材育成プログラムに関する参考文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
14	講義内容	組織開発における人材育成プログラム その 3 管理者に対する教育プログラム		
	該当する到達目標	予習	人材育成プログラムに関する参考文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	不足の内容について補完する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 組織開発におけるマネジメントの役割と課題についてのプレゼンテーションと振り返り		
	該当する到達目標	予習	講義で学習した内容について総括しつつ、組織開発におけるマネジメントの役割と課題についてまとめる。	1.5 時間
	1,2,3,4			

		復 習	ディスカッションで出された内容を加えながら不足する内容について補完する。	1.5 時間
備 考	1. 学習編取り組み 自律的な学習が基本です。組織開発向けに必要な看護マネジメントの理論や方法論について学びを深めること。この講義は自己の研究課題を絞り上げていくための講義内容となるので、関連する書籍や文献検索を重ねて、主体的な学習を進めること。そのため、予習・復習の時間は、1 回の授業について 3.4 時間はとる必要があります。 2. 質問は疑問への対応 ①随時メールで対応します。疑問が生じたら、そのままにしないですぐ連絡をして、解決を図ること 3. その他 オンライン授業となった場合は、ZOOM 会議を用いて授業を行います。			

科 目 名		看護管理学演習 I																																																						
英 文 名		Seminar I :Advanced Nursing Administration																																																						
担 当 教 員		小池 洋子																																																						
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位																																																						
講 義 目 標		組織開発における人材育成の具体的方法について、文献とディスカッションを重ねるとともに、臨床の場における人材育成プログラムの実際についてフィールドに出かけ学ぶ。																																																						
到 達 目 標		1.組織開発におけるマネジメント手法について理解できる。 2.キャリアデベロップメントに関する課題を明確化し、人材育成プログラムについて検討できる。																																																						
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観																																																						
	✓	高度な実践力																																																						
	✓	研究能力																																																						
	✓	豊かな人間性と使命感																																																						
SDGs との 関 連			③	④				⑧	⑨							⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
評 価 方 法		授業及びフィールドワークへの参加度(50%) プレゼンテーション内容(50%)																																																						
課題に対する フィードバック		講義の中でその都度ディスカッションするとともに、コメントを加え、評価する。																																																						
使 用 教 材		特に指定しない。																																																						
1	講 義 内 容	オリエンテーション																																																						
	該当する到達目標	予 習	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。																										1.5 時間																											
	1	復 習	不足内容について補完する。																										1.5 時間																											
2	講 義 内 容	関心のあるマネジメント理論についての文献検討																																																						
	該当する到達目標	予 習	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。																										1.5 時間																											
	1	復 習	不足内容について補完する。																										1.5 時間																											
3	講 義 内 容	関心のあるマネジメント理論についての文献検討																																																						
	該当する到達目標	予 習	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。																										1.5 時間																											
	1	復 習	不足内容について補完する。																										1.5 時間																											
4	講 義 内 容	関心のあるマネジメント理論についての文献検討																																																						
	該当する到達目標	予 習	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。																										1.5 時間																											
	1	復 習	不足内容について補完する。																										1.5 時間																											
5	講 義 内 容	関心のあるマネジメント理論についての文献検討																																																						
	該当する到達目標	予 習	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。																										1.5 時間																											
	1	復 習	不足内容について補完する。																										1.5 時間																											
6	講 義 内 容	関心のあるマネジメント方法論についての文献検討とディスカッション																																																						
	該当する到達目標	予 習	関心のあるマネジメント方法論に関する文献を読んでおく。																										1.5 時間																											
	1	復 習	不足内容について補完する。																										1.5 時間																											
7	講 義 内 容	関心のあるマネジメント方法論についての文献検討とディスカッション																																																						
	該当する到達目標	予 習	関心のあるマネジメント方法論に関する文献を読んでおく。																										1.5 時間																											
	1	復 習	不足内容について補完する。																										1.5 時間																											
8	講 義 内 容	関心のあるマネジメント方法論についての文献検討とディスカッション																																																						
	該当する到達目標	予 習	関心のあるマネジメント方法論に関する文献を読んでおく。																										1.5 時間																											
	1	復 習	不足内容について補完する。																										1.5 時間																											

9	講義内容	関心のあるマネジメント方法論についての文献検討とディスカッション		
	該当する到達目標	予習	関心のあるマネジメント方法論に関する文献を読んでおく。	1.5 時間
	1	復習	不足内容について補完する。	1.5 時間
10	講義内容	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク		
	該当する到達目標	予習	人材育成に関する文献について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	不足内容について学習し補完する。	1.5 時間
11	講義内容	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク		
	該当する到達目標	予習	人材育成に関する文献について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	不足内容について学習し補完する。	1.5 時間
12	講義内容	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク		
	該当する到達目標	予習	人材育成に関する文献について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	不足内容について学習し補完する。	1.5 時間
13	講義内容	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク		
	該当する到達目標	予習	人材育成に関する文献について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	不足内容について学習し補完する。	1.5 時間
14	講義内容	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク		
	該当する到達目標	予習	人材育成に関する文献について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	不足内容について学習し補完する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	人材育成に関する文献について文献を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	不足内容について学習し補完する。	1.5 時間
備考	1.授業外学習の進め方 1) マネジメントの理論及び方法論について、文献検討を行い、クリティークし発表する。そのための予習・復習について、全体として 60 時間は行う必要がある。 2) 人材育成教育プログラムへの参加を通して、何が効果的で、自己の課題は何か明確化できるよう、特に復習とまとめに各回 3 時間必要である。 3) オンライン授業となった場合は ZOOM 会議を用いる。 2.質問や疑問点への対応 ① 随時メールにて対応します。疑問が生じたら、そのままにしないで連絡して解決を図ること。			

科 目 名		看護管理学演習Ⅱ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
英 文 名		SeminarⅡ :Advanced Nursing Administration																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
担 当 教 員		小池 洋子																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
講 義 目 標		演習Ⅰでの学習を基に、国内外のマネジメントやキャリア開発に関する文献検討とディスカッションの中から自己の関心領域を明確化し、研究計画書のアウトラインを明らかにする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
到 達 目 標		1.看護管理に関する文献検索を行い、概要を理解するとともに課題を明らかにできる。 2.自己の関心領域を明確化し、研究計画書のアウトラインを作成できる。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	✓	高度な実践力																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	✓	研究能力																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	✓	豊かな人間性と使命感																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
SDGs との 関 連			③	④				⑧	⑨							⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

9	講義内容	マネジメントに関する自己の関心領域に沿って、研究テーマを明らかにする		
	該当する到達目標 1,2	予習	先行研究についてクリティックし、研究テーマを絞り上げる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容について補完する。	1.5 時間
10	講義内容	マネジメントに関する自己の関心領域に沿って、研究テーマを明らかにする		
	該当する到達目標 1,2	予習	先行研究についてクリティックし、研究テーマを絞り上げる。	1.5 時間
		復習	不足する学習内容について補完する。	1.5 時間
11	講義内容	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する		
	該当する到達目標 1,2	予習	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5 時間
		復習	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5 時間
12	講義内容	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する		
	該当する到達目標 1,2	予習	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5 時間
		復習	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5 時間
13	講義内容	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する		
	該当する到達目標 1,2	予習	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5 時間
		復習	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5 時間
14	講義内容	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する		
	該当する到達目標 1,2	予習	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5 時間
		復習	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5 時間
15	講義内容	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する		
	該当する到達目標 1,2	予習	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5 時間
		復習	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5 時間
備考	1.授業外学習の進め方 自らの研究課題とテーマを、明確化していく重要な時期である。何故そのテーマを選んだのか、先行研究の十分な検討の中から、研究目的を明確化していくための自律的学習を積み重ねる必要があります。そのためには、予習・復習は全授業を通して 60 時間は必要となる。 2.疑問や質問への対応 学習過程で生じた疑問や質問については、その都度メールで応じる。 3. その他 オンライン授業となった場合は ZOOM 会議を用います。			

科 目 名	看護管理学演習Ⅲ															
英 文 名	SeminarⅢ: Advanced Nursing Administration															
担 当 教 員	小池 洋子															
時 期・単 位	2 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標	看護マネジメントに関するテーマをもとに、研究目的を明確化し、目的達成のための妥当な研究方法を検討し、研究計画書を作成する。それをもとに特別研究に向けた準備を整える。															
到 達 目 標	1.研究テーマに基づき、研究目的・研究方法を明確化し、研究計画書を作成する。 2.プレテストを実施し、問題点・改善点を修正し、妥当性のある研究計画書を提出する。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3	4				8	9							16
評 価 方 法	研究計画書(100%)															
課題に対する フィードバック	計画書作成プロセスでその都度ディスカッションを行い、コメント・評価する。															
使 用 教 材	適宜指示する。															
講 義 内 容	4 月 研究計画書を作成し、プレテストを実施する。 修正を行い、倫理審査にかける。 6～7 月 データ収集に合わせて、文献検索を行い、比較検討ができるよう準備する。															
	予 習	先行研究や文献についてさらに読み込み、研究テーマと目的と意義、方法の一貫性を検討する。 プレテストを行うにあたり、予測される問題点を整理し、対象者の選定方法や方法について整理しておく。														30 時間
	復 習	研究計画書の妥当性について出された疑問や課題について精査する。 プレテストで得られた課題についてその結果をもとに、研究方法について整理し、修正する。														30 時間
備 考	1.授業時間外での学習の進め方 研究計画書を定められた期日までに提出する必要がある。研究倫理審査基準について熟読し、基準に耐える研究計画書となるよう自律的な学習を進める。 予習・復習は原則として 60 時間は行う必要がある。 2.疑問・質問への対応 ①学習過程で生じた疑問は、随時メールで対応する。 3. その他 オンライン授業となった場合は ZOOM 会議を用いる。															

科 目 名	ケアシステム開発科学特別研究															
英 文 名	Seminar for Master's thesis on Care System Science															
担 当 教 員	棚橋 さつき															
時 期・単 位	2 年次 通年 選択 8 単位															
講 義 目 標	在宅看護におけるシステム開発を目指した看護研究テーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、在宅看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。															
到 達 目 標	1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2.在宅看護、ケアシステム開発における課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連																
評 価 方 法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。															
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料等についてコメントなどをつけて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭あるいは書面にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語についてコメントをつけ返却する。															
使 用 教 材	課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。															
講 義 内 容	4～5 月 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。 6～8 月 精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 9～10 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。 また中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。 11 月～1 月 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、論文を作成する。															
	予 習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜	
	復 習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜	
	備 考	1.授業外学習の進め方 1)研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2)ケアシステム開発の修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間:各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先:E-mail アドレス:tanahashi#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) 4.オフィスアワー:4 号館 3 階 304 研究室 水 13:00～14:30														

科 目 名		助産学特論 I(ウィメンズヘルス)															
英 文 名		Advanced Theory of Midwifery I (Women's Health)															
担 当 教 員		大石 時子、伊藤 理廣															
時 期・単 位		1 年次 前期 必修 2 単位															
講 義 目 標		女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。															
到 達 目 標		1.思春期男女に対する基本的姿勢と心身の理解の基に、相談や、適切な対応ができる。 2.セクシュアリティの多様性を理解し、性自認や性志向、受胎調節、性暴力や妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明出来る。 3.性感染症、月経に対する理解と課題、中高年の健康問題とその対応について説明出来る。 4.グループワークにおいては、実践開発領域の学生はリーダーシップを発揮し、助産師資格取得領域の学生は、フォロワーシップを発揮できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			3		5											16	
評 価 方 法	参加度(30%)レポート(70%)「女のからだ、を読んで考えたこと」																
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。																
使 用 教 材	テキスト:①荻野美穂:女のからだ、岩波新書 参考書:ウィメンズヘルス事典-女性のからだところガイド, 日本母性衛生学会																
1	講 義 内 容	WOMEN' S HEALTH と GENDER(大石)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	シラバスの内容を読み、講義義の目標を理解する														1.5 時間
		復 習	科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容について確認する														1.5 時間
2	講 義 内 容	女性と月経、月経障害について大石)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	女のからだ 第2章までを読む														1.5 時間
		復 習	女のからだ 第 3,4 章を読む														1.5 時間
3	講 義 内 容	思春期女性の支援(避妊)(大石)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	女のからだ 第2章までを読む														1.5 時間
		復 習	女のからだ 第 3,4 章を読む														1.5 時間
4	講 義 内 容	思春期女性の支援(ピル)(伊藤)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	月経のメカニズムについて調べておく														1.5 時間
		復 習	ピルの作用機序と副作用について復習する														1.5 時間
5	講 義 内 容	思春期女性の支援(ピル)(伊藤)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	月経のメカニズムについて調べておく														1.5 時間
		復 習	ピルの作用機序と副作用について復習する														1.5 時間
6	講 義 内 容	性感染症予防と支援(子宮頸がん予防を含む)(大石)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	子宮と女性性器の解剖														1.5 時間
		復 習	子宮頸がん予防に果たす助産師の役割を考察する														1.5 時間

7	講義内容	性感染症予防と支援:グループワークとまとめ(大石)		
	該当する到達目標	予習	子宮と女性性器の解剖	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	子宮頸がん予防に果たす助産師の役割を考察する	1.5 時間
8	講義内容	女性に対する暴力―人身売買他(大石)		
	該当する到達目標	予習	DVIについてインターネット上の情報を収集する	1.5 時間
	1,2,3	復習	DVの社会背景を考察する。	1.5 時間
9	講義内容	女性に対する暴力への対処と支援:グループワーク(大石)		
	該当する到達目標	予習	DVIについてインターネット上の情報を収集する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	DVの社会背景を考察する。	1.5 時間
10	講義内容	不妊の悩みを持つ女性の現状(大石)		
	該当する到達目標	予習	妊娠成立のメカニズムを復習しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	テキスト:女のからだ 第5章を読む	1.5 時間
11	講義内容	不妊治療の現状と女性・家族・社会(大石)		
	該当する到達目標	予習	妊娠成立のメカニズムを復習しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	テキスト:女のからだ 第5章を読む	1.5 時間
12	講義内容	不妊女性と家族に対する支援と社会的課題 (大石)		
	該当する到達目標	予習	妊娠成立のメカニズムを復習しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	テキスト:女のからだ 第5章を読む	1.5 時間
13	講義内容	不妊の悩みを持つ女性に対する支援:グループワーク(大石)		
	該当する到達目標	予習	妊娠成立のメカニズムを復習しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	テキスト:女のからだ 第5章を読む	1.5 時間
14	講義内容	中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴(大石)		
	該当する到達目標	予習	中高年女性の身体的特徴	1.5 時間
	3	復習	中高年女性の健康に及ぼす社会的要因について考察する	1.5 時間
15	講義内容	中高年女性に対する支援:グループワークとまとめ(大石)		
	該当する到達目標	予習	中高年女性の身体的特徴	1.5 時間
	3,4	復習	中高年女性の健康に及ぼす社会的要因について考察する	1.5 時間
備考	・主体的に discussion に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 45 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館3階 306 研究室 E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp(大石) (#を@に変換すること)			

科 目 名		助産学特論Ⅱ（助産管理）														
英 文 名		Advanced Theory of Midwifery Ⅱ（Midwifery Management）														
担 当 教 員		小泉 仁子、大石 時子														
時 期・単 位		1 年次 後期 必修 1 単位														
講 義 目 標		助産業務、管理、および病産院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。														
到 達 目 標		1.助産業務に関する法律を理解し、説明できる。 2.助産管理の方法を理解し、説明できる。 3.安全管理のあり方を理解し、説明できる。 4.自己の開設する助産所または勤務する周産母子センターを想定し、助産管理の一側面における姿勢を説明できる。（各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理）														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法		筆記試験(100%)														
課題に対する フィードバック		講義時にディスカッションを通して相互理解を深める。														
使 用 教 材		テキスト:①我部山・他:助産学講座 10, 医学書院 ②助産業務要覧 2022 年版, 看護協会出版会 参考書:看護六法(平成 25 年版), 新日本法規, 助産業務ガイドライン 2019, 院内助産・助産師外来ガイドライン 2018														
1	講 義 内 容	助産業務・管理の概念(小泉) ＊ 助産業務と助産業務展開について助産師の役割と業務について学ぶ														
	該当する到達目標	予 習	必読図書を読み、課題を明確にしておく。												1.5 時間	
	1,2	復 習	ディスカッションで自己課題を明確にする。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	助産業務に関連する法規(法的施策)(小泉)														
	該当する到達目標	予 習	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。												1.5 時間	
	1,2	復 習	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	助産業務に関連する法規(法的施策)(小泉)														
	該当する到達目標	予 習	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。												1.5 時間	
	1,2	復 習	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	助産業務管理の実際(病院)(小泉) ＊ 助産業務における安全・管理の実際について学ぶ														
	該当する到達目標	予 習	必読図書を読み、課題を明確にしておく。												1.5 時間	
	2,4	復 習	ディスカッションで自己課題を明確にする。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	助産業務管理の実際(含助産所等の連携)(大石) ＊ 助産業務における安全・管理の実際について学ぶ														
	該当する到達目標	予 習	必読図書を読み、課題を明確にしておく。												1.5 時間	
	2,4	復 習	ディスカッションで自己課題を明確にする												1.5 時間	
6	講 義 内 容	助産業務管理の実際(含助産所等の連携)(大石)														

		* 助産業務における安全・管理の実際について学ぶ		
	該当する到達目標	予 習	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5 時間
	2,4	復 習	ディスカッションで自己課題を明確にする	1.5 時間
7	講 義 内 容	周産期における安全管理・危機管理(大石)		
	該当する到達目標	予 習	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。	1.5 時間
	2,3	復 習	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。	1.5 時間
8	講 義 内 容	助産師と災害対策(大石) * 周産期施設の災害対策 * 災害の実際 * 災害時の母子ケアについて		
	該当する到達目標	予 習	災害に関連した母子ケアについて、インターネット等で情報に触れる	1.5 時間
	2,3	復 習	災害時に助産師に求められる役割が分かる	1.5 時間
備考	・各単元(授業時間)について、テキストの該当部分にそって自己の学習目標を明確にする。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・授業内容について、理解できた事柄を確認し、出来なかった事柄をさらに追求する努力をする。 ・学習内容について、問題意識を高め、他の参考書、一般書籍、新聞等に目を通すなどさらに研鑽する。 ・国内外を問わず、母子と女性の健康問題について幅広く知識や出来事に興味を馳せるよう努力する。 ・講義を受けるに当たっては、積極的に参加し、質問や議論を実りあるものにするよう努力する。 ・講師との連絡方法(オフィスアワー・メールアドレス)については、初講時に示す。			

科 目 名		助産学特論Ⅲ(開業・院内助産)															
英 文 名		Advanced Theory of MidwiferyⅢ (Independent Practice of Midwifery)															
担 当 教 員		寺口 顕子、東福寺 幾夫、馬目 裕子、西山 信之、宮下 美代子、岡本 登美子、林 啓子															
時期・単位		1 年次 後期 必修 1 単位															
講 義 目 標		地域における助産所の開業や院内助産を設置、運営するのに必要な企業家としてのマインドと経営的視点を持ちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。															
到 達 目 標		1.経営や、経営戦略を理解し説明ができる。 2.マネジメントの一環としての多職種協同を理解し、説明できる。 3.リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。 4.行政への働きかけ(産後母子訪問システム等の実績等)、NPO法人の取得・運営を理解し、説明できる。 5.助産に関わる各種ガイドラインを理解し説明できる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
			研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				3		5	6									16	17
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(30%)、presentation(70%)で総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック		対 面: Presentation に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。 オンライン: オンラインで行う Presentation に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。															
使 用 教 材		1)ジェームズ C.コリンズ:ビジョナリーカンパニー 日経 BP 社 2)産婦人科診療ガイドライン 2020 産科編 3)助産業務ガイドライン 2019 4)福井トシ子編、助産師業務要覧 2022 年版、日本看護協会出版会 5)図説・日本の遠隔医療 2017 日本遠隔医療学会 その他資料で提供															
1	講 義 内 容	病院における経営戦略の実際(西山)															
	該当する到達目標 1	予 習	病院における経営組織の特徴・課題について考察。													0.5 時間	
		復 習	経営組織の基本的な考え方、組織デザイン、組織文化、組織戦略、組織変革などについて、早く正しい答えを見出す能力(知能)を高める。													0.5 時間	
2	講 義 内 容	病院における経営戦略の実際(西山)															
	該当する到達目標 1	予 習	病院における経営組織のマネジメント概念の現実への適用について考察。													0.5 時間	
		復 習	個人や集団といったミクロレベルから、組織構造や組織間といったマクロレベルまで、経営組織の「未来最適」「全体最適」を、問い続ける能力(知性)を磨く。													0.5 時間	
3	講 義 内 容	助産所における経営と経営戦略(宮下)															
	該当する到達目標 1	予 習	宮下助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。													0.5 時間	
		復 習	学びをまとめ「私が開所したい助産院」とのテーマで presentation の準備をする													0.5 時間	
4	講 義 内 容	助産所における経営戦略の実際(宮下)															
	該当する到達目標 1	予 習	宮下助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。													0.5 時間	
		復 習	学びをまとめ「私が開所したい助産院」とのテーマで presentation の準備をする													0.5 時間	
5	講 義 内 容	助産師の自律と多職種協働(内外)のあり方(宮下)															
	該当する到達目標	予 習	みやした助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。													0.5 時間	

	2	復習	学びをまとめ「私が開所したい助産所とのテーマで presentation の準備をする	0.5 時間
6	講義内容	助産師の自律と人間関係の調整(宮下)		
	該当する到達目標	予習	みやした助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5 時間
	2	復習	学びをまとめ「私が開所したい助産所」とのテーマで presentation の準備をする	0.5 時間
7	講義内容	医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開(宮下)		
	該当する到達目標	予習	みやした助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5 時間
	3,5	復習	学びをまとめ「私が開所したい助産所」とのテーマで presentation の準備をする	0.5 時間
8	講義内容	助産師による産後ケア事業の実例(岡本)		
	該当する到達目標	予習	ウパウパハウス岡本助産院の HP で産後ケア事業を調べる	0.5 時間
	3	復習	産後ケア事業の法的根拠と意義についてまとめる	0.5 時間
9	講義内容	助産師による産後ケア事業の実例(岡本)		
	該当する到達目標	予習	ウパウパハウス岡本助産院の HP で産後ケア事業を調べる	0.5 時間
	4	復習	産後ケア事業の法的根拠と意義についてまとめる	0.5 時間
10	講義内容	医療事故防止、感染予防対策、災害対策等(馬目)		
	該当する到達目標	予習	産科医療過誤訴訟	0.5 時間
	3	復習	災害支援・災害時分娩	0.5 時間
11	講義内容	院内助産システムと助産師の自律について(林)		
	該当する到達目標	予習	院内助産システムとはどのようなシステムなのか調べておく	0.5 時間
	2,3,5	復習	施設の状況に合わせた院内助産システムの導入について考える	0.5 時間
12	講義内容	助産師の自律(バースセンターの設立経験から)(林)		
	該当する到達目標	予習	院内助産を導入していくために、助産師自身に何が必要かを考える	0.5 時間
	2,3,5	復習	助産師の声明・綱領(日本助産師会)を読み、院内助産を通じた助産師の自律について考える	0.5 時間
13	講義内容	遠隔医療とは(東福寺) (1)遠隔医療とは (2)遠隔医療の歴史 (3)遠隔医療実用上の障害 (4)D to D 遠隔医療 (5)D to P、D to N to P 遠隔医療、オンライン診療 (6)その他の遠隔医療 (7)遠隔禁煙支援と Digital Therapy		
	該当する到達目標	予習	副読本「図説・日本の遠隔医療 2017」(日本遠隔医療学会編)1 章～3 章を通読する。	0.5 時間
	2,3	復習	助産師の立場で、遠隔医療をどのように利用できるかを考え、整理する。	0.5 時間
14	講義内容	IT technology を使った周産期管理 (東福寺) (1)分娩監視装置 (2)遠隔妊婦健診 (3)電子母子手帳		
	該当する到達目標	予習	副読本「図説・日本の遠隔医療 2017」(日本遠隔医療学会編)2 章を通読する。	0.5 時間
	2,3	復習	周産期管理への ICT 応用を整理する。	0.5 時間
15	講義内容	Presentation 私が開所したい助産所(寺口)		
	該当する到達目標	予習	presentation の用意:助産所の理念・業務内容・人員配置・マップほか	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	お互いの発表を共有し、さらに自己の考察を深める	0.5 時間

- ・助産所では予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。
- ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 45 時間を行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。

①オフィスアワー:火曜日 12 時～13 時、5 号館 4 階 409 研究室

②随時メールでも受け付ける。 E-mail: teraguchi # takasaki-u.ac.jp (寺口)

(#を@に変換すること)

科 目 名		助産学特論Ⅳ(母子保健政策論)													
英 文 名		Advanced Theory of MidwiferyⅣ (Maternal and Child Health Politics)													
担 当 教 員		大石 時子、菊地 栄、中林千晶、山本詩子													
時期・単位		2 年次 前期 必修 1 単位													
講 義 目 標		母子保健、女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように策定され実施されていくのかを理解する													
到 達 目 標		1. 母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策を理解し説明ができる。 2. 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように変遷してきたかを理解できる 3. 政策策定過程に影響を及ぼす団体(助産師職能団体・NPO 法人・女性団体等)の役割を理解できる。 4. 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように現実に実践されているのかを理解し、説明できる。 5. 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
		研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			3		5										16
評 価 方 法	レポート(100%) 「母子保健・女性の健康のために必要な政策改善と方法についての私の考え」														
課題に対する フィードバック	質問に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。														
使 用 教 材	参考図書: ①福井トシ子編、助産師業務要覧、日本看護協会出版会 ②産み育てと助産の歴史、2016、医学書院、 その他資料で提供”														
1	講 義 内 容	助産師と母子保健政策(大石)													
	該当する到達目標	予 習	地域母子保健論の復習をする												1.5 時間
	1,2,3	復 習	歴史と助産師の関連について復習する												1.5 時間
2	講 義 内 容	母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策(菊地)													
	該当する到達目標	予 習	母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく												1.5 時間
	1	復 習	関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる												1.5 時間
3	講 義 内 容	母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策の変遷(菊地)													
	該当する到達目標	予 習	母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく												1.5 時間
	1,2	復 習	関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる												1.5 時間
4	講 義 内 容	日本助産師会における政策要望活動等(山本)													
	該当する到達目標	予 習	日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る												1.5 時間
	1,3	復 習	職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる												1.5 時間
5	講 義 内 容	日本助産師会における政策要望活動等(山本)													
	該当する到達目標	予 習	日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る												1.5 時間
	1,3	復 習	職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる												1.5 時間
6	講 義 内 容	県レベルにおける母子保健政策実施(中林)													

	該当する到達目標 2,4	予 習	群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる	1.5 時間
		復 習	母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する	1.5 時間
7	講 義 内 容		県レベルにおける母子保健政策実施(中林)	
	該当する到達目標 2,4	予 習	群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる	1.5 時間
		復 習	母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する	1.5 時間
	講 義 内 容		まとめ(大石) 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策の中から一つを選び、その歴史的変遷と現在の政策を振り返り、今後どのような方策が必要か発表する	
8	該当する到達目標 5	予 習	今までの授業から現在の母子保健政策を歴史の中に位置づけてみる	1.5 時間
		復 習	母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する	1.5 時間
備考	・各施設で、予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。			
	①オフィスアワー:火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室 ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp(大石) (#を@に変換すること)			

科 目 名		助産における補完代替医療														
英 文 名		Complementary and Alternative Care in Midwifery														
担 当 教 員		今関 節子、山西 加織														
時 期・単位		2 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		女性のライフスタイルをホリスティックに観て、一人ひとりの状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に女性の性と生殖にあてて、その目的、適用、実際を習得する。														
到 達 目 標		1.助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたって、安全性の確認と倫理性について説明できる。 2.各種補完代替医療を正しく理解し、十分な習得の下で適切に実施できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③												
評 価 方 法		レポート(100%) 各補完代替法実施後、各自確認して様式に沿って提出された記録により評価する。														
課題に対する フィードバック		毎回提出された記録に対して、コメントし、評価する。														
使 用 教 材		①松本清一・他著:妊産婦体操の理論と実際、全国保健センター連合会 ②鮫島浩二:女性によく効くアロマセラピー、主婦の友社 ③今西二郎:医療従事者のための補完・代替医療、金芳堂														
1	講 義 内 容	科目オリエンテーション 補完代替医療とリスクマネジメント(今関)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	シラバスの内容を読み、授業の内容を理解する。												1.5 時間	
		復 習	オリエンテーションの内容を確認するとともに助産師に求められる守備範囲について法や事例を通して確認し、記録を提出する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	ヨガの基礎理論(山西)														
	該当する到達目標 2	予 習	ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。												1.5 時間	
		復 習	授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	ヨガの実際(山西)														
	該当する到達目標 2	予 習	ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。												1.5 時間	
		復 習	授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	妊産婦エクササイズの理論(今関)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。												1.5 時間	
		復 習	授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	妊産婦エクササイズの実際(今関)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。												1.5 時間	

		復習	授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。	1.5 時間
6	講義内容		産痛緩和法の理論と実際 マッサージ・呼吸法(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	あらかじめ配布してある資料に基づいて、内容を理解して授業に臨む。	1.5 時間
		復習	学習した産痛緩和法を実際に行って確認し、産痛緩和法一つを選んで様式に沿って記録し提出する。	1.5 時間
7	講義内容		産痛緩和法の理論と実際 身体的・心理的リラクゼーション(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	あらかじめ配布してある資料に基づいて、内容を理解して授業に臨む。	1.5 時間
		復習	学習した産痛緩和法を実際に行って確認し、産痛緩和法一つを選んで様式に沿って記録し提出する。	1.5 時間
8	講義内容		アロマ・ハーブに使われる精油・植物(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	資料を参考に身近で可能なハーブの植物を採取してくる。	1.5 時間
		復習	学習したアロマセラピーや、ハーブティーを日常に応用して様式に沿って記録し、提出する。	1.5 時間
9	講義内容		女性のライフサイクルとアロマセラピー(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	資料を参考に身近で可能なハーブの植物を採取してくる。	1.5 時間
		復習	学習したアロマセラピーや、ハーブティーを日常に応用して様式に沿って記録し、提出する。	1.5 時間
10	講義内容		リフレクソロジーの基礎理論(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。	1.5 時間
		復習	各種技法を実際に実施し、様式に沿って記録し提出する。	1.5 時間
11	講義内容		リフレクソロジーの実際(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。	1.5 時間
		復習	各種技法を実際に実施し、様式に沿って記録し提出する。	1.5 時間
12	講義内容		ツボの基礎理論(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。	1.5 時間
		復習	周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。	1.5 時間
13	講義内容		ツボの女性・妊産婦ケアへの適用(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。	1.5 時間
		復習	周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。	1.5 時間
14	講義内容		産後の骨盤エクササイズの理論と実際(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	産後の骨盤と筋・靱帯の変化を理解して授業に出席する。	1.5 時間
		復習	骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。	1.5 時間
15	講義内容		快適なコンチネンスのための骨盤底筋エクササイズの理論と実際(今関)	
	該当する到達目標	予習	産後の骨盤と筋・靱帯の変化を理解して授業に出席する。	1.5 時間

	1,2			
		復習	骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。	1.5 時間
備考	・授業の実施場所は、2・3 回目は 8 号館 1F イベントホール、他はすべて助産学実習室。いつでも運動と水分補給ができるように準備して臨む。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合は下記の方法で対応する。 オフィスアワーおよびメールアドレスは初回講義時に提示			

科 目 名		女性のフィジカルアセスメント														
英 文 名		Physical Assessment of Women														
担 当 教 員		大石 時子、新井 基子														
時 期・単位		1 年次 前期 必修 2 単位														
講 義 目 標		女性に対する性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。														
到 達 目 標		1.助産師が行うべき女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの診察項目、診察技法、評価について説明出来る。 2.女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された観察・計測機器について、操作法と観察事項の評価について説明出来る。 3.女性の生殖器の診察と評価および検体採取について演習で実施できる。														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
			研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				3											16	
評 価 方 法		実技試験(100%)														
課題に対する フィードバック		演習において、その場で講評・コメントする。														
使 用 教 材		教科書:大石時子・他:助産師のためのフィジカルイグザミネーション, 医学書院 参考書:学部で使用したフィジカルアセスメントの教科書等														
1	講 義 内 容	助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義(大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書序章、I-1 を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	看護診断と助産診断の相違を考察する												1.5 時間	
2	講 義 内 容	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント (大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	診察技術を練習する												1.5 時間	
3	講 義 内 容	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント (大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	診察技術を練習する												1.5 時間	
4	講 義 内 容	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント (大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	診察技術を練習する												1.5 時間	
5	講 義 内 容	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント (大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	診察技術を練習する												1.5 時間	
6	講 義 内 容	婦人科的診察 ・検体採取法、アセスメントの実際(大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-5 を読む												1.5 時間	
	1,2,3	復 習	技術テストに向け練習を行う												1.5 時間	
7	講 義 内 容	婦人科的診察														

		・検体採取法、アセスメントの実際(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-5 を読む	1.5 時間
	1,2,3	復 習	技術テストに向け練習を行う	1.5 時間
8	講 義 内 容	乳房の診察法の基礎理論(新井)		
	該当する到達目標	予 習	教科書IV-3,4 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	配布資料の理解を確認する	1.5 時間
9	講 義 内 容	乳房の診察法とアセスメントの実際(新井)		
	該当する到達目標	予 習	教科書IV-3,4 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	配布資料の理解を確認する	1.5 時間
10	講 義 内 容	胸部、の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
11	講 義 内 容	胸部、の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
12	講 義 内 容	胸部、の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
13	講 義 内 容	胸部、の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
14	講 義 内 容	腹部、手足の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3,4 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
15	講 義 内 容	腹部、手足の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3,4 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
備 考	・主体的に演習に参加する。 ・自律的に技術の練習をする。 ・技術で得た身体所見をアセスメントする ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 45 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。 オフィスアワー:火曜日 12～13 時、5 号館 3 階 306 研究室(大石) E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp(大石) (#を@に変換すること)			

科 目 名		産婦人科医学診断													
英 文 名		Gynecology Diagnosis													
担 当 教 員		篠崎 博光、曾田 雅之、中村 和人													
時 期・単位		1 年次 前期 選択 1 単位													
講 義 目 標		女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。													
到 達 目 標		1.医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。 2.婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。 3.女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。 4.生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解し、女性の健康支援における研究シーズを獲得する。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			3	4											
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(30%) レポート(70%)													
課題に対する フィードバック		講義開始時に学習内容についての質問を提示し、講義終了時にフィードバックを行う。													
使 用 教 材		テキスト:岡井 崇:標準産婦人科学(STANDARD TEXTBOOK), 医学書院													
1	講 義 内 容	女性生殖器の構造・女性の性機能(篠崎)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補充する。												2 時間
2	講 義 内 容	女性のライフサイクルと健康課題(篠崎)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補充する。												2 時間
3	講 義 内 容	月経異常 女子アスリートとウィメンズヘルス(篠崎)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補充する。												2 時間
4	講 義 内 容	産婦人科検査(画像診断)(篠崎)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補充する。												2 時間
5	講 義 内 容	女性性器の疾患①(中村)													
	該当する到達目標	予 習	女性性器の感染症・良性腫瘍の内容について、テキストを用いて包括的に把握しておく。												1 時間
	2,3,4	復 習	テキスト・資料をもとにして内容の確認を行う。												2 時間
6	講 義 内 容	女性性器の疾患②(中村)													
	該当する到達目標	予 習	婦人科悪性腫瘍の各々について、特徴を事前に理解しておく。												1 時間
	2,3,4	復 習	テキストと実地臨床との違いを確認し、知識を整理する。												2 時間
7	講 義 内 容	加齢と疾患、更年期と更年期障害(曾田)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間

	1,2,3,4	復習	不足する学習内容を補充する。	2 時間
8	講義内容	加齢と疾患、骨粗鬆症(曾田)		
	該当する到達目標	予習	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	不足する学習内容を補充する。	2 時間
備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名	新生児学															
英 文 名	Neonatology															
担 当 教 員	丸山 憲一															
時 期・単位	1 年次 前期 必修 1 単位															
講 義 目 標	新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を修得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。															
到 達 目 標	1.新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。 2.新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3.ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。 4.緊急時に対応できる知識を理解できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③													
評 価 方 法	レポート(50%)および口頭発表(50%)で総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック	口頭発表時に、発表内容についてディスカッションするとともに講評、コメントする。															
使 用 教 材	テキスト:仁志田博司:新生児学入門(第5版), 医学書院															
1	講 義 内 容	新生児学総論、ハイリスク新生児の評価														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。													0.25 時間
	1,2,3,	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。													0.5 時間
2	講 義 内 容	新生児診断学														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。													0.25 時間
	1,2,3,	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。													0.5 時間
3	講 義 内 容	新生児の生理、発達														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。													0.25 時間
	1,2,3,	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。													0.5 時間
4	講 義 内 容	新生児の養護と管理(ハイリスク新生児、NICU 入院児を含む)														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。													0.25 時間
	1,2,3,4	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。													0.5 時間
5	講 義 内 容	体温調節と保温														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。													0.25 時間
	1,2,3,4	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。													0.5 時間

6	講義内容	栄養の基礎と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
7	講義内容	水—電解質バランス		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
8	講義内容	内分泌系・代謝系の異常		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
9	講義内容	内分泌系・代謝系の異常と管理		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
10	講義内容	呼吸器系の生理と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
11	講義内容	循環器系の基礎と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
12	講義内容	黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	【復習】講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
13	講義内容	免疫系と感染		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
14	講義内容	中枢神経系の障害と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
15	講義内容	先天異常と遺伝、主要疾患の病態と整理		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 45 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名		周産期ハイリスク論 I														
英 文 名		High risk of Perinatal Complications I														
担 当 教 員		伊藤 理廣、竹中 恒久														
時 期・単位		1 年次 後期 必修 1 単位														
講 義 目 標		妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。														
到 達 目 標		1.妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べることができる。 2.妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3.緊急時に対応できる知識を学ぶ。														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
		✓	研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連																
評 価 方 法		筆記試験(100%)														
課題に対する フィードバック		第 4 回以降の講義では、毎回、前回の学習内容についての小テストを行う。														
使 用 教 材		標準産科婦人科学 第 5 版 綾部琢哉 医学書院 (ISBN:978-4-260-04265-9)														
1	講 義 内 容	胎児の発生と出生前診断(伊藤)														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。												0.25 時間	
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												0.5 時間	
2	講 義 内 容	不妊症(伊藤)														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。												0.25 時間	
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												0.5 時間	
3	講 義 内 容	不育症(伊藤)														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。												0.25 時間	
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												0.5 時間	
4	講 義 内 容	妊娠の異常: つわり、妊娠悪阻、流産・切迫流産、異所性妊娠(竹中)														
	該当する到達目標	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。												0.25 時間	
	1,2	復 習	当日学習した要点を整理する。												0.5 時間	
5	講 義 内 容	妊娠の異常: 多胎妊娠、卵巣腫大、胎児形態異常、妊娠高血圧症候群(竹中)														
	該当する到達目標	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。												0.25 時間	
	1,2	復 習	当日学習した要点を整理する。												0.5 時間	
6	講 義 内 容	妊娠の異常: 早産・切迫早産、過期妊娠・過期産、血液型不適合妊娠(竹中)														
	該当する到達目標	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。												0.25 時間	
	1,2	復 習	当日学習した要点を整理する。												0.5 時間	
7	講 義 内 容	妊娠の異常: 羊水の異常、胎盤・臍帯の異常、胎児発育不全、巨大児、胎児疾患(竹中)														
	該当する到達目標	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。												0.25 時間	
	1,2	復 習	当日学習した要点を整理する。												0.5 時間	
8	講 義 内 容	合併症妊娠・偶発合併症: 外陰腫疾患、子宮疾患、卵巣の疾患、心血管疾患、血液疾患(竹中)														

	該当する到達目標 1,2	予習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
9	講義内容		合併症妊娠・偶発合併症：腎・泌尿器系疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、糖代謝異常、甲状腺機能異常、精神神経疾患（竹中）	
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
10	講義内容		合併症妊娠・偶発合併症：母子感染、環境要因と胎児障害（竹中）	
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
11	講義内容		分娩の異常：前期破水、陣痛の異常、産道の異常、児頭骨盤不均衡、回旋・胎勢・進入の異常（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
12	講義内容		分娩の異常：胎位の異常、遷延分娩、胎児機能不全（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
13	講義内容		分娩の異常：産道損傷、弛緩出血、子宮内反症、羊水塞栓症、出血と産科ショック（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
14	講義内容		分娩の異常：ハイリスク分娩の管理 産科処置：産科手術、分娩誘発・陣痛促進（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
15	講義内容		産科処置：産科麻酔 産褥期の異常：静脈血栓症、肺血栓塞栓症、産褥感染症、産褥期の精神疾患、恥骨結合離開（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
備考	・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名		周産期ハイリスク論Ⅱ														
英 文 名		High risk of Perinatal Complications Ⅱ														
担 当 教 員		伊藤 雄二、丸山 憲一、竹中 俊文、吉田 光典、増山 葉月														
時 期・単位		1 年次 後期 必修 2 単位														
講 義 目 標		周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した、助産に当然付随する行為と臨時応急の処置として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。														
到 達 目 標		1.超音波装置による診察と画像の評価の基礎が演習でできる。 2.会陰裂傷の評価と縫合の基礎が演習でできる。 3.妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③												
評 価 方 法		筆記試験(60%) 演習レポート(40%)														
課題に対する フィードバック		講義および実習中に逐次ディスカッションを行い、その都度講評・コメントする。 試験終了後、結果について講評、コメントを行う。														
使 用 教 材		テキスト:①荒木勤:最新産科学(異常編), 文光堂 ②岡井崇・綾部琢哉:標準産婦人科学(第 4 版), 医学書院 参考書:①馬場一憲:基礎からわかる産婦人科超音波診断, 東京医学社 ②藤森敬:胎児心拍数モニタリング講座(第 2 版), メディカ出版 ③進純郎・堀口成子:正常分娩の助産術—トラブルへの対応と会陰裂傷縫合(ブラッシュアップ助産学), 医学書院 ④田村正徳:日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト(第 3 版), メジカルビュー社 ⑤村越毅・加藤智子:産科の必須手技ベスト 58—本当に知っていた技とコツ, メディカ出版														
1	講 義 内 容	超音波診断の理論と基本操作(竹中)														
	該当する到達目標 1	予 習	超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。												1.5 時間	
		復 習	超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	超音波診断の理論と基本操作(竹中)														
	該当する到達目標 1	予 習	超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。												1.5 時間	
		復 習	【復習】超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	胎児とその付属物の評価と診断(超音波診断)実技(竹中)														
	該当する到達目標 1	予 習	妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。												1.5 時間	
		復 習	実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	胎児とその付属物の評価と診断(超音波診断)実技(竹中)														
	該当する到達目標 1	予 習	妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。												1.5 時間	
		復 習	実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	超音波検査の実際と画像評価(増山)														
	該当する到達目標 1	予 習	出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復習しておく。												1.5 時間	
		復 習	自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。												1.5 時間	

6	講義内容	超音波検査の実際と画像評価(増山)		
	該当する到達目標 1	予習	出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復習しておく。	1.5 時間
		復習	自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
7	講義内容	分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技(吉田)		
	該当する到達目標 3	予習	胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。	1.5 時間
		復習	実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。	1.5 時間
8	講義内容	分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技(吉田)		
	該当する到達目標 3	予習	胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。	1.5 時間
		復習	実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。	1.5 時間
9	講義内容	産道の異常:会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論(吉田)		
	該当する到達目標 2	予習	骨盤底の解剖を理解する。	1.5 時間
		復習	助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。	1.5 時間
10	講義内容	産道の異常:会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論(吉田)		
	該当する到達目標 2	予習	骨盤底の解剖を理解する。	1.5 時間
		復習	助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。	1.5 時間
11	講義内容	産道の異常:会陰縫合術基本の実際(吉田)		
	該当する到達目標 2	予習	会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。	1.5 時間
		復習	基本的な縫合や糸結びを確認する。	1.5 時間
12	講義内容	産道の異常:会陰縫合術基本の実際(吉田)		
	該当する到達目標 2	予習	会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。	1.5 時間
		復習	基本的な縫合や糸結びを確認する。	1.5 時間
13	講義内容	分娩時の出血とその対処(胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血)(伊藤)		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
		復習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	分娩時の出血とその対処(胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血)(伊藤)		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
		復習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
15	講義内容	産科救急(産科ショック、薬物療法)(伊藤)		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
		復習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
16	講義内容	産科救急(産科ショック、薬物療法)(伊藤)		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
		復習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
17	講義内容	産科救急(産科ショック、帝王切開術を含む)(伊藤)		

	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義の内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
18	講 義 内 容	産科救急(産科ショック、帝王切開術を含む)(伊藤)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義の内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
19	講 義 内 容	娩出力の異常:吸引・鉗子分娩とその介助(伊藤)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
20	講 義 内 容	娩出力の異常:吸引・鉗子分娩とその介助(伊藤)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
21	講 義 内 容	娩出力の異常:骨盤位分娩とその介助(伊藤)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
22	講 義 内 容	新生児の異常と画像評価(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	今までの新生児の異常編の授業を復習しておく	1.5 時間
	3	復 習	新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する	1.5 時間
23	講 義 内 容	新生児の異常と画像評価(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	今までの新生児の異常編の授業を復習しておく	1.5 時間
	3	復 習	新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する	1.5 時間
24	講 義 内 容	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
25	講 義 内 容	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
26	講 義 内 容	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
27	講 義 内 容	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
28	講 義 内 容	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論(丸山)		

	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
29	講 義 内 容	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
30	講 義 内 容	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
備 考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 90 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科目名		地域母子保健実習															
英文名		Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community															
担当教員		大石 時子															
時期・単位		2 年次 前期 選択 1 単位															
講義目標		特に乳児 4 か月までを対象として、地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実際を調査し、より有効で新たな地域包括子育て支援の仕組みを考察し、実践活動能力の基礎を養う。															
到達目標		1.地域診断の基本を理解し、説明ができる。 2.地域のアセスメントをし、乳児 4 か月までの地域母子保健の課題を見いだせる。 3.地域で実践されている地域包括子育て支援事業等を理解する。 4.事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、実施できる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
			研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGsと の関連			3		5											16	
評価方法		レポート(100%)															
課題に対する フィードバック		レポート返却時に口頭または書面で feedback する															
使用教材		参考書:①群馬県保健要覧, 群馬県保健予防課 ②わが国の母子保健, 母子衛生研究会 ③母子保健の主なる統計, 母子衛生研究会															
講義内容		第 1 日	・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス														
		第 2 日	・女性の健康問題、DV 等 ・多胎児、産後ケア、産後訪問 ・メンタルヘルス、子育て支援、虐待等の全国及び県内の状況調査														
		第 3 日	・妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップ ・妊産婦、新生児、乳幼児等の電話訪問指導の企画														
		第 4 日	・地域包括産後ケアシステムの企画														
		第 5 日	・グループワーク:産後ケアの企画から評価まで学内演習、まとめ														
		予習	わが国の母子保健 (母子衛生研究会)を読む。													期間中適宜	
		復習	母子保健の主なる統計(母子衛生研究会)を読む。													期間中適宜	
備考		メールアドレスは次の通り。oishi-t#takasaki-u.ac.jp (大石) (#を@に変換すること) ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館3階 306 研究室 受講に関しては履修登録が必要。 事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。 1 週間(5 日間)=45 時間															

科 目 名	国際助産論															
英 文 名	International Midwifery															
担 当 教 員	大石 時子															
時 期・単 位	1年次 通年 選択1単位															
講 義 目 標	Global 化する世界の中での 国際母子保健と women's health の課題を知り、助産師が果たす役割を理解する。またそのために活動している国際組織を知り、その活動内容を理解する。近年急増する在日外国人家族や在外日本人家族の母子保健と women's health に関するニーズを理解し、助産師が実践できるケアを考察する。															
到 達 目 標	1. 世界での母子の健康状態の特徴がわかる 2. Global 化の中での women's health の課題がわかる 3. 世界の women's health や母子保健に果たす国際機関の役割がわかる 4. 在日外国人女性の women's health や母子保健の現状と課題がわかる 5. 国内外で助産師がはたすべき役割がわかる															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連	1		3		5					10						16
評 価 方 法	レポート（70%） 参加度（30%）															
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。															
使 用 教 材	随時、資料を提示する。参考書： 医学書院、助産学講座 9、地域母子保健・国際母子保健															
1	講 義 内 容	助産学と国際社会（大石）														
	該当する到達目標 1	予 習	助産師が世界でどのような活動をしているか調べる													1.5 時間
		復 習	助産師が世界で実践している活動を復習し、その役割を考察する													1.5 時間
2	講 義 内 容	国際母子保健（大石）														
	該当する到達目標 1, 2	予 習	日本の母子保健の指標を復習しておく													1.5 時間
		復 習	日本の母子保健の指標を世界と比較し、国際母子保健の課題を考察する													1.5 時間
3	講 義 内 容	国際的な women's health の課題（大石）														
	該当する到達目標 1, 2, 3	予 習	世界での人口移動がどのように行われているか調べる													1.5 時間
		復 習	世界と日本が女性の健康に関してどのように関連し合っているかを考察し、助産師の課題を考える													1.5 時間
4	講 義 内 容	在日外国人女性の現状と健康（大石）														
	該当する到達目標 4, 5	予 習	日本や群馬県に在住する外国人の統計を調べる													1.5 時間
		復 習	助産師の役割を考察する													1.5 時間
5	講 義 内 容	在日外国人の母子保健（大石）														
	該当する到達目標 4, 5	予 習	日本や群馬県に在住する外国人の母子保健統計を調べる													1.5 時間
		復 習	助産師の役割を考察する													1.5 時間
6	講 義 内 容	在外日本人の母子保健と Women's Health （大石）														
	該当する到達目標 3, 5	予 習	参考書の 6 章 B を読む													1.5 時間
		復 習	助産師が国際的に連携する意義について考察する													1.5 時間
7	講 義 内 容	助産に関わる国際組織の活動（大石）														

	該当する到達目標 3, 5	予 習	WHO, UNFPA, ICM の HP を調べる	1.5 時間
		復 習	国際組織が果たす役割についてまとめる	1.5 時間
8	講 義 内 容	助産実践と助産教育の国際比較 （大石）		
	該当する到達目標 3, 5	予 習	ICM の HP をみしておく	1.5 時間
		復 習	助産教育と実践の違いが、世界の女性の健康におよぼす影響について考察する	1.5 時間
備 考	・主体的に discussion に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館3階 306 研究室 E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp (大石) （#を@に変換すること）			

科 目 名	女性のメンタルヘルスとジェンダー															
英 文 名	Women's Mental health issues in gender's perspective															
担 当 教 員	大石時子、長江美代子、川畑智子															
時 期・単位	1 年 後期 1 単位 選択															
講 義 目 標	1. 女性が歴史的、経済的、社会的に置かれている立場の理解を図る 2. 女性の社会的立場がメンタルヘルスに及ぼす影響を考察できるようにする 3. メンタルヘルスが女性の一生の健康に及ぼす影響を理解し考察できるようにする 4. 助産師としての早期発見の技術とケア方法の理解を深める 5. 助産師としての課題と解決策を gender の視点から考察できるようにする。															
到 達 目 標	10. 女性特有のメンタルヘルスの課題を説明できる 11. 女性が歴史的、経済的、社会的に置かれている立場を説明できる 3. ジェンダーが女性のメンタルヘルスに及ぼす影響を説明できる 4. 助産師としての早期発見の技術とケア方法を説明できる 5. 助産師としてジェンダーに関連したメンタルヘルスの課題を解決していく方法を考察できる															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法	授業参加度・貢献度(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック	その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。															
使 用 教 材	授業時にその都度提示する															
1	講 義 内 容	女性のメンタルヘルスの諸問題（大石）														
	該当する到達目標	予 習	Women's health、周産期のメンタルヘルスについて復習しておく												1.5 時間	
	1	復 習	どのようなメンタルヘルスの諸問題があるか復習し、その原因を考える												1.5 時間	
2	講 義 内 容	歴史、経済、政治的視点から社会の中での女性の立場を客観視する（川畑）														
	該当する到達目標	予 習	ニュースから関心を持った女性の事件を調べてみる												1.5 時間	
	2	復 習	女性の事件を社会学的立場から考察する												1.5 時間	
3	講 義 内 容	Gender が女性の健康・メンタルヘルスに及ぼす影響（川畑）														
	該当する到達目標	予 習	Gender の概念について復習しておく												1.5 時間	
	3	復 習	Gender が女性の健康・メンタルヘルスに及ぼす影響を復習する												1.5 時間	
4	講 義 内 容	DV、性暴力は何故起こり、どのように女性の一生の健康に影響するか(長江)														
	該当する到達目標	予 習	Women's health の講義を復習しておく												1.5 時間	
	1,3	復 習	女性の一生の健康に影響するか復習し考察する												1.5 時間	
5	講 義 内 容	うつ、自殺、PTSD（長江）														
	該当する到達目標	予 習	前回の講義から PTSD を調べておく												1.5 時間	
	1,3	復 習	うつ、自殺、PTSD と女性の社会的立場との関連を考察する												1.5 時間	
6	講 義 内 容	幼児期から思春期、そして周産期への影響（長江）														
	該当する到達目標	予 習	性暴力被害サバイバーの出産について調べておく												1.5 時間	
	1,3	復 習	周産期の臨床を振り返りサバイバーのケアについて考察する												1.5 時間	

7	講義内容	周産期のメンタルヘルス—早期発見の技術とケア方法（長江）		
	該当する到達目標	予習	妊産婦メンタルヘルスケアマニュアルを読む	1.5 時間
	4	復習	周産期のメンタルヘルスを今までの講義から、俯瞰し統合する	1.5 時間
8	講義内容	助産師はどのように女性のメンタルヘルスをケアできるか—gender の視点を踏まえて(大石)		
	該当する到達目標	予習	Presentation を準備する	1.5 時間
	5	復習	授業で討論したことから考察を深める	1.5 時間
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 オフィスアワー: 火曜日 12 時～13 時、 5 号館階 306 研究室 メールでも受け付ける。 E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp（大石）（#を@に変換すること）			

科 目 名		助産学概論														
英 文 名		Introduction to Midwifery														
担 当 教 員		大石 時子、今関 節子														
時 期・単位		1 年次 前期 必修 1 単位														
講 義 目 標		助産とは何かについて、助産の本質、意義、歴史、対象について理解し、専門職としての助産師の業務・責務・役割を認識して、深められる。また、国際的視点から見た助産師の活動、倫理、教育、研究についての理解を通して、各自の中に専門職としての助産師像を持てるようにする。														
到 達 目 標		1.独占業務である助産についての本質と意義を、さまざまな根拠に基づいて説明できる。 2.助産学を支える理論や概念について理解できる。 3.助産師の業務・責務・役割について法的、社会通念的に説明できる。 4.助産と助産師の歴史や文化について、日本独自な特徴や世界に共通した面について理解できる。 5.日本の助産活動を世界の助産師の実践・教育と比較しながら考察できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法	レポート(100%) 「私が目指したい助産師活動」															
課題に対する フィードバック	授業中のディスカッションを重視し、その中で講評・コメントする。															
使 用 教 材	テキスト:①基礎助産学第1巻, 助産学概論, 第6版、医学書院 参考書:①大林道子:助産師の戦後, 勁草書房 ②看護六法, 新法規出版 ③ 福井トシ子編 助産師業務要覧 2022 年版 ④その他講義ごとに資料を準備する。															
1	講 義 内 容	助産学とは(大石)														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。													1.5 時間
	1,2	復 習	科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、看護学との相違を考察する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	助産学に関連する概念と理論(大石) (生命倫理、職業倫理を含む)														
	該当する到達目標	予 習	助産師の声明(日本助産師会)を読む													1.5 時間
	1,2	復 習	助産学を構築する理論、関連する学問領域との探求方法について考察する。													1.5 時間
3	講 義 内 容	助産師と法律(大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書第3章を読む													1.5 時間
	1,3	復 習	助産師独自の権利について復習する													1.5 時間
4	講 義 内 容	助産の歴史(古代から江戸時代、明治・大正・昭和初期)(今関)														
	該当する到達目標	予 習	日本の歴史を高校の教科書で復習してくる。													1.5 時間
	4	復 習	歴史の中で子産み子育てケアの根底にある流れを考察する。													1.5 時間
5	講 義 内 容	助産の歴史(第二次大戦後)(今関)														
	該当する到達目標	予 習	戦後の看護の歴史について復習してくる。													1.5 時間
	4	復 習	助産におけるこれからの展望について、歴史的視点から考察する。													1.5 時間
6	講 義 内 容	日本の助産実践の現状 (大石)														
	該当する到達目標	予 習	日本助産師会の HP から助産院の活動について調べる													1.5 時間

	1,4,5	復習	日本の助産師活動の特徴についてまとめる	1.5 時間
7	講義内容	日本と諸外国での助産師の活動と教育(大石)		
	該当する到達目標	予習	助産師の教育について、助産の歴史の中から復習してくる。	1.5 時間
	1,4,5	復習	日本において期待される助産師活動は何かを考え教育のあり方を考察する。	1.5 時間
8	講義内容	日本の助産師の将来と課題 (大石)		
	該当する到達目標	予習	今までの講義を復習する	1.5 時間
	1,4,5	復習	どのような助産師活動をしたいか考察する。	1.5 時間
備考	・主体的に discussion に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)			

科 目 名	助産健康教育論															
英 文 名	Health education in Midwifery															
担 当 教 員	飯嶋友美、大石時子、茂木佐智子															
時 期・単 位	看護学専攻修士課程 1 年次 後期 必修1単位															
講 義 目 標	助産師は、思春期から老年期にわたる女性やその家族を対象に、健康の保持・増進のための健康教育をする役割を担っている。そのため、本科目では、健康状態・生活スタイル・役割など、著しい変化への対応が求められる周産期にある妊産褥婦やその家族への健康教育や保健指導を実施するための知識・技術・態度を養う。															
到 達 目 標	12. 健康教育の基礎理論や方法論について理解できる。 13. 本科目で学習する理論を用い、助産学生として実施可能な範囲で科学的根拠に基づいた健康教育を企画することができる。 14. 企画した健康教育について、対象者の安全・安楽に配慮しながら実施することができる。 15. 実施した健康教育について、評価することができる。 16. 実施した健康教育について考察し、今後の自己の課題を明確にすることができる。 17. 助産師が行う健康教育の意義についての見解を示すことができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法	対面：講義参加・貢献度(40%)、保健指導や健康教育の企画書の作成とプレゼンテーション(60%)で、総合的に評価する。 オンライン：対面と同様に評価する。															
課題に対する フィードバック	保健指導や健康教育の企画について指導し、プレゼンテーションについて講評をする。															
教科書	①助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ(第5版)、医学書院 (参考図書) ① 助産学講座 1 基礎助産学[1]助産学概論(第5版)、医学書院 ② 助産学講座 2 基礎助産学[2]母子の基礎科学(第5版)、医学書院 ③ 助産学講座 3 基礎助産学[3]母子の健康科学(第5版)、医学書院 ④ 助産学講座 4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学(第5版)、医学書院 ⑤ 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期(第5版)、医学書院 ⑥ 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期(第5版)、医学書院 ⑦ 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期(第5版)、医学書院 ⑧ 助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健(第5版)、医学書院 ⑨ 日本健康教育士養成機構編著：新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道、保健同人社 ⑩ 日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開、保健同人社 ⑪ 鈴木由美：新人看護師、助産師学生、看護し学生のためのマタニティサイクルの実践保健指導 妊娠期、丸善プラネット ⑫ 鈴木由美：新人看護師、助産師学生、看護し学生のためのマタニティサイクルの実践保健指導 産褥期、丸善プラネット															

⑬ 平山三千代、高橋弘枝編著:参加型両親学級そのまま使えるツール集、日総研出版 ⑭ 日本助産師会保健指導部会委員会編集・監修:助産師による思春期の健康教育、日本助産師会出版				
1	講義内容	健康教育と助産師(大石)		
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を確認する。	0.5 時間
	1.2.6	復習	助産学実習Ⅰで見学した助産師が行う保健指導や健康教育について復習する。	0.5 時間
2	講義内容	健康教育の基礎理論(大石)		
	該当する到達目標	予習	行動変容理論について調べる。	0.5 時間
	1.2.6	復習	行動変容理論の健康教育への活用について考える。	0.5 時間
3	講義内容	健康教育の方法(茂木)		
	該当する到達目標	予習	教科書①の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	0.5 時間
	1.2.6	復習	配布資料を基に、講義内容の理解を深める。	0.5 時間
4	講義内容	健康教育の方法(茂木)		
	該当する到達目標	予習	教科書①の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	0.5 時間
	1.2.6	復習	配布資料を基に、講義内容の理解を深める。	0.5 時間
5	講義内容	健康教育の企画書の作成①(飯嶋) ・対象者・健康教育の意義・目的・目標の設定		
	該当する到達目標	予習	健康教育企画について、自己の取り組みたい内容を考える。	0.5 時間
	1.2.3.6	復習	企画する健康教育の意義・目的・目標について検討する。	0.5 時間
6	講義内容	健康教育の企画書の作成②(飯嶋) ・健康教育計画シートの作成		
	該当する到達目標	予習	参考図書⑩の第2章を通読し、学習内容を確認する。	0.5 時間
	1.2.3.6	復習	健康教育計画シートの作成をする。	0.5 時間
7	講義内容	健康教育の企画書の作成③(飯嶋) ・企画内容・シナリオの検討・評価方法の検討		
	該当する到達目標	予習	具体的な健康教育の内容について考える。	0.5 時間
	1.2.3.6	復習	企画内容・シナリオの検討・評価方法について検討する。	0.5 時間
8	講義内容	健康教育の企画書の作成③(飯嶋) ・企画内容・シナリオの検討・評価方法の検討		
	該当する到達目標	予習	企画内容・シナリオの検討・評価方法について調べる。	0.5 時間
	1.2.3.6	復習	企画内容・シナリオの検討・評価方法について検討する。	0.5 時間
9	講義内容	健康教育の企画書の作成③(飯嶋) ・企画内容・シナリオの検討・評価方法の検討		
	該当する到達目標	予習	企画内容・シナリオの検討・評価方法について検討する。	0.5 時間
	1.2.3.6	復習	教育媒体について調べる。	0.5 時間
10	講義内容	健康教育の企画書の作成④(飯嶋) ・教育媒体の作成		
	該当する到達目標	予習	効果的な教育媒体について考える。	0.5 時間
	1.2.3.6	復習	教育媒体を作成する。	0.5 時間
11	講義内容	健康教育の企画書の作成④(飯嶋) ・教育媒体の作成		
	該当する到達目標	予習	教育媒体を作成する。	0.5 時間
	1.2.3.6	復習	プレゼンテーション資料の作成をする。	0.5 時間

12	講義内容	健康教育の企画書の作成④(飯嶋) ・健康教育プレゼンテーションの練習		
	該当する到達目標	予習	健康教育企画の見直しと練習をする。	0.5 時間
	1.2.3.4.6	復習	学生間で健康教育企画内容の修正をする。	0.5 時間
13	講義内容	保健指導・健康教育の実施(リハーサル)と評価		
	該当する到達目標	予習	実施に向けて、健康教育企画内容を練習する。	0.5 時間
	1.2.3.4.5.6	復習	教員に指摘された内容についてディスカッションし、企画修正について考える。	0.5 時間
14	講義内容	保健指導・健康教育の企画修正		
	該当する到達目標	予習	教員に指摘された内容についてディスカッションした内容について、企画修正をする。	0.5 時間
	1.2.3.4.5.6	復習	より良い健康教育の実施ができるように練習する。	0.5 時間
15	講義内容	保健指導・健康教育の実施と評価		
	該当する到達目標	予習	健康教育企画の留意点を再確認する。	0.5 時間
	1.2.3.4.5.6	復習	対象者や教員からの評価を受け、今後の改善策について考える。	0.5 時間
備考	・オフィスアワー: 質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる(オンライン時も同様)。そのほかにもメールにて随時対応する。 ・メールアドレス: ijima-y@takasaki-u.ac.jp (#→@) ・予習や復習に必要な時間は最低限の時間を表示するが、あくまでも参考程度であり、単位習得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。この科目の単位を修得するためには、講義・演習時間(90 分×15 回)＋自習時間(15 時間)が必要です。 ・自律的に講義・演習の時間外を利用しての企画の検討や修正、プレゼンテーション練習を行う。 ・健康教育を実施する際には、対象者や実施場所に適した服装で実施する(ユニフォームもしくはスーツ等)。 ・健康教育の対象者や実施時期・場所は、感染症や医療情勢に合わせて調整する。			

科 目 名	妊娠期の助産診断技術学															
英 文 名	Midwifery Diagnosis and Skills in Pregnancy															
担 当 教 員	寺口 顕子、行田 智子															
時期・単位	1 年次 前期 必修 2 単位															
講 義 目 標	妊婦と胎児の生理的経過を理解し、その健康状態を診断し、リスクアセスメントをするために必要な知識・技術を習得する。診断に基づき、妊婦と胎児、家族に対する支援と健康教育に必要な知識と技術を習得する。															
到達目標	1. 妊娠の生理的経過と正常逸脱を早期発見するためのアセスメントを説明することができる。 2. 妊婦診察に必要な基本的技術を実践することができる。 3. 妊婦・胎児の健康状態と家族の適応に関する助産過程の展開を説明することができる。 4. 助産診断に基づいて必要な助産ケア・健康教育を演習で実践することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	17
評 価 方 法	対 面:筆記試験(50%)、実技・レポート(保健指導案含む、50%) オンライン:筆記試験(C-learning, 30%)、講義の参加度・実技演習(on-line、代替方法による)(30%)、レポート(事例の助産過程展開・保健指導案含む、40%)															
課題に対する フィードバック	対 面: 事例を用いた助産過程の展開、健康教育に関する演習に当たりコメントする。 オンライン:講義の中でのコメント、保健指導計画・事例の助産過程へのコメントをオンラインで行う。															
使 用 教 材	テキスト 1. 堀内成子:助産診断・技術学Ⅰ、助産学講座 5、医学書院 2. 我部山キヨ子・武谷雄二:助産診断・技術学Ⅱ、助産学講座 6 妊娠期、医学書院 参考書 1. 北川真理子・内山和美編:今日の助産、改訂第 4 版、南山堂 2. 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集・監修:産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020、日本産科婦人科学会 3. 日本助産診断実践学会編:マタニティ診断ガイドブック、第 6 版、医学書院 4. 医療情報科学研究所:病気がみえる vol.10 産科、改訂第 4 版、メディックメディア その他、講義の中で紹介する。															
1	講 義 内 容	女性生殖器の構造と機能 1(寺口)														
	該当する到達目標	予 習	科目目標を読み、確認する。													0.5 時間
	1,2	復 習	女性生殖器の機能と構造について講義内容を振り返り、理解する。													0.5 時間
2	講 義 内 容	女性生殖器の構造と機能 2(寺口)														
	該当する到達目標	予 習	妊娠の生理についてテキストの該当箇所を読む。													0.5 時間
	1,2	復 習	妊娠による生殖器の変化を理解する。													0.5 時間
3	講 義 内 容	助産診断の概念と助産過程(寺口)														
	該当する到達目標	予 習	看護診断の類型について各自振り返ってくる。													0.5 時間
	1,3	復 習	助産診断過程の概要を振り返り、理解する。													0.5 時間
4	講 義 内 容	妊娠期の助産診断1ー妊娠の診断、妊娠時期の診断(寺口)														
	該当する到達目標	予 習	妊娠の診断のために必要な情報についてテキストを読む。													0.5 時間
	1,3	復 習	分娩予定日・妊娠時期の診断について振り返り、その内容を理解する。													0.5 時間

5	講義内容	妊娠期の助産診断2ー妊娠経過の診断(寺口)		
	該当する到達目標 1,3	予習	妊娠に伴う母体の変化について母性看護学の復習をし、テキストの該当箇所を読む。	0.5 時間
		復習	妊娠経過の診断のポイントを理解する。	0.5 時間
6	講義内容	妊娠期の助産診断3ー胎児の健康状態・発育状態(寺口)		
	該当する到達目標 1,3	予習	胎児発育について、テキストの該当箇所を読む。	0.5 時間
		復習	胎児の健康状態の診断のポイントを理解する。	0.5 時間
7	講義内容	妊娠期の助産診断4ー健康生活診断(寺口)		
	該当する到達目標 1,3	予習	マイナートラブルの機序についてテキストを読む。	0.5 時間
		復習	マイナートラブルの機序について理解し、まとめる。	0.5 時間
8	講義内容	妊娠経過に即した情報収集の方法・妊婦診察のためのコミュニケーションスキル(寺口)		
	該当する到達目標 1,2	予習	妊娠の診断に必要な情報(第4講参照)の収集方法についてテキストの該当箇所を確認する。	0.5 時間
		復習	分娩予定日の算出方法・妥当性の確認について理解し、考察する。	0.5 時間
9	講義内容	妊娠期の助産技術1ー妊婦診察(寺口)		
	該当する到達目標 2	予習	腹部触診・計測についてテキストの該当箇所を確認する。	0.5 時間
		復習	胎児の位置を把握する診察方法について考察する。	0.5 時間
10	講義内容	妊娠期の助産技術2ー妊婦診察(寺口)		
	該当する到達目標 2	予習	胎児発育(第6講参照)についてテキストの該当箇所を読む。	0.5 時間
		復習	内診の技術について理解し、トレーニングを行う。	0.5 時間
11	講義内容	妊娠期の助産診断5ー家族の適応(寺口)		
	該当する到達目標 1,3	予習	妊婦・家族の心理・社会的変化についてテキストの該当箇所を読む。	0.5 時間
		復習	家族の移行について考察する。	0.5 時間
12	講義内容	妊娠期の助産診断6ー出産準備(寺口)		
	該当する到達目標 1,3	予習	母親役割獲得についてテキストの該当箇所を読む。	0.5 時間
		復習	出産・育児準備について振り返り、理解する。	0.5 時間
13	講義内容	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント1(行田)		
	該当する到達目標 1,3	予習	妊娠期の異常についてテキストを読む。	0.5 時間
		復習	異常妊娠をまとめる	0.5 時間
14	講義内容	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント2(行田)		
	該当する到達目標 1,3	予習	ハイリスク妊娠についてテキストを読む。	0.5 時間
		復習	DM・高血圧合併妊娠をまとめる。	0.5 時間
15	講義内容	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント3 母子感染、出生前診断(寺口)		
	該当する到達目標 1,3	予習	母子の安全管理についてテキストを読む。	0.5 時間
		復習	感染、出生前診断についてまとめる。	0.5 時間
16	講義内容	妊娠時期別助産ケア1ー妊娠初期・中期(寺口)		
	該当する到達目標 1,4	予習	妊娠届の根拠法を調べる。	0.5 時間
		復習	妊娠期の食事についてまとめる。	0.5 時間
17	講義内容	妊娠時期別助産ケア2ー妊娠後期①(寺口)		
	該当する到達目標 1,4	予習	妊娠後期のマイナートラブルの機序について確認する。	0.5 時間
		復習	マイナートラブルのセルフケアへの支援について考察する。	0.5 時間
18	講義内容	妊婦事例の助産過程の展開1ー妊娠中期①(寺口)		
	該当する到達目標	予習	事例のアセスメントを記述する。	0.5 時間

	1,3,4	復習	アセスメントを確認し、助産過程の展開を理解する。	0.5 時間
19	講義内容		妊婦事例の助産過程の展開2－妊娠中期②(寺口)	
	該当する到達目標	予習	事例の助産診断、目標、計画を記述する。	0.5 時間
	1,3,4	復習	助産計画を振り返り、理解する。	0.5 時間
20	講義内容		妊娠時期別助産ケア3－妊娠後期② バースプラン、産痛緩和・呼吸法(寺口)	
	該当する到達目標	予習	バースプランについてテキストの該当箇所を読む。	0.5 時間
	1,3,4	復習	産痛部位・産痛緩和を理解し、まとめる。	0.5 時間
21	講義内容		妊娠時期別助産ケア4－妊娠後期③ リラクゼーション(寺口)	
	該当する到達目標	予習	妊婦の姿勢・日常生活行動についてテキストの該当箇所を読む。	0.5 時間
	1,3,4	復習	妊婦のリラクゼーションについて考察する。	0.5 時間
22	講義内容		妊娠時期別助産ケア5－母乳育児準備(寺口)	
	該当する到達目標	予習	母乳育児成功のための 10 力条を読む。	0.5 時間
	2,3,4	復習	妊婦の乳房ケアについてまとめる。	0.5 時間
23	講義内容		妊婦事例の助産過程の展開3－妊娠後期①(寺口)	
	該当する到達目標	予習	事例のアセスメント、助産診断、目標を記述する。	0.5 時間
	1,3,4	復習	助産診断を確認し、妊娠後期の助産過程の特性を理解する。	0.5 時間
24	講義内容		妊婦事例の助産過程の展開4－妊娠後期②(寺口)	
	該当する到達目標	予習	事例の助産計画、保健指導内容を記述する。	0.5 時間
	1,3,4	復習	助産計画を振り返り、理解する。	0.5 時間
25	講義内容		保健指導技術(個人、集団)(行田)	
	該当する到達目標	予習	個人指導について確認する。	0.5 時間
	3,4	復習	個人・集団指導の利点と欠点についてまとめる。	0.5 時間
26	講義内容		保健指導技術(個人、集団)(行田)	
	該当する到達目標	予習	集団指導について確認する。	0.5 時間
	3,4	復習	学級運営について振り返り、理解する。	0.5 時間
27	講義内容		診断に基づく健康教育の演習－助産過程の展開1 妊婦の運動 (寺口)	
	該当する到達目標	予習	妊婦運動の安全基準を調べる。	0.5 時間
	3,4	復習	妊婦の運動についてまとめる。	0.5 時間
28	講義内容		診断に基づく健康教育の演習－助産過程の展開2 妊娠性貧血・マイナートラブル・早産予防(寺口)	
	該当する到達目標	予習	妊婦の食生活・排泄コントロールについてテキストの該当箇所を読む。	0.5 時間
	3,4	復習	セルフケア支援について考察する。	0.5 時間
29	講義内容		妊婦健康診査と個別保健指導のシミュレーション1 (寺口)	
	該当する到達目標	予習	妊婦健康診査の観察項目を確認する。	0.5 時間
	2,3,4	復習	中期の保健指導を振り返り、考察する。	0.5 時間
30	講義内容		妊婦健康診査と個別保健指導のシミュレーション2 (寺口)	
	該当する到達目標	予習	妊婦健康診査の観察項目を確認する。	0.5 時間
	2,3,4	復習	後期の保健指導を振り返り、考察する。	0.5 時間
備考	① 予習・復習は全講義を通して 30 時間行うこと。事例を用いた助産過程の展開、健康教育の演習に際しては、各自のアセスメント・計画案作成の上で出席することが必要です。 ② 学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで日時を調整し、研究室で対応します。 なお、メールで問い合わせの際は氏名を記載してください。 メールアドレス teraguchi #takasaki-u.ac.jp オフィスアワー 火曜日 12:00 ～ 13:00、5 号館 409 研究室 (#を@に変換すること)			

科 目 名		分娩期の助産診断技術学Ⅰ															
英 文 名		Midwifery Diagnosis and Skills in Intrapartum Ⅰ															
担 当 教 員		寺口 顕子															
時 期・単位		1 年次 前期 必修 1 単位															
講 義 目 標		産婦・胎児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識・技術を習得する。															
到 達 目 標		1. 分娩機転と分娩経過の理解に基づき、診断に必要なアセスメントの視点を説明できる。 2. 分娩進行を診断するための基本的な診察技術を実践することができる。 3. 正常な分娩経過を促すための支援を説明できる。 4. 産婦に対するケアプランを立案することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
		研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連				3												16	
評 価 方 法		対 面:筆記試験(30%)、助産診断・グループ討議への参加度(50%)、診断技術の演習(20%) オンライン:筆記試験(C-learning、30%)、助産診断・グループ討議への参加度(50%)、診断技術の演習 (代替方法による、または、学内演習 20%)															
課題に対する フィードバック		対 面:ディスカッション・技術演習への助言 オンライン:講義の中でのコメント、事例の助産過程へのコメント(書面にコメント等)を行う。															
使 用 教 材		テキスト: 1. 我部山キヨ子他編:助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期, 医学書院 2. 藤森敬也:改訂 3 版 胎児心拍数モニタリング講座 大事なサインを見逃さない!、メディカ出版 参考書: 1. 平澤美恵子他監修:写真でわかる 助産技術アドバンス 妊産婦の主体性を大切にしたケア、安全で母子に優しい助産のわざ, インターメディカ 2. 北川眞理子・内山和美編:今日の助産、改訂第 4 版、南山堂 3. 日本助産診断実践学会編:マタニティ診断ガイドブック、第 6 版、医学書院 4. 医療情報科学研究所:病気がみえる vol.10 産科、改訂第 4 版、メディックメディア															
1	講 義 内 容	分娩の定義、3 要素ー産道															
	該当する到達目標	予 習	科目の概要を読み、理解する。												15 分		
	1	復 習	分娩の 3 要素についてまとめ、理解する。												30 分		
2	講 義 内 容	分娩のメカニズム															
	該当する到達目標	予 習	骨盤誘導線についてテキストの該当箇所を読む。												15 分		
	1	復 習	分娩機転についてまとめ、理解する。												30 分		
3	講 義 内 容	分娩経過における母体・胎児への影響															
	該当する到達目標	予 習	分娩に伴う母体の変化についてテキストの該当箇所を読む。												15 分		
	1	復 習	分娩経過の胎児への影響についてまとめる。												30 分		
4	講 義 内 容	分娩期の助産診断 1ー経過に応じた情報収集															
	該当する到達目標	予 習	受け持ち時の診察、助産診断に必要な事項についてテキストの該当箇所を読む。												30 分		
	1,2																

		復 習	分娩開始の診断について理解する。	15 分
5	講 義 内 容		分娩期の助産診断 2—診察技術;外診、内診、CTG 判読	
	該当する到達目標	予 習	陣痛測定についてテキストの該当箇所を読む。	15 分
	1,2	復 習	分娩期の内診技術についてまとめる。	30 分
6	講 義 内 容		分娩期の助産診断 3—診察技術;外診、内診、CTG 判読演習	
	該当する到達目標	予 習	胎児心拍数モニタリングについてテキストの該当箇所を読む。	15 分
	1,2	復 習	内診所見のとりかたを振り返り、各自でトレーニングを行う。	30 分
7	講 義 内 容		分娩期の助産診断 4—分娩時期・分娩進行の診断、産婦・家族の適応に関する診断	
	該当する到達目標	予 習	分娩時期の診断についてテキストの該当箇所を読む。	15 分
	2	復 習	分娩の 3 要素を踏まえた分娩予測について考察する。	30 分
8	講 義 内 容		分娩進行に応じた産婦への助産ケア 講義・演習	
	該当する到達目標	予 習	産婦の健康生活支援についてテキストの該当箇所を読む。	15 分
	3	復 習	産痛緩和の方法をまとめる。	30 分
9	講 義 内 容		産婦事例 A を用いた助産過程の展開 1—受け持ち時診断の演習	
	該当する到達目標	予 習	事例 A の受け持ち時のアセスメントを記述する。	30 分
	1,3,4	復 習	受け持ち時診断、分娩予測について考察する。	15 分
10	講 義 内 容		産婦事例 A を用いた助産過程の展開 2—分娩経過の診断・分娩予測修正の演習	
	該当する到達目標	予 習	事例 A の分娩経過のアセスメントを記述する。	30 分
	1,3,4	復 習	分娩予測の修正について考察する。	30 分
11	講 義 内 容		産婦事例 A を用いた助産過程の展開 3—分娩終了時の診断の演習	
	該当する到達目標	予 習	事例 A の分娩終了時のアセスメントを記述する。	30 分
	1,3,4	復 習	助産過程を振り返り、分娩終了時の診断について考察する。	15 分
12	講 義 内 容		産婦事例 B を用いた助産過程の展開 1	
	該当する到達目標	予 習	事例 B のアセスメントを記述する。	30 分
	1,3,4	復 習	事例 B の助産診断について考察する。	15 分
13	講 義 内 容		産婦事例 B を用いた助産過程の展開 2	
	該当する到達目標	予 習	事例 B の診断に基づく計画案を記述する。	30 分
	1,3,4	復 習	助産計画について考察する。	15 分
14	講 義 内 容		ハイリスク産婦の助産診断と助産ケア 演習 1 分娩第 3 期の積極的管理	
	該当する到達目標	予 習	ハイリスク事例のアセスメントの視点についてテキストの該当箇所を読む。	15 分
	1,3,4	復 習	事例の助産診断について考察する。	30 分
15	講 義 内 容		ハイリスク産婦の助産診断と助産ケア 演習 2 分娩誘発・促進法と助産管理	
	該当する到達目標	予 習	心理的支援についてテキストの該当箇所を読む。	15 分
	1,3,4	復 習	ハイリスク産婦の助産過程について考察する。	30 分
備 考	① 予習・復習は全講義を通して 11 時間 15 分行う。事例を用いた助産過程の展開に際しては、各自のアセスメント・計画案作成の上で出席する事が必要です。 ② 学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで日時を調整し、研究室で対応します。 メールで問い合わせの際は氏名を記載してください。 e-mail teraguchi #takasaki-u.ac.jp オフィスアワー 火曜日 12:00 ~ 13:00、5 号館 409 研究室 (#を@に変換すること)			

科 目 名		分娩期の助産診断技術学Ⅱ																
英 文 名		Midwifery Diagnosis and Skills in Intrapartum Ⅱ																
担 当 教 員		飯嶋友美																
時 期・単位		看護学専攻修士課程 1 年次 前期 必修 1 単位																
講 義 目 標		1. 助産診断に基づいた、正常分娩のための基本的な分娩介助技術や様々な分娩方法に関連した助産ケアの技術を修得する。 2. 産科的医療介入時や正常な分娩過程の逸脱時の処置や助産ケアの知識・技術・態度を修得する。																
到 達 目 標		1. 産婦および胎児・新生児とその家族に対する安全・安楽な出産を支援するための助産診断と分娩介助技術を模擬産婦に実施できる。 2. 正常な分娩経過にある産婦および胎児・新生児に対する医療介入や医療介入に伴う助産ケアを理解し、模擬産婦に実施できる。 3. 正常な分娩過程を逸脱した産婦および胎児・新生児とその家族に必要な医療介入や助産診断・技術を理解し、模擬産婦に実施できる。 4. 分娩期における産婦および胎児・新生児とその家族に対する助産ケアの根拠を理解するとともに、助産ケアのあり方について考察することができる。																
学位授与方針との対応		✓	幅広い学識と倫理観															
		✓	高度な実践力															
			研究能力															
		✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との関連				③		⑤										⑬		
評 価 方 法		対面：講義や演習への参加・貢献度(20%)、実技(40%)、技術試験(40%)で総合的に評価する。 オンラインの場合も同様に評価する。																
課題に対するフィードバック		講義・演習で作成したレポートや技術評価表などは、担当教員がコメントを付して返却する。また、対面・オンラインに関わらず、毎回の講義・演習でコメントを行う。																
使 用 教 材		① 我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 ② 日本助産診断実践学会：実践マタニティ診断 第 5 版、医学書院 (参考図書) ③ 町浦美智子編：助産師基礎教育テキスト、2021 年版 第 5 巻 分娩期の診断とケア、日本看護出版会 ④ 竹田省、高橋眞理：CG でわかる！分娩の仕組みと介助法、MEDICALVIEW ⑤ 岩田塔子：回線がわかれば介助がわかる！体位別フリースタイル分娩介助法、MC メディカ出版 ⑥ 荒木勤：最新産婦人科学 正常編、文光堂 ⑦ 平澤美恵子、村上睦子監修：写真でわかる助産技術アドバンス 妊産婦の主体性を大切にしたケア、安全で母子に優しい助産のわざ、インターメディカ																
1	講 義 内 容		科目のオリエンテーション 分娩介助の意義と目的、入院時の判断や分娩第Ⅰ期から分娩室入室の時期について (モデルを用いた内診と CTG の判読)															
	該当する到達目標 1.2.3.4	予 習	シラバスを通読し、学習内容を確認する。分娩期の助産診断技術学Ⅰの講義資料を振り返る。														0.5 時間	
		復 習	分娩介助の意義と目的、入院時の判断や分娩第Ⅰ期から分娩室入室の時期について理解を深める。モデルを用いて内診の練習をする。CTG の														0.5 時間	

			判読について振り返り、入院～分娩室入室の判断について復習をする。	
2	講義内容	分娩室・必要物品の準備と分娩に向けた準備について (ガウンテクニック、滅菌手袋の装着、導尿)		
	該当する到達目標	予習	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	0.5 時間
	1.2.3.4	復習	分娩室・必要物品や分娩に向けた準備の理解を深め、技術練習を行う。	0.5 時間
3.4.5.6	講義内容	分娩助産の準備(外陰部消毒)について 分娩助産技術について (人工破膜・肛門保護・会陰保護・児頭娩出・体幹娩出・肩甲難産・マックロバーツ体位)		
	該当する到達目標	予習	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1 時間
	1.2.3.4	復習	分娩助産の準備や児の娩出について理解を深め、技術練習を行う。	1 時間
7.8	講義内容	出生時の処置について (出生した児の呼吸補助、臍帯切断、アプガースコアの採点) 胎盤娩出について (胎盤剥離徴候の確認と娩出、胎盤精査、軟産道の精査、子宮収縮促進のケア) 出生直後の新生児の観察とケアについて (全身観察、アプガースコア・シルバーマンスコア・成熟度評価、計測)		
	該当する到達目標	予習	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1 時間
	1.2.3.4	復習	出生時の処置や胎盤娩出について理解を深め、技術練習を行う。 出生直後の新生児の観察とケアについて理解を深め、技術練習を行う。	1 時間
9.10.11	講義内容	一連の分娩助産技術演習(シミュレーション演習)		
	該当する到達目標	予習	一連の分娩助産技術について、前回までの講義資料の復習をする。	1 時間
	1.2.3.4.	復習	一連の分娩助産技術について理解を深め、技術練習を行う。	1 時間
12	講義内容	正常な分娩過程を逸脱した場合のケアについて (陣痛誘発、クリステレル圧出法、吸引・鉗子分娩、帝王切開)		
	該当する到達目標	予習	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1 時間
	1.2.3.4	復習	正常な分娩過程を逸脱した場合のケアを復習し、技術練習をする。	1 時間
13	講義内容	フリースタイル分娩の分娩助産法について (側臥位、座位、四つんばい等)		
	該当する到達目標	予習	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1 時間
	1.2.3.4	復習	フリースタイル分娩について理解を深め、技術練習を行う。	1 時間
14.15	講義内容	分娩助産技術演習(分娩期から産褥早期のケア:シミュレーション演習)		
	該当する到達目標	予習	本科目で学習した内容の復習と一連の分娩助産技術の練習を行う。	1 時間
	1.2.3.4	復習	教員から指摘された内容について理解を深め、分娩助産技術練習を行う。	1 時間
備考	・オフィスアワー: 質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる(オンライン時も同様)。そのほかにもメールにて随時対応する。 ・メールアドレス: ijima-y#takasaki-u.ac.jp (#→@) ・予習や復習に必要な時間は最低限の時間を表示するが、あくまでも参考程度であり、単位習得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。この科目の単位を修得するためには、講義・演習時間(90 分×15 回)＋自習時間(15 時間)が必要。 ・分娩助産技術は、講義・演習の時間外を利用して、繰り返し練習が必要となる。 ・分娩助産技術試験の結果が不十分な場合には、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは履修できないものとする。 ・演習は、学外実習と同様の身だしなみ(ユニフォーム・名札・ナースシューズ)で実施する。			

科 目 名	産褥・新生児期の助産診断技術学															
英 文 名	Midwifery Diagnosis and Skills in Postpartum and Neonatal															
担 当 教 員	寺口 顕子、飯嶋 友美、新井 基子															
時 期・単位	1 年次 前期 必修 2 単位															
講 義 目 標	1. 褥婦と新生児の生理的経過を理解し、その健康状態を診断するために必要な知識・技術を習得する。 2. 診断に基づき、褥婦と新生児に対する支援と健康教育に必要な知識と技術を習得する。															
到 達 目 標	1. 褥婦と新生児の生理的経過と正常逸脱を早期発見するためのアセスメントを説明することができる。 2. 褥婦・新生児の診察に必要な基本的技術を実践することができる。 3. 褥婦と新生児ならびに家族の適応に関する助産過程の展開を説明することができる。 4. 褥婦と新生児・乳児に対する助産ケア・健康教育を演習で実践することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	17
評 価 方 法	対 面:筆記試験(50%)、実技の参加度・レポート(事例の助産過程、保健指導案含む、50%) オンライン:筆記試験(C-learning で行う)															
課題に対する フィードバック	対 面:事例を用いた助産過程の展開、健康教育に関する演習に当たりコメントする。 オンライン:対面と同様のコメントを C-learning または書面に記して返却する。															
使 用 教 材	テキスト 5. 我部山キヨ子・武谷雄二編:助産診断技術学Ⅱ 分娩期・産褥期、助産学講座 7、医学書院 6. 横尾京子編:助産診断・技術学Ⅲ 新生児期・乳幼児期、助産学講座 8、医学書院 参考書: 1. 北川真理子・内山和美編:今日の助産、改訂第 4 版、南山堂 2. 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集・監修:産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020、日本産科婦人科学会 3. 日本助産診断実践学会編:マタニティ診断ガイドブック、第 6 版、医学書院 4. 医療情報科学研究所:病気がみえる vol.10 産科、改訂第 4 版、メディックメディア 5. 横尾京子:産褥期のケア/新生児・乳幼児期のケア、助産師基礎教育テキスト、日本看護協会出版会 6. 河野寿夫編:ベッドサイドの新生児の診かた 第 3 版、南山堂 7. 仁志田博司編:新生児学入門 第 5 版、医学書院 8. 遠藤俊子:ハイリスク妊産褥婦・新生児ケア、助産師基礎教育テキスト、日本看護協会出版会 9. Glenys Boxwell(澤田健／エクランド源雅子):新生児集中ケアハンドブック、医学書院 10. NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会:母乳育児支援スタンダード、医学書院 11. 水野克己、水野紀子:母乳育児支援講座、南山堂 その他資料配付															
1	講 義 内 容	産褥経過と助産診断ー産褥の生理と異常、褥婦の診察技術(寺口)														
	該当する到達目標	予 習	科目の目標を読み、産褥の生理について確認する。													1.5 時間
	1,2	復 習	産褥復古、診察技術についてまとめ理解する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	褥婦の心理社会的変化、健康生活の助産診断、分娩体験の想起の支援(寺口)														

	該当する到達目標 1,3,4	予 習	母性心理過程、パースレビューについてテキストの該当箇所を読む。	1.5 時間
		復 習	健康生活の診断について考察する。	1.5 時間
3	講 義 内 容 該当する到達目標 3,4	褥婦の健康生活におけるセルフケアへの支援-1(寺口)		
		予 習	全身および産後の性機能の回復についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 時間
		復 習	産褥復古促進ケア、産後の受胎調節についてまとめ、理解する。	1.5 時間
4	講 義 内 容 該当する到達目標 3,4	褥婦の健康生活におけるセルフケアへの支援-2(寺口)		
		予 習	家族調整機能についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 時間
		復 習	社会資源についてまとめ、不足する事項を調べて理解する。	1.5 時間
5	講 義 内 容 該当する到達目標 3,4	母乳育児支援:乳房の形態・機能、新生児の哺乳行動にかかわる形態・機能(新井)		
		予 習	乳房の形態・機能、新生児の哺乳行動についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 時間
		復 習	乳汁分泌調節のメカニズムと児の哺乳行動の関連についてまとめ理解する。	1.5 時間
6	講 義 内 容 該当する到達目標 4	母乳育児支援:母乳育児開始と確立、母乳育児継続のための支援(新井)		
		予 習	早期母子接触の意義と授乳方法の要点、支援に必要な情報とケアについてテキストの該当箇所を読む。	1.5 時間
		復 習	早期母子接触とその後の授乳方法、児の栄養方法選択の支援についてまとめ理解する。	1.5 時間
7	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2	新生児期の経過と助産診断(飯嶋)		
		予 習	早期新生児、後期新生児の生理についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 時間
		復 習	移行期の適応生理、新生児の助産診断についてまとめ、理解する。	1.5 時間
8	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2	新生児の診察技術ー全身の観察(バイタルサイン含む)(飯嶋)		
		予 習	新生児の観察項目についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 時間
		復 習	新生児の診察技術についてまとめ、理解する。	1.5 時間
9	講 義 内 容 該当する到達目標 1,3	育児に関する知識と技術獲得支援:2 週間・1 か月健診、受診を必要とする状態等(寺口)		
		予 習	育児不安の内容についてテキストの該当箇所、文献を読む。	1.5 時間
		復 習	異常の早期発見についてまとめ、理解する。	1.5 時間
10	講 義 内 容 該当する到達目標 3,4	産褥母子事例の助産過程(グループワーク)1(寺口)		
		予 習	事例のアセスメント、助産診断、助産目標を記述する。* 事前配布	1.5 時間
		復 習	事例の助産診断、助産目標を振り返り、理解する。	1.5 時間
11	講 義 内 容 該当する到達目標 3,4	産褥母子事例の助産過程(グループワーク)2(寺口)		
		予 習	事例の助産計画を記述する。	1.5 時間
		復 習	事例の助産過程の展開を振り返り、理解する。	1.5 時間
12	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,4	ハイリスク新生児ケア:低出生体重児、呼吸障害、高ビリルビン血症(寺口)		
		予 習	胎児発育不良、呼吸障害、新生児黄疸についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 時間
		復 習	低出生体重児、呼吸障害、高ビリルビン血症のケアについてまとめ、理解する。	1.5 時間
13	講 義 内 容 該当する到達目標 1,2,4	産後うつ病、母子愛着障害、児の虐待要因早期発見への支援(寺口)		
		予 習	産後うつ病スクリーニング、虐待の要因についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 時間
		復 習	産後うつ、ネグレクトについてまとめ、理解する。	1.5 時間
14	講 義 内 容 該当する到達目標 3,4	産褥母子事例の助産過程 保健指導の実技・ディスカッション1(寺口)		
		予 習	沐浴指導計画案を作成する。* 開講時に説明する	1.5 時間
		復 習	育児指導について考察する。	1.5 時間
15	講 義 内 容 該当する到達目標 3,4	産褥母子事例の助産過程 保健指導の実技・ディスカッション2(寺口)		
		予 習	退院指導計画案を作成する。	1.5 時間
		復 習	家族計画指導について考察する。	1.5 時間

備 考	③ 予習・復習は全講義を通して 45 時間行う。事例を用いた助産過程の展開、健康教育の演習に際しては、各自のアセスメント・計画案作成の上で出席することが必要である。 ④ 学習過程で質問等がある場合は、メールまたはメールで日時を調整し研究室で対応する。メールで問い合わせの際は氏名を記載してください。 ・メールアドレス:teraguchi#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) ・オフィスアワー 寺口 火曜日 12:00 ～ 13:00、5 号館 409 研究室

科 目 名		遺伝カウンセリング														
英 文 名		Genetic Counselling														
担 当 教 員		寺口 顕子・有森 直子・御手洗 幸子														
時 期 ・ 単 位		1 年次 後期 必修 1 単位														
講 義 目 標		遺伝看護の概要、意義、歴史と遺伝看護における意思決定支援の役割について理解する。 出生前検査、ウィメンズヘルスとしてのがんへの支援における理論と実際について、助産師としての責務・役割を理解し、遺伝学的課題について考察する。														
到 達 目 標		18. 遺伝看護の概要、意義を踏まえ、遺伝看護における意思決定支援の役割について説明できる。 19. 出生前検査(出生前診断)の方法と診断のプロセスを説明することができる。 20. 出生前検査(出生前診断)における助産師の責務・役割について考察することができる。 21. ウィメンズヘルスにおけるがんへの支援を理解し、助産師の役割について考察することができる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法		講義での発言 50%、レポート 50%														
課題に対する フィードバック		講義時の発言を重視し、その場でフィードバックする。 最終的な学びに関するレポートについては、後日コメントする。														
使 用 教 材		参考書： ①有森直子、溝口満子編著、井ノ上逸郎医学監修 遺伝//ゲノム看護 医歯薬出版株式会社、2018。 ②中込さと子監修、西垣昌和、渡邊淳編、基礎から学ぶ遺伝看護学 「継承性」と「多様性」の看護学、羊土社、2019。														
1,2	講 義 内 容	遺伝看護の概論と意思決定支援（有森直子先生）														
	該当する到達目標	予 習	参考書①第 1 章遺伝/ゲノム看護とは を読む。												1 時間	
	1	復 習	遺伝看護における意思決定支援における看護職の役割について考察する。												1 時間	
3,4	講 義 内 容	出生前検査(診断)に関する助産師のケア（御手洗幸子先生）														
	該当する到達目標	予 習	「NIPT 等の出生前検査に関する専門委員会報告書」 厚生労働省 厚生科学審議会(科学技術部会) https://www.mhlw.go.jp/content/000783387.pdf を一読し、助産師の役割について考察し、意見交換したい内容を考える												1 時間	
	2,3	復 習	講義内容を振り返り、自己の考察を深める												1 時間	
5,6	講 義 内 容	ウィメンズヘルスとしてのがん(御手洗幸子先生)														
	該当する到達目標	予 習	AYA(Adolescent and Young Adult)世代のがんについて、その特徴や課題を知り、プレコンセプションケアにつながる知見を深めておく。 遺伝がん看護について、講義内で考える。 * 国立がん中央センター がん情報サービス (AYA 世代のがんについて) https://ganjoho.jp/public/knowledge/about_aya.html												1 時間	

			(がんゲノム医療) https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/genomic_medicine/genmed02.html	
		復習	講義内容を振り返り、自己の考察を深める	1 時間
7,8	講義内容	遺伝性疾患をもつ子の親の心理、まとめ(寺口)		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を読み、意見交換したい内容を考える。	1 時間
	4	復習	講義内容を振り返り、自己の考察を深める。	1 時間
備考	1. オフィスアワー 寺口 火曜日 12:00 ~ 13:00、5 号館 409 研究室 2. 学習過程で質問等がある場合は、メールまたはメールで日時を調整し研究室で対応する。 メールで問い合わせの際は氏名を記載してください。 teraguchi#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) 3. 記載した予習復習の時間が単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 4. その他 オンライン授業の場合：学内で授業資料の配付が可能な場合は、事前に通知する。			

科 目 名		乳児の発達と子育て支援													
英 文 名		Support for Childrearing in accordance with Infant Development													
担 当 教 員		大石時子、真下由利子、千葉千恵美、倉林しのぶ													
時期・単位		1 年、後期、1 単位、必修													
講義目標		生後 4 か月までの乳児の発達を理解し、地域で子育てをする両親や家族への子育て支援の方法を考察する													
到達目標		22. 生後 4 か月までの乳児の発達を理解する 23. 生後 4 か月までの乳児の発達に応じた子育て方法を理解する 24. 乳児を育てる母親・父親・家族の心理と関係性の変化を理解する 25. 地域における子育て支援の社会資源を理解する 26. 社会資源を利用しながら、多職種連携により子育て支援をする方法を考察する													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			3		5									15	
評 価 方 法	「私の考える地域包括子育て支援」を口頭発表し、その内容(60%)と、討論への参加度(40%)で評価する														
課題に対する フィードバック	授業中に討議の形で行う														
使用教材	妊産婦にかかる保健・医療の現状と関連施策(厚労省)、産後ケア事業ガイドライン(厚労省)、 妊産婦メンタルヘルスマニュアル(日本産婦人科医会)														

1	講 義 内 容	乳児 4 か月までの子育て世代地域包括支援と助産師の役割 (大石)													
	該当する到達目標	予 習	新生児期の発達を復習しておく												1.5 時間
	1,2,3,4,5,	復 習	周産期のメンタルヘルスについて復習しておく												1.5 時間
2	講 義 内 容	乳児の発達に応じた子育て(1 か月～2 か月) (千葉)													
	該当する到達目標	予 習	1か月～2か月の乳児の発達に応じた遊びと子育て支援について調べておく												1.5 時間
	1,2,	復 習	1か月から2か月の乳児の発達に応じた遊びと子育て支援について復習する												1.5 時間
3	講 義 内 容	乳児の発達に応じた子育て(3～6 か月) (千葉)													
	該当する到達目標	予 習	3か月から6か月の乳児の発達に応じた遊びと子育て支援について調べておく												1.5 時間
	1,2,	復 習	3か月から6か月の乳児の発達に応じた遊びと子育て支援について復習する												1.5 時間
4	講 義 内 容	行政における子育て支援事業 地域における多職種連携 (倉林)													
	該当する到達目標	予 習	市区町村における母子保健事業について調べておく												1.5 時間
	4,5,	復 習	母子保健に関わる行政保健師の役割について復習し連携の仕方を考える												1.5 時間
5	講 義 内 容	行政における子育て支援事業 地域における多職種連携 (倉林)													
	該当する到達目標	予 習	行政の母子保健事業における他職種連携・施設連携について調べておく												1.5 時間
	4,5	復 習	子育て支援に関わる保健・医療・福祉の連携について復習する												1.5 時間
6	講 義 内 容	地域における子育て支援の実際 (鈴の音助産院見学)(真下会長)													
	該当する到達目標	予 習	2 週間・1 か月健診、家庭訪問について復習しておく												1.5 時間
	2,3,4,5,	復 習	産後ケア事業ガイドラインを読む												1.5 時間
7	講 義 内 容	地域における子育て支援の実際 (鈴の音助産院見学)(真下会長)													
	該当する到達目標	予 習	母親・父親・家族の相談の内容について考察しておく												1.5 時間
	2,3,4,5,	復 習	多職種連携の中で産後ケア事業における助産師の役割を復習する												1.5 時間

8	講義内容	母親・父親・家族の心理的変化と子育て支援—私の考える地域包括子育て支援（大石）		
	該当する到達目標 2,3,4,5,	予習	乳児の発達に応じた母親・父親・家族の心理と関係性の変化を考える	1.5 時間
		復習	切れ目のない産前から産後までの社会政策について考える	1.5 時間
備考	・主体的に discussion に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。 オフィスアワー:火曜日 12～13 時、5 号館 3 階 306 研究室(大石) E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp(大石)（#を@に変換すること）			

科 目 名	地域母子保健論															
英 文 名	Maternal Child Health in the Community															
担 当 教 員	寺口 顕子、高津 三枝子、金 寿子															
時 期・単位	1 年次 後期 必修 1 単位															
講 義 目 標	地域における助産師活動を展開するために、国、都道府県、市町村、公益法人、NPOにおける助産師の母子保健活動の歴史的・理解、母子保健活動の動向等の理解を基盤とし、地域母子保健活動の目的、しくみ、展開のプロセス、地域における連携、協働、個別支援、グループ、地域組織活動の育成支援等、具体的な事例を含めて学ぶとともに、助産師としてのリーダーシップのあり方を学ぶ。															
到 達 目 標	1.妊娠期から一貫した母子と家族に対する健康支援を理解する。 2.母子・家族に関する健康指標と地域特性を踏まえたアセスメントを説明できる。 3.地域の特性や母子の健康レベルに応じた母子への支援を計画し発表できる。 4.多職種協働と連携の必要性を説明でき、実行できる。															
学位授与方針 との対応		幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3	4	5										16	17
評 価 方 法	筆記試験(20%) 講義時の討論の参加度(50%) レポート(30%)															
課題に対する フィードバック	授業中のディスカッションの中で講評・コメントする。															
使 用 教 材	テキスト 1)我部山キヨ子編:助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 第 5 版、医学書院 参考書 1)山本あい子編:助産師基礎教育テキスト 第 1 巻 助産概論、日本看護協会出版会 2)公益財団法人母子衛生研究会編:母子保健の主なる統計(最新版)、母子保健事業団 3)国民衛生の動向(最新版)、厚生労働統計協会															
1	講 義 内 容	地域母子保健活動の意義、現状と動向(寺口)														
	該当する到達目標 1,4	予 習	第 1、2 章 地域母子保健の意義、現状と動向を読む。													1.5 時間
		復 習	地域母子保健の意義と課題について考察する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	国、都道府県、市町村、公益法人、NPO 等の助産師の母子保健活動の歴史的・理解(高津)														
	該当する到達目標 2	予 習	第 3 章 地域母子保健行政の体系を読む。													1.5 時間
		復 習	助産師の母子保健活動に影響する要因について考察する。													1.5 時間
3	講 義 内 容	地域母子保健活動の基盤となる法律や制度、社会の変化に伴う制度上の矛盾(高津)														
	該当する到達目標 1,2,4	予 習	第 3 章 母子保健関係法規の策定された時代の社会背景を調べる。													1.5 時間
		復 習	母子保健関係法規と現代社会の問題との関連について考察する。													1.5 時間
4	講 義 内 容	地域母子保健活動の基盤となる法律や制度、社会の変化に伴う制度上の矛盾(高津)														
	該当する到達目標 1,2,4	予 習	第 3 章 母子保健関係法規の策定された時代の社会背景を調べる。													1.5 時間
		復 習	母子保健関係法規と現代社会の問題との関連について考察する。													1.5 時間
5	講 義 内 容	地域母子保健活動の展開 1ー地域における様々な協働①(高津)														
	該当する到達目標 2,4	予 習	地域において母子保健事業にかかわっている職種を調べる。													1.5 時間
		復 習	協働の意義を考える。													1.5 時間

6	講義内容	地域母子保健活動の展開 2ー地域における様々な協働②(高津)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	地域において母子保健事業にかかわっている職種を調べる。	1.5 時間
		復習	協働の意義を考える。	1.5 時間
7	講義内容	地域母子保健活動の展開 3ー訪問指導の実際①(金)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	第 5 章-C,D,E を読む。	1.5 時間
		復習	母子の健康レベルに応じた支援について考察する。	1.5 時間
8	講義内容	地域母子保健活動の展開 4ー訪問指導の実際②(金)		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	第 5 章-C,D,E を読む。	1.5 時間
		復習	母子の健康レベルに応じた支援について考察する。	1.5 時間
備考	・授業中の討論に主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 30 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり、研究室で対応する。 オフィスアワー: 初回の講義で明示する。 5 号館 4 階 409 研究室(寺口) Email: teraguchi#takasaki-u.ac.jp(寺口) (#を@に変換すること)			

科 目 名		地域母子保健演習														
英 文 名		Practice of Maternal and Child health in the Community														
担 当 教 員		飯嶋友美														
時 期・単位		看護学専攻修士課程 2 年次 前期 必修 1 単位														
講 義 目 標		母子の生活する地域の特性や地域において実施されている産後ケア事業や健診等の母子保健活動に関する助産実践やケアシステムの現状を理解する。また、学内で具体的な計画を立案することで、地域もしくは臨床でのチームリーダーとしての幅広い学識と倫理観を養う。さらに、本演習によって、地域で暮らす母子に対する母子保健活動において、切れ目のない支援を行っていくために必要な自身の研究や教育などの実践や多職種連携・協働について考察することができる。														
到 達 目 標		1. 産褥・新生児期から乳児期における母児の経過と家族役割や地域での生活、母子保健事業等の現状について継続的・総合的に理解することができる。 2. 科学的根拠に基づいて、対象となる母子の個性や母子の生活する地域特性を重視した、継続的な助産過程を展開することができる。 3. 対象となる母子のさまざまなニーズや生活している地域特性、母子の成長・発達や健康増進のための保健指導の実践や多職種連携・協働について考察することができる。														
学位授与方針との 対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
		✓	研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				③		⑤										⑬
評 価 方 法		活発な議論や演習への活動への参加・貢献度(40%)、母子への保健指導計画案の作成(30%)、保健指導の実施・プレゼンテーション(30%)によって総合的に評価する。														
課題に対するフィードバック		レポートや質問等に対してコメントをする。オンライン授業となった場合も同様とする。														
使 用 教 材		① 助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健：医学書院 ② 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第2版）：医歯薬出版株式会社（参考図書） ③ わが国の母子保健：母子衛生研究会 ④ 母子保健の主なる統計：母子衛生研究会 ⑤ 国民衛生の動向 ⑥ 群馬県保健医療計画：群馬県健康福祉部医務課														
1.	講 義 内 容	オリエンテーション、地域における看護活動・助産活動														
	該当する到達目標 1	予 習	なし													時 間
		復 習	地域母子保健論の復習により、地域における看護・助産活動の現状について理解を深める。													1 時間
2.3	講 義 内 容	地域特性のアセスメント														
	該当する到達目標 1.2	予 習	教科書②の該当箇所（p10～16）を通読し、学習内容を確認する。													1 時間
		復 習	地域特性のアセスメントの視点と解釈について理解を深める。													1 時間
4.5	講 義 内 容	健康課題のアセスメント														
	該当する到達目標 1.2	予 習	教科書②の該当箇所（p17～23）を通読し、学習内容を確認する。													1 時間
		復 習	健康課題のアセスメントの視点と解釈について理解を深める。													1 時間

6.7	講義内容	地区活動のアセスメント・データ収集と分析		
	該当する到達目標	予習	教科書②の該当箇所（p27～36）を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	1.2	復習	地区活動のアセスメントやデータ収集と分析の視点と解釈について理解を深める。	1 時間
8.9	講義内容	継続事例のアセスメントと保健指導計画の作成 (学生それぞれが継続事例対象者への保健指導計画を作成する)		
	該当する到達目標	予習	該当地域で実施されている母子保健事業について調べる。	1 時間
	1.2.3	復習	該当地域で実施されている母子保健事業について理解を深めるとともに、保健指導計画の立案をする。	1 時間
10.11	講義内容	地域における母子保健事業の見学や保健指導の実施		
	該当する到達目標	予習	該当地域で実施されている母子保健事業について調べる。	1 時間
	1.2.3	復習	該当地域で実施されている母子保健事業に関するプレゼンテーション資料を作成や保健指導実施の評価・考察をする。	1 時間
12.13	講義内容	・プレゼンテーション資料の作成		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーション資料の作成に必要なデータ・資料を準備する。	1 時間
	1.2.3	復習	プレゼンテーション資料を作成・修正とプレゼンテーション練習をする。	1 時間
14.15	講義内容	プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	個々でプレゼンテーションの練習を行うとともに、切れ目のない支援を行っていくために必要な自身の研究や教育などの実践や多職種連携・協働についての自己の課題を明確にする。	1 時間
	1.2.3	復習	地域で暮らす母子への助産実践に関する学習内容を統合する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	・オフィスアワー: 質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる(オンライン時も同様)。 ・メールアドレス: ijima-y@takasaki-u.ac.jp (#→@) ・予習や復習に必要な時間は最低限の時間を表示するが、あくまでも参考程度であり、単位習得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。この科目の単位を修得するためには、演習時間(90 分×15 回)+自習時間(15 時間)が必要です。 ・履修条件: 必修科目であり、受講するためには履修登録が必要。この科目は、「地域母子保健論」を受講していなければ受講できない。また、プレゼンテーションやディスカッションを多く行うため、積極的に参加すること。 ・本科目では、助産学実習Ⅰ～Ⅲで学生それぞれが担当した継続事例対象者について、アセスメント等を行っていく。 ・第 10 回と第 11 回の「地域における母子保健事業の見学や保健指導の実施」では、継続事例対象者の居住地域の母子保健事業の実施状況により見学・実施の内容が異なる場合がある。産後 4 か月ごろに母子保健事業がない場合には、他の学生の継続事例対象者の居住地域の見学や学内でロールプレイなどをする。			

科 目 名	助産学実習 I (基礎)												
英 文 名	Clinical Practice of Midwifery I (Basics)												
担 当 教 員	飯嶋友美、寺口顕子、大石時子												
時 期・単 位	看護学専攻修士課程 1 年次 通年 必修 3 単位												
講 義 目 標	本実習の基礎となる科目は、女性フィジカルアセスメント、新生児学、助産学概論、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥・新生児期の助産診断技術学、地域母子保健論、助産健康教育論である。 本実習では周産期にある母子とその家族のより健康な妊娠・出産・産褥・子育ての実現に向け、医療・助産実践の現状を理解し、指導者の助言を受けながら安全・安楽な分娩介助や保健指導を理解し実施することができることを目標とする。												
到 達 目 標	27. 既習の知識をもとに、医療・助産実践の現状を理解できる。 28. 周産期にある母子とその家族のニーズや健康状態を分析して助産診断を行うことが理解できる。 29. 指導者の助言を受けながら、助産診断を行うことができる。 30. 指導者の助言を受けながら、対象者を総合的に理解して助産計画が立案・評価ができる。 31. 安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の助産ケアを理解できる。 32. 指導者の助言を受けながら、安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の助産ケアを実施できる。 33. 周産期にある対象者の健康の保持・増進および個別性に合わせた妊婦健康診査について理解できる。 34. 対象者の個別性に合わせた保健指導について理解できる。 35. 周産期にある母子とその家族の発達課題の達成のための支援の現状と課題について理解することができる。 36. 周産期にある母子とその家族の発達課題の達成のための支援に参加し、指導を受けながら実践することができる。 37. 指導者の助言を受けながら、自己の助産実践を振り返り、自己の課題を見出すことができる。 38. 病院施設における安全管理システムやチーム医療について理解することができる。 39. 助産師の役割と責務について理解することができる。												
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観											
	✓	高度な実践力											
	✓	研究能力											
	✓	豊かな人間性と使命感											
SDGs との 関 連			3		5								16
評 価 方 法	助産診断過程の展開・助産技術の習得度・実習記録(60%)、実習態度・意欲(40%)の内容を総合して評価する。オンラインや学内実習となった場合も同様に評価する。												
課題に対する フィードバック	対面：毎日行動計画表を記載することで、実習を振り返るとともに、教員からのコメントを受ける。助産過程と分娩介助評価表を分娩介助中および分娩介助終了後に臨床指導者や教員に提出し、指導を受ける。 オンラインや学内実習の場合は、教員に助産過程や分娩介助評価表を提出して指導を受ける。												
使 用 教 材	講義で使用した参考書・テキスト等、実習要項 ① 北川真理子他著：今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、改訂第4版、南江堂 ② 青木康子他著：実践マタニティ診断 第4版、医学書院 ③ 中井章人：図説 CTG テキスト アドバンス、メジカルビュー社 ④ 日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト 第4版、メジカルビュー社												

	(参考図書) ⑤ 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会:産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 ⑥ 一般社団法人日本助産学会:エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2020		
講義内容	・本実習は、実習施設に 3 週間(1 週間:5 日間×3)で、到達目標の達成に向けて実習を行う。そのうち 1 週間は、継続事例実習とする。実習は、実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になる場合がある。(実習時間は、5 日間＝45 時) 【実習内容】 ・実習施設における分娩介助のための機器等(医療器材・リネン)や分娩室(LDR)の物品の配置や操作・使用方法を確認する。 ・妊婦健康診査や助産師外来で、助産師の保健指導を見学する。 ・両親学級や母親学級等の周産期における健康教育を見学する。 ・産褥期の褥婦の退行性変化・進行性変化(母乳育児)や母親役割獲得の経過・ケア等の見学をする。 ・母子同室指導、沐浴指導、退院指導等の健康教育の見学をする。 ・分娩介助の見学と実際に分娩介助を 1 例実施する。 ・分娩の間接介助の見学と間接介助を実施する。 ・新生児のバイタルサイン測定や全身観察、清拭や沐浴を見学し、実施する。 ・帝王切開を受ける産婦・新生児のケアの見学を行う。 【実習記録】 実習記録は様式 1～20 を使用する。 ・日々の行動計画の作成による実践内容と自己課題を記述する。 ・セルフチェック表、助産学実習経験記録を記述する。 ・分娩介助実施の過程で、助産過程と分娩介助評価表を記述する。 ・分娩介助実施後には、分娩介助評価表に自己評価を記述する。 (自己評価をしてから臨床指導者の評価を受けて、自己の課題を明確にする。間接介助時も同様。)		
	予 習	・実習要項や実習施設の資料を通読し、実習の目的・目標の理解を深める。 ・この実習の基礎となる科目の講義資料・参考書を確認し、妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期のケアについて学習を深める。 ・分娩介助技術の練習をすることで、安全で安楽な技術を実践できるようにする。	期間中適宜
	復 習	・周産期にある母子とその家族へのケアについて振り返り、助産師の役割と責務等について考察するとともに、自己の課題を明確にする。	期間中適宜
	備考	・オフィスアワー:質問及び相談には、随時応じる(オンライン時も同様)。そのほかにもメールにて随時対応する。 ・メールアドレス:ijijima-y#takasaki-u.ac.jp (#→@) ・予習や復習に必要な時間は「期間中適宜」と表示するが、この科目の単位を修得するためには、実習時間外を利用して、分娩介助技術の繰り返し練習や自立的な学習が必要となる。 ・本科目は、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥新生児の助産診断技術学の履修が必要である。 ・本実習では、基本的にユニフォーム・名札・ナースシューズの着用が必要である。 ・実習終了後には、報告会でのプレゼンテーションを予定している。	

科 目 名	助産学実習Ⅱ(実践力開発)															
英 文 名	Clinical Practice of Midwifery Ⅱ (Practical Development)															
担 当 教 員	飯嶋友美、寺口顕子、大石時子															
時 期・単 位	看護学専攻修士課程 1 年次 後期 必修 4 単位															
講 義 目 標	本実習の基礎となる科目は、女性フィジカルアセスメント、新生児学、助産学概論、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥・新生児期の助産診断技術学、地域母子保健論、助産健康教育論および助産学実習Ⅰ(基礎)である。 本実習では、周産期にある母子とその家族のより健康な妊娠・出産・産褥・子育ての実現に向け、指導者の助言を受けながら安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の看護ケア及び保健指導が実施できることを目標とする。															
到 達 目 標	40. 既習の知識をもとに、指導者の助言を受けながら周産期にある母子とその家族のニーズや健康状態を分析して助産診断を行うことができる。 41. 指導者の助言を受けながら、対象者を総合的に理解して助産計画が立案・評価ができる。 42. 指導者の助言を受けながら、安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の助産ケアが実施できる。 43. 指導者の助言を受けながら、周産期にある対象者の健康の保持・増進および個別性に合わせた妊婦健康診査における助産ケアが実施できる。 44. 指導者の助言を受けながら、対象者の個別性に合わせた保健指導が実施できる。 45. 指導者の助言を受けながら、周産期にある母子とその家族の発達課題の達成のための支援について思考・創造することができる。 46. 指導者の助言を受けながら、自己の助産実践を評価し、自己の課題を見出すことができる。 47. 病院施設における安全管理システムやチーム医療について理解し、助産師の役割と責務・倫理観について考察し、今後の具体的な自己の取り組みについて考察する。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③		⑤										⑬	
評 価 方 法	助産診断過程の展開・助産技術の習得度・実習記録(60%)、実習態度・意欲(40%)の内容を総合して評価する。オンラインや学内実習となった場合も同様に評価する。															
課題に対する フィードバック	対面: 毎日行動計画表を記載することで、実習を振り返るとともに、教員からのコメントを受ける。助産過程と分娩介助評価表を分娩介助中および分娩介助終了後に臨床指導者や教員に提出し、指導を受ける。 オンラインや学内実習の場合は、教員に助産過程や分娩介助評価表を提出して指導を受ける。															
使 用 教 材	講義で使用した参考書・テキスト等、実習要項 ⑦ 北川真理子他著: 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、改訂第4版、南江堂 ⑧ 青木康子他著: 実践マタニティ診断 第4版、医学書院 ⑨ 中井章人: 図説 CTG テキスト アドバンス、メジカルビュー社 ⑩ 日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト 第4版、メジカルビュー社 (参考図書) ⑪ 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会: 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 ⑫ 一般社団法人日本助産学会: エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2020															

実 習 内 容	・本実習は、実習施設に 4 週間(1 週間:5 日間×4)で、到達目標の達成に向けて実習を行う。そのうち 1 週間は、継続事例実習とする。実習は、実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になる場合がある。(実習時間は、5 日間＝45 時) 【実習内容】 ・継続事例(1 例)の対象者の妊婦健康診査や助産師外来で保健指導を実施する。 ・母子同室指導、沐浴指導、退院指導等の健康教育を実施する。 ・分娩介助(2～7 例)を実施する。 ・間接介助を実施する。 ・新生児のバイタルサイン測定や全身観察、清拭や沐浴を実施する。 ・産褥期の褥婦の退行性変化・進行性変化(母乳育児)や母親役割獲得の経過を促進するためのケアを実施する(継続事例においては、退院後の 1 ヶ月健康診査まで実施する)。 ※健康教育及び保健指導については、必ず臨床指導者や教員の指導を受けた後に実施する。 ・帝王切開を受ける産婦・新生児のケア 【実習記録】 実習記録は様式 1～20 を使用する。 ・日々の行動計画の作成による実践内容と自己課題を記述する。 ・セルフチェック表、助産学実習経験記録を記述する。 ・分娩介助実施の過程で、助産過程と分娩介助評価表を記述する。 ・分娩介助実施後には、分娩介助評価表に自己評価を記述する。 (自己評価をしてから臨床指導者の評価を受けて、自己の課題を明確にする。間接介助時も同様。)	
	予 習 ・実習要項や実習施設の資料を通読し、実習の目的・目標の理解を深める。 ・この実習の基礎となる科目の講義資料・参考書を確認し、妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期のケアについて学習を深める。 ・分娩介助技術の練習をすることで、安全で安楽な技術を実践できるようにする。	期間中適宜
	復 習 ・周産期にある母子とその家族へのケアについて振り返り、助産師の役割と責務等について考察するとともに、自己の課題を明確にする。	期間中適宜
備 考	・オフィスアワー:質問及び相談には、随時応じる(オンライン時も同様)。そのほかにもメールにて随時対応する。 ・メールアドレス:ijjima-y@takasaki-u.ac.jp (#→@) ・予習や復習に必要な時間は「期間中適宜」と表示するが、この科目の単位を修得するためには、実習時間外を利用して、分娩介助技術の繰り返し練習や自立的な学習が必要となる。 ・本科目は、助産学実習Ⅰ、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥・新生児の助産診断技術学の履修が必要である。 ・本実習では、基本的にユニフォーム・名札・ナースシューズの着用が必要である。 ・実習終了後には、報告会でのプレゼンテーションを予定している。	

科 目 名	助産学実習Ⅲ(実践力発展)															
英 文 名	Clinical Practice of Midwifery III (Practical Advanced)															
担 当 教 員	飯嶋友美、寺口顕子、大石時子															
時 期・単 位	看護学専攻修士課程 1 年次 後期 必修 3 単位															
講 義 目 標	本実習の基礎となる科目は、女性フィジカルアセスメント、新生児学、助産学概論、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥・新生児期の助産診断技術学、地域母子保健論、助産健康教育論および助産学実習Ⅰ(基礎)・助産学実習Ⅱ(実践力開発)である。 本実習では、周産期にある母子とその家族のより健康な妊娠・出産・産褥・子育ての実現に向け、指導者の助言を受けながら、自律的に思考・行動することで、安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の助産ケア及び保健指導が実施できることを目標とする。															
到 達 目 標	48. 既習の知識をもとに、指導者の助言を受けながら、自律的に周産期にある母子とその家族のニーズや健康状態を分析して助産診断を行うことができる。 49. 指導者の助言を受けながら、自律的に対象者を総合的に理解して助産計画が立案・評価ができる。 50. 指導者の助言を受けながら、自律的に安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の助産ケアが実施できる。 51. 指導者の助言を受けながら、主体的に周産期にある対象者の健康の保持・増進および個別性に合わせた妊婦健康診査および産後健診における助産ケアが実施できる。 52. 指導者の助言を受けながら、主体的に対象者の個別性に合わせた保健指導が実施できる。 53. 指導者の助言を受けながら、自律的に周産期にある母子とその家族の発達課題の達成のための支援について思考・創造することができる。 54. 指導者の助言を受けながら、自律的に自己の助産実践を評価し、自己の課題を見出すことができる。 55. 病院施設における安全管理システムやチーム医療について理解し、助産師の役割と責務・倫理観について考察し、今後の具体的な自己の取り組みについて述べる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法	助産診断過程の展開・助産技術の習得度・実習記録(50%)、継続事例の記録(20%)実習態度・意欲(30%)の内容を総合して評価する。オンラインや学内実習となった場合も同様に評価する。															
課題に対する フィードバック	対面: 毎日行動計画表を記載することで、実習を振り返るとともに、教員からのコメントを受ける。助産過程と分娩介助評価表を分娩介助中および分娩介助終了後に臨床指導者や教員に提出し、指導を受ける。 オンラインや学内実習の場合は、教員に助産過程や分娩介助評価表を提出して指導を受ける。															
使 用 教 材	講義で使用した参考書・テキスト等、実習要項 ⑬ 北川真理子他著: 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、改訂第4版、南江堂 ⑭ 青木康子他著: 実践マタニティ診断 第4版、医学書院 ⑮ 中井章人: 図説 CTG テキスト アドバンス、メジカルビュー社 ⑯ 日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト 第4版、メジカルビュー社(参考図書) ⑰ 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会: 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 ⑱ 一般社団法人日本助産学会: エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2020															

実 習 内 容	・本実習は、実習施設に 3 週間(1 週間:5 日間×3)で、到達目標の達成に向けて実習を行う。そのうち 1 週間は、継続事例実習とする。実習は、実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になる場合がある。(実習時間は、5 日間＝45 時) 【実習内容】 ・継続事例(1 例)の対象者の妊婦健康診査や助産師外来で保健指導を実施する。 ・母子同室指導、沐浴指導、退院指導等の健康教育を実施する。 ・分娩介助(8～10 例)を実施する。 ・間接介助を実施する。 ・新生児のバイタルサイン測定や全身観察、清拭や沐浴を実施する。 ・産褥期の褥婦の退行性変化・進行性変化(母乳育児)や母親役割獲得の経過を促進するためのケアを実施する(継続事例においては、退院後の 1 ヶ月健康診査まで実施する)。 ※健康教育及び保健指導については、必ず臨床指導者や教員の指導を受けた後に実施する。 ・帝王切開を受ける産婦・新生児のケア 【実習記録】 実習記録は様式 1～20 を使用する。 ・日々の行動計画の作成による実践内容と自己課題を記述する。 ・セルフチェック表、助産学実習経験記録を記述する。 ・分娩介助実施の過程で、助産過程と分娩介助評価表を記述する。 ・分娩介助実施後には、分娩介助評価表に自己評価を記述する。 (自己評価をしてから臨床指導者の評価を受けて、自己の課題を明確にする。間接介助時も同様。)	
	予 習 ・実習要項や実習施設の資料を通読し、実習の目的・目標の理解を深める。 ・この実習の基礎となる科目の講義資料・参考書を確認し、妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期のケアについて学習を深める。 ・分娩介助技術の練習をすることで、安全で安楽な技術を実践できるようにする。	期間中適宜
	復 習 ・周産期にある母子とその家族へのケアについて振り返り、助産師の役割と責務等について考察するとともに、自己の課題を明確にする。	期間中適宜
備考	・オフィスアワー：質問及び相談には、随時応じる(オンライン時も同様)。そのほかにもメールにて随時対応する。 ・メールアドレス：ijima-y@takasaki-u.ac.jp (#→@) ・予習や復習に必要な時間は「期間中適宜」と表示するが、この科目の単位を修得するためには、実習時間外を利用して、分娩介助技術の繰り返し練習や自立的な学習が必要となる。 ・本科目は、助産学実習Ⅰ・Ⅱ、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥新生児の助産診断技術学の履修が必要である。 ・本実習では、基本的にユニフォーム・名札・ナースシューズの着用が必要である。 ・実習終了後には、報告会でのプレゼンテーションを予定している。 ・本実習終了後も、修士 2 年前期の「地域母子保健演習」において、継続事例対象者の乳児期(4 か月)健康診査への同行や家庭訪問を予定している。	

科目名	助産学実習Ⅳ(助産管理)																
英文名	Clinical Practice of MidwiferyⅣ (Midwifery Management)																
担当教員	大石 時子																
時期・単位	2 年次 通年 必修 1 単位																
講義目標	助産師が活動する地域、及び産科棟での役割と責任、業務の推進にかかわる助産管理の実際を学ぶとともに、現状の課題を理解し、解決のための方策を考えることができる。																
到達目標	1.診療報酬や自由診療、出産育児一時金などの社会保障を理解し、説明できる。 2.管理の実際を理解でき、課題を見つけられる。 3.助産施設の医療安全対策とアメニティの向上に関する業務の実際を説明できる。 4.助産師の倫理と理念に基づいた母子の継続ケア、並びにウイメンズヘルス・ケアを実践できる。 5.関係諸記録の種類の確認と記載、保管の実際を説明できる。																
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGsとの関連			3		5											16	
評価方法	レポート(60%) 発表(40%)																
課題に対する フィードバック	出産の歴史や環境を学び、医療介入のない自然出産のメリットやデメリットを考察する機会は助産観の育成に役立つ学習形態となっている。 小テストを行う。解説する。																
使用教材	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書 矢島床子:フィーリングバース,自然食通信社 飯田俊彦:アクテバースサイエンス, メディカ出版																
講義内容	(通常実施の場合) 第1日目 ・助産所実習 事前学習の文献検索(見学時の観察ポイントの確認、経営に関しての知識(診療報酬と自由診療等)と整理を行い実際に参画 第2日目 ・助産所実習 助産所マネージメントの実際を見学 多職種協同の実際に参画 第3～5日目 ・実習後グループディスカッション ・まとめ、レポート作成 (オンライン実施の場合) 第1日目 ・学内実習 事前学習の文献検索(助産所経営に関しての知識・診療報酬と自由診療等)と整理を行う。 様々な助産所と助産師の活動について紹介 助産所運営とそこで行われているケアについて紹介 遠隔講義に参画 第2日目 ・学内実習																

	「助産所とうみ」の紹介 助産所マネジメントの実際を学習する 多職種協同連携について 助産所所長による遠隔講義に参画 第3～5日目 ・学内実習後グループディスカッション ・まとめ、レポート作成	
	予習	フィーリングバースについて考察を深める。 適宜
	復習	助産師業務要覧Ⅰ(基礎編)を学習し考察を深める。 適宜
備考	健大のメールアドレスは次の通り。oishi-t@takasaki-u.ac.jp 履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日1215～1300. 5号館306研究室(大石) 予習を行い、体調を整えて実習に臨むこと。1週間(5日間)＝45時間	

科 目 名		助産学実践 I (EBPM 探究)															
英 文 名		Practice of Midwifery I (Search for EBPM)															
担 当 教 員		大石 時子、寺口顕子、片岡弥恵子															
時期・単位		1年次 後期 必修 2単位															
講 義 目 標		助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向け EBPM (Evidence Based Practice in Midwifery)とは何かについて理解し、注目すべき内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする。															
到 達 目 標		1.助産にかかわる注目すべきケア技術を標記し、意義と課題を説明出来る。 2.課題を明確にし、文献を探索しクリティークした結果を報告できる。 3.研究目的の焦点化と課題を明確にし説明出来る。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
		✓	研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				3		5										16	
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。															
使 用 教 材		1) 臨床研究の道標: 福原俊一、健康医療評価研究機構 資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。															
1	講 義 内 容	EBPM の歴史、evidence に基づく助産実践の必要性(大石)															
	該当する到達目標	予 習	EBM の意味を調べる													1.5 時間	
	1	復 習	助産実践にとっての EBPM の意義を考察する													1.5 時間	
2	講 義 内 容	助産学にかかわる内外研究紹介と抄読、グループワーク(片岡)															
	該当する到達目標	予 習	助産文献の精読と批判的吟味													1.5 時間	
	1,2	復 習	批判的吟味の解説の熟読													1.5 時間	
3	講 義 内 容	助産学にかかわる内外研究紹介と抄読、グループワーク(片岡)															
	該当する到達目標	予 習	助産文献の精読と批判的吟味													1.5 時間	
	1,2	復 習	批判的吟味の解説の熟読													1.5 時間	
4	講 義 内 容	助産文献のクリティーク(片岡)															
	該当する到達目標	予 習	助産文献の精読と批判的吟味													1.5 時間	
	2	復 習	批判的吟味の解説の熟読													1.5 時間	
5	講 義 内 容	助産文献のクリティーク(片岡)															
	該当する到達目標	予 習	助産文献の精読と批判的吟味													1.5 時間	
	2	復 習	批判的吟味の解説の熟読													1.5 時間	
6	講 義 内 容	文献のクリティークと研究目的の焦点化(大石)															
	該当する到達目標	予 習	文献を自己課題にそって選択しクリティークする													1.5 時間	
	2,3	復 習	授業を踏まえ、もう一度文献クリティークをする													1.5 時間	
7	講 義 内 容	文献のクリティークと研究目的の焦点化(大石)															
	該当する到達目標	予 習	文献を自己課題にそって選択しクリティークする													1.5 時間	

	2,3	復習	授業を踏まえ、もう一度文献クリティークをする	1.5 時間
8	講義内容	文献のクリティークと研究目的の焦点化(大石)		
	該当する到達目標	予習	文献を自己課題にそって選択しクリティークする	1.5 時間
	2,3	復習	授業を踏まえ、もう一度文献クリティークをする	1.5 時間
9	講義内容	研究テーマの設定 1(大石)		
	該当する到達目標	予習	助産学の先行研究から関心のあるテーマの論文を選択、文献リストを記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	選択した論文(先行研究)の目的とその背景を確認して、文献リストを整理する。	1.5 時間
10	講義内容	研究テーマの設定 2(大石)		
	該当する到達目標	予習	先行研究のデータ収集方法・分析方法を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	先行研究のデータ収集方法・分析方法について不足する内容を学習する。	1.5 時間
11	講義内容	研究テーマの設定 3(大石)		
	該当する到達目標	予習	先行研究の結果・考察から明らかにされていることをまとめる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	先行研究で明らかにされていることを文献リストに整理する。	1.5 時間
12	講義内容	研究テーマの設定 4(大石)		
	該当する到達目標	予習	文献検討を通して自己の明らかにしたい研究課題を記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ディスカッションを通し自己の研究課題を振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	研究枠組みの作成(寺口)		
	該当する到達目標	予習	文献検討から自己の研究課題の背景を記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	プレゼン・ディスカッションを通して研究背景を整理する。	1.5 時間
14	講義内容	研究計画書作成 1(寺口)		
	該当する到達目標	予習	自己の研究課題の意義を記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自己の研究課題、研究意義を振り返り整理する。	1.5 時間
15	講義内容	研究計画書作成 2(寺口)		
	該当する到達目標	予習	研究課題を明確にし、記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	倫理的配慮を踏まえた研究方法の考え方について振り返る。	1.5 時間
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 45 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ① オフィスアワー:火曜日 12 時～13 時、5 号館階 306 研究室 メールでも受け付ける。E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp (大石) (#を@に変換すること)			

科目名	助産学実践Ⅱ (EBPM 展開)																
英 文 名	Practice of MidwiferyⅡ (Practice of EBPM in the field)																
担 当 教 員	大石 時子、 寺口顕子																
時期・単位	2 年次 通年 必修 2 単位																
講 義 目 標	助産ケアやシステムのエビデンスを検証するための研究テーマ、研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮を踏まえ、プレテストを展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。																
到 達 目 標	1.課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。 2.研究の目的にそった介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。 3.倫理的条件を満たし、必要時プレテストとしてフィールドで展開できる。 4.研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。																
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
		高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			3		5										16		
評 価 方 法	レポート(100%)																
課題に対する フィードバック	研究計画書に関する作成資料について口頭指導またはコメントなどを付けて返却する。																
使 用 教 材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する 参考テキスト:小笠原知枝・他編:これからの看護研究－基礎と応用－, ヌーベルヒロカワ																
講 義 内 容	4 月 助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉 対象者の選定と実施手続き																
	5 月 介入プログラム・効果判定指標等の点検																
	6 月 研究展開のプレテストを行い、実施方法の再点検、修正、研究計画書完成																
	予 習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示														期間中適宜	
	復 習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示														期間中適宜	
備 考	1.授業外学習の進め方 : 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間 : 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先: E-mail アドレス:oishi-t#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) 4.オフィスアワー: 初回講義に提示する																

科 目 名	助産学実践Ⅲ(地域実践)															
英 文 名	Practice of MidwiferyⅢ (Community Practice)															
担 当 教 員	大石 時子、寺口顕子															
時 期・単 位	2 年次 通年 必修 3 単位															
講 義 目 標	助産所(院内助産所)、地域社会における母子保健活動の連携、周産期母子コーディネーターに関して、選定した実践拠点において、助産学にかかわる自己課題に対する統合実習を行い、助産学における理念、技術、思考の熟成を含め、課題を達成する。															
到 達 目 標	1.自己課題に対応したフィールドを決め、交渉できる。 2.自己課題を解決する計画を企画し、立案できる。 3.計画に基づき実践し、課題を達成できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法	レポート(100%)															
課題に対する フィードバック	・データ収集の状況と分析過程について口頭あるいは書面でコメントする。															
使 用 教 材	"資料を配布する、並びに検索した文献を活用する 小笠原知枝・他編:これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ"															
講 義 内 容	企画準備 5 月 課題目的に沿ったフィールドでの実施 地域実践の拠点の例 院内助産所:助産所とうみ 地域連携:寿助産院(高崎地区の産後母子訪問システムの調整役) 子育てサロンサージファム 周産期搬送コーディネーター:県立小児医療センター まとめ															
	予 習	今までの文献検索に基づき、自己課題を明らかにして、目的に合うフィールドを調査、探究する。														時間
	復 習	課題解決の課程で、その状況に必要な文献検索および学習を行う。														時間
備 考	1.授業外学習の進め方 : 1)課題解決のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に課題解決を進めること。 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間 : 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある 3.担当教員連絡先 : E-mail アドレス:oishi-t#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) 4.オフィスアワー:火曜日 12 時～13 時、 5 号館階 306 研究室															

科目名	助産学課題研究															
英文名	Seminar for Master's thesis on Midwife															
担当教員	大石 時子															
時期・単位	2 年次 通年 必修 4 単位															
講義目標	臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的条件も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として公表する。															
到達目標	1.文献 review に基づいて、研究計画書を作成できる 2. 研究のフィールド開拓を教員と共に行い、交渉できる。 3.研究倫理審査に対応できる。 4.研究計画書に基づいて研究を実施し、分析し論文としてまとめることができる															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
学位授与方針 との対応			③		⑤											⑬
評価方法	論文審査の結果を踏まえ、研究の過程を総合的に評価する															
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。															
使用教材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト:小笠原知枝・他編:これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ															
講義内容	2 年次 4 月～ 先行研究を踏まえて研究を計画し、研究計画書審査に合格する 6～7 月 研究倫理審査 8～9 月 データ収集 10 月 データ分析、中間発表会 11 月 修士論文作成 12 月 修士論文審査															
	予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示													期間中適宜	
	復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示													期間中適宜	
備考	1.授業外学習の進め方： 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)教員と密に連絡をとり、フィールドの開拓や交渉、プレテストを自ら実施する。 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先：E-mail アドレス:oishi-t#takasaki-u.ac.jp（#を@に変換すること） 4. オフィスアワー：火曜日 12～13 時、5 号館 3 階 306 研究室(大石)															

科目名	助産学課題研究																
英文名	Seminar for Master's thesis on Midwife																
担当教員	寺口 顕子																
時期・単位	2 年次 通年 必修 4 単位																
講義目標	助産学実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的配慮も踏まえて研究を計画、実施し、論文として公表する。																
到達目標	1. 文献レビューに基づいて研究目的を明確にし、研究計画書を作成できる。 2. 研究のフィールド開拓を教員と共に行い、交渉できる。 3. 研究倫理審査に対応できる。 4. 研究計画書に基づいて研究を実施し、分析して論文としてまとめることができる。																
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGsとの関連			3		5											16	17
評価方法	論文審査の結果を踏まえ、研究の過程を総合的に評価する。																
課題に対するフィードバック	対面：・研究計画書に関する資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文の緒言、方法、結果、考察、結論についてコメントなどを付け返却する。 ・プレゼンテーションのスライド作成、口演について口頭でコメントする。 オンライン：・リアルタイムでの口頭によるコメント、メール、C-learning 等を用いて書面によりコメントする。																
使用教材	検索した文献の活用、資料配布 参考書：近藤潤子監訳(2010)：看護研究 原理と方法 第2版、医学書院 ほか適宜紹介する。																
講義内容	4 月～6 月 先行研究を踏まえて研究を計画し、研究計画書審査に合格する 6 月～7 月 研究倫理審査 8 月～9 月 データ収集 10 月 データ分析、中間発表会 11 月 修士論文作成 12 月 修士論文審査																
	予習	研究プロセスに応じ、ゼミ資料を作成する。														各回 1.5 時間	
	復習	ゼミでのディスカッションを踏まえ、不明点の確認や修正を行う。														各回 1.5 時間	

備考	1.授業外学習の進め方： 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2)教員と密に連絡をとり、フィールドの開拓や交渉、プレテストを自ら実施する。 3)目的に合った分析手法についての学修を自ら行う。 2.予習・復習の時間 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで日時を調整し、研究室で対応する。 メールアドレス teraguchi#takasaki-u.ac.jp オフィスアワー 月曜日 13:00～14:30、5 号館 409 研究室 (#を@に変換すること)

科 目 名		助産学特論 I(ウィメンズヘルス)															
英 文 名		Advanced Theory of Midwifery I (Women's Health)															
担 当 教 員		大石 時子、伊藤 理廣															
時期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位															
講 義 目 標		女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。															
到達目標		1.思春期男女に対する基本的姿勢と心身の理解の基に、相談や、適切な対応ができる。 2.セクシュアリティの多様性を理解し、性自認や性志向、受孕調節、性暴力や妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明出来る。 3.性感染症、月経に対する理解と課題、中高年の健康問題とその対応について説明出来る。 4.グループワークにおいては、実践開発領域の学生はリーダーシップを発揮し、助産師資格取得領域の学生は、フォロワーシップを発揮できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			3		5											16	
評 価 方 法	参加度(30%)レポート(70%)「女のからだ、を読んで考えたこと」																
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。																
使 用 教 材	テキスト:①荻野美穂:女のからだ、岩波新書 参考書:ウィメンズヘルス事典-女性のからだところガイド, 日本母性衛生学会																
1	講 義 内 容	WOMEN’ S HEALTH と GENDER(大石)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	シラバスの内容を読み、講義義の目標を理解する														1.5 時間
		復 習	科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容について確認する														1.5 時間
2	講 義 内 容	女性と月経、月経障害について大石)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	女のからだ 第2章までを読む														1.5 時間
		復 習	女のからだ 第 3,4 章を読む														1.5 時間
3	講 義 内 容	思春期女性の支援(避妊)(大石)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	女のからだ 第2章までを読む														1.5 時間
		復 習	女のからだ 第 3,4 章を読む														1.5 時間
4	講 義 内 容	思春期女性の支援(ピル)(伊藤)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	月経のメカニズムについて調べておく														1.5 時間
		復 習	ピルの作用機序と副作用について復習する														1.5 時間
5	講 義 内 容	思春期女性の支援(ピル)(伊藤)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	月経のメカニズムについて調べておく														1.5 時間
		復 習	ピルの作用機序と副作用について復習する														1.5 時間
6	講 義 内 容	性感染症予防と支援(子宮頸がん予防を含む)(大石)															
	該当する到達目標 1,2,3,	予 習	子宮と女性性器の解剖														1.5 時間
		復 習	子宮頸がん予防に果たす助産師の役割を考察する														1.5 時間

7	講義内容	性感染症予防と支援:グループワークとまとめ(大石)		
	該当する到達目標	予習	子宮と女性性器の解剖	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	子宮頸がん予防に果たす助産師の役割を考察する	1.5 時間
8	講義内容	女性に対する暴力―人身売買他(大石)		
	該当する到達目標	予習	DVIについてインターネット上の情報を収集する	1.5 時間
	1,2,3	復習	DVの社会背景を考察する。	1.5 時間
9	講義内容	女性に対する暴力への対処と支援:グループワーク(大石)		
	該当する到達目標	予習	DVIについてインターネット上の情報を収集する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	DVの社会背景を考察する。	1.5 時間
10	講義内容	不妊の悩みを持つ女性の現状(大石)		
	該当する到達目標	予習	妊娠成立のメカニズムを復習しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	テキスト:女のからだ 第5章を読む	1.5 時間
11	講義内容	不妊治療の現状と女性・家族・社会(大石)		
	該当する到達目標	予習	妊娠成立のメカニズムを復習しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	テキスト:女のからだ 第5章を読む	1.5 時間
12	講義内容	不妊女性と家族に対する支援と社会的課題 (大石)		
	該当する到達目標	予習	妊娠成立のメカニズムを復習しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	テキスト:女のからだ 第5章を読む	1.5 時間
13	講義内容	不妊の悩みを持つ女性に対する支援:グループワーク(大石)		
	該当する到達目標	予習	妊娠成立のメカニズムを復習しておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	テキスト:女のからだ 第5章を読む	1.5 時間
14	講義内容	中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴(大石)		
	該当する到達目標	予習	中高年女性の身体的特徴	1.5 時間
	3	復習	中高年女性の健康に及ぼす社会的要因について考察する	1.5 時間
15	講義内容	中高年女性に対する支援:グループワークとまとめ(大石)		
	該当する到達目標	予習	中高年女性の身体的特徴	1.5 時間
	3,4	復習	中高年女性の健康に及ぼす社会的要因について考察する	1.5 時間
備考	・主体的に discussion に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 45 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館3階 306 研究室 E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp(大石) (#を@に変換すること)			

科 目 名		助産学特論Ⅱ（助産管理）														
英 文 名		Advanced Theory of Midwifery Ⅱ（Midwifery Management）														
担 当 教 員		小泉 仁子、大石 時子														
時 期・単 位		1 年次 後期 必修 1 単位														
講 義 目 標		助産業務、管理、および病産院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。														
到 達 目 標		1.助産業務に関する法律を理解し、説明できる。 2.助産管理の方法を理解し、説明できる。 3.安全管理のあり方を理解し、説明できる。 4.自己の開設する助産所または勤務する周産母子センターを想定し、助産管理の一側面における姿勢を説明できる。（各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理）														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法		筆記試験(100%)														
課題に対する フィードバック		講義時にディスカッションを通して相互理解を深める。														
使 用 教 材		テキスト:①我部山・他:助産学講座 10, 医学書院 ②助産業務要覧 2022 年版, 看護協会出版会 参考書:看護六法(平成 25 年版), 新日本法規, 助産業務ガイドライン 2019, 院内助産・助産師外来ガイドライン 2018														
1	講 義 内 容	助産業務・管理の概念(小泉) ＊ 助産業務と助産業務展開について助産師の役割と業務について学ぶ														
	該当する到達目標	予 習	必読図書を読み、課題を明確にしておく。												1.5 時間	
	1,2	復 習	ディスカッションで自己課題を明確にする。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	助産業務に関連する法規(法的施策)(小泉)														
	該当する到達目標	予 習	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。												1.5 時間	
	1,2	復 習	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	助産業務に関連する法規(法的施策)(小泉)														
	該当する到達目標	予 習	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。												1.5 時間	
	1,2	復 習	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	助産業務管理の実際(病院)(小泉) ＊ 助産業務における安全・管理の実際について学ぶ														
	該当する到達目標	予 習	必読図書を読み、課題を明確にしておく。												1.5 時間	
	2,4	復 習	ディスカッションで自己課題を明確にする。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	助産業務管理の実際(含助産所等の連携)(大石) ＊ 助産業務における安全・管理の実際について学ぶ														
	該当する到達目標	予 習	必読図書を読み、課題を明確にしておく。												1.5 時間	
	2,4	復 習	ディスカッションで自己課題を明確にする												1.5 時間	
6	講 義 内 容	助産業務管理の実際(含助産所等の連携)(大石)														

		* 助産業務における安全・管理の実際について学ぶ		
	該当する到達目標	予 習	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5 時間
	2,4	復 習	ディスカッションで自己課題を明確にする	1.5 時間
7	講 義 内 容	周産期における安全管理・危機管理(大石)		
	該当する到達目標	予 習	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。	1.5 時間
	2,3	復 習	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。	1.5 時間
8	講 義 内 容	助産師と災害対策(大石) * 周産期施設の災害対策 * 災害の実際 * 災害時の母子ケアについて		
	該当する到達目標	予 習	災害に関連した母子ケアについて、インターネット等で情報に触れる	1.5 時間
	2,3	復 習	災害時に助産師に求められる役割が分かる	1.5 時間
備 考	・各単元(授業時間)について、テキストの該当部分にそって自己の学習目標を明確にする。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・授業内容について、理解できた事柄を確認し、出来なかった事柄をさらに追求する努力をする。 ・学習内容について、問題意識を高め、他の参考書、一般書籍、新聞等に目を通すなどさらに研鑽する。 ・国内外を問わず、母子と女性の健康問題について幅広く知識や出来事に興味を馳せるよう努力する。 ・講義を受けるに当たっては、積極的に参加し、質問や議論を実りあるものにするよう努力する。 ・講師との連絡方法(オフィスアワー・メールアドレス)については、初講時に示す。			

科 目 名		助産学特論Ⅲ(開業・院内助産)															
英 文 名		Advanced Theory of MidwiferyⅢ (Independent Practice of Midwifery)															
担 当 教 員		寺口 顕子、東福寺 幾夫、馬目 裕子、西山 信之、宮下 美代子、岡本 登美子、林 啓子															
時 期・単位		1 年次 後期 必修 1 単位															
講 義 目 標		地域における助産所の開業や院内助産を設置、運営するのに必要な企業家としてのマインドと経営的視点を持ちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。															
到 達 目 標		1.経営や、経営戦略を理解し説明ができる。 2.マネジメントの一環としての多職種協同を理解し、説明できる。 3.リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。 4.行政への働きかけ(産後母子訪問システム等の実績等)、NPO法人の取得・運営を理解し、説明できる。 5.助産に関わる各種ガイドラインを理解し説明できる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
			研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				3		5	6									16	17
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(30%)、presentation(70%)で総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック		対 面: Presentation に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。 オンライン: オンラインで行う Presentation に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。															
使 用 教 材		1)ジェームズ C.コリンズ:ビジョナリーカンパニー 日経 BP 社 2)産婦人科診療ガイドライン 2020 産科編 3)助産業務ガイドライン 2019 4)福井トシ子編、助産師業務要覧 2022 年版、日本看護協会出版会 5)図説・日本の遠隔医療 2017 日本遠隔医療学会 その他資料で提供															
1	講 義 内 容	病院における経営戦略の実際(西山)															
	該当する到達目標 1	予 習	病院における経営組織の特徴・課題について考察。													0.5 時間	
		復 習	経営組織の基本的な考え方、組織デザイン、組織文化、組織戦略、組織変革などについて、早く正しい答えを見出す能力(知能)を高める。													0.5 時間	
2	講 義 内 容	病院における経営戦略の実際(西山)															
	該当する到達目標 1	予 習	病院における経営組織のマネジメント概念の現実への適用について考察。													0.5 時間	
		復 習	個人や集団といったミクロレベルから、組織構造や組織間といったマクロレベルまで、経営組織の「未来最適」「全体最適」を、問い続ける能力(知性)を磨く。													0.5 時間	
3	講 義 内 容	助産所における経営と経営戦略(宮下)															
	該当する到達目標 1	予 習	みやした助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。													0.5 時間	
		復 習	学びをまとめ「私が開所したい助産所とのテーマで presentation の準備をする													0.5 時間	
4	講 義 内 容	助産所における経営戦略の実際(宮下)															
	該当する到達目標 1	予 習	みやした助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。													0.5 時間	
		復 習	学びをまとめ「私が開所したい助産所」とのテーマで presentation の準備をする													0.5 時間	
5	講 義 内 容	助産師の自律と多職種協働(内外)のあり方(宮下)															
	該当する到達目標	予 習	みやした助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。													0.5 時間	

	2	復習	学びをまとめ「私が開所したい助産所」とのテーマで presentation の準備をする	0.5 時間
6	講義内容	助産師の自律と人間関係の調整(宮下)		
	該当する到達目標	予習	みやした助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5 時間
	2	復習	学びをまとめ「私が開所したい助産院」とのテーマで presentation の準備をする	0.5 時間
7	講義内容	医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開(宮下)		
	該当する到達目標	予習	みやした助産院の経営内容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5 時間
	3,5	復習	学びをまとめ「私が開所したい助産院」とのテーマで presentation の準備をする	0.5 時間
8	講義内容	助産師による産後ケア事業の実例(岡本)		
	該当する到達目標	予習	ウパウパハウス岡本助産院の HP で産後ケア事業を調べる	0.5 時間
	3	復習	産後ケア事業の法的根拠と意義についてまとめる	0.5 時間
9	講義内容	助産師による産後ケア事業の実例(岡本)		
	該当する到達目標	予習	ウパウパハウス岡本助産院の HP で産後ケア事業を調べる	0.5 時間
	4	復習	産後ケア事業の法的根拠と意義についてまとめる	0.5 時間
10	講義内容	医療事故防止、感染予防対策、災害対策等(馬目)		
	該当する到達目標	予習	産科医療過誤訴訟	0.5 時間
	3	復習	災害支援・災害時分娩	0.5 時間
11	講義内容	院内助産システムと助産師の自律について(林)		
	該当する到達目標	予習	院内助産システムとはどのようなシステムなのか調べておく	0.5 時間
	2,3,5	復習	施設の状況に合わせた院内助産システムの導入について考える	0.5 時間
12	講義内容	助産師の自律(バースセンターの設立経験から)(林)		
	該当する到達目標	予習	院内助産を導入していくために、助産師自身に何が必要かを考える	0.5 時間
	2,3,5	復習	助産師の声明・綱領(日本助産師会)を読み、院内助産を通じた助産師の自律について考える	0.5 時間
13	講義内容	遠隔医療とは(東福寺) (1)遠隔医療とは (2)遠隔医療の歴史 (3)遠隔医療実用上の障害 (4)D to D 遠隔医療 (5)D to P、D to N to P 遠隔医療、オンライン診療 (6)その他の遠隔医療 (7)遠隔禁煙支援と Digital Therapy		
	該当する到達目標	予習	副読本「図説・日本の遠隔医療 2017」(日本遠隔医療学会編)1 章～3 章を通読する。	0.5 時間
	2,3	復習	助産師の立場で、遠隔医療をどのように利用できるかを考え、整理する。	0.5 時間
14	講義内容	IT technology を使った周産期管理 (東福寺) (1)分娩監視装置 (2)遠隔妊婦健診 (3)電子母子手帳		
	該当する到達目標	予習	副読本「図説・日本の遠隔医療 2017」(日本遠隔医療学会編)2 章を通読する。	0.5 時間
	2,3	復習	周産期管理への ICT 応用を整理する。	0.5 時間
15	講義内容	Presentation 私が開所したい助産所(寺口)		
	該当する到達目標	予習	presentation の用意 助産所の理念・業務内容・人員配置・マップほか	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	お互いの発表を共有し、さらに自己の考察を深める	0.5 時間

備 考	・助産所では予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー:火曜日 12 時～13 時、5 号館 4 階 409 研究室(寺口) ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: teraguchi # takasaki-u.ac.jp (寺口) (#を@に変換すること)

科 目 名		助産学特論Ⅳ(母子保健政策論)													
英 文 名		Advanced Theory of MidwiferyⅣ (Maternal and Child Health Politics)													
担 当 教 員		大石 時子、菊地 栄、中林千晶、山本詩子													
時期・単位		2 年次 前期 必修 1 単位													
講 義 目 標		母子保健、女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように策定され実施されていくのかを理解する													
到 達 目 標		1. 母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策を理解し説明ができる。 2. 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように変遷してきたかを理解できる 3. 政策策定過程に影響を及ぼす団体(助産師職能団体・NPO 法人・女性団体等)の役割を理解できる。 4. 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように現実に実践されているのかを理解し、説明できる。 5. 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
		研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			3		5										16
評 価 方 法	レポート(100%) 「母子保健・女性の健康のために必要な政策改善と方法についての私の考え」														
課題に対する フィードバック	質問に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。														
使 用 教 材	参考図書：①福井トシ子編、助産師業務要覧、日本看護協会出版会 ②産み育てと助産の歴史、2016、医学書院、 その他資料で提供”														
1	講 義 内 容	助産師と母子保健政策(大石)													
	該当する到達目標	予 習	地域母子保健論の復習をする												1.5 時間
	1,2,3	復 習	歴史と助産師の関連について復習する												1.5 時間
2	講 義 内 容	母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策(菊地)													
	該当する到達目標	予 習	母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく												1.5 時間
	1	復 習	関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる												1.5 時間
3	講 義 内 容	母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策の変遷(菊地)													
	該当する到達目標	予 習	母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく												1.5 時間
	1,2	復 習	関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる												1.5 時間
4	講 義 内 容	日本助産師会における政策要望活動等(山本)													
	該当する到達目標	予 習	日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る												1.5 時間
	1,3	復 習	職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる												1.5 時間
5	講 義 内 容	日本助産師会における政策要望活動等(山本)													
	該当する到達目標	予 習	日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る												1.5 時間
	1,3	復 習	職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる												1.5 時間
6	講 義 内 容	県レベルにおける母子保健政策実施(中林)													

	該当する到達目標 2,4	予 習	群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる	1.5 時間
		復 習	母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する	1.5 時間
7	講 義 内 容		県レベルにおける母子保健政策実施(中林)	
	該当する到達目標 2,4	予 習	群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる	1.5 時間
		復 習	母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する	1.5 時間
	講 義 内 容		まとめ(大石) 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策の中から一つを選び、その歴史的変遷と現在の政策を振り返り、今後どのような方策が必要か発表する	
8	該当する到達目標 5	予 習	今までの授業から現在の母子保健政策を歴史の中に位置づけてみる	1.5 時間
		復 習	母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する	1.5 時間
備考	・各施設で、予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。			
	①オフィスアワー:火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室 ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp(大石) (#を@に変換すること)			

科 目 名		助産における補完代替医療														
英 文 名		Complementary and Alternative Care in Midwifery														
担 当 教 員		今関 節子、山西 加織														
時 期・単位		2 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		女性のライフスタイルをホリスティックに観て、一人ひとりの状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に女性の性と生殖にあてて、その目的、適用、実際を習得する。														
到 達 目 標		1.助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたって、安全性の確認と倫理性について説明できる。 2.各種補完代替医療を正しく理解し、十分な習得の下で適切に実施できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連				③												
評 価 方 法		レポート(100%) 各補完代替法実施後、各自確認して様式に沿って提出された記録により評価する。														
課題に対する フィードバック		毎回提出された記録に対して、コメントし、評価する。														
使 用 教 材		①松本清一・他著:妊産婦体操の理論と実際、全国保健センター連合会 ②鮫島浩二:女性によく効くアロマセラピー、主婦の友社 ③今西二郎:医療従事者のための補完・代替医療、金芳堂														
1	講 義 内 容	科目オリエンテーション 補完代替医療とリスクマネジメント(今関)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	シラバスの内容を読み、授業の内容を理解する。													1.5 時間
		復 習	オリエンテーションの内容を確認するとともに助産師に求められる守備範囲について法や事例を通して確認し、記録を提出する。													1.5 時間
2	講 義 内 容	ヨガの基礎理論(山西)														
	該当する到達目標 2	予 習	ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。													1.5 時間
		復 習	授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。													1.5 時間
3	講 義 内 容	ヨガの実際(山西)														
	該当する到達目標 2	予 習	ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。													1.5 時間
		復 習	授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。													1.5 時間
4	講 義 内 容	妊産婦エクササイズの理論(今関)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。													1.5 時間
		復 習	授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。													1.5 時間
5	講 義 内 容	妊産婦エクササイズの実際(今関)														
	該当する到達目標 1,2	予 習	あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。													1.5 時間

		復習	授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。	1.5 時間
6	講義内容		産痛緩和法の理論と実際 マッサージ・呼吸法(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	あらかじめ配布してある資料に基づいて、内容を理解して授業に臨む。	1.5 時間
		復習	学習した産痛緩和法を実際に行って確認し、産痛緩和法一つを選んで様式に沿って記録し提出する。	1.5 時間
7	講義内容		産痛緩和法の理論と実際 身体的・心理的リラクゼーション(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	あらかじめ配布してある資料に基づいて、内容を理解して授業に臨む。	1.5 時間
		復習	学習した産痛緩和法を実際に行って確認し、産痛緩和法一つを選んで様式に沿って記録し提出する。	1.5 時間
8	講義内容		アロマ・ハーブに使われる精油・植物(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	資料を参考に身近で可能なハーブの植物を採取してくる。	1.5 時間
		復習	学習したアロマセラピーや、ハーブティーを日常に応用して様式に沿って記録し、提出する。	1.5 時間
9	講義内容		女性のライフサイクルとアロマセラピー(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	資料を参考に身近で可能なハーブの植物を採取してくる。	1.5 時間
		復習	学習したアロマセラピーや、ハーブティーを日常に応用して様式に沿って記録し、提出する。	1.5 時間
10	講義内容		リフレクソロジーの基礎理論(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。	1.5 時間
		復習	各種技法を実際に実施し、様式に沿って記録し提出する。	1.5 時間
11	講義内容		リフレクソロジーの実際(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。	1.5 時間
		復習	各種技法を実際に実施し、様式に沿って記録し提出する。	1.5 時間
12	講義内容		ツボの基礎理論(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。	1.5 時間
		復習	周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。	1.5 時間
13	講義内容		ツボの女性・妊産婦ケアへの適用(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。	1.5 時間
		復習	周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。	1.5 時間
14	講義内容		産後の骨盤エクササイズの理論と実際(今関)	
	該当する到達目標 1,2	予習	産後の骨盤と筋・靱帯の変化を理解して授業に出席する。	1.5 時間
		復習	骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。	1.5 時間
15	講義内容		快適なコンチネンスのための骨盤底筋エクササイズの理論と実際(今関)	
	該当する到達目標	予習	産後の骨盤と筋・靱帯の変化を理解して授業に出席する。	1.5 時間

	1,2			
		復 習	骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。	1.5 時間
備 考	・授業の実施場所は、2・3 回目は 8 号館 1F イベントホール、他はすべて助産学実習室。いつでも運動と水分補給ができるように準備して臨む。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合は下記の方法で対応する。 オフィスアワーおよびメールアドレスは初回講義時に提示			

科 目 名		女性のフィジカルアセスメント														
英 文 名		Physical Assessment of Women														
担 当 教 員		大石 時子、新井 基子														
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位														
講 義 目 標		女性に対する性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。														
到 達 目 標		1.助産師が行うべき女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの診察項目、診察技法、評価について説明出来る。 2.女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された観察・計測機器について、操作法と観察事項の評価について説明出来る。 3.女性の生殖器の診察と評価および検体採取について演習で実施できる。														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
			研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				3											16	
評 価 方 法		実技試験(100%)														
課題に対する フィードバック		演習において、その場で講評・コメントする。														
使 用 教 材		教科書:大石時子・他:助産師のためのフィジカルイグザミネーション, 医学書院 参考書:学部で使用したフィジカルアセスメントの教科書等														
1	講 義 内 容	助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義(大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書序章、I-1 を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	看護診断と助産診断の相違を考察する												1.5 時間	
2	講 義 内 容	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント (大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	診察技術を練習する												1.5 時間	
3	講 義 内 容	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント (大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	診察技術を練習する												1.5 時間	
4	講 義 内 容	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント (大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	診察技術を練習する												1.5 時間	
5	講 義 内 容	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント (大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3を読む												1.5 時間	
	1,2	復 習	診察技術を練習する												1.5 時間	
6	講 義 内 容	婦人科的診察 ・検体採取法、アセスメントの実際(大石)														
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-5 を読む												1.5 時間	
	1,2,3	復 習	技術テストに向け練習を行う												1.5 時間	
7	講 義 内 容	婦人科的診察														

		・検体採取法、アセスメントの実際(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-5 を読む	1.5 時間
	1,2,3	復 習	技術テストに向け練習を行う	1.5 時間
8	講 義 内 容	乳房の診察法の基礎理論(新井)		
	該当する到達目標	予 習	教科書IV-3,4 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	配布資料の理解を確認する	1.5 時間
9	講 義 内 容	乳房の診察法とアセスメントの実際(新井)		
	該当する到達目標	予 習	教科書IV-3,4 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	配布資料の理解を確認する	1.5 時間
10	講 義 内 容	胸部、の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
11	講 義 内 容	胸部、の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
12	講 義 内 容	胸部、の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
13	講 義 内 容	胸部、の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
14	講 義 内 容	腹部、手足の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3,4 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
15	講 義 内 容	腹部、手足の診察とアセスメント(大石)		
	該当する到達目標	予 習	教科書 I-3,4 を読む	1.5 時間
	1,2	復 習	診察技術を練習する	1.5 時間
備 考	・主体的に演習に参加する。 ・自律的に技術の練習をする。 ・技術で得た身体所見をアセスメントする ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 45 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。 オフィスアワー:火曜日 12~13 時、5 号館 3 階 306 研究室(大石) E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp(大石) (#を@に変換すること)			

科 目 名		産婦人科医学診断													
英 文 名		Gynecology Diagnosis													
担 当 教 員		篠崎 博光、曾田 雅之、中村 和人													
時 期・単位		1 年次 前期 選択 1 単位													
講 義 目 標		女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。													
到 達 目 標		1.医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。 2.婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。 3.女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。 4.生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解し、女性の健康支援における研究シーズを獲得する。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			3	4											
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(30%) レポート(70%)													
課題に対する フィードバック		講義開始時に学習内容についての質問を提示し、講義終了時にフィードバックを行う。													
使 用 教 材		テキスト:岡井 崇:標準産婦人科学(STANDARD TEXTBOOK), 医学書院													
1	講 義 内 容	女性生殖器の構造・女性の性機能(篠崎)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補充する。												2 時間
2	講 義 内 容	女性のライフサイクルと健康課題(篠崎)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補充する。												2 時間
3	講 義 内 容	月経異常 女子アスリートとウィメンズヘルス(篠崎)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補充する。												2 時間
4	講 義 内 容	産婦人科検査(画像診断)(篠崎)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間
	1,2,3,4	復 習	不足する学習内容を補充する。												2 時間
5	講 義 内 容	女性性器の疾患①(中村)													
	該当する到達目標	予 習	女性性器の感染症・良性腫瘍の内容について、テキストを用いて包括的に把握しておく。												1 時間
	2,3,4	復 習	テキスト・資料をもとにして内容の確認を行う。												2 時間
6	講 義 内 容	女性性器の疾患②(中村)													
	該当する到達目標	予 習	婦人科悪性腫瘍の各々について、特徴を事前に理解しておく。												1 時間
	2,3,4	復 習	テキストと実地臨床との違いを確認し、知識を整理する。												2 時間
7	講 義 内 容	加齢と疾患、更年期と更年期障害(曾田)													
	該当する到達目標	予 習	該当部分をテキスト等で事前学習する。												1 時間

	1,2,3,4	復習	不足する学習内容を補充する。	2 時間
8	講義内容	加齢と疾患、骨粗鬆症(曾田)		
	該当する到達目標	予習	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	不足する学習内容を補充する。	2 時間
備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名		新生児学														
英 文 名		Neonatology														
担 当 教 員		丸山 憲一														
時 期・単位		1 年次 前期 選択 1 単位														
講 義 目 標		新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を修得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。														
到 達 目 標		1.新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。 2.新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3.ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。 4.緊急時に対応できる知識を理解できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③													
評 価 方 法		レポート(50%)および口頭発表(50%)で総合的に評価する。														
課題に対する フィードバック		口頭発表時に、発表内容についてディスカッションするとともに講評、コメントする。														
使 用 教 材		テキスト:仁志田博司:新生児学入門(第5版), 医学書院														
1	講 義 内 容	新生児学総論、ハイリスク新生児の評価														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。												0.25 時間	
	1,2,3,	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。												0.5 時間	
2	講 義 内 容	新生児診断学														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。												0.25 時間	
	1,2,3,	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。												0.5 時間	
3	講 義 内 容	新生児の生理、発達														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。												0.25 時間	
	1,2,3,	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。												0.5 時間	
4	講 義 内 容	新生児の養護と管理(ハイリスク新生児、NICU 入院児を含む)														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。												0.25 時間	
	1,2,3,4	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。												0.5 時間	
5	講 義 内 容	体温調節と保温														
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。												0.25 時間	
	1,2,3,4	復 習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。												0.5 時間	

6	講義内容	栄養の基礎と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
7	講義内容	水—電解質バランス		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
8	講義内容	内分泌系・代謝系の異常		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
9	講義内容	内分泌系・代謝系の異常と管理		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
10	講義内容	呼吸器系の生理と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
11	講義内容	循環器系の基礎と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
12	講義内容	黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	【復習】講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
13	講義内容	免疫系と感染		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
14	講義内容	中枢神経系の障害と診療		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
15	講義内容	先天異常と遺伝、主要疾患の病態と整理		
	該当する到達目標	予習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5 時間
備考	・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名		周産期ハイリスク論 I														
英 文 名		High risk of Perinatal Complications I														
担 当 教 員		伊藤 理廣、竹中 恒久														
時 期・単位		1 年次 後期 選択 1 単位														
講 義 目 標		妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。														
到 達 目 標		1.妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べることができる。 2.妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3.緊急時に対応できる知識を学ぶ。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連																
評 価 方 法		筆記試験(100%)														
課題に対する フィードバック		第 4 回以降の講義では、毎回、前回の学習内容についての小テストを行う。														
使 用 教 材		標準産科婦人科学 第 5 版 綾部琢哉 医学書院 (ISBN:978-4-260-04265-9)														
1	講 義 内 容	胎児の発生と出生前診断(伊藤)														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。												0.25 時間	
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												0.5 時間	
2	講 義 内 容	不妊症(伊藤)														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。												0.25 時間	
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												0.5 時間	
3	講 義 内 容	不育症(伊藤)														
	該当する到達目標	予 習	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。												0.25 時間	
	1,2	復 習	不足する学習内容を補完学習する。												0.5 時間	
4	講 義 内 容	妊娠の異常: つわり、妊娠悪阻、流産・切迫流産、異所性妊娠(竹中)														
	該当する到達目標	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。												0.25 時間	
	1,2	復 習	当日学習した要点を整理する。												0.5 時間	
5	講 義 内 容	妊娠の異常: 多胎妊娠、卵巣腫大、胎児形態異常、妊娠高血圧症候群(竹中)														
	該当する到達目標	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。												0.25 時間	
	1,2	復 習	当日学習した要点を整理する。												0.5 時間	
6	講 義 内 容	妊娠の異常: 早産・切迫早産、過期妊娠・過期産、血液型不適合妊娠(竹中)														
	該当する到達目標	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。												0.25 時間	
	1,2	復 習	当日学習した要点を整理する。												0.5 時間	
7	講 義 内 容	妊娠の異常: 羊水の異常、胎盤・臍帯の異常、胎児発育不全、巨大児、胎児疾患(竹中)														
	該当する到達目標	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。												0.25 時間	
	1,2	復 習	当日学習した要点を整理する。												0.5 時間	
8	講 義 内 容	合併症妊娠・偶発合併症: 外陰腫疾患、子宮疾患、卵巣の疾患、心血管疾患、血液疾患(竹中)														

	該当する到達目標 1,2	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復 習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
9	講 義 内 容		合併症妊娠・偶発合併症：腎・泌尿器系疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、糖代謝異常、甲状腺機能異常、精神神経疾患（竹中）	
	該当する到達目標 1,2	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復 習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
10	講 義 内 容		合併症妊娠・偶発合併症：母子感染、環境要因と胎児障害（竹中）	
	該当する到達目標 1,2	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復 習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
11	講 義 内 容		分娩の異常：前期破水、陣痛の異常、産道の異常、児頭骨盤不均衡、回旋・胎勢・進入の異常（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復 習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
12	講 義 内 容		分娩の異常：胎位の異常、遷延分娩、胎児機能不全（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復 習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
13	講 義 内 容		分娩の異常：産道損傷、弛緩出血、子宮内反症、羊水塞栓症、出血と産科ショック（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復 習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
14	講 義 内 容		分娩の異常：ハイリスク分娩の管理 産科処置：産科手術、分娩誘発・陣痛促進（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復 習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
15	講 義 内 容		産科処置：産科麻酔 産褥期の異常：静脈血栓症、肺血栓塞栓症、産褥感染症、産褥期の精神疾患、恥骨結合離開（竹中）	
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 時間
		復 習	当日学習した要点を整理する。	0.5 時間
備 考	・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名		周産期ハイリスク論Ⅱ													
英 文 名		High risk of Perinatal Complications Ⅱ													
担 当 教 員		伊藤 雄二、丸山 憲一、竹中 俊文、吉田 光典、増山 葉月													
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位													
講 義 目 標		周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した、助産に当然付随する行為と臨時応急の処置として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。													
到 達 目 標		1.超音波装置による診察と画像の評価の基礎が演習でできる。 2.会陰裂傷の評価と縫合の基礎が演習でできる。 3.妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
		研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				③											
評 価 方 法		筆記試験(60%) 演習レポート(40%)													
課題に対する フィードバック		講義および実習中に逐次ディスカッションを行い、その都度講評・コメントする。 試験終了後、結果について講評、コメントを行う。													
使 用 教 材		テキスト:①荒木勤:最新産科学(異常編), 文光堂 ②岡井崇・綾部琢哉:標準産婦人科学(第 4 版), 医学書院 参考書:①馬場一憲:基礎からわかる産婦人科超音波診断, 東京医学社 ②藤森敬:胎児心拍数モニタリング講座(第 2 版), メディカ出版 ③進純郎・堀口成子:正常分娩の助産術—トラブルへの対応と会陰裂傷縫合(ブラッシュアップ助産学), 医学書院 ④田村正徳:日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト(第 3 版), メジカルビュー社 ⑤村越毅・加藤智子:産科の必須手技ベスト 58—本当に知っていた技とコツ, メディカ出版													
1	講 義 内 容	超音波診断の理論と基本操作(竹中)													
	該当する到達目標 1	予 習	超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。										1.5 時間		
		復 習	超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。										1.5 時間		
2	講 義 内 容	超音波診断の理論と基本操作(竹中)													
	該当する到達目標 1	予 習	超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。										1.5 時間		
		復 習	【復習】超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。										1.5 時間		
3	講 義 内 容	胎児とその付属物の評価と診断(超音波診断)実技(竹中)													
	該当する到達目標 1	予 習	妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。										1.5 時間		
		復 習	実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。										1.5 時間		
4	講 義 内 容	胎児とその付属物の評価と診断(超音波診断)実技(竹中)													
	該当する到達目標 1	予 習	妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。										1.5 時間		
		復 習	実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。										1.5 時間		
5	講 義 内 容	超音波検査の実際と画像評価(増山)													
	該当する到達目標 1	予 習	出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復習しておく。										1.5 時間		
		復 習	自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。										1.5 時間		

6	講義内容	超音波検査の実際と画像評価(増山)		
	該当する到達目標 1	予習	出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復習しておく。	1.5 時間
		復習	自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。	1.5 時間
7	講義内容	分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技(吉田)		
	該当する到達目標 3	予習	胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。	1.5 時間
		復習	実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。	1.5 時間
8	講義内容	分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技(吉田)		
	該当する到達目標 3	予習	胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。	1.5 時間
		復習	実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。	1.5 時間
9	講義内容	産道の異常:会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論(吉田)		
	該当する到達目標 2	予習	骨盤底の解剖を理解する。	1.5 時間
		復習	助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。	1.5 時間
10	講義内容	産道の異常:会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論(吉田)		
	該当する到達目標 2	予習	骨盤底の解剖を理解する。	1.5 時間
		復習	助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。	1.5 時間
11	講義内容	産道の異常:会陰縫合術基本の実際(吉田)		
	該当する到達目標 2	予習	会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。	1.5 時間
		復習	基本的な縫合や糸結びを確認する。	1.5 時間
12	講義内容	産道の異常:会陰縫合術基本の実際(吉田)		
	該当する到達目標 2	予習	会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。	1.5 時間
		復習	基本的な縫合や糸結びを確認する。	1.5 時間
13	講義内容	分娩時の出血とその対処(胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血)(伊藤)		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
		復習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	分娩時の出血とその対処(胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血)(伊藤)		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
		復習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
15	講義内容	産科救急(産科ショック、薬物療法)(伊藤)		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
		復習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
16	講義内容	産科救急(産科ショック、薬物療法)(伊藤)		
	該当する到達目標 3	予習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
		復習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
17	講義内容	産科救急(産科ショック、帝王切開術を含む)(伊藤)		

	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義の内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
18	講 義 内 容	産科救急(産科ショック、帝王切開術を含む)(伊藤)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義の内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
19	講 義 内 容	娩出力の異常:吸引・鉗子分娩とその介助(伊藤)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
20	講 義 内 容	娩出力の異常:吸引・鉗子分娩とその介助(伊藤)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
21	講 義 内 容	娩出力の異常:骨盤位分娩とその介助(伊藤)		
	該当する到達目標	予 習	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	1.5 時間
	3	復 習	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	1.5 時間
22	講 義 内 容	新生児の異常と画像評価(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	今までの新生児の異常編の授業を復習しておく	1.5 時間
	3	復 習	新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する	1.5 時間
23	講 義 内 容	新生児の異常と画像評価(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	今までの新生児の異常編の授業を復習しておく	1.5 時間
	3	復 習	新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する	1.5 時間
24	講 義 内 容	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
25	講 義 内 容	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
26	講 義 内 容	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
27	講 義 内 容	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
28	講 義 内 容	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論(丸山)		

	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
29	講 義 内 容	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
30	講 義 内 容	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論(丸山)		
	該当する到達目標	予 習	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	1.5 時間
	3	復 習	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	1.5 時間
備 考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 90 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科目名		地域母子保健実習															
英文名		Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community															
担当教員		大石 時子															
時期・単位		2 年次 前期 選択 1 単位															
講義目標		特に乳児 4 か月までを対象として、地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実際を調査し、より有効で新たな地域包括子育て支援の仕組みを考察し、実践活動能力の基礎を養う。															
到達目標		1.地域診断の基本を理解し、説明ができる。 2.地域のアセスメントをし、乳児 4 か月までの地域母子保健の課題を見いだせる。 3.地域で実践されている地域包括子育て支援事業等を理解する。 4.事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、実施できる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
			研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGsと の関連			3		5											16	
評価方法		レポート(100%)															
課題に対する フィードバック		レポート返却時に口頭または書面で feedback する															
使用教材		参考書:①群馬県保健要覧, 群馬県保健予防課 ②わが国の母子保健, 母子衛生研究会 ③母子保健の主なる統計, 母子衛生研究会															
講義内容		第 1 日		・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス													
		第 2 日		・女性の健康問題、DV 等 ・多胎児、産後ケア、産後訪問 ・メンタルヘルス、子育て支援、虐待等の全国及び県内の状況調査													
		第 3 日		・妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップ ・妊産婦、新生児、乳幼児等の電話訪問指導の企画													
		第 4 日		・地域包括産後ケアシステムの企画													
		第 5 日		・グループワーク:産後ケアの企画から評価まで学内演習、まとめ													
		予習	わが国の母子保健 (母子衛生研究会)を読む。													期間中適宜	
		復習	母子保健の主なる統計(母子衛生研究会)を読む。													期間中適宜	
備考		メールアドレスは次の通り。oishi-t#takasaki-u.ac.jp (大石) (#を@に変換すること) ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館3階 306 研究室 受講に関しては履修登録が必要。 事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。 1 週間(5 日間)=45 時間															

科 目 名	国際助産論															
英 文 名	International Midwifery															
担 当 教 員	大石 時子															
時 期・単 位	1年次 通年 選択1単位															
講 義 目 標	Global 化する世界の中での 国際母子保健と women's health の課題を知り、助産師が果たす役割を理解する。またそのために活動している国際組織を知り、その活動内容を理解する。近年急増する在日外国人家族や在外日本人家族の母子保健と women's health に関するニーズを理解し、助産師が実践できるケアを考察する。															
到 達 目 標	6. 世界での母子の健康状態の特徴がわかる 7. Global 化の中での women's health の課題がわかる 8. 世界の women's health や母子保健に果たす国際機関の役割がわかる 9. 在日外国人女性の women's health や母子保健の現状と課題がわかる 10. 国内外で助産師がはたすべき役割がわかる															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連	1		3		5					10						16
評 価 方 法	レポート（70%） 参加度（30%）															
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。															
使用 教 材	随時、資料を提示する。参考書： 医学書院、助産学講座9、地域母子保健・国際母子保健															
1	講 義 内 容	助産学と国際社会（大石）														
	該当する到達目標	予 習	助産師が世界でどのような活動をしているか調べる													1.5 時間
	1	復 習	助産師が世界で実践している活動を復習し、その役割を考察する													1.5 時間
2	講 義 内 容	国際母子保健（大石）														
	該当する到達目標	予 習	日本の母子保健の指標を復習しておく													1.5 時間
	1, 2	復 習	日本の母子保健の指標を世界と比較し、国際母子保健の課題を考察する													1.5 時間
3	講 義 内 容	国際的な women's health の課題（大石）														
	該当する到達目標	予 習	世界での人口移動がどのように行われているか調べる													1.5 時間
	1, 2, 3	復 習	世界と日本が女性の健康に関してどのように関連し合っているかを考察し、助産師の課題を考える													1.5 時間
4	講 義 内 容	在日外国人女性の現状と健康（大石）														
	該当する到達目標	予 習	日本や群馬県に在住する外国人の統計を調べる													1.5 時間
	4, 5	復 習	助産師の役割を考察する													1.5 時間
5	講 義 内 容	在日外国人の母子保健（大石）														
	該当する到達目標	予 習	日本や群馬県に在住する外国人の母子保健統計を調べる													1.5 時間
	4, 5	復 習	助産師の役割を考察する													1.5 時間
6	講 義 内 容	在外日本人の母子保健と Women's Health （大石）														
	該当する到達目標	予 習	参考書の6章Bを読む													1.5 時間
	3, 5	復 習	助産師が国際的に連携する意義について考察する													1.5 時間

7	講義内容	助産に関わる国際組織の活動（大石）		
	該当する到達目標 3, 5	予習	WHO, UNFPA, ICM の HP を調べる	1.5 時間
		復習	国際組織が果たす役割についてまとめる	1.5 時間
8	講義内容	助産実践と助産教育の国際比較（大石）		
	該当する到達目標 3, 5	予習	ICM の HP をみしておく	1.5 時間
		復習	助産教育と実践の違いが、世界の女性の健康におよぼす影響について考察する	1.5 時間
備考	・主体的に discussion に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 24 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館3階 306 研究室 E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp (大石)（#を@に変換すること）			

科 目 名	女性のメンタルヘルスとジェンダー															
英 文 名	Women's Mental health issues in gender's perspective															
担 当 教 員	大石時子、長江美代子、川畑智子															
時 期・単位	1 年 後期 1 単位 選択															
講 義 目 標	1. 女性が歴史的、経済的、社会的に置かれている立場の理解を図る 2. 女性の社会的立場がメンタルヘルスに及ぼす影響を考察できるようにする 3. メンタルヘルスが女性の一生の健康に及ぼす影響を理解し考察できるようにする 4. 助産師としての早期発見の技術とケア方法の理解を深める 5. 助産師としての課題と解決策を gender の視点から考察できるようにする。															
到 達 目 標	56. 女性特有のメンタルヘルスの課題を説明できる 57. 女性が歴史的、経済的、社会的に置かれている立場を説明できる 3. ジェンダーが女性のメンタルヘルスに及ぼす影響を説明できる 4. 助産師としての早期発見の技術とケア方法を説明できる 5. 助産師としてジェンダーに関連したメンタルヘルスの課題を解決していく方法を考察できる															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法	授業参加度・貢献度(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック	その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。															
使 用 教 材	授業時にその都度提示する															
1	講 義 内 容	女性のメンタルヘルスの諸問題（大石）														
	該当する到達目標	予 習	Women's health、周産期のメンタルヘルスについて復習しておく												1.5 時間	
	1	復 習	どのようなメンタルヘルスの諸問題があるか復習し、その原因を考える												1.5 時間	
2	講 義 内 容	歴史、経済、政治的視点から社会の中での女性の立場を客観視する（川畑）														
	該当する到達目標	予 習	ニュースから関心を持った女性の事件を調べてみる												1.5 時間	
	2	復 習	女性の事件を社会学的立場から考察する												1.5 時間	
3	講 義 内 容	Gender が女性の健康・メンタルヘルスに及ぼす影響（川畑）														
	該当する到達目標	予 習	Gender の概念について復習しておく												1.5 時間	
	3	復 習	Gender が女性の健康・メンタルヘルスに及ぼす影響を復習する												1.5 時間	
4	講 義 内 容	DV、性暴力は何故起こり、どのように女性の一生の健康に影響するか(長江)														
	該当する到達目標	予 習	Women's health の講義を復習しておく												1.5 時間	
	1,3	復 習	女性の一生の健康に影響するか復習し考察する												1.5 時間	
5	講 義 内 容	うつ、自殺、PTSD（長江）														
	該当する到達目標	予 習	前回の講義から PTSD を調べておく												1.5 時間	
	1,3	復 習	うつ、自殺、PTSD と女性の社会的立場との関連を考察する												1.5 時間	
6	講 義 内 容	幼児期から思春期、そして周産期への影響（長江）														
	該当する到達目標	予 習	性暴力被害サバイバーの出産について調べておく												1.5 時間	
	1,3	復 習	周産期の臨床を振り返りサバイバーのケアについて考察する												1.5 時間	

7	講義内容	周産期のメンタルヘルスー早期発見の技術とケア方法（長江）		
	該当する到達目標	予習	妊産婦メンタルヘルスケアマニュアルを読む	1.5 時間
	4	復習	周産期のメンタルヘルスを今までの講義から、俯瞰し統合する	1.5 時間
8	講義内容	助産師はどのように女性のメンタルヘルスをケアできるか—gender の視点を踏まえて(大石)		
	該当する到達目標	予習	Presentation を準備する	1.5 時間
	5	復習	授業で討論したことから考察を深める	1.5 時間
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 32 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 オフィスアワー:火曜日 12 時～13 時、 5 号館階 306 研究室 メールでも受け付ける。 E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp（大石）（#を@に変換すること）			

科 目 名		助産学実践 I (EBPM 探究)														
英 文 名		Practice of Midwifery I (Search for EBPM)														
担 当 教 員		大石 時子、寺口顕子、片岡弥恵子														
時期・単位		1年次 後期 必修 2単位														
講 義 目 標		助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向け EBPM (Evidence Based Practice in Midwifery)とは何かについて理解し、注目すべき内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする。														
到 達 目 標		1.助産にかかわる注目すべきケア技術を標記し、意義と課題を説明出来る。 2.課題を明確にし、文献を探索しクリティークした結果を報告できる。 3.研究目的の焦点化と課題を明確にし説明出来る。														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
		✓	研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				3		5									16	
評 価 方 法		授業参加度・貢献度(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。														
課題に対する フィードバック		プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。														
使 用 教 材		2) 臨床研究の道標: 福原俊一、健康医療評価研究機構 資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。														
1	講 義 内 容	EBPM の歴史、evidence に基づく助産実践の必要性(大石)														
	該当する到達目標	予 習	EBM の意味を調べる												1.5 時間	
	1	復 習	助産実践にとっての EBPM の意義を考察する												1.5 時間	
2	講 義 内 容	助産学にかかわる内外研究紹介と抄読、グループワーク(片岡)														
	該当する到達目標	予 習	助産文献の精読と批判的吟味												1.5 時間	
	1,2	復 習	批判的吟味の解説の熟読												1.5 時間	
3	講 義 内 容	助産学にかかわる内外研究紹介と抄読、グループワーク(片岡)														
	該当する到達目標	予 習	助産文献の精読と批判的吟味												1.5 時間	
	1,2	復 習	批判的吟味の解説の熟読												1.5 時間	
4	講 義 内 容	助産文献のクリティーク(片岡)														
	該当する到達目標	予 習	助産文献の精読と批判的吟味												1.5 時間	
	2	復 習	批判的吟味の解説の熟読												1.5 時間	
5	講 義 内 容	助産文献のクリティーク(片岡)														
	該当する到達目標	予 習	助産文献の精読と批判的吟味												1.5 時間	
	2	復 習	批判的吟味の解説の熟読												1.5 時間	
6	講 義 内 容	文献のクリティークと研究目的の焦点化(大石)														
	該当する到達目標	予 習	文献を自己課題にそって選択しクリティークする												1.5 時間	
	2,3	復 習	授業を踏まえ、もう一度文献クリティークをする												1.5 時間	
7	講 義 内 容	文献のクリティークと研究目的の焦点化(大石)														
	該当する到達目標	予 習	文献を自己課題にそって選択しクリティークする												1.5 時間	

	2,3	復習	授業を踏まえ、もう一度文献クリティックをする	1.5 時間
8	講義内容		文献のクリティックと研究目的の焦点化(大石)	
	該当する到達目標	予習	文献を自己課題にそって選択しクリティックする	1.5 時間
	2,3	復習	授業を踏まえ、もう一度文献クリティックをする	1.5 時間
9	講義内容		研究テーマの設定 1(大石)	
	該当する到達目標	予習	助産学の先行研究から関心のあるテーマの論文を選択、文献リストを記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	選択した論文(先行研究)の目的とその背景を確認して、文献リストを整理する。	1.5 時間
10	講義内容		研究テーマの設定 2(大石)	
	該当する到達目標	予習	先行研究のデータ収集方法・分析方法を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	先行研究のデータ収集方法・分析方法について不足する内容を学習する。	1.5 時間
11	講義内容		研究テーマの設定 3(大石)	
	該当する到達目標	予習	先行研究の結果・考察から明らかにされていることをまとめる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	先行研究で明らかにされていることを文献リストに整理する。	1.5 時間
12	講義内容		研究テーマの設定 4(大石)	
	該当する到達目標	予習	文献検討を通して自己の明らかにしたい研究課題を記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ディスカッションを通し自己の研究課題を振り返る。	1.5 時間
13	講義内容		研究枠組みの作成(寺口)	
	該当する到達目標	予習	文献検討から自己の研究課題の背景を記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	プレゼン・ディスカッションを通して研究背景を整理する。	1.5 時間
14	講義内容		研究計画書作成 1(寺口)	
	該当する到達目標	予習	自己の研究課題の意義を記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自己の研究課題、研究意義を振り返り整理する。	1.5 時間
15	講義内容		研究計画書作成 2(寺口)	
	該当する到達目標	予習	研究課題を明確にし、記述する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	倫理的配慮を踏まえた研究方法の考え方について振り返る。	1.5 時間
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 45 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ② オフィスアワー:火曜日 12 時～13 時、5 号館階 306 研究室 メールでも受け付ける。E-mail: oishi-t#takasaki-u.ac.jp (大石) (#を@に変換すること)			

科 目 名	助産学実践Ⅱ (EBPM 展開)																
英 文 名	Practice of MidwiferyⅡ (Practice of EBPM in the field)																
担 当 教 員	大石 時子、 寺口顕子																
時 期・単 位	2 年次 通年 必修 2 単位																
講 義 目 標	助産ケアやシステムのエビデンスを検証するための研究テーマ、研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮を踏まえ、プレテストを展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。																
到 達 目 標	1.課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。 2.研究の目的にそった介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。 3.倫理的条件を満たし、必要時プレテストとしてフィールドで展開できる。 4.研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。																
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
		高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			3		5										16		
評 価 方 法	レポート(100%)																
課題に対する フィードバック	研究計画書に関する作成資料について口頭指導またはコメントなどを付けて返却する。																
使 用 教 材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する 参考テキスト:小笠原知枝・他編:これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ																
講 義 内 容	4 月 助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉 対象者の選定と実施手続き																
	5 月 介入プログラム・効果判定指標等の点検																
	6 月 研究展開のプレテストを行い、実施方法の再点検、修正、研究計画書完成																
	予 習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示														期間中適宜	
	復 習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示														期間中適宜	
備 考	1.授業外学習の進め方： 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先：E-mail アドレス:oishi-t#takasaki-u.ac.jp（#を@に変換すること） 4.オフィスアワー:初回講義に提示する																

科 目 名	助産学実践Ⅳ(実践評価)																
英 文 名	"Practice of MidwiferyⅣ (Evaluation of Practices)"																
担 当 教 員	大石 時子、寺口顕子																
時 期・単 位	2 年次 通年 必修 3 単位																
講 義 目 標	今まで経験したケアやケアシステムを、エビデンスを通して評価する。 より女性に寄り添ったケアを実践するために必要なエビデンスは何かを考察する、 よりよいケアシステム創成のために必要な構成要素について考察する。																
到 達 目 標	1. 今まで自己が行ったケアや経験したケアシステムから実践上の課題を抽出する 2. 1 の課題に対しエビデンスを通して評価する。 3. より女性に寄り添ったケアを実践するためにどうすればよいかをエビデンスを通して考察する、 4. よりよいケアシステム創成のために必要な構成要素を現存するケアシステムから見出す 5. より女性に寄り添ったあるべきケアシステムについて evidence を用いて考察する。																
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			3		5											16	
評 価 方 法	レポート(100%)																
課題に対する フィードバック	・実践の評価と evidence について口頭あるいは書面でコメントする。																
使 用 教 材	資料を配布する、並びに検索した文献や HP(日本助産師会等)を活用する 2020 Evidence-Based Guidelines for Midwifery Care, J of Japan Academy of Midwifery																
講 義 内 容	今まで経験したケアやケアシステムから課題を抽出し、エビデンスを通して評価する。 より女性に寄り添ったケアを実践するために、何が必要だったかをエビデンスや実践 field の見学を通して考察する。よりよいケアシステム創成のために必要な構成要素を知るため、様々な実践 field の見学等を行う。 より女性に寄り添ったあるべきケアシステムについて evidence を用いて考察する。																
	予 習	今までの自己の実践を振り返り、実践上の課題を明らかにする															時間
	復 習	実践評価の課程で、その状況に必要な文献検索および学習を行う。 助産師が関わっている様々な実践の HP を探索する															時間
備 考	1.授業外学習の進め方： 1)自己の実践を評価するための文献検索を積極的に進めること。 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動につなげる。 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある 3.担当教員連絡先：E-mail アドレス:oishi-t#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)																

科 目 名	助産学特別研究															
英 文 名	Seminar for Master's thesis on Midwifery Science															
担 当 教 員	寺口 顕子															
時 期・単 位	2 年次 通年 必修 6 単位															
講 義 目 標	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、メンタルヘルス、周産期の助産ケア、コーディネート等の課題に対して、その科学的知見を得るため、内外の文献により検討を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。															
到 達 目 標	1.実習のフィールドと交渉できる。 2.研究倫理審査に対応できる。 3.研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	17
評 価 方 法	研究計画書、論文審査の基準を踏まえ、研究の過程・成果について総合的に評価する															
課題に対する フィードバック	対面： ・研究計画書に関する資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文の緒言、方法、結果、考察、結論についてコメントなどを付け返却する。 ・プレゼンテーションのスライド作成、口演について口頭でコメントする。 オンライン： ・リアルタイムでの口頭によるコメント、またはメール、C-learning 等を用いて書面によりコメントする。															
使 用 教 材	検索した文献の活用ならびに適宜資料配布。自己の活用しやすい看護研究にかかる成書を用意すること。 参考書：近藤潤子監訳(2010)：看護研究 原理と方法 第2版、医学書院 ほか適宜紹介する。															
講 義 内 容	4～5 月 研究計画書作成・研究計画書審査 ・研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 ・研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 5～6 月 研究倫理審査 6～9 月 データ収集 ・研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を行う。 - 調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 ・得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 9～10 月 分析 ・計画書の分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。 10 月 中間発表会 ・プレゼンテーションを行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。 11～1 月 修士論文作成															

	・論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。	
	予 習	研究プロセスに応じ、ゼミ資料を作成する。 各回 1.5 時間
	復 習	ゼミでのディスカッションを踏まえ、不明点の確認や修正を行う。 各回 1.5 時間
備 考	1.授業外学習の進め方: 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間:各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先:E-mail:teraguchi#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) 4.オフィスアワー:月曜日 13:00~14:30、5 号館 4 階 409 研究室(寺口)	

科 目 名	助産学特別研究															
英 文 名	Seminar for Master's thesis on Midwifery Science															
担 当 教 員	大石 時子															
時 期・単 位	2 年次 通年 必修 6 単位															
講 義 目 標	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、メンタルヘルス、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的知見を得るため、内外の文献により検討を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。															
到 達 目 標	1.実習のフィールドと交渉できる。 2.研究倫理審査に対応できる。 3.研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3		5										16	
評 価 方 法	論文審査の結果を踏まえ、研究の過程を総合的に評価する															
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。															
使 用 教 材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。 テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ															
講 義 内 容	4～5 月 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2)研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。 1) 調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 2) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。 6～8 月 精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 1)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 2)得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 9～10 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。 中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。 1)データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。 2)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 11～1 月 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2)助産学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。 3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。 5)新知見を明確にし、臨床における助産学の向上に向け最終論文として提出する。															

	予 習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
	復 習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
備 考	1.授業外学習の進め方: 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間:各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先:E-mail:oishi-t#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) 4.オフィスアワー:火曜日 12～13 時、5 号館 3 階 306 研究室(大石)		

科 目 名		研究倫理と理学療法学研究法														
英 文 名		Advanced Research Ethics and Research Methods in Physical Therapy														
担 当 教 員		富田 洋介、竹内 伸行、田中 聡一、解良 武士、正木 光裕														
時 期 ・ 単 位		1 年次 前期 必修 2 単位														
講 義 目 標		研究倫理に関する最新の考え方を理解したうえで、理学療法におけるエビデンス構築のための研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を学ぶ。実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および介入研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。														
到 達 目 標		1.最新の研究倫理に関する考え方を理解したうえで、理学療法におけるエビデンスの構築のための研究の意義・役割が理解できる。 2.人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を理解できる。 3.各研究方法の特徴およびプロセスを理解できる。														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
		✓	研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				3	4					9	10					16
評 価 方 法		プレゼンテーション 50%、レポート 50%														
課題に対する フィードバック		提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。														
使 用 教 材		理学療法研究法 第 3 版 医学書院														
1	講 義 内 容	理学療法におけるエビデンス構築のための研究の意義・役割、研究倫理について（富田）														
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	最新の研究倫理に関する考え方のポイント（田中）														
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	理学療法学における研究倫理の実践（田中）														
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	理学療法学における研究デザインの種類と特徴（解良）														
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	リサーチクエスチョンからオーバービューへ（解良）														
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。の不足部分を文献や配付資												1.5 時間	
6	講 義 内 容	データ収集と管理のポイントおよび注意点（富田）														
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	

7	講義内容	データ解析のポイントおよび注意点(富田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
8	講義内容	理学療法学における調査研究について(正木)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
9	講義内容	理学療法学における実験研究・準実験研究について(正木)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
10	講義内容	理学療法学における尺度開発について(竹内)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
11	講義内容	理学療法学における基礎研究について(富田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
12	講義内容	理学療法学における臨床研究について(竹内)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
13	講義内容	基本的統計解析手法の理解①信頼性、妥当性、相関(富田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
14	講義内容	基本的統計解析手法の理解②対象者数、有意水準、効果量、信頼区間 MDC(竹内)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
15	講義内容	研究論文の書き方(正木)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
備考	予習を必ず行い、疑問を明確にして授業に臨み、授業後は自己の課題を分析して知識を整理しておくこと。なお、予習復習は 90 分以上行う必要がある。 学内で開催される研究倫理に関する講習会および e-learning による所定の倫理研修を必ず受講する。 担当教員連絡先 富田 E-mail: tomita-yi@takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) オフィスアワー 月曜 18:15~19:45(不在時はメールで問い合わせること)			

科 目 名		障害予防学特論													
英 文 名		Advanced Lecture on prevention of obstacle													
担 当 教 員		田中 聡一、吉田 剛、解良 武士、正木 光裕、中川 和昌													
時 期・単位		1 年次 前期 選択 2 単位													
講 義 目 標		地域で暮らす人が、健康を維持しながら障害予防、疾病予防を実践し健康寿命を延伸していくために、理学療法士に求められる知識および技術について広く考える基盤を養う。障害の発生に関与する因子について生活環境の影響を踏まえて広くとらえ、予測的対応についてより具体的に考えるための基礎を身につける。													
到 達 目 標		1.今までに行われてきた障害予防の取り組みを概観できる。 2.予後予測に基づく予防的対応について理解する。 3.障害構造と生活環境の関係について理解する。 4.効果的な障害予防について考えることができる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				3	4										
評 価 方 法		レポート 70%、講義参加度・貢献度 30%で総合的に判断する。													
課題に対する フィードバック		レポートの評価、添削をし、ディスカッションを行う。													
使 用 教 材		参考書：市橋則明「運動療法学各論 高齢者の機能障害に対する運動療法」文光堂 鈴木隆夫「完全版 介護予防マニュアル」法研 大淵修一「予防理学療法学要論」医歯薬出版													
1	講 義 内 容	オリエンテーション：障害予防の概念について(田中)													
	該当する到達目標	予 習	高齢者の健康維持、疾病予防、介護予防の現状と課題をまとめる。											1.5 時間	
	1,3	復 習	障害予防に対する理学療法士の役割をまとめる。											1.5 時間	
2	講 義 内 容	生活不活発病とその原因(解良)													
	該当する到達目標	予 習	生活不活病の定義を調べる。											1.5 時間	
	1,2,3,4	復 習	生活不活病予防の対策をまとめる。											1.5 時間	
3	講 義 内 容	フレイルとサルコペニアについて(解良)													
	該当する到達目標	予 習	フレイルとサルコペニアの違いを調べる。											1.5 時間	
	1,2,3,4	復 習	フレイル予防とサルコペニア予防の違いを整理する。											1.5 時間	
4	講 義 内 容	生活環境と活動の関係：特に基本動作に着目して(解良)													
	該当する到達目標	予 習	生活活動が ADL に及ぼす影響について、持論を用意する。											1.5 時間	
	1,3,4	復 習	生活活動が ADL に及ぼす影響について、授業と文献を用いて考察する。											1.5 時間	
5	講 義 内 容	個別性に対する評価指標(吉田)													
	該当する到達目標	予 習	障害を予防するためには個体差があることが前提となるので、項目を列挙する。											1.5 時間	
	1,2,3	復 習	列挙できなかった評価項目について、どのような指標が妥当か検討する。											1.5 時間	
6	講 義 内 容	誤嚥性肺炎予防①(吉田)													
	該当する到達目標	予 習	誤嚥性肺炎について調べる。											1.5 時間	
	1,2,3,4	復 習	誤嚥性肺炎の原因について整理する。											1.5 時間	
7	講 義 内 容	誤嚥性肺炎予防②(吉田)													

	該当する到達目標	予 習	現在どのような予防法が推奨されているか調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	予防のための指導ポイントを整理してまとめる。	1.5 時間
8	講 義 内 容	障害の予後予測に使われる評価指標(中川)		
	該当する到達目標	予 習	自分の専門分野に関する予後予測の評価指標に関する資料を抄読する。	1.5 時間
	1,2,4	復 習	授業で取り扱った評価指標を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する。	1.5 時間
9	講 義 内 容	ロコモ予防(中川)		
	該当する到達目標	予 習	ロコモが提唱されるに至った背景、具体策について整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	ロコモ予防における専門家としての自分の役割を考察する。	1.5 時間
10	講 義 内 容	健康体操とその意義(中川)		
	該当する到達目標	予 習	健康増進のために実践されている体操・運動に関する文献を抄読する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	ロコモ予防における専門家としての具体策を考察する。	1.5 時間
11	講 義 内 容	脳性麻痺における障害予防(正木)		
	該当する到達目標	予 習	脳性麻痺の障害について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	脳性麻痺において、発達段階(加齢も含む)の中で必要となる運動機能に対する障害予防について整理する。	1.5 時間
12	講 義 内 容	ダウン症における障害予防(正木)		
	該当する到達目標	予 習	ダウン症の障害について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	ダウン症において、発達段階(加齢も含む)の中で必要となる運動機能に対する障害予防について整理する。	1.5 時間
13	講 義 内 容	発達障害における障害予防(正木)		
	該当する到達目標	予 習	発達障害の障害について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	発達障害において、発達段階(加齢も含む)の中で必要となる認知機能に対する障害予防について整理する。	1.5 時間
14	講 義 内 容	認知症予防(田中)		
	該当する到達目標	予 習	アルツハイマー病の発症危険因子、脳血管性認知症の症危険因子をまとめる。	1.5 時間
	1,3,4	復 習	アルツハイマー病、脳血管性認知症それぞれの予防方法を考察する。	1.5 時間
15	講 義 内 容	まとめ(田中)		
	該当する到達目標	予 習	これまで学習してきた障害予防についてプレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復 習	プレゼンテーションで質問されたことに対する正確な解答を得る。	1.5 時間
備 考	地域で行われている障害予防の取り組みについて自発的に情報収集し、レポートにまとめる。なお、予習復習は 90 分以上行う必要がある。オフィスアワーは授業前後で、メール等で連絡の上、学習に関する質問は随時受けつける。(田中)stanaka#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)			

科 目 名		自立生活支援学特論														
英 文 名		Advanced Lecture on Independent living support														
担 当 教 員		篠原智行、吉田 剛、田中 聡一、解良 武士、中川 和昌、正木光裕、富田洋介														
時 期・単 位		1 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		超高齢社会において要介護高齢者が増加し、十分な介護サービスの提供も困難になってきており、介護高齢者に対して必要な介護サービスを提供するだけではなく、できるだけ本人の潜在能力を引き出すことでより自立した生活を送ることを理学療法士として支援していく取り組みが求められている。 在宅生活において求められている自立生活支援サービスの現状を知り、生活に対応するために必要な広い知識を身につけより高い問題解決能力を有する在宅サービス指導を行うための基礎を身につける。														
到 達 目 標		1.自立生活支援の概念を理解する。 2.自立生活を支える要因を挙げることができる。 3.退院支援における患者・家族に対する指導ポイントについて理解する。 4.家屋環境整備や補装具の適応について理解を深める。 5.自立支援型介護サービスの在り方について考えることができる。														
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観													
		✓	高度な実践力													
			研究能力													
		✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				③											16	
評 価 方 法		調査レポートおよび事例レポート(70%)、講義参加度・貢献度(30%) * オンライン授業の場合も同様に予定。														
課題に対する フィードバック		提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。 * オンライン授業の場合も同様に予定。														
使 用 教 材		参考書:鶴見隆正「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第5版」医学書院														
1	講 義 内 容	オリエンテーション:自立生活支援の概念とは(田中)														
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	現在の介護サービスの実態と自立支援の取り組み状況(田中)														
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	自立生活に必要な動作と能力(解良)														
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	自立に必要なセルフエフィカシーおよび自己管理能力についての評価(解良)														
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	見守りと自立の境界および段階化についての考え方(正木)														
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間	
6	講 義 内 容	退院支援の実際:家屋環境への介入①(吉田)														
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間	

	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
7	講義内容	退院支援の実際:家屋環境への介入②(吉田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
8	講義内容	退院支援の実際:患者・家族教育(正木)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
9	講義内容	自立支援のための補装具活用①(富田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
10	講義内容	自立支援のための補装具活用②(富田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
11	講義内容	自立支援型介護サービスの在り方について(篠原)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
12	講義内容	訪問理学療法場面での自立支援アプローチ①(中川)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
13	講義内容	訪問理学療法場面での自立支援アプローチ②(中川)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
14	講義内容	訪問理学療法場面での自立支援アプローチ③(篠原)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(篠原)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
備考	介護サービスの実態調査、家屋改修事例、訪問理学療法対応事例、補装具検討事例などについて調べ、レポート作成を行う。 オフィスアワー:メールにて随時応じる。 科目担当教員:篠原 shinohara-t@takasaki-u.ac.jp			

科 目 名	地域リハマネジメント特論															
英 文 名	Advanced Lecture on Manegement of Community-Based Rehabilitation															
担 当 教 員	中川 和昌、吉田 剛、田中 聡一、篠原 智行、正木光裕															
時期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位															
講 義 目 標	医療・介護総合確保法により、医療・介護の枠組みは大きく変わろうとしている。リハビリテーション専門職種として、これから構築されていく地域包括ケアシステムの中で、地域の課題を解決するためにどのように取り組み、連携していくのかについて広く知識をもち、地域社会に有益なサービスを提供するためのマネジメント能力を養う。															
到 達 目 標	1. 医療・介護総合確保法を理解し、今後の医療・介護の流れを理解する。 2. 行政システムについて知り、身近な地域のリハサービスの実情を把握する。 3. 地域の課題を把握し、解決策を考えるための基礎を身につける。 4. リハビリテーション専門職種として行政に対するマネジメント能力を身につける。 5. リハビリテーション専門職種として地域住民に対するマネジメント能力を身につける。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3							11					16	
評 価 方 法	地域課題の調査レポート、実践レポート、情報収集方法に関するレポートなど（70%） 講義参加度・貢献度（30%）															
課題に対する フィードバック	提出されたレポートについてコメントする。また発表内容に関してコメントする。															
使 用 教 材	特になし（各講義に応じて提示します）															
1	講 義 内 容	オリエンテーション：これからの医療・介護の方向性（中川）														
	該当する到達目標	予 習	自分の活躍する地域リハビリテーションの現状を調べてくる												1.5 時間	
	1,3	復 習	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域において必要な知識・技術を考察する												1.5 時間	
2	講 義 内 容	行政による地域計画策定の流れおよび地域の課題（田中）														
	該当する到達目標	予 習	行政による地域計画策定の流れについて調べてくる												1.5 時間	
	2,3	復 習	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域における課題について考察する												1.5 時間	
3	講 義 内 容	地域リハビリテーションサービスと多職種連携（田中）														
	該当する到達目標	予 習	多職種連携について自身の考えを発表できるように準備してくる												1.5 時間	
	1,3	復 習	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域における課題について考察する												1.5 時間	
4	講 義 内 容	地域の実情を把握するための情報収集（中川）														
	該当する到達目標	予 習	自分の活躍する地域の現状を調べてくる												1.5 時間	
	3	復 習	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域の現状に関する理解を深める												1.5 時間	
5	講 義 内 容	行政に対するマネジメントの考え方（中川）														
	該当する到達目標	予 習	自分の活躍する地域の行政の活動状況について調べてくる												1.5 時間	
	4	復 習	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域の行政に関する理解を深める												1.5 時間	
6	講 義 内 容	地域包括ケアサービスにおける対応①（篠原）														
	該当する到達目標	予 習	地域包括ケアサービスに関して調べてくる												1.5 時間	

	3,4	復習	地域包括ケアサービスの中で、自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する	1.5 時間
7	講義内容	地域包括ケアサービスにおける対応②(篠原)		
	該当する到達目標	予習	地域包括ケアサービスに関して調べてくる	1.5 時間
	3,4	復習	地域包括ケアサービスの中で、自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する	1.5 時間
8	講義内容	地域住民に対するマネージメント:家族支援(正木)		
	該当する到達目標	予習	家族支援に関して自身の考えを整理し、調べてくる。	1.5 時間
	3,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
9	講義内容	地域住民に対するマネージメント:自助・互助の促進(正木)		
	該当する到達目標	予習	自助・互助の概念に関して調べてくる	1.5 時間
	3,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する	1.5 時間
10	講義内容	地域住民に対するマネージメント:行動変容へのアプローチ(吉田)		
	該当する到達目標	予習	行動変容に関して調べてくる	1.5 時間
	3,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する	1.5 時間
11	講義内容	地域住民に対するマネージメント:活用すべきツールの開発(吉田)		
	該当する到達目標	予習	地域住民に対するマネージメントにおいて、活用可能なツールに関して調べてくる	1.5 時間
	3,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
12	講義内容	地域の課題に対する対処法①(中川)		
	該当する到達目標	予習	自分の活躍する地域の課題について発表できるように準備する	1.5 時間
	3,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
13	講義内容	地域の課題に対する対処法②(中川)		
	該当する到達目標	予習	自分の活躍する地域の課題について発表できるように準備する	1.5 時間
	3,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
14	講義内容	地域の課題に対する対処法③(中川)		
	該当する到達目標	予習	自分の活躍する地域の課題について発表できるように準備する	1.5 時間
	3,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(中川)		
	該当する到達目標	予習	授業全体の内容を踏まえ、自分の活躍する地域でどのような活動が必要かを考察し、発表できるように準備する	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動が必要かを考察する	1.5 時間
備考	地域の実態調査や地域の課題の解決に関する調査を自主的に行いレポートにまとめる なお講義は必要に応じてオンラインで実施する。その場合は担当教員より C-learning 上で連絡がある。 オフィスアワー: 中川 水曜 AM その他質問等はメールにて回答する: nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp (#→@)			

科 目 名		障害評価・解析学特論													
英 文 名		Advanced Lecture on Physical Therapy Evaluation and Analysis of Obstacle													
担 当 教 員		樋口 大輔、解良 武士、竹内 伸行、篠原 智行、富田 洋介													
時 期 ・ 単 位		1 年次 前期 選択 2 単位													
講 義 目 標		理学療法分野で用いられている様々な評価法および評価指標を整理し、障害の全体像を把握するためおよび個々の問題を解決するために必要な評価・解析方法について、より具体的に理解する。 問題解決のためには、病態を把握し問題となる原因を特定することが求められる。また、効果判定をより科学的に検証するために必要な要件について考え、新たな視点で評価・解析を行うための基盤を作る。													
到 達 目 標		1.既存の評価法を項目に分けて整理し、網羅的に把握する。 2.生活面の問題を評価するための指標を抽出できる。 3.自立支援に必要な評価指標について抽出できる。 4.病態把握し個別対応に生かせる評価指標について理解する。 5.効果判定を科学的に検証するために評価・解析方法が備えるべき要件の概要を理解する。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
		研究能力													
		豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連				③											
評 価 方 法		講義で指示された課題レポート(70%)、講義参加度・貢献度(30%) 【オンラインの場合】同上。授業にはライブ型オンラインツールを使用する。													
課題に対する フィードバック		提出されたレポートについてコメントする。 【オンラインの場合】レポートは授業支援システム C-learning を介してやりとりする。													
使 用 教 材		【参考書】内山靖「標準理学療法学 理学療法評価学 第2版」医学書院													
1	講 義 内 容	オリエンテーション:問題解決型の評価・解析とは(樋口)													
	該当する到達目標	予 習	特に必要としない。												2 時間
	1・4	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間
2	講 義 内 容	テーマ別の評価・解析方法の整理①内部障害系(解良)													
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間
	1・4	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間
3	講 義 内 容	テーマ別の評価・解析方法の整理②神経系(篠原)													
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間
	1・4	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間
4	講 義 内 容	テーマ別の評価・解析方法の整理③運動器系(樋口)													
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間
	1・4	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間
5	講 義 内 容	痛みの評価①(樋口)													
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間
	1・4	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間
6	講 義 内 容	痛みの評価②(樋口)													
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間
	1・4	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間

7	講義内容	臨床における動作解析①（富田）		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	5	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
8	講義内容	臨床における動作解析②（富田）		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	5	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
9	講義内容	生活面の問題に関する評価①内部障害系（解良）		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	2・3	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
10	講義内容	生活面の問題に関する評価②神経系（篠原）		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	2・3	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
11	講義内容	生活面の問題に関する評価③運動器系（樋口）		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	2・3	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
12	講義内容	科学的検証を行うための評価・解析方法の要件①（竹内）		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	5	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
13	講義内容	科学的検証を行うための評価・解析方法の要件②（竹内）		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	5	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
14	講義内容	評価・解析方法の開発について（竹内）		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	5	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
15	講義内容	まとめ（樋口）		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	1～5	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
備考	➤ オフィスアワー：金曜日 2 時限、3 号館 2 階 201 研究室 メールアドレス：higuchi-d#takasaki-u.ac.jp（#→@）			

科 目 名		臨床推論特論														
英 文 名		Advanced Clinical Reasoning														
担 当 教 員		正木 光裕(科目責任者)、吉田 剛、解良 武士、竹内 伸行、樋口 大輔、田中 繁弥														
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位														
講 義 目 標		臨床問題の解決に向けた臨床思考過程の実際について、そこで必要となる基礎知識と事例検討を通してより具体的に理解する。これにより、臨床および地域リハビリテーション場面における様々な問題の原因を追究するための思考能力を養い、問題解決能力を高めていくことで臨床実践能力向上につなげていく。														
到 達 目 標		1.臨床の問題を解決するための臨床推論の思考過程について理解する。 2.臨床推論を進めるために必要な基礎知識について理解する。 3.具体的な臨床場面における事例を通して臨床に応用できる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
		豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③												16	
評 価 方 法		事例ならびにその周辺知識に関するポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度(30%)														
課題に対する フィードバック		提出されたポートフォリオについてコメントする。														
使 用 教 材		【参考書】内山靖「症候障害学序説」 文光堂														
1	講 義 内 容	オリエンテーション:臨床推論における思考過程について （正木）														
	該当する到達目標	予 習	特に必要としない。												1.5 時間	
	1・2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	廃用症候群予防のための臨床推論①基礎知識(正木)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。												1.5 時間	
	1・2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	廃用症候群予防のための臨床推論②事例検討(正木)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。												1.5 時間	
	3	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												1.5 時間	
4	講 義 内 容	基本動作の阻害因子と対処法①基礎知識(解良)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。												1.5 時間	
	1・2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												1.5 時間	
5	講 義 内 容	基本動作の阻害因子と対処法②事例検討—起居動作(解良)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。												1.5 時間	
	3	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												1.5 時間	
6	講 義 内 容	基本動作の阻害因子と対処法③事例検討—歩行(解良)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。												1.5 時間	
	3	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												1.5 時間	
7	講 義 内 容	誤嚥性肺炎予防のための臨床推論①基礎知識(吉田)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。												1.5 時間	
	1・2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												1.5 時間	

8	講義内容	誤嚥性肺炎予防のための臨床推論②事例検討(吉田)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5 時間
	3	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	認知症における問題行動と対処法①基礎知識(田中)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5 時間
	1・2	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	認知症における問題行動と対処法②事例検討(田中)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5 時間
	3	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	痛みの解決に向けた臨床推論①基礎知識(竹内)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5 時間
	1・2	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	痛みの解決に向けた臨床推論②事例検討(竹内)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5 時間
	3	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	転倒予防のための臨床推論①基礎知識(樋口)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5 時間
	1・2	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	転倒予防のための臨床推論②事例検討(樋口)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5 時間
	3	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(正木)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5 時間
	1・2	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5 時間
備考	予習・復習の時間: 15 回の講義の予習・復習として合計 45 時間を確保することとする。 この講義に関する質問への対応: 科目責任者の正木 光裕(masaki#takasaki-u.ac.jp、#→@)が一括して受け、必要に応じて分担教員に引き継ぐ。 科目責任者のオフィスアワー: 質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。 ※ オンライン授業で実施する場合の変更点 ①評価方法: 上記対面授業の場合と同様であり、C-learning を使用してポートフォリオ提出を実施する。 ②課題に対するフィードバック: 上記対面授業の場合と同様であり、C-learning を使用してポートフォリオ提出においてフィードバックを実施する。			

科 目 名		理学療法実践学特論													
英 文 名		Advanced Physical Therapy Practice													
担 当 教 員		解良 武士、吉田 剛、小林 勉、竹内 伸行、樋口 大輔、田中 繁弥													
時 期・単位		1 年次 後期 選択 2 単位													
講 義 目 標		最新のエビデンスに基づく理学療法実践方法についての知識を身につけ、臨床における問題解決能力を高め、正しく解決方法を選択するための基礎を身につけ、臨床場面に生かす。													
到 達 目 標		1.各領域の理学療法実践のエビデンスについて最新の情報を身につける。 2.総合的な臨床実践能力を身につけ、臨床における問題解決能力が高まる。 3.個別性を考慮した評価に基づき、適切な実践方法の選択ができるようになる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			③							⑩					
評 価 方 法		各分野の理学療法実践に関するポートフォリオ(70%)、講義参加度・貢献度(30%)													
課題に対する フィードバック		提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。													
使 用 教 材		参考書は、なるべく新しい情報が載っている各領域の理学療法実践書および論文を参考にする。													
1	講 義 内 容	オリエンテーション:リハビリテーション実践に関するエビデンス(解良)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	内部障害系理学療法①エビデンス(解良)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	内部障害系理学療法②実践方法 1(解良)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	内部障害系理学療法③実践方法 2(解良)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
5	講 義 内 容	運動器系理学療法①エビデンス(小林)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
6	講 義 内 容	運動器系理学療法②実践方法 1(樋口)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
7	講 義 内 容	運動器系理学療法③実践方法 2(樋口)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
8	講 義 内 容	神経系理学療法①エビデンス(吉田)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間

	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
9	講義内容	神経系理学療法②実践方法 1(吉田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
10	講義内容	神経系理学療法③実践方法 2(吉田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
11	講義内容	誤嚥性肺炎予防に対するアプローチ(吉田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
12	講義内容	認知症予防に対するアプローチ(田中繁弥)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
13	講義内容	物理療法①(竹内)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
14	講義内容	物理療法②(竹内)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(解良)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
備考	最新の情報を積極的に収集し、整理して、ポートフォリオを作成する。予習復習は 90 分以上行う必要がある。 担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名	地域リハビリテーション特論														
英 文 名	Advanced Community-based Rehabilitation														
担 当 教 員	大野洋一、吉田 剛、田中 聡一、解良 武士、中川 和昌、正木 光裕、篠原 智行、														
時 期・単 位	1 年次 前期 月曜7限 必修 2 単位														
講 義 目 標	医療と介護のしくみが変化しようとしている今、地域リハビリテーションは、介護予防、健康増進、疾病予防、地域作りなど、地域住民に対して多岐にわたる対応が求められる重要なものとなっている。この講義では、地域リハビリテーションの理念と現状・課題を学習し、地域理学療法学研究および実践に必要な地域リハビリテーションに関する基礎知識、技術を会得し、応用できるようにする。そして、地域理学療法学研究で必要な課題を見つけることができるよう、事例を挙げながら実践学習をする。														
到 達 目 標	1.地域リハビリテーションの理念を説明できる。 2.地域リハビリテーションシステムの現状と問題点をしっかりと把握することができる。 3.地域における地域リハビリテーションサービスの現状と問題点を把握することができる。 4.地域作りに貢献する地域リハビリテーションの役割を説明できる。 5.地域リハビリテーションの中で取り組むべき地域理学療法の課題を見つけることができる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
		研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			③							⑪					
評 価 方 法	授業参加度・貢献度 50% レポート 50%														
課題に対する フィードバック	提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。														
使 用 教 材	講義資料は必要に応じて適宜配布する														
1	講 義 内 容	地域リハビリテーションの理念とこれまでの歴史(田中聡一)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	行政による介護予防施策と地域リハビリテーション活動の実際(中川)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	これまでの健康増進への取り組みと今後の方向性(解良)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	これまでの疾病予防対策と今後の方向性(解良)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
5	講 義 内 容	日本におけるコミュニティとしての地域作りの現状と国際比較(中川)5													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
6	講 義 内 容	地域住民に対する啓発活動の現状(正木)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間

7	講義内容	専門職者に対する地域リハビリテーション教育の現状と問題点(正木)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
8	講義内容	地域リハビリテーションサービスにおける職種間連携の実際(田中聡一)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
9	講義内容	地域リハビリテーション支援体制整備事業の地域(群馬県)における現状(中川)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
10	講義内容	通所サービスにおける現状と問題点(吉田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
11	講義内容	訪問サービスにおける現状と問題点(中川)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
12	講義内容	地域ケア会議の現状と問題点(中川)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
13	講義内容	地域連携クリティカルパスの現状と問題点(田中聡一)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
14	講義内容	コストパフォーマンスを考えた地域リハビリテーションサービスの在り方(篠原)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
15	講義内容	地域リハビリテーションに従事する人材育成方法の在り方(大野)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
備考	自分の生活居住範囲にある、実際の地域理学療法の現状を調査する。その上で、授業内容と照らし合わせて、知識を身につけた上での自分なりの考察が発言できるように準備すること。 担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名		地域理学療法学特論														
英 文 名		Advanced Community-based Physical Therapy														
担 当 教 員		中川 和昌、吉田 剛、田中 聡一、解良 武士、正木 光裕、田中 繁弥														
時 期・単位		1 年次 後期 必修 2 単位														
講 義 目 標		地域理学療法は、介護予防、健康増進、疾病予防、地域作りなど、今や多岐にわたる重要なものとなっている。この講義では、地域理学療法実践に関して重要な知識を各論的に詳細に学習し、地域理学療法学研究で必要な研究計画、研究実践に望むことができるようにする。														
到 達 目 標		1. 地域理学療法の現状と関わるために必要な基礎知識について理解することができる。 2. 地域理学療法に関わる理学療法士の役割を説明できる。 3. 各種の障がいに関する地域理学療法研究の動向を説明できる。 4. 地域理学療法システムなどに関わる研究の動向についても理解することができる。 5. これからの地域理学療法の課題を広い視野で考えることができるようになる。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
		研究能力														
		豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3							11					16	
評 価 方 法		授業参加度・貢献度 50% レポート 50%														
課題に対する フィードバック		提出されたレポートについてコメントする。また発表内容に関してコメントする。														
使 用 教 材		特になし(各講義に応じて提示します)														
1	講 義 内 容	地域理学療法に関わる理学療法士の現状と役割(中川)														
	該当する到達目標	予 習	自分の専門分野において地域理学療法に関係する資料を抄読する												1.5 時間	
	1,5	復 習	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する												1.5 時間	
2	講 義 内 容	高次脳機能障がいに関わる地域理学療法研究の実践(田中聡)														
	該当する到達目標	予 習	高次脳機能障がいに関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる												1.5 時間	
	3,4,5	復 習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する												1.5 時間	
3	講 義 内 容	認知症に関わる地域理学療法研究の実践(田中繁)														
	該当する到達目標	予 習	認知症に関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる												1.5 時間	
	3,4,5	復 習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する												1.5 時間	
4	講 義 内 容	疾病予防に関する研究の実践(田中聡)														
	該当する到達目標	予 習	疾病予防に関わるうえで必要な知識・技術について調べてくる												1.5 時間	
	3,4,5	復 習	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する												1.5 時間	
5	講 義 内 容	地域理学療法に必要な知識と技術(中川)														
	該当する到達目標	予 習	地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる												1.5 時間	
	1,2,5	復 習	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する												1.5 時間	
6	講 義 内 容	内部障害系障がいに対する地域理学療法研究の実践(解良)														
	該当する到達目標	予 習	内部障害系障がいに関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術に												1.5 時間	

	3,4,5		ついて調べてくる	
		復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
7	講義内容	介護予防に関する研究の実際(田中繁)		
	該当する到達目標	予習	介護予防に関わるうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する	1.5 時間
8	講義内容	福祉用具開発に関する研究の実際(正木)		
	該当する到達目標	予習	福祉用具開発に関わるうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の地域でどのような活動が必要かを考察する	1.5 時間
9	講義内容	神経系障がいに対する地域理学療法研究の実際(吉田)		
	該当する到達目標	予習	神経系障がいに関わる地域理学療法を实践するうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
10	講義内容	運動機能障がいに関わる地域理学療法研究の実際(中川)		
	該当する到達目標	予習	運動機能障がいに関わる地域理学療法を实践するうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
11	講義内容	地域理学療法のシステムに関する研究の実際(中川)		
	該当する到達目標	予習	地域理学療法のシステムに関して必要な知識・技術について調べてくる	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する	1.5 時間
12	講義内容	地域理学療法に関与する人材育成に関する研究の実際(中川)		
	該当する到達目標	予習	地域理学療法に関与する人材育成を実施する上で必要だと考えられる知識・技術について、発表できるように準備する	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
13	講義内容	地域理学療法の実践に関する研究の実際(中川)		
	該当する到達目標	予習	地域理学療法のシステム、人材育成の内容を踏まえ、実際の実践を科学的に評価する上で必要だと考えられる知識・技術について調べてくる	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5 時間
14	講義内容	これからの地域理学療法学(中川)		
	該当する到達目標	予習	地域理学療法の今後の展望、未来に関して考察し、発表できるように準備する	1.5 時間
	2,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の地域でどのような活動が必要かを考察する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(中川)		
	該当する到達目標	予習	授業全体の内容を踏まえ、自分の活躍する地域でどのような活動が必要かを考察し、発表できるように準備する	1.5 時間
	2,5	復習	授業の内容を踏まえて、自分の地域でどのような活動が必要かを考察する	1.5 時間
備考	自分の生活居住範囲にある、実際の地域の現状を調査する。その上で、授業内容と照らし合わせて、知識を身につけた上での自分なりの考察が言えるようにすること。 オフィスアワー: 中川 水曜 AM その他質問等はメールにて回答する: nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)			

科 目 名	地域リハビリテーション演習															
英 文 名	Seminar:Advanced Community-based Rehabilitation															
担 当 教 員	篠原智行、吉田剛、田中 聡一、解良 武士、中川 和昌、正木光裕、大野洋一															
時 期・単位	1 年次 前期 必修 2 単位															
講 義 目 標	この演習では、地域リハビリテーション特論で学習した知識を生かし、各自の研究課題までの過程を踏み、進行させていく。地域理学療法学研究の実際を体験しながら、修士号取得にふさわしい、地域理学療法領域で貢献できる研究ができるようにテーマを抽出する。															
到 達 目 標	1.明確に興味ある研究内容を説明できる。 2.地域リハビリテーションに関する問題点の討論ができる。 3.地域リハビリテーションに対する適切な情報収集ができる。 4.エビデンスに裏付けされた発表と討論ができる。 5.地域理学療法の課題を見出すことができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
		高度な実践力														
		研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3												16	
評 価 方 法	発表および発表用資料 100% ＊オンライン授業の場合も同様を予定。															
課題に対する フィードバック	提出された発表用資料および発表内容に関してコメントする。 ＊オンライン授業の場合も同様を予定。															
使 用 教 材	特に指定しない。															
1	講 義 内 容	地域リハビリテーションで各自が興味のある点の発表と討論														
	該当する到達目標	予 習	地域リハビリテーションで各自が興味のある点に関して発表準備をする。												1.5 時間	
	1, 2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												1.5 時間	
2	講 義 内 容	地域リハビリテーションで各自が興味のある点の発表と討論														
	該当する到達目標	予 習	地域リハビリテーションで各自が興味のある点に関して発表準備をする。												1.5 時間	
	1, 2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												1.5 時間	
3	講 義 内 容	地域リハビリテーション研究の関連文献の収集演習														
	該当する到達目標	予 習	自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する												1.5 時間	
	3, 4	復 習	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する												1.5 時間	
4	講 義 内 容	地域リハビリテーション研究の関連文献の収集演習														
	該当する到達目標	予 習	自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する												1.5 時間	
	3, 4	復 習	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する												1.5 時間	
5	講 義 内 容	地域理学療法学研究の最新情報の収集演習														
	該当する到達目標	予 習	関連する文献を読み情報収集する												1.5 時間	
	3, 4	復 習	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する												1.5 時間	
6	講 義 内 容	地域理学療法学研究の最新情報の収集演習														
	該当する到達目標	予 習	関連する文献を読み情報収集する												1.5 時間	
	3, 4	復 習	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する												1.5 時間	
7	講 義 内 容	地域リハビリテーション活動への参加(実習)														
	該当する到達目標	予 習	実習に当たって必要な情報を収集する												1.5 時間	

	5	復習	実習で得た内容をまとめ直し、発表準備をする。	1.5 時間
8	講義内容	地域リハビリテーション活動への参加(実習)		
	該当する到達目標	予習	実習に当たって必要な情報を収集する	1.5 時間
	5	復習	実習で得た内容をまとめ直し、発表準備をする。	1.5 時間
9	講義内容	地域リハビリテーション活動への参加(実習)		
	該当する到達目標	予習	実習に当たって必要な情報を収集する	1.5 時間
	5	復習	実習で得た内容をまとめ直し、発表準備をする。	1.5 時間
10	講義内容	活動参加報告会		
	該当する到達目標	予習	発表のための準備をする	1.5 時間
	2, 5	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	各自が興味のある問題に対する情報収集を行い発表		
	該当する到達目標	予習	自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5 時間
12	講義内容	各自が興味のある問題に対する情報収集を行い発表		
	該当する到達目標	予習	自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5 時間
13	講義内容	地域理学療法における課題抽出と研究テーマの抽出		
	該当する到達目標	予習	地域リハビリテーションにおける問題点とその解決のためのプログラムを立案する	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5 時間
14	講義内容	地域理学療法における課題抽出と研究テーマの抽出		
	該当する到達目標	予習	地域リハビリテーションにおける問題点とその解決のためのプログラムを立案する	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5 時間
15	講義内容	地域理学療法における課題抽出と研究テーマの抽出		
	該当する到達目標	予習	地域リハビリテーションにおける問題点とその解決のためのプログラムを立案する	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5 時間
備考	学術報告に向けて積極的に授業が活用できるよう、明確な疑問点を準備して授業に臨むこと。 オフィスアワー: メールにて随時応じる。 科目担当教員: 篠原 shinohara-t@takasaki-u.ac.jp			

科 目 名		地域理学療法学演習													
英 文 名		Seminar:Advanced Community-based Physical Therapy													
担 当 教 員		解良 武士、吉田 剛、田中 聡一、中川 和昌、正木 光裕、篠原 智行、田中 繁弥													
時 期・単位		1 年次 後期 必修 2 単位													
講 義 目 標		この演習では、特論で学習した知識を生かし、各自の研究課題遂行の過程を踏み、実行する。地域理学療法学研究の実際を体験しながら、修士号取得にふさわしい、地域理学療法学領域で貢献できる研究ができるようにする。													
到 達 目 標		1.適切な研究課題を掲げられる。 2.研究遂行に最もふさわしい、研究計画がたてられるようにする。 3.最も適切な研究実行ができる。 4.研究データを適切に解析できる。 5.研究成果を適切に報告できる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			③							⑪					
評 価 方 法		各段階における発表用資料および発表 100%													
課題に対する フィードバック		提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。													
使 用 教 材		特に指定しない。													
1	講 義 内 容	地域理学療法における問題の抽出(ブレインストーミング)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。										1.5 時間		
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。										1.5 時間		
2	講 義 内 容	地域理学療法における問題の抽出(問題点の整理)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。										1.5 時間		
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。										1.5 時間		
3	講 義 内 容	問題についての文献的考察													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。										1.5 時間		
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。										1.5 時間		
4	講 義 内 容	問題についての文献的考察													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。										1.5 時間		
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。										1.5 時間		
5	講 義 内 容	研究で使用する評価項目の提案													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。										1.5 時間		
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。										1.5 時間		
6	講 義 内 容	研究で使用する評価項目の提案													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。										1.5 時間		
	1,2,3,4,5	復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。										1.5 時間		
7	講 義 内 容	研究計画の概要の提示と説明													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。										1.5 時間		

	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
8	講義内容	研究計画の概要の提示と説明		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
9	講義内容	仮説検証および測定手順などの検証		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
10	講義内容	仮説検証および測定手順などの検証		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
11	講義内容	研究計画のプレ発表会(準備)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
12	講義内容	研究計画のプレ発表会		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
13	講義内容	研究計画の修正		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
14	講義内容	研究計画の修正		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
15	講義内容	研究計画発表会		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
備考	発表に向けて積極的に授業が活用できるよう、自分の疑問点を整理し資料を準備して授業に臨む。 予習復習は 90 分以上行う必要がある。 担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科目名		地域理学療法学特別研究															
英文名		Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy															
担当教員		田中 聡一															
時期・単位		2 年次 通年 必修 8 単位															
講義目標		自身が決定した研究テーマに関する過去の報告、最新研究の実情を取得し、それらを自身の研究に生かして研究計画立案、研究実施、データ解釈、考察ができ、適切な方法で研究成果を発表する。															
到達目標		1.自身の研究に関連する知識を説明できる。 2.適切なデータ解析ができる。 3.プレゼンテーションと学術論文による研究成果の報告ができる。															
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観														
		✓	高度な実践力														
		✓	研究能力														
		✓	豊かな人間性と使命感														
SDGsと の関連			3	4													
評価方法		学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査(80%)と、最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験(20%)の結果を踏まえ、総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック		指導教員との複数回のディスカッション															
使用教材		特に指定しない															
講義内容		4 ～ 5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6 ～ 9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文作成と発表															
		予習	研究前に必要な準備を丹念に確認する													期間中適宜	
		復習	研究ノートを作製し、短期、長期目標を確認、検討、修正する													期間中適宜	
備考		研究テーマの決定、計画の立案、研究の実践、結果のまとめと解析、考察、研究成果発表など指導教員と常にコンタクトをとりながら進行すること。指導教員とのディスカッションは欠かさないこと。オフィスアワーは月曜日 6 限目前後で、メール(stanaka#takasaki-u.ac.jp)等で連絡の上、学習に関する質問は随時受けつける。(＃を@に変換すること)															

科目名	地域理学療法学特別研究															
英文名	Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy															
担当教員	解良 武士															
時期・単位	2 年次 通年 必修 8 単位															
講義目標	自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。 また自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。 さらに実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深めていく。 研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができることを目的とする。															
到達目標	1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。 2.研究計画書を作成することができる。 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。 5.研究成果について報告・討論することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関連			③							⑪						
評価方法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査と最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験の結果(80%)および研究への取り組み等(20%)を踏まえ、総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。															
使用教材	特に指定しない															
講義内容	4 ～5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6 ～9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文作成と発表															
	予習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜	
	復習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜	
備考	研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。予習・復習の時間:各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1)研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2)理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。															

科目名	地域理学療法学特別研究															
英文名	Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy															
担当教員	吉田 剛															
時期・単位	2 年次 通年 必修 8 単位															
講義目標	自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。 また自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。 さらに実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深めていく。 研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができることを目的とする。															
到達目標	1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。 2.研究計画書を作成することができる。 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。 5.研究成果について報告・討論することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関連			③												16	
評価方法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査と最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験の結果(80%)および研究への取り組み等(20%)を踏まえ、総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。															
使用教材	特に指定しない															
講義内容	4 ～5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6 ～9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文作成と発表															
	予習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜	
	復習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜	
備考	研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。予習・復習の時間:各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1)研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2)理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。															

科目名	地域理学療法学特別研究															
英文名	Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy															
担当教員	篠原 智行															
時期・単位	2 年次 通年 必修 8 単位															
講義目標	本邦における地域の課題と、理学療法士が対処できる事象を適切に認識し、地域における理学療法および理学療法士の在り方の理解を深める。地域包括ケアシステムの構築が進む昨今、地域とは地域在住高齢者や生活期の理学療法のみを示すものではなく、医療・介護の施設や、老若男女を含む幅広い視点で考察する。その上で研究テーマを掲げ、レビューを元に目的、意義、仮説を明示し、研究デザインを立案する。 主体的に進める研究を通じて、得られた研究データを適切に処理する技能、科学的思考力、文章力、マネジメント能力といった研究者としての素養を身に着ける。															
到達目標	1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。 2.研究計画書を作成することができる。 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。 5.研究成果について報告・討論することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関連			③												16	
評価方法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査（80％）と、最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験（20％）の結果を踏まえ、総合的に評価する。 ＊オンライン授業の場合も同様を予定。															
課題に対する フィードバック	各自の研究計画・発表に合わせて、適宜実施する。 ＊オンライン授業の場合も同様を予定。															
使用教材	特に指定しない															
講義内容	4 ～5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6 ～9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文作成と発表															
	予習	各自の研究計画・発表に合わせて準備する													期間中適宜	
	復習	各自の研究計画・発表に合わせて実施する													期間中適宜	
備考	研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。 また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。 オフィスアワー： 随時、面談やメールにて対応する。 Mail: shinohara-t#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)															

科目名	地域理学療法学特別研究															
英文名	Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy															
担当教員	正木 光裕															
時期・単位	2 年次 通年 必修 8 単位															
講義目標	自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。 また自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。 さらに実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深めていく。 研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができることを目的とする。															
到達目標	1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。 2.研究計画書を作成することができる。 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。 5.研究成果について報告・討論することができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関連			③												⑬	
評価方法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査（80％）と、最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験（20％）の結果を踏まえ、総合的に評価する。															
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況や分析過程、まとめ方の内容等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・作成段階の修士論文のはじめに、方法、結果、考察、結論について、口頭または文書にてフィードバックする。															
使用教材	研究のプロセスに応じて、資料を配布する。															
講義内容	4 ～5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6 ～9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文作成と発表															
	予習	各自の研究計画・発表に合わせて準備する													期間中適宜	
	復習	各自の研究計画・発表に合わせて実施する													期間中適宜	
備考	研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。 また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。 オフィスアワー： 正木 光裕 月曜 PM（3 号館 2 階 203 研究室） その他質問等はメールにて回答する：masaki#takasaki-u.ac.jp（#を@に変換すること） ※ オンライン授業で実施する場合の変更点 ①評価方法：上記対面実施の場合と同様であり、必要に応じて C-learning を使用する。 ②課題に対するフィードバック：上記対面実施の場合と同様であり、必要に応じて C-learning を使用する。															

科目名	地域理学療法学特別研究																																																				
英文名	Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy																																																				
担当教員	中川 和昌																																																				
時期・単位	2 年次 通年 必修 8 単位																																																				
講義目標	自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。 また自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。 さらに実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深めていく。 研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができることを目的とする。																																																				
到達目標	1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。 2.研究計画書を作成することができる。 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。 5.研究成果について報告・討論することができる。																																																				
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観																																																			
	✓	高度な実践力																																																			
	✓	研究能力																																																			
	✓	豊かな人間性と使命感																																																			
SDGs との 関連			③							⑪					⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
評価方法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査（80％）と、最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験（20％）の結果を踏まえ、総合的に評価する。																																																				
課題に対する フィードバック	各自の研究計画・発表に合わせて、適宜実施する。																																																				
使用教材	特に指定しない																																																				
講義内容	4 ～5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6 ～9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文作成と発表																																																				
	予習	各自の研究計画・発表に合わせて準備する																									期間中適宜																										
	復習	各自の研究計画・発表に合わせて実施する																									期間中適宜																										
備考	研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。 また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。 状況に応じてオンラインでのやり取りを並行しながら進行します。 オフィスアワー：中川 水曜 AM その他質問等はメールにて回答する： nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp （#→@）																																																				

科 目 名		臨床理学療法学特論Ⅰ													
英 文 名		Advanced Clinical Physical TherapyⅠ													
担 当 教 員		竹内 伸行、吉田 剛、小林 勉、樋口 大輔、富田 洋介													
時 期・単位		1 年次 前期 必修 2 単位													
講 義 目 標		臨床の理学療法場面において用いられている評価指標の開発に関する方法論を学び、臨床における問題解決や効果判定に生かすための評価指標づくりを行うための基礎を身につける。 特に、帰結評価として用いるべき評価項目は何かについて、機能障害・能力障害面の評価による効果判定を踏まえて、さらに生活自立度、QOL 向上、医療経済への影響についても広い視点をもって考える機会を得る。 これにより、既存の評価指標を踏まえて、新しい評価指標を開発するための基礎を身につける。													
到 達 目 標		1.評価指標の開発手順について文献を通して理解する。 2.病態を把握するための臨床評価項目の構成要素について理解する。 3.効果判定をするための帰結評価の現状を把握し、新規評価の必要性を考えることができる。 4.生活自立度、QOL の向上に対する評価の視点について理解する。													
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観												
		✓	高度な実践力												
			研究能力												
		✓	豊かな人間性と使命感												
SDGs との 関 連				③											
評 価 方 法		各領域の臨床評価指標に関する文献についてのレポート、プレゼンテーション、ディスカッション(70%) 講義参加度・貢献度(30%)													
課題に対する フィードバック		提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。													
使 用 教 材		参考書:内山靖・他「臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント」協同医書出版													
1	講 義 内 容	オリエンテーション:臨床理学療法における問題分析の方法(竹内)													
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
2	講 義 内 容	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例(内部障害系)①(富田)													
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
3	講 義 内 容	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例(内部障害系)②(富田)													
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
4	講 義 内 容	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例(運動器系)①(小林)													
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
5	講 義 内 容	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例(運動器系)②(小林)													
	該当する到達目標 1,2,3	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間
		復 習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。												1.5 時間
6	講 義 内 容	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例(神経系)①(富田)													
	該当する到達目標	予 習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。												1.5 時間

	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
7	講義内容	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例(神経系)②(富田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
8	講義内容	効果判定のための帰結評価とその開発事例①:内部障害系(竹内)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
9	講義内容	効果判定のための帰結評価とその開発事例②:運動器系(樋口)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
10	講義内容	効果判定のための帰結評価とその開発事例③:神経系(吉田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
11	講義内容	生活自立度向上に必要な評価構成要素(樋口)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
12	講義内容	QOL 向上に必要な評価構成要素(樋口)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
13	講義内容	障害予防に必要な評価構成要素(吉田)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
14	講義内容	臨床場面における評価の視点から新しい評価法を考える(竹内)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(竹内)		
	該当する到達目標	予習	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5 時間
備考	最新の情報を積極的に収集し、整理してレポート発表要資料を作成する。 担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。			

科 目 名	臨床理学療法学特論Ⅱ															
英 文 名	Advanced Clinical Physical Therapy Ⅱ															
担 当 教 員	樋口 大輔、吉田 剛、解良 武士、竹内 伸行、富田 洋介															
時 期・単位	1 年次 後期 必修 2 単位															
講 義 目 標	臨床の理学療法場面における介入研究について、最新の情報を整理すると同時に、問題解決につながる介入方法を検討するための基礎を身につける。さらに、介入研究を行う際にどのような準備が必要か、研究デザインの選択、介入効果の検証に用いる帰結評価の選定などについて、文献的に検証しながら、介入研究を行うための基礎的知識を身につける															
到 達 目 標	1.最新の介入方法についてテーマごとに整理することができる。 2.介入研究論文から、研究手法を抽出し整理することができる。 3.介入方法を検討する過程を理解する。 4.問題解決に向けた介入研究の計画立案に必要な基礎知識を身につける															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
		高度な実践力														
	✓	研究能力														
		豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			③													
評 価 方 法	介入研究に関するポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%） 【オンラインの場合】 同上。授業にはライブ型オンラインツールを使用する。															
課題に対する フィードバック	提出されたポートフォリオについてコメントする 【オンラインの場合】 ポートフォリオは授業支援システム C-learning を介してやりとりする。															
使 用 教 材	参考書:内山靖「理学療法研究法 第2版」医学書院															
1	講 義 内 容	オリエンテーション:臨床理学療法場面における介入方法の検討(樋口)														
	該当する到達目標	予 習	特に必要としない。												2 時間	
	4	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間	
2	講 義 内 容	最新の整形外科領域に対する理学療法介入(樋口)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間	
	1・2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間	
3	講 義 内 容	最新の疼痛に対する治療法(樋口)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間	
	1・2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間	
4	講 義 内 容	最新の内部障害領域に対する理学療法介入(解良)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間	
	1・2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間	
5	講 義 内 容	最新の痙縮に対する治療法(竹内)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間	
	1・2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間	
6	講 義 内 容	最新の物理療法(竹内)														
	該当する到達目標	予 習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。												2 時間	
	1・2	復 習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。												2 時間	

7	講義内容	最新の嚥下障害に対する理学療法(吉田)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	1・2	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
8	講義内容	最新のニューロリハビリテーション(吉田)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	1・2	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
9	講義内容	最新の協調運動障害に対する理学療法(樋口)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	3・4	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
10	講義内容	新たな介入方法の開発とエビデンスの構築(樋口)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	3・4	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
11	講義内容	臨床理学療法における介入研究のデザイン(解良)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	3・4	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
12	講義内容	臨床理学療法における介入研究のための準備(解良)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	3・4	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
13	講義内容	臨床理学療法における介入研究における効果判定①(富田)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	3・4	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
14	講義内容	臨床理学療法における介入研究における効果判定②(富田)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	3・4	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
15	講義内容	介入研究におけるエビデンス構築プロセス(富田)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2時間
	4	復習	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2時間
備考	➤ オフィスアワー: 金曜日 2 時限、3 号館 2 階 201 研究室 ➤ メールアドレス: higuchi-d#takasaki-u.ac.jp (#→@)			

科 目 名		臨床理学療法学演習 I													
英 文 名		Seminar I : Advanced Clinical Physical Therapy													
担 当 教 員		千木良佑介、小林 勉、竹内 伸行、樋口 大輔													
時 期・単位		1 年次 前期 必修 2 単位													
講 義 目 標		理学療法士の立場で臨床における問題点を抽出すると同時に、それらの問題について明確に評価するための評価指標の検討を行う。また、各自の興味ある分野の問題に焦点を当てて、問題解決に必要なプロセスについての理解を深め、研究テーマの絞り込みと関連論文の考証、使用する評価指標の選択および新たな開発の準備などについて学ぶ。													
到 達 目 標		1.臨床における問題点の抽出方法を理解し、各自の研究テーマにつなげて具体化することができる。 2.研究テーマに即した関連論文の考証を行い、広い視点をもって問題を概観することができる。 3.問題解決のためのアプローチの多様性を認識し、その中からテーマに会う方法を見出すことができる。 4.必要な評価指標を選択し、また新規に開発する必要性を理解できる。													
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			3	4					10						16
評 価 方 法		毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ（70％）、講義参加度・貢献度（30％） 総合 60％以上で合格とする（対面、オンライン同様）。 オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。													
課題に対する フィードバック		評価方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。													
使 用 教 材		参考書：内山靖「理学療法研究法 第 2 版」医学書院													
1	講 義 内 容	オリエンテーション													
	該当する到達目標 1	予 習	自身の研究テーマを説明できるように準備する。												2.0 時間
		復 習	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する。												2.0 時間
2	講 義 内 容	臨床における問題点の抽出													
	該当する到達目標 1,2	予 習	自身の臨床（研究）における問題点の抽出。												2.0 時間
		復 習	関連文献の考証。												2.0 時間
3	講 義 内 容	臨床における問題点の抽出													
	該当する到達目標 1,2	予 習	自身の臨床（研究）における問題点の抽出。												2.0 時間
		復 習	関連文献の考証。												2.0 時間
4	講 義 内 容	臨床における問題点の抽出													
	該当する到達目標 1,2	予 習	自身の臨床（研究）における問題点の抽出。												2.0 時間
		復 習	関連文献の考証。												2.0 時間
5	講 義 内 容	関連文献考証													
	該当する到達目標	予 習	関連文献の準備。												2.0 時間

	1,2			
		復習	関連文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
6	講義内容	関連文献考証		
	該当する到達目標 1,2	予習	関連文献の準備。	2.0 時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
7	講義内容	関連文献考証		
	該当する到達目標 1,2	予習	関連文献の準備。	2.0 時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
8	講義内容	問題解決に必要な評価指標の検討		
	該当する到達目標 1,3	予習	関連文献の準備。	2.0 時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
9	講義内容	問題解決に必要な評価指標の検討		
	該当する到達目標 1,3	予習	関連文献の準備。	2.0 時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
10	講義内容	問題解決に必要な評価指標の検討		
	該当する到達目標 1,3	予習	関連文献の準備。	2.0 時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
11	講義内容	新しい評価指標の必要性の検討		
	該当する到達目標 3,4	予習	関連文献の準備。	2.0 時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
12	講義内容	新しい評価指標の必要性の検討		
	該当する到達目標 3,4	予習	関連文献の準備。	2.0 時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
13	講義内容	問題の明確化: 研究テーマの方向性		
	該当する到達目標 1,3	予習	関連文献の準備。	2.0 時間
		復習	関連文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
14	講義内容	問題の全体像整理: 関連文献の考証のまとめ		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	関連文献をもとに研究デザインを再考する。	2.0 時間
		復習	参考文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
15	講義内容	問題解決のための戦略: 方法論に関する方向性		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	関連文献をもとに研究デザインを再考する。	2.0 時間
		復習	参考文献を参考に補完学習する。	2.0 時間
備考	予習・復習の時間: 15 回の講義の中で 60 時間を確保する。 各自の興味をもった分野に関する情報収集および資料の整理を行い、次回の発表用資料作成を行う。 ①オフィスアワー: 月曜日 13:00~14:00、水曜日 16:00~17:00、5 号館 5 階 504 研究室 ②メール受付: chigira@takasaki-u.ac.jp(千木良) (#を@に変換すること)			

科 目 名	臨床理学療法学演習Ⅱ															
英 文 名	SeminarⅡ:Advanced Clinical Physical Therapy															
担 当 教 員	千木良佑介、小林 勉、竹内 伸行、樋口 大輔															
時 期・単位	1 年次 後期 必修 2 単位															
講 義 目 標	臨床における研究課題について具体的な解決方法を見出し、必要な介入方法についての検討を進める。さらに、妥当な問題解決方法を模索し、他者に分かるような論理構成で、科学的手法を用いた研究計画を作成するための準備を行い、研究計画書を提出する。															
到 達 目 標	1.文献考証から、各自の研究課題に対してより具体的に問題解決方法を抽出することができる。 2.介入方法について多角的視点で検討し、科学的な手法を考えることができる。 3.予備検討などを行い介入方法の実現可能性や妥当性を検討することができる。 4.各自の研究に関する全体像を他者に分かるように論理的に表現することができる。 5.研究計画書を作成し、提出する事ができる。															
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観														
	✓	高度な実践力														
	✓	研究能力														
	✓	豊かな人間性と使命感														
SDGs との 関 連			3	4						10						16
評 価 方 法	研究計画書(70%)、各回の準備資料のポートフォリオ(20%)、講義参加度・貢献度(10%)、総合 60%以上で単位認定とする(対面、オンライン同様)。 オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。															
課題に対する フィードバック	介入方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。															
使 用 教 材	特に指定しない。															
1	講 義 内 容	オリエンテーション														
	該当する到達目標 1	予 習	自身の研究テーマにおける問題点や評価方法について説明できるように準備する。													2.0 時間
		復 習	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認しておく。													2.0 時間
2	講 義 内 容	関連文献から介入方法に関する整理														
	1,2	予 習	関連文献考証。													2.0 時間
		復 習	指摘事項の再確認。													2.0 時間
3	講 義 内 容	介入方法の提案														
	該当する到達目標 2,3	予 習	関連文献考証。													2.0 時間
		復 習	指摘事項や課題について再確認。													2.0 時間
4	講 義 内 容	介入方法の提案														
	該当する到達目標 2,3	予 習	関連文献考証。													2.0 時間
		復 習	指摘事項や課題について再確認。													2.0 時間
5	講 義 内 容	介入方法の提案														
	該当する到達目標 2,3	予 習	関連文献考証。													2.0 時間
		復 習	指摘事項や課題について再確認。													2.0 時間
6	講 義 内 容	介入事例の検討														
	該当する到達目標	予 習	関連文献考証。													2.0 時間

	2,3	復習	指摘事項や課題について再確認。	2.0 時間
7	講義内容	介入事例の検討		
	該当する到達目標	予習	関連文献考証。	2.0 時間
	2,3	復習	指摘事項や課題について再確認。	2.0 時間
8	講義内容	介入事例の検討		
	該当する到達目標	予習	関連文献考証。	2.0 時間
	2,3	復習	指摘事項や課題について再確認。	2.0 時間
9	講義内容	研究計画の提案		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	2.0 時間
	2,3,4	復習	指摘事項の確認。	2.0 時間
10	講義内容	研究計画の提案		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	2.0 時間
	2,3,4	復習	指摘事項の確認。	2.0 時間
11	講義内容	研究計画のプレ発表会(準備)		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	2.0 時間
	4,5	復習	指摘事項の確認。	2.0 時間
12	講義内容	研究計画のプレ発表会		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	2.0 時間
	4,5	復習	指摘事項の修正。	2.0 時間
13	講義内容	研究計画の修正		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	2.0 時間
	4,5	復習	指摘事項の修正。	2.0 時間
14	講義内容	研究計画の修正		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	2.0 時間
	4,5	復習	指摘事項の修正。	2.0 時間
15	講義内容	研究計画発表会		
	該当する到達目標	予習	発表練習しておく。	2.0 時間
	5	復習	指摘事項の確認・修正。	2.0 時間
備考	予習・復習の時間: 15 回の講義の中で 60 時間を確保する。 毎回の発表のための準備作業を行い、段階的に研究計画書の作成に取り組む。 ①オフィスアワー: 月曜日 13:00~14:00、水曜日 16:00~17:00、5 号館 5 階 504 研究室 ②メール受付: chigira#takasaki-u.ac.jp(千木良) (#を@に変換すること)			

科 目 名	臨床理学療法学特別研究														
英 文 名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy														
担 当 教 員	小林 勉														
時 期・単位	2 年次 通年 必修 8 単位														
講 義 目 標	臨床理学療法学の分野における研究課題を設定し、独創的な研究を企画・実施する。研究結果の分析については統計学的手法を用い、科学的根拠に基づいた考察を展開して論文の体裁にまとめる。以上の過程を経験することにより学会発表および科学論文作成ができる能力を獲得する。														
到 達 目 標	1.論文検索のスキルを習得する。 2.研究課題を立案し、研究計画を立てる。 3.科学的手法による研究の実施とデータの収集、整理ができる。 4.研究結果(データ)の解析と分析を行うことができる。 5.研究成果をまとめ、論文化する。														
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観													
	✓	高度な実践力													
	✓	研究能力													
	✓	豊かな人間性と使命感													
SDGs との 関 連			3	4											
評 価 方 法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査(80%)と、最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験(20%)の結果を踏まえ、総合的に評価する。														
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。														
使 用 教 材	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第 3 版 訳 木原雅子／木原正博 メディカルサイエンス・インターナショナル														
講 義 内 容	4～ 5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～ 9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文の作成と発表														
	予 習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜
	復 習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜
備 考	・臨床現場における各計測機器使用法の習得。 ・設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。状況により関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間:各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1)研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2)理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先 E-mail: kobayashi-t#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること)														

	オフィスアワー 月 9:00～10:30(不在時はメールで問い合わせること)

科 目 名	臨床理学療法学特別研究																
英 文 名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy																
担 当 教 員	千木良 佑介																
時 期・単 位	2 年次 通年 必修 8 単位																
講 義 目 標	エビデンスに基づく臨床理学療法研究について、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら、科学的手法を用いてデータ収集を行い、問題解決に必要な分析を行い、結果の整理、結果に関する考察などについてまとめて、他者に分かるように表現する方法を学ぶ。 この研究指導課程を通して、自己客観性を身につけ、科学的思考力を身につけることで、研究者としての素養を身につける。																
到 達 目 標	1.研究実行に必要な倫理的配慮を行うことができる。 2.科学的手法を用いたデータ収集およびデータ管理の必要性を理解する。 3.問題解決のためのデータ分析方法について理解する。 4.他者に分かるように研究成果を表現することができる。 5.研究論文を提出することができる。																
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			3	4						10					16		
評 価 方 法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査(80%)と、最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験(20%)の結果を踏まえ、総合的に評価する(対面、オンライン同様)。 オンラインの場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。																
課題に対する フィードバック	課題に対するフィードバックを適時行い、プレゼンテーションや論文に対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。																
使 用 教 材	特に指定しない。																
講 義 内 容	4～ 5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～ 9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文の作成と発表																
	予 習	随時、課題に対し確認・理解し、研究・発表・論文作成の準備をしておく。														期間中適宜	
	復 習	課題に対し、研究に生かす部分と理解できなかった部分に対し再学習しておく。														期間中適宜	
備 考	予備検討、研究データ収集、データの整理、論文作成など、必要に応じて資料を作成し、ゼミで指導を受けられるように準備を行う。 ①オフィスアワー： 月曜日 13:00～14:00、水曜日 16:00～17:00、5 号館 5 階 504 研究室 ②メール受付： chigira#takasaki-u.ac.jp(千木良) (#を@に変換すること)																

科 目 名	臨床理学療法学特別研究																
英 文 名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy																
担 当 教 員	竹内 伸行																
時 期・単 位	2 年次 通年 必修 8 単位																
講 義 目 標	臨床において科学的根拠に基づいた理学療法を提供するための高い実践能力および問題解決能力を一連の研究を通して習得する。臨床における未解決な諸課題を明らかにしていくことができる研究能力(研究デザイン立案、研究遂行、データ解析、発表を実践できる能力)を習得する。																
到 達 目 標	1.臨床に存在する課題を検討し、先行研究のレビューを通して適切な研究デザインを立案する。 2.研究遂行に必要な倫理的配慮を適切に行うことができる。 3.信頼性や妥当性などを含めた測定データの意味を理解できる。 4.測定データを科学的に解析できる。 5.修士論文作成、研究発表を行い、研究成果を他者に適切に伝えることができる。																
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			③														
評 価 方 法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査と最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験の結果(80%)および研究への取り組み等(20%)を踏まえ、総合的に評価する。																
課題に対する フィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。																
使 用 教 材	使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。																
講 義 内 容	4～ 5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～ 9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文の作成と発表																
	予 習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示														期間中適宜	
	復 習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示														期間中適宜	
備 考	設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。可能であれば関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間:各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1)研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2)理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先 E-mail: ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp (#を@に変換する) オフィスアワー 月曜 18:15～19:45(不在時はメールで問い合わせること)																

科目名		臨床理学療法学特別研究																
英文名		Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy																
担当教員		渡邊 秀臣																
時期・単位		2 年次 通年 必修 8 単位																
講義目標		臨床において科学的根拠に基づいた理学療法を提供するための高い実践能力および問題解決能力を一連の研究を通して習得する。臨床における未解決な諸課題を明らかにしていくことができる研究能力(研究デザイン立案、研究遂行、データ解析、発表を実践できる能力)を習得する。																
到達目標		1.臨床に存在する課題を検討し、先行研究のレビューを通して適切な研究デザインを立案する。 2.研究遂行に必要な倫理的配慮を適切に行うことができる。 3.信頼性や妥当性などを含めた測定データの意味を理解できる。 4.測定データを科学的に解析できる。 5.修士論文作成、研究発表を行い、研究成果を他者に適切に伝えることができる。																
学位授与方針 との対応		✓	幅広い学識と倫理観															
		✓	高度な実践力															
		✓	研究能力															
		✓	豊かな人間性と使命感															
SDGsと の関連			3													16		
評価方法		学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査と最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験の結果(80%)および研究への取り組み等(20%)を踏まえ、総合的に評価する。																
課題に対する フィードバック		・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。																
使用教材		使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。																
講義 内容	4～ 5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～ 9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文の作成と発表																	
	予習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜			
	復習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示													期間中適宜			
備考	設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。状況により関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間: 各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1)研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2)理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先 E-mail: watanabe-h#takasaki-u.ac.jp (#を@に変換すること) オフィスアワー 金曜 18:15～19:45 (不在時はメールで問い合わせること)																	

科 目 名	臨床理学療法学特別研究																
英 文 名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy																
担 当 教 員	樋口 大輔																
時期・単位	2 年次 通年 必修 8 単位																
講 義 目 標	エビデンスに基づく臨床理学療法研究について、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら、科学的手法を用いてデータ収集を行い、問題解決に必要な分析を行い、結果の整理、結果に関する考察などについてまとめて、他者に分かるように表現する方法を学ぶ。 この研究指導課程を通して、自己客観性を身につけ、科学的思考力を身につけることで、研究者としての素養を身につける。																
到 達 目 標	1.研究実行に必要な倫理的配慮を行うことができる。 2.科学的手法を用いたデータ収集およびデータ管理の必要性を理解する。 3.問題解決のためのデータ分析方法について理解する。 4.他者に分かるように研究成果を表現することができる。 5.研究論文を提出することができる。																
学位授与方針 との対応	✓	幅広い学識と倫理観															
	✓	高度な実践力															
	✓	研究能力															
	✓	豊かな人間性と使命感															
SDGs との 関 連			③														
評 価 方 法	学位論文審査基準 7 項目によって行われる論文審査と最終試験基準 4 項目によって行われる最終試験の結果(80%)および研究への取り組み等(20%)を踏まえ、総合的に評価する。 【オンラインの場合】 同上。授業にはライブ型オンラインツールを使用する。																
課題に対する フィードバック	修士論文を上梓するまでに提出された一連の資料について逐次コメントする。 【オンラインの場合】 電子メールまたは授業支援システム C-learning を介してやりとりする。																
使 用 教 材	特に指定しない。																
講 義 内 容	【大まかなスケジュール】 4～5 月:関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～9 月:研究実施 10 月:中間発表会 10～11 月:結果のまとめ、データ解析 12～1 月:修士論文の作成と発表																
	予 習	修士論文テーマに関する資料をまとめる。														期間中適宜	
	復 習	学修した内容を修士論文に反映させる。														期間中適宜	
備 考	➤ 予習・復習時間は研究の進捗に合わせて各自補完すること。 ➤ オフィスアワー:金曜日 2 時限、3 号館 2 階 201 研究室 ➤ メールアドレス:higuchi-d#takasaki-u.ac.jp (#→@)																